コンサルタント・アドバイザリー

- 有限責任監査法人トーマツ
- デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
- デロイト トーマツ サイバー合同会社
- デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
- デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
- デロイト トーマツ税理士法人

有限責任監査法人トーマツ

規制当局の動向を把握し、金融業界の課題解決を支援する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部 金融事業部　東京事務所
スタッフ

官公庁（公務員）からの転職／金融機関向けアドバイザリー

会計監査業務とITの高度な融合を推進する

有限責任監査法人トーマツ　監査・保証事業本部 金融事業部　東京事務所
ジュニアスタッフ

IT企業からの転職／会計監査業務のITによる効率化・高度化

農業分野の課題解決を支援し、農政と農業現場の結節点となることを追及する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　パブリックセクター・ヘルスケア事業部　東京事務所
スタッフ

官公庁（公務員）からの転職／パブリックセクター向けアドバイザリー

海外オフィスメンバーと協業して、グループガバナンス構築の支援を行う

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　監査アドバイザリー事業部
内部統制・経営体制アドバイザリー　東京事務所
シニアスタッフ

メーカーからの転職／グループガバナンス構築アドバイザリー

会計領域の経験とUSCPAを基に、アドバイザリーと会計監査を兼務する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　監査アドバイザリー事業部　会計・財務報告アドバイザリー
東京事務所
スタッフ

メーカーからの転職／経営業務支援アドバイザリー／USCPAでの会計監査

公務員の知見を活かし、地域の社会課題解決を支援する

有限責任監査法人トーマツ　監査・保証事業本部 東日本第四事業部　仙台事務所
シニアスタッフ

官公庁（公務員）からの転職／パブリックセクター向けアドバイザリー

九州発の地域振興と国際協力を重視し、研究開発と人材育成を行う

有限責任監査法人トーマツ　監査・保証事業本部　西日本事業部
西日本アドバイザリー
福岡事務所
マネジャー

シンクタンクからの転職／スタートアップ企業支援

DX支援や人材育成を行い、地方創生を追求する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
マネジャー

外食関連企業からの転職／スタートアップ企業支援

地域イノベーションエコシステム構築と人事支援を行い、地元九州に貢献し、企業の挑戦をサポートする

有限責任監査法人トーマツ　監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所

シニアスタッフ

メーカーからの転職／スタートアップ企業支援

アクセラレーションプログラムを推進し、スタートアップと中小企業の支援を行う

有限責任監査法人トーマツ　監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所

シニアスタッフ

スタートアップ企業からの転職／スタートアップ企業支援

広告代理店の経験を活かし、九州と四国の企業成長を促進する

有限責任監査法人トーマツ　監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所

スタッフ

広告代理店からの転職／スタートアップ企業支援

官公庁や行政案件のサポートを通じて、チームの負担を軽減する

有限責任監査法人トーマツ　監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所

ジュニアスタッフ

金融機関からの転職／スタートアップ企業支援

九州・アジアイノベーションエコシステムの構築と発展に向けて

有限責任監査法人トーマツ　監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所

パートナー

有限責任監査法人トーマツ　監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所

シニアマネジャー

他の法人のインタビューを見る

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社

オープンで安心して働くことができる環境

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
コンサルタント

事業会社出身／システム監査／西日本エリア／自己成長／働く環境・魅力

地域社会の発展と組織の成長に貢献

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
パートナー

多様な専門家との協働／働く環境・魅力／中京エリア

多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルと切磋琢磨できる環境

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
マネジャー

金融業界／前橋ソーシャルイノベーションハブ／Uターン

枠組みを飛び越えて、これからの金融業界を考えていきたい

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
シニアマネジャー

大手金融機関出身／リスク管理／働く環境・魅力

多様なセクターを“つなげる”ことで、社会課題にアプローチする

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
マネジャー

行政職員出身／パブリックセクター／グローバル連携／グループ内連携／多様な専門家との協働／会社の雰囲気

すべての経験が線になってつながる仕事

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
パートナー

ガバナンス領域／海外勤務／グローバル連携／キャリアパス／成長実感

お客様の目線に立って、未来を想像する仕事

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
マネージングディレクター

大手自動車メーカー出身／自動車業界／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

仕事と育児を両立するプロフェッショナルを目指して

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
マネジャー

外資系総合コンサルファーム出身／グローバルガバナンス領域担当／グループ内連携／多様な専門家との協働／女性活躍

100か0ではなく、働き方の選択肢がいくつもある

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
マネジャー

独立系SI企業出身／内部監査・内部統制／異業種からの転職／育児との両立／働く環境・魅力

広い視野と人間性を身につけられる仕事

有限責任監査法人トーマツ（デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社 出向）
シニアコンサルタント

損害保険会社出身／異業種からの転職／人材育成

クライアントの戦略的なデータ活用をサポートする

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
マネジャー

異業種からの転職／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

お客様の成長に立ち会えるのが仕事の醍醐味

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
マネジャー

一般企業出身／投資マネジメントプロセスに関するアドバイザリー業務／M&A／公認会計士／成長実感

大きな責任が伴う仕事。だからこそ、大きなやりがいがある

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
マネジャー

金融系システムコンサルタント出身／中京エリア／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

会社と人が成長し続けるための仕組みを作る

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
ディレクター

労務リスクマネジメントアドバイザリー／中京エリア／グループ内連携／多様な専門家との協働

ワークライフバランスを保ちながら自己成長を実現できる

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
コンサルタント

システム監査／西日本エリア／成長実感／働く環境・魅力

プロジェクトのニーズに合わせて、お客様に価値を提供していく

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
コンサルタント

ＩＴ業界出身／DX推進支援アドバイザリー／西日本エリア／多様な働き方／働く環境・魅力

新しい技術とビジネスの接点を作ることがミッション

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
シニアマネジャー

広告代理店出身／新規事業推進／女性活躍／女性の働きやすさ

今、世界で起きていることを知りたい。その好奇心を満たせる仕事

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
マネジャー

証券会社出身／計量経済／働く環境・魅力／社風

クライアントのDX推進に向け、リスク起点でITプロジェクトを支援する

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
マネジャー

証券系シンクタンク出身／基幹システム構築／働く環境・魅力／Welcome back（再入社）

正しいことを言える独立した立場から、金融・保険業界の健全な発展に貢献する

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
シニアマネジャー

DX支援／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

DX時代の新しいアドバイザリー像をつくりたい

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
シニアマネジャー

金融系Sier出身／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

各分野のスペシャリストと一緒に働く喜びがある

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
シニアコンサルタント

独立系SIer企業出身／グローバル連携／若手活躍／リモートワーク

業界全体をより良くするための力になりたい

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
シニアコンサルタント

保険会社出身／保険業界／成長実感／若手活躍

仲間とともに得られる達成感は、何事にも代えがたいもの

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
シニアマネジャー

サイバーリスク／西日本エリア／人材育成／女性活躍

他の法人のインタビューを見る

デロイト トーマツ サイバー合同会社

[プライバシー・セキュリティ領域に強いコンサルティングファームであり、まさに理想通りの会社]

デロイト トーマツ サイバー合同会社
マネジャー

事業会社出身／プライバシー／リモートワーク

[この人たちと一緒に働くことで、自分自身の成長にも繋がる]

デロイト トーマツ サイバー合同会社
マネジャー

外資系ソフトウェアベンダー出身／自動車業界／サイバーセキュリティ／ワークライフバランス

[国内トップクラスのセキュリティの専門家が数多く、ここなら大きく成長できる]

デロイト トーマツ サイバー合同会社
シニアコンサルタント

総合電機メーカー出身／セキュリティ／ワークライフバランス／働く環境・魅力

[ビジネス革新や経営戦略のなかにセキュリティを取り込んでいく攻めのアプローチ]

デロイト トーマツ サイバー合同会社
シニアコンサルタント

国内クレジットカード会社出身／サイバーセキュリティ／グループ内連携／多様な専門家との協働

[育児とプライベートタイムのバランスを取りつつ働くシニアコンサルタントのリアルライフ]

デロイト トーマツ サイバー合同会社
シニアコンサルタント

働く環境・魅力／多様な働き方／チャレンジできる環境／女性活躍／育休

[サイバーインシデント対応のプロフェッショナルとして働く3児の父のリアルライフ]

デロイト トーマツ サイバー合同会社
Attack & Respond　マネジャー

働く環境・魅力／多様な働き方／チャレンジできる環境／育休／多様な専門家との協働/育児との両立

[大学卒業後に住み慣れたアメリカ、メキシコを離れ、社会人として日本での新たな生活を選んだ彼女のリアルライフとは]

デロイト トーマツ サイバー合同会社
アナリスト

働く環境・魅力／多様な働き方／チャレンジできる環境／グローバル連携／グループ内連携／多様な専門家との協働

[育児を楽しみ、家族との時間を大切にしながら、仕事では日々学びを得ながらキャリアを築いていくシニアコンサルタントのリアルライフ]

デロイト トーマツ サイバー合同会社
シニアコンサルタント

働く環境・魅力／育児との両立／多様な働き方／チャレンジできる環境

[子育てとキャリアを両立し、自分のキャリアを確立していく彼女のサイバー業界でのリアルな働き方とは]

デロイト トーマツ サイバー合同会社
ディレクター

外資系総合コンサルティングファーム出身／働く環境・魅力／女性活躍／育児との両立

[描けるキャリアは多種多様 専門性を磨き、自分の理想像を実現できる]

新卒入社者トークセッション（3職種対談）

[自らのバックグラウンドを活かし、バリューを見出す挑戦を重ねていく]

新卒入社者トークセッション（対談セキュリティ）

[やりたいことに挑戦できる環境で、自分の専門性を磨いていける]

新卒入社者トークセッション（CIC・R&D）

[他の法人のインタビューを見る]

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社

クライアントに寄り添い、真の変革にコミットする

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
シニアマネジャー

コンサルティングファーム出身／成長実感／多様な専門家との協働／クロスボーダー

クライアントやメンバーとともに、困難を乗り越え成長する実感

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
マネジャー

ITソリューション企業出身／成長実感／多様な働き方／チャレンジできる環境

クライアントに真摯に向き合い、自分自身も成長し続けられる環境があります

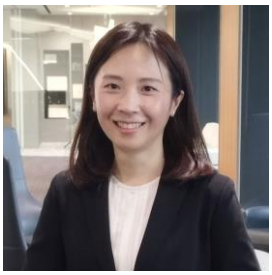
デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
シニアマネジャー

コンサルティングファーム出身／働く環境・魅力／女性活躍／グローバル連携

不確実な未来に備えるのではなく、クライアントと共に未来を創り出したい

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
ディレクター

コンサルティングファーム出身／社風／グローバル連携／働く環境・魅力



多種多様なバックグランドを持った仲間と、やりたいことにチャレンジ

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
シニアマネジャー

多様性／女性活躍／グローバル連携

異業種出身者ならではの価値は多彩。是非チャレンジを。

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
シニアマネジャー

グローバル連携／チャレンジできる環境／成長実感

バックグラウンドを活かした"その人ならでは"の価値提供

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
シニアコンサルタント

女性活躍／チャレンジできる環境／成長実感

「私らしく」いられるDTCで、価値創出と自己成長を実現

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
マネジャー

女性活躍／チャレンジできる環境／成長実感

クロスオファリングの専門性を梃子に、本質的な課題に向き合うやりがい

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
マネジャー

事業会社出身／ヘルスケア／女性活躍／社風

やりたいことにチャレンジできる環境があります！

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
マネジャー

コンサルティングファーム出身／成長実感／女性活躍／働く環境・魅力

真のカスタマーセントリックを実現する

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
ディレクター

ITコンサルティングファーム出身／成長実感／働く環境・魅力

グローバルで活躍する日本企業に向けたチェンジマネジメント支援を実施

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
パートナー

IT系コンサルファーム出身／女性活躍／働く環境・魅力

グローバル日系自動車産業をデロイトネットワークで支える

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
ディレクター

総合系コンサルティングファーム出身／グローバル連携／社風

想像以上に真面目、想像以上に自由

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
パートナー

外資系コンサルティング会社出身／グループ内連携／多様な専門家との協働／社風

Consulting is a service. Strive to serve for the client's best experience.

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
ディレクター

IT系コンサルファーム出身／グループ内連携／多様な専門家との協働

実現したい未来を、共に目指すことができる仲間や環境がある。

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
マネジャー

営業職経験／情報システム部門出身／女性活躍／ワーキングプログラム／社風

自分色のコンサルタントになろう！

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
コンサルタント

製薬会社出身／チャレンジできる環境／女性活躍

企業の変革をサポートするため、成長し続ける

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
シニアコンサルタント

新卒入社／成長実感／社風

日々、自分が社会に与えるインパクトを実感

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
マネジャー

新卒入社／チャレンジできる環境／成長実感

想い溢れる同志と、切磋琢磨し道を切り開いていきたいならば、、、

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
マネジャー

国内Sier出身／グローバル連携／社風

もしあのとき手を挙げていなければ

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
シニアコンサルタント

人事系ベンチャー企業出身／異業種からの転職／人材育成／ワーキングプログラム

パブリックセクターの原体験をプロジェクトに生かしたい

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
シニアコンサルタント

公務員出身／異業種からの転職／ワークライフバランス／社風

異業種からの転職を障壁と捉えず、成長・自己実現の機会を掴んでほしい

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
マネジャー

総合電機メーカー出身／異業種からの転職／社風

キャリアを変える/新天地に飛び込む勇気

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
シニアマネジャー

異業種からの転職／働く環境・魅力

他の法人のインタビューを見る

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社

世界情勢の動向を踏まえ、変化していく政策アジェンダに対応していく

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネジャー

コンサルティングファーム出身／グローバル連携／多様な専門家との協働／チャレンジできる環境

最先端の課題と対峙し、日本の技術を再び強く、世界へ。

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
コンサルタント

新卒入社／多様な専門家との協働／チャレンジできる環境／女性活躍

ブランディングを通じて、社会課題の解決に携わりたい

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
シニアコンサルタント

官公庁出身／多様な専門家との協働／異業種からの転職／女性活躍

デロイト トーマツ グループのAsset Enabled Business（AEB）全体の成長に貢献する

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
シニアマネジャー

事業会社出身／グループ内連携／キャリアパス／女性活躍

生成AIを活用し、社内外ともにDigital Transformation（DX）を推進

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
シニアコンサルタント

事業会社出身／グループ内連携／異業種からの転職／チャレンジできる環境

複雑化する課題に総合知で立ち向かう

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネジャー

SIer/コンサルティングファーム出身/成長実感/働く環境・魅力

社会の課題解決に向けて戦略策定から実行まで迅速かつ柔軟に支援

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネジャー

事業会社出身/成長実感

全てのステークホルダーにとって良いサービスを提供する

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
シニアコンサルタント

新卒入社/成長実感/若手活躍/働く環境・魅力

「日本企業の海外進出」の一翼を担い、クライアントに貢献する

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネージングディレクター

大手銀行出身／M&A／グループ内連携／多様な専門家との協働／社風

好奇心をもって、仕事を創造する

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
シニアコンサルタント

新卒入社／M&A／成長実感／若手活躍

すべての案件がオーダーメイド。考え続けることに仕事の醍醐味がある

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネージングディレクター

通信会社出身／M&A／クロスボーダー

「知りたい」の気持ちをいつでも満たしてくれる仕事

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネージングディレクター

プロフェッショナルファーム出身／M&A／女性活躍／社風

[正解のない課題を徹底的に考え抜き、クライアントの変化を導く]

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
シニアコンサルタント

新卒入社／M&A／若手活躍

[できない理由ではなく、できる方法を考える]

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
パートナー

事業会社出身/異業種からの転職/働く環境・魅力

[クライアントの最も重要な課題に真正面から向き合う]

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネジャー

クライシスマネジメント／グローバル連携／チャレンジできる環境

[不正の専門家として、クライシス対応から再発防止まで総合的にサポート]

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネジャー

クライシスマネジメント／会計士からのキャリアチェンジ

[クライアントのために考え抜くことが自己成長にも繋がる]

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネジャー

国内大手生命保険会社出身／金融犯罪リスク管理関連のアドバイザリー／働く環境・魅力

[日本が抱える事業承継問題にイノベーションを起こす]

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
シニアマネジャー

M&A・事業承継プラットフォーム事業／成長実感

[プロフェッショナルの集う環境で自信を磨き、クライアントへ貢献する]

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
シニアコンサルタント

働く環境・魅力／多様な専門家との協働／チャレンジできる環境

[エコノミクス×コンサルティングから生まれる新しい顧客体験]

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネージングディレクター

多様な専門家との協働／クロスボーダー／チャレンジできる環境

[データサイエンスとコンサルティングの掛け合わせでクライアントに貢献する]

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
シニアコンサルタント

事業会社出身/アナリティクス/データ分析/成長実感/働く環境・魅力

[DTFA業務にAnalyticsを組み込み、クライアントのビジネス課題解決に貢献したい]

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
マネージングディレクター

コンサルティングファームからの転職／再入社／会計監査

[他の法人のインタビューを見る]

デロイト トーマツ税理士法人

[デジタルの力で、税理士の働き方を変え、法人全体のビジネスの在り方も変えていく。]

デロイト トーマツ税理士法人
マネジャー

女性活躍／異業種からの転職／多様な専門家との協働風

[Love working with so many talented individuals!]

デロイト トーマツ税理士法人
マネージングディレクター

グローバル連携／グループ内連携／社風

[多様なバックグラウンドを持つメンバーと協働し、これまでにないアイデアを生み出す。]

デロイト トーマツ税理士法人
アソシエイト

女性活躍／異業種からの転職／働く環境

[幅広い専門性を持つチームメンバーと力を合わせ、税務DXという高度なミッションを実現する。]

デロイト トーマツ税理士法人
シニアマネジャー

チャレンジできる環境／多様な専門家との協業／グループ内連携

[We are all adaptable to working in the best way possible to best serve our clients.]

デロイト トーマツ税理士法人
シニアマネジャー

グローバル連携／グループ内連携／働く環境・魅力

[日々の業務と自己研鑽の両輪で、付加価値の高いサービスを提供できる人材に。]

デロイト トーマツ税理士法人
シニアアソシエイト

女性活躍／グローバル連携／M&A

[日々進化する間接税の世界で、クライアントに感謝されるサービスを]

デロイト トーマツ税理士法人
マネジャー

女性活躍／育児との両立

[国と国がより一層つながっていく社会において、“個”の力と“チームプレー”の両輪で貢献する。]

デロイト トーマツ税理士法人
アソシエイト

女性活躍／グローバル連携／働く環境・魅力

[語学力に加え、好奇心や向上心が旺盛な方にお勧めの職種。]

デロイト トーマツ税理士法人
シニアアソシエイト

女性活躍／海外勤務／グループ内連携

[他の法人のインタビューを見る]

募集企業一覧

- 有限責任監査法人トーマツ（監査・保証事業本部）
- デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
- デロイト トーマツ サイバー合同会社
- デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社
- デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
- デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
- デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社
- デロイト トーマツ税理士法人

有限責任監査法人トーマツ（監査・保証事業本部）

会計アドバイザリー／経営管理制度／内部統制／ガバナンス／人事制度／DX／事業計画／事業承継／地域課題／M&A／IPO／サステナビリティ

トーマツの監査・保証事業本部では、品質を最も重視した業務遂行により企業の適正な財務報告と内部統制の向上、さらに資本市場の信頼性を担保し、その発展に貢献しています。資本市場における様々なステークホルダーの皆様の期待に応えること、それが私たちが提供する監査・保証業務の原点です。

採用情報

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社

会計アドバイザリー／ガバナンス／内部統制／サステナビリティ・ESG／DX推進／デジタルガバナンス／システム監査／データ＆アナリティクス／AI／クラウド／SAP／地方採用あり

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社は、クライアントが適切にリスクテイクし、的確に経営上の課題に対応するためのサービスを幅広く提供することで、クライアントの持続的な成長に貢献します。財務、経理、事業リスクマネジメント、コンプライアンス、内部監査、IT、サイバーセキュリティなどの各領域に応えることができるプロフェッショナル集団です。

採用情報

デロイト トーマツ サイバー合同会社

サイバーストラテジー／クラウドセキュリティ／不正対策

デロイト トーマツ サイバー合同会社は、企業の持続的成長や競争力の向上にむけた経営変革を、サイバーセキュリティの面から強力に支援しています。Strategy（戦略）、Secure（予防）から、Vigilant（発見）、Resilient（事後対応）に至るまで、サイバーセキュリティの確保に求められる知見・機能を一気通貫で企業に提供する体制を保有しています。

採用情報

デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社

サステナブルファイナンス／ESG／統合報告／IR

デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社は、ESG情報などの非財務情報の第三者保証やサステナビリティ関連のアドバイザリー業務の提供を通じて、持続可能な社会の実現に向けたサステナビリティ経営基盤の構築に貢献するプロフェッショナル集団です。

採用情報

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社

戦略・事業企画／マーケティング／M&A／人事／ITコンサル／業務改善・オペレーション／サプライチェーン

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社は、イノベーション、トランスフォーメーションに取り組むクライアントに対して、ビジネスとテクノロジーの観点から戦略を提案・遂行支援し、クライアントがマーケットをリードするために必要なコンサルティングサービスをEnd-to-Endで提供しています。

採用情報

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社

M&A／クライシスマネジメント／フォレンジック／不正対応／企業再生／知的財産アドバイザリー／公認会計士・US CPAの有資格者活躍

デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザリー合同会社は、企業価値を向上し持続的成長を実現するためのM&Aや、企業価値の急激な低下を抑制するためのクライシスマネジメントといった経営戦略の重要な局面において、クライアントの状況やニーズに応じた専門性の高いサービスをEnd-to-Endで提供しています。

採用情報

デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社

ベンチャー支援／大企業イノベーション

デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社は「挑戦する人と共に未来を拓く」をミッションに、ベンチャー企業・大手企業・官公庁／地方自治体等が協働し、数多くのイノベーションを生み出す世界を目指し活動しています。主な活動として、国内外 約3,000社のベンチャー企業支援・大手企業イノベーションコンサルティング・官公庁向け政策提言／実行支援を行っています。

採用情報

デロイト トーマツ税理士法人

移転価格／ビジネスプロセスソリューション／M&A税務／海外人事オペレーション／経営承継助言／地域有力企業向け

デロイト トーマツ税理士法人は、全世界150カ国・地域を超えるグローバルネットワークを活用し、現代のクライアントニーズに合わせた多様かつ総合的な税務サービスを、経済社会の公正を守り、かつ品質を重視し、高度な知識および豊富な経験を備えたプロフェッショナルによって提供します。

採用情報

採用FAQ

Q. コンサルタント未経験ですがついていけますか？

様々な研修制度をご用意しております。コンサルタント未経験の方も多数入社し活躍しておられますのでご安心ください。

Q. 面接は何回ありますか？

部門部門、職位にもよりますが平均的には2-3回となります。
募集企業によっては、ケース面接が実施される場合があります。各募集要項をご確認ください。

Q. 入社後の異動制度はありますか？

自らの意思で、他ビジネスへの転籍や出向、グループ内の他ポジションや他職種へ異動することが可能です。
またグローバルが推進する業務やグループ全社の施策にプロジェクトごとで参画できる公募など、グループ内の相互連携や継続的に自己成長を追求できる機会を創出する取り組みを推進しています。

Q. ワーキングプログラムとはなんですか？

デロイト トーマツ グループでは、ライフイベント（出産・育児、介護、傷病等）で一時的に働き方に多様性が必要となるメンバーが、自分に合った働き方を選び、働き続けることができるよう、制度やサポート施策などを豊富に整備しています。
DEI 観点での各種Well-being制度

各社でもプログラムをご用意しておりますので、各社のサイトをご覧ください。
採用情報

Q. 異業種、未経験でも応募可能でしょうか？

語学に異業種・未経験の方でも応募いただける職種もございます。
各職種ごとに要件が異なりますので、応募要項をご確認の上ご応募ください。

これまでの経験を活かして、
コーポレート職として活躍の場を広げてみませんか。

デロイト トーマツ グループでは、コンサルタント出身者がコーポレート職で活躍しています。入社後の研修も行っていますので、安心して業務に取り組んでいただくことができます。

コーポレート職（経営企画・総務・財務・人事・マーケティング・広報など）

採用ページへ戻る

規制当局の動向を把握し、金融業界の課題解決を支援する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　金融事業部　東京事務所
スタッフ
官公庁（公務員）からの転職／金融機関向けアドバイザリー
2022年10月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 金融業界を対象とした会計に関するアドバイザリー業務全般に従事しています。金融機関は監督当局の定める様々なルールを遵守しつつ、時代に合わせて業務を変革していく局面にあるため、クライアントのニーズに応じて決算業務の効率化支援やサステナビリティ開示支援、制度改正対応など多岐にわたるテーマの仕事に携わっています。また、会計監査に携わる機会もあり、監査を通じて業容や会計実務の理解が深まっており、アドバイザリー業務を行う上でとても役に立っています。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　公務員（行政職員）として、地方公共団体の監査や金融機関の検査、会計関係の法規に関する業務などに従事していました。金融機関は他業種と比べると規制が多い業種であるため、行政職員として業務に携わった視点を持っていること、また、さまざまな規制や制度の背景を把握していることが企業の実務をより解像度高く理解する助けになっているのではないかと考えています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　金融機関を対象とするアドバイザリー業務ポジションを検討していた際、有限責任監査法人トーマツは金融機関のクライアントが多く、金融業界に強みがあるのではないかと判断し応募しました。
入社を決めた理由としては、所属する組織が新しく日々成長していること、アドバイザリーだけでなく会計監査にも携わりやすい体制になっていること、また、選考を進める中でグループ内出向制度や海外駐在の機会があることなど、今後のキャリアの広がりや柔軟な働き方の可能性を感じたためです。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. デロイト トーマツ グループには様々な法人があり、法人を超えて連携することや、関与したい仕事があった際に出向できる制度があることなど、グループ一体でプロジェクトや個人のキャリア支援に取り組んでいるところが良いと感じています。また、様々なバックグラウンドや多様な専門性を持ったメンバーが在籍しているため刺激を受けることが多くあります。中途入社者も多いため、上下関係を強く意識せず、お互いにサポートし合う風土ができているように感じます。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 昨今はAIをはじめとする技術進歩やサステナビリティの機運の高まり等から日々の変化のスピードがより速くなっています。このような状況においても、会計は重要分野の一つであり、他の分野と融合することで業務領域が更に広がっていると感じています。そうした中で、有限責任監査法人トーマツに所属する様々な分野の専門家から学べる環境や、キャリアを支援する様々な制度を活用しつつ、会計を軸として強みとなる領域を見つけて、確立することが現在の目標です。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

会計監査業務とITの高度な融合を推進する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　金融事業部　東京事務所
ジュニアスタッフ
IT企業からの転職／会計監査業務のITによる効率化・高度化
2023年8月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 会計監査チーム向けに監査業務の効率化や高度化を目的とした、ITシステムの開発や運用業務を行っています。具体的には、現在監査チームが手動で行っている業務をPythonやRPAツールを用いて自動化を実現し、業務時間の短縮や付加価値の創出を実施しています。

例：
・Pythonを用いて、資料内の個人情報を自動で検出しマスキングを行うツールの開発、運用
・SQLとBIツールを用いて、社職員の労働時間の可視化と分析を行うツールの開発、運用
これらのプロジェクトは監査チームからの相談をもとに始まることもありますし、チーム内でアイデアを募りそこから発展させて始まることもあり、プロジェクトの自由度や主体性はとても高いと感じています。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　前職では金融事業を中心としたグループ会社に向けたITシステムの提供を行っており、インフラエンジニアとして各社のサーバー・ネットワークの構築保守業務や、システムエンジニアとして機械学習を用いたシステム開発業務に従事していました。
現在の業務の1つとして、先ほどの業務内容でも挙げた資料内の個人情報をマスキングするツールの開発を行っています。こちらのプロジェクトの発端は「自然言語処理のPythonライブラリを何か効率化に活かせないか」といった相談であり、前職にて要件定義から携わり自身のアイデアをもとに提案を行ってきた経験が活かされていると感じています。また、本チームではシステム開発にあたり、外部への委託は行わずチーム内で完結させることとしており、この観点で上流から下流までの開発工程の経験が活用できていると考えています。
その他前職にてインフラエンジニアとしてAWSを取り扱っていた経験を活かし、クラウドサービスを用いた社内向けWebアプリケーション開発のプロジェクトを現在進めています。こちらは本チームで初めてのクラウドサービスの導入であり、チームの新たな取り組みに携わることができ大変やりがいを感じています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　前職の新卒入社から3年のタイミングで、これまでの経験を活かした新たな挑戦と新たな専門性の習得を目的に転職を考え始めました。
その中で本チームの募集記事を見つけた際、有限責任監査法人トーマツが会計士でなくITエンジニアを募集していることに正直驚きました。ただその中で「会計監査×IT」というまだ発展途上な領域であり新たな挑戦を行うに当たってこの上ない環境だと感じましたし、自身のITエンジニアとしての経験を活かすことができるとともに、成長が図れそうな環境であることに魅力を感じ応募しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　特によかったと感じる点は、より成長できる環境であるという点です。
基本的に業務は自身の裁量をもって臨むことができ、なおかつ自身の意見や考えをダイレクトに新規開発や改善に繋げることができるため、その分責任は生じますが主体的に成長できる環境であると感じます。加えて有限責任監査法人トーマツ全体はもちろん、本チームにおいても様々な経験やスキルをもったメンバー方がいて、業務の中で新たな観点が得られたり、困った時には十分な助言をしてもらえる環境でもあります。
その他ワークライフバランスについて制度が整っていることはもちろんですが、社職員の意識がとても高いと感じています。そのため入社して以前よりプライベートも充実させることができ、仕事の時はより仕事に集中できるようになっていて、精神的に余裕を持った生活ができるようになったと感じています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 今使用しているソリューションだけに目を向けるのではなく、日々生まれ移り変わっていくIT技術に対してアンテナを高く持ち、より良い技術を取り入れながら、より良い効率化を目指し業務を行っていきたいと考えています。その中でもAIや機械学習は重要性が増してきている領域だと感じていて、引き続きキャッチアップを続けるとともに挑戦を続けていきたいです。そしてそのIT技術の知識・視点をもって、会計監査の新たな効率化や高度化を進めていきたいと考えています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

農業分野の課題解決を支援し、農政と農業現場の結節点となることを追及する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　パブリックセクター・ヘルスケア事業部　東京事務所
スタッフ
官公庁（公務員）からの転職／パブリックセクター向けアドバイザリー
2023年9月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 農業分野向けのコンサルティング・アドバイザリー業務に従事しています。入所後は主に大手協同組合の経営課題解決等に関するアドバイザリー業務、単位農協向けの経営管理体制の高度化支援業務等に携わっています。具体的には、単位農協の中期経営計画や農業振興計画等の策定に向けたアドバイザリー提供、人事制度の高度化・再構築に向けた伴走支援、内部管理体制の高度化に向けた支援・研修等です。
また、他部門と連携し、大手協同組合や自治体等の環境保全型農業の取り組みに向けた調査検討業務等、農業分野の脱炭素・サステナビリティに関する業務にも携わっています。
所属部署では行政、医療、教育分野などの公共性の高い分野で社会貢献に資する業務に取り組んでいる中、所属チームとしては農業分野を切り口とした地域・社会課題の解決に向けて業務に取り組んでいます。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　省庁にて農林水産業に関する施策の企画調整に関する業務に従事していました。具体的には、農業金融関係、地域作物関係、穀物関係、農政の根幹となる基本法（食料・農業・農村基本法）見直し関係等に携わる業務です。
現在の業務においても同一の領域（農業分野）に対するコンサルティング・アドバイザリー業務のため、前職の経験を通じて得た農業政策等の専門知識・知見を活かして業務に取り組んでいます。とりわけ地域の農業に根差した大手協同組合向けの支援業務においては、変わりゆく農業情勢・地域情勢を踏まえた実効性のある経営課題解決のためのアドバイザリー提供に軸足を置いて取り組んでいます。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　監査法人として監査業務等を通じ蓄積した全国の大手協同組合に対する業界知見とリレーション、また、デロイト トーマツ グループ全体として農業分野に提供しているサービスを通じ蓄積されたノウハウが、農業分野の地域・社会課題解決に向けて取り組むにあたり強みを有していると考えられたためです。
前職での経験また自身が地方の農家出身であること等に鑑み、農業分野の地域・社会課題解決に向け、農業政策という国全体の課題解決のマクロ的な視点から現場の個別課題解決に向けたミクロ的視点までの架け橋や結節点の機能が重要と考えています。

そうした中で、地域と農業のハブ機能を有する大手協同組合等へのサービス提供を通じて蓄積された当グループ内の知見・リレーションと自身の前職での知見等を踏まえ、地域の農業の課題解決に向けた結節点として機能することで、農業分野の課題解決に資する業務に従事できるのではないかと考えたことが入社を決めた一番の理由です。
また、自身が育児というライフステージの変化もあったことを踏まえ、採用活動を通じてデロイト トーマツ グループの働き方や制度面の職場環境が、現状のワークライフスタイルに適していると考えられたことも入社の理由の一つです。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. 異業種からの転職にも関わらず、領域の親和性の高さを持って入所後すぐに業務に入り込みやすかったことです。また、入所前は監査法人に対して「会計人の集まり」というイメージを強く持っていましたが、実際には多様なバックグラウンドの人が、それぞれの強みを活かし、会計に限らず様々な領域でサービスを提供していることも入り込みやすさにつながっていると感じています。
これまで当グループとして関係性を構築していた単位農協をはじめ地域に根差したクライアントに直接足を運び、前職での知見が実際にクライアントへのサービスの価値提供に繋がっていると実感できた際は、率直に入社してよかったと感じました。このような業務を通じて、農業分野の地域・社会課題の解決に向けた結節点として機能していけるように取り組んでいきたいと考えています。
デロイト トーマツ グループの柔軟な働き方や職場の風土、制度面等の職場環境により、自身の裁量を踏まえて仕事と育児等のバランスを取った働き方が実現できていることも入社してよかった点です。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 農業分野を切り口とした地域・社会課題解決に向けて、これまで当グループ内で蓄積された知見と前職の知見を踏まえ、農政と農業現場の結節点となることを追求していきたいです。
近年の世界の食料需給の変動等に伴って一層国内農業の持続的な発展が求められる中、今後の少子高齢化社会による国内市場縮小や担い手問題など農業分野の課題はさらに深刻化していく様相を呈しています。一方で、食料安全保障や脱炭素・サステナビリティ等のアジェンダに対して、国産食料の供給、環境配慮型農業の実践によるGHG削減等、農業の位置づけや重要性はより高まっていくものと考えています。
そうした中で、目まぐるしい情勢変化にキャッチアップしながら、官民の垣根を越えて農業現場・地域の課題にボトムアップ型でアプローチしていくことを通じて、社会全体の課題解決に資するプロフェッショナルになることを目指していきたいです。
有限責任監査法人トーマツには、全国の各拠点が提供する地域に根差したサービス提供を通じて、地域・社会課題解決にアプローチできる体制が整っていると実感しています。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

海外オフィスメンバーと協業して、グループガバナンス構築の支援を行う

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　監査アドバイザリー事業部
内部統制・経営体制アドバイザリー　東京事務所
シニアスタッフ
メーカーからの転職／グループガバナンス構築アドバイザリー
2021年5月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 主に日本に本社があり、海外に子会社を持つクライアント向けにグループガバナンス体制構築に関するアドバイザリー業務を行っています。具体的には、海外子会社の各種社内規程の整備・運用状況の確認および財務分析といった実態調査や海外子会社から親会社へのレポーティング体制見直し等とアドバイザリー内容は多岐に渡ります。本業務に携わるようになってから約3年が経ちますが、様々な業種のクライアントにおいて海外子会社に対するガバナンス体制構築のニーズはますます高まってきており、語学力と内部統制の知見を兼ね備えた人材のニーズも高くなっていることを感じています。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　前職では化学メーカーに約4年間勤務していました。最初の2年間は経理部に所属し主に月次決算業務や連結決算業務を行いました。ちょうど2年が過ぎた頃に経営戦略室に部署異動となり、最後の2年間は経営会議の運営補佐として月次資料の作成や、予算策定業務、担当子会社のモニタリング業務をいました。
現在の業務では、特に、クライアントの経理部・経営戦略室・内部監査室の方々とプロジェクトを進めることが多いため、実務者として実際に決算や子会社のモニタリング業務に携わっていた経験が、クライアントの現状の決算・財務プロセスやガバナンス体制を理解する上で大きく役に立っていると感じています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　まずUSCPA（米国公認会計士）の資格合格が転職を考えるきっかけとなりました。前職では決算対応等で監査法人の方とお話しする機会が多々あり、また経理部長が監査法人のアドバイザリー部門の出身でもあったため、監査やアドバイザリーの仕事には少なからず興味がありました。そのため、ハードルの高さを感じつつも監査法人が転職先の候補となりました。
面接を通じて、決算効率化や海外子会社管理に係る案件を多く手掛けていることを確認することができ、これまで自分が携わっていた業務に関する専門性をより一層高められると感じたため、有限責任監査法人トーマツへの入社を決めました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　入社してよかったことの一つが海外経験の豊富な上司と働く機会に恵まれ、様々な海外案件に携わることができたことです。前職では海外子会社に関連する業務が少なく、業務の中で英語を使用する機会がありませんでした。現在は、クライアントの海外子会社の担当者や海外のデロイトメンバーとのやりとり等、日常的に英語を使用するのが当たり前の環境に身を置くことができています。
もう一つは様々なバックグラウンドを持つ上司から適宜フィードバックを受けながら仕事を進めることができる点です。前職では上司が複数いるということはなく、基本一人からフィードバックを受けるのみでした。現在はプロジェクトごとに、「監査」「ITシステム導入」「海外子会社管理」等各領域に強みを持つ上席者とディスカッションしながら業務を進められることは、働く上で大変良い経験となっています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 引き続き、現在行っているグループガバナンス体制構築に関するアドバイザリー業務の他、内部統制に係る業務等、経営体制強化に欠かせないテーマに関わる案件に幅広く携わり、将来マネジャーとしてプロジェクトを率いていけるだけの力を培っていきたいと思います。
転職者が中心の部署であるため、様々なバックグラウンド・強みを持つ同僚の中で埋もれないよう、「この件に関しては、あの人に相談しよう」と名前が挙がるような差別化できる自分の強みを確立できればと思います。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

会計領域の経験とUSCPAを基に、アドバイザリーと会計監査を兼務する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　監査アドバイザリー事業部　会計・財務報告アドバイザリー　東京事務所
スタッフ
メーカーからの転職／経営業務支援アドバイザリー／USCPAでの会計監査
2023年9月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A.　現在携わっている業務は主にアドバイザリー業務及び監査業務の二つです。
アドバイザリー業務では、主として大手小売企業に対してFMS（経理業務支援）を行っています。海外関係会社に対する会計関連のヒアリング・データ集計、会計論点に関する問い合わせ対応、グローバルな社内会計方針策定に関わる事前調査等を行っています。クライアントの課題を聞き、クライアントの状況を理解するために、定期的にクライアントのオフィスで一緒に仕事をして、建設的な関係の構築に努めています。
監査業務においては、大手製造業の監査に携わっています。事業会社で経理の経験を積んできましたが、会計・監査に関する専門性を培いたいと考えて監査業務への関与も希望しました。監査業務は初めてではありますが、監査チームのメンバーと協業して従事しています。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　前職では大手製造業で経理をしていました。本社経理・財務部で連結・単体決算対応、IFRS導入対応、債権管理や銀行対応、子会社で管理会計,原価監査対応等幅広い業務に従事していました。
前職での経験は主に以下2つの点で現在役に立っています。
一点目として、事業会社における経理業務に関する見識です。例えば、経理業務支援のプロジェクトにおいては、前職での連結決算の業務やシステム対応について全体像を把握しているため、前職とアドバイザリー先でのプロセスの異同を意識することができます。また、プロジェクト開始時に経理の仕訳取引の流れを理解する必要があった時には、前職における勘定科目の仕訳方法の検討経験や、問題が生じた際のITシステムでの自動処理も含めた全体的な仕訳確認の経験を活かすことができました。その他にも、一般的な「調達・営業・生産管理・人事等」と「経理・財務」との関連性を把握していることから、クライアントの業務や内部統制を理解する際に役立っています。
二点目として仕事の進め方についてです。前職においても他部署、監査人や金融機関、取引先等様々な関係者と関わって仕事をしていました。現在の業務においてもチームメンバー、クライアント、クライアントの相対する関係者等と関わっています。前職で学んだクライアントの関係者は何を課題としているのか、目の前の業務の位置付けは何かと意識することは、現在の業務においても大切であると実感しています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A. 新卒当時から専門性とグローバルに対する関心がありました。前職在籍時は経理財務に関して広く経験していましたが、さらに知識を深めたい・実務に関わる英語力を鍛えたいと考えてUSCPA（米国公認会計士）の勉強を始めました。USCPAの勉強で会計・監査・税務・管理会計・ITや英語力を培うなかで、実務を通じてさらに高度な専門性を得たいと考え、USCPAの合格を機に思い切って転職を志しました。転職活動では他社の会計アドバイザリーポジションも受けていましたが、有限責任監査法人トーマツの面接は穏やかな雰囲気で進められ、基本的な用語に対しても丁寧に回答してもらうことができ、また、どのような仕事をしたいかという希望に対しても積極的に耳を傾けてくれることが感じられ、「やりたいことができそう！」「やっていけそう！」と思い入社を決めました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. 入社してよかったと感じることは主に3点あります。一点目として、知識・見識の習得の機会が豊富にあることです。例えば、私は業界が異なる企業のアドバイザリーと監査を兼任していることから、常に異なる角度から分からない課題に直面します。有限責任監査法人トーマツ内には、マニュアルや知識体系、e-Learningが非常に豊富にあり、同僚や上席者に質問した際も丁寧かつしっかりと回答してもらえる環境です。さらに、プロフェッショナルファームということから最先端のクライアントニーズに対応しており、社内の展開される情報や他のジョブの関係者と話す機会が多いことも刺激になります。
二点目として、グローバルなファームである点です。アドバイザリー業務においてはクライアントの海外関係会社とのオンラインミーティングへの参加や、海外関係会社の担当者とメールでやり取りする機会がありますし、監査業務においてはグループ監査対応のため、海外の監査チームとも連携しています。経験を積み、英語力を鍛えて、グローバルなプロジェクトでさらに価値を提供していきたいです。
三点目として、社職員が社内ネットワークを構築できるように有限責任監査法人トーマツが組織として取り組んでいる点です。私の所属する監査アドバイザリー事業部はインクルーシブな雰囲気で、入社した際の事業部全体での懇親会、クリスマス会などを通じてジョブで関わりない方とも交流を深めることができています。また、事業部内やチーム内での勉強会や懇親会も定期的に実施されます。入社前は不安もありましたが、同事業部やチームの同僚・先輩としっかりとコミュニケーションを取れて協働できていると感じます。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. まずは簡単なことからでもいいので、有限責任監査法人トーマツ内で相談・依頼される人材になりたいです。クライアントやチームメンバーと誠実かつ前向きに仕事をし、その積み重ねを通じて、事業会社出身、USCPA、アドバイザリー・監査で得た知見に基づいた専門性のあるキャリアを構築していきたいです。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

公務員の知見を活かし、地域の社会課題解決を支援する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　東日本第四事業部　仙台事務所
シニアスタッフ
官公庁（公務員）からの転職／パブリックセクター向けアドバイザリー
2020年1月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 公務員（行政職員）出身という背景もあり、主にパブリックセクター向けの業務に関与しています。
国や地方自治体、大学、公益財団法人等が行う、東北の産業復興、起業家育成、事業化支援、産業人材育成といった業務に携わっており、業務全体の企画や運営から個社に寄り添った伴走までフェーズも幅広く取り組んでいます。
例えば、被災企業と経営課題を議論し、課題に応じた専門家と連携しながら課題解決に向けて取り組んだり、
スタートアップの事業化に向けた実証試験に伴走するような業務もあれば、
地域へ若年層や女性起業家を呼び込み、地域でのビジネス展開を誘発しようとビジネスコンテストの立ち上げに取り組んだり、地域のDXを促進するため、各企業においてDXを推進する人材を面的に育成するような業務もあり、多岐にわたります。

Q.前職の仕事内容と、その内容が現在の仕事にどのように活かされているかを教えてください。

A.　前職では、産業振興部門や総務部門を経験しました。産業振興部門では、企業誘致や工場の新増設の支援など、また、総務部門では総合戦略、エネルギー計画などの策定や、広域連携、SDGsの推進などを担当しました。現在の業務でいうと、クライアント側の立場で仕事をしていましたので、クライアント側の意思決定の行われ方、業務の進め方、事業が実施される背景などの理解がしやすいと感じています。また、行政の政策形成で経験した企画立案やステークホルダーとの調整業務は、現在の業務で取り組んでいるプロジェクトの企画立案や運営面にも通じています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　基礎自治体の行政職員として仕事をしていましたが、国への派遣をきっかけに、より広い視点で、より広い範囲にわたって社会課題解決や地域活性化に取り組みたいと考えるようになりました。
そんな中で、知人から有限責任監査法人トーマツで取り組んでいる業務の内容を聞き興味を持ちました。それまでは、監査法人として会計のプロフェッショナル集団という認識しかありませんでしたが、実際には多様なバックグラウンドを持った人たちが、それぞれの強みを生かしながら幅広い領域にサービス提供をしていたことに気付いたためです。ここでなら自身が考えていた、より広い視点、より広い範囲で、社会課題解決や地域活性化にアプローチできると考え応募に至りました。

また、面接・面談でお話しする中で視野の広さ、視座の高さ、職業人としてのプロフェッショナル意識の高さに感銘を受け、入社を決めました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　クライアントから感謝の言葉を頂いた時などは入社してよかったと強く感じます。プロジェクトの中で個社にアドバイスを行う機会がありますが、その際にお礼の言葉や、プロジェクト終了後に取り組み状況の連絡を直接頂くことがあり、自身の仕事が役に立っていることを実感し、改めて入社して良かったと思います。
また、全国連携の業務なども含めて、入社前に思い描いていた以上に、様々なパブリックセクターの産業振興業務に関与できています。もちろん、プロジェクトを進める中で困難にも直面しますが、プロジェクトを通じて自身の成長を実感できていますので、転職時には迷いもありましたが、入社を決意してよかったと感じています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. これからもパブリックセクターを対象として、様々な社会課題や地域の活性化に取り組みたいと考えています。パブリックセクターは、社会情勢によって求められる仕事の内容も変わるため、社会情勢の変化に常にアンテナを張り、自分自身も変わり続け、学び続けて行かないといけませんが、様々な立場の方たちと協力し、幅広い課題に挑戦ができる分野です。今後、日本は人口が減少し、行政のリソースも減少していく一方で、社会課題はますます複雑多様化していくことが予想され、解決には様々な専門的な知識やネットワークが必要になります。有限責任監査法人トーマツは全国に拠点を設けて、地域に根差したサービス提供をしながら、グローバルで知見や事例を共有していますので、この強みを活用して、クライアントとともに新たな価値創出の仕組みを考え、実現させていきたいと思っています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

九州発の地域振興と国際協力を重視し、研究開発と人材育成を行う

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
マネジャー
シンクタンクからの転職／スタートアップ企業支援
2017年8月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 九州を中心に、研究開発型スタートアップ支援、クロスボーダーのオープンイノベーション支援、大学・高等専門学校（高専）の技術による国内外の社会課題解決プログラム企画・運営など、科学技術イノベーションとグローバルを軸に活動しています。
例えば、JICA（国際協力機構）と高専と連携して実施している、全国の高専生の技術とアイデアでアフリカの社会課題の解決に取り組むプログラムにおいて、2019年開始当初からプログラム全体の企画とマネジメントを担ってきました。このプログラムは2023年「第5回日本オープンイノベーション大賞 内閣総理大臣賞」(内閣府主催)を受賞しました。ルワンダにおいては、九州の大学等と連携して、宇宙分野の人材育成や、ルワンダ国立大学に航空宇宙工学科を作るサポートをしています。また、モンゴルでは、現地のFintechやAI分野等のスタートアップと日本企業・投資家とのビジネスマッチングなども行っています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　東京の大学で統計や社会調査、大学院で都市計画を学び、建設コンサルティング会社のシンクタンクに就職しました。東京を拠点に、アジアやアフリカの7カ国で現地政府の産業振興・資源経済・投資促進・中小企業及び環境向け金融などに係る調査・政策立案・実施を行い、インフラやプラントの輸出支援にも従事。年の半分を海外に出張する生活で、いろいろな国のために仕事をすることにやりがいを感じていました。一方で、30歳になったタイミングで、自分の思い入れのある土地で新しい産業を作る仕事がしたいという思いが強くなり、生まれ故郷の福岡にUターン。有限責任監査法人トーマツでは地域に新たな産業を作るベンチャー支援業務ができて、行政と仕事をすることも多いと知り、自分の経験を生かせると思い入社を決めました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　このチームには「九州でイノベーションエコシステムを構築する」という明確なビジョンがあり、私の入社後も様々な分野の人材が集まり、どんどん勢いが増しています。多様な専門性を持つメンバーをリスペクトして、チャレンジを後押しする受容性の高さや応援し合う姿勢が魅力です。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 最近の私のテーマは、地理的・分野的・手法的なフロンティアでイノベーションを創出することです。そのために、これらの領域を越えた人的交流を生み出したいと考えています。人口が減少する日本において、日本国内や日本人だけでイノベーションを創出したり、経済成長を実現することは難しくなるでしょう。しかし、例えば大学等の研究や科学技術などをフックにして、国内外の様々な分野の人たちとつながっていくことで、日本の成長はもちろん他国と共に成長していく世界観を創ることができると信じています。
また、東京から福岡へUターンしてきた身として、今はまだあらゆる仕事が東京に集中していますが、地方で自由度の高い暮らしをしながらも、海外とつながって面白い仕事ができることを体現していきたいです。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

DX支援や人材育成を行い、地方創生を追求する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
マネジャー
外食関連企業からの転職／スタートアップ企業支援
2022年2月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 中小企業におけるDX伴走支援や普及啓発セミナーの企画・運営、DX推進人材育成のほか、企業における人材育成・組織体制構築等の業務に従事しています。前職で人事組織の立ち上げやマニュアル作りから関わり、中小企業が陥りがちな経営課題や現場の感覚をリアルに経験してきたため、何かのスペシャリストというよりも全体をみることができるのが私の強みかもしれません。
現在は、いくつかの取り組みを行っています。一つは、海面養殖魚生産プロセスの変革です。養殖が盛んなある地域で、養殖の技術をデジタルで最適化するプロジェクトをいろいろなプレイヤーと進行中で、うまくいけばインパクトのある大きな動きに発展しそうです。ほかに、中小企業向けの事業革新研修を準備したりしています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　福岡の外食関連企業にて営業から商品開発、人事やマネジメントシステムの構築、経営まで幅広い業務に従事しました。
一方で、宮崎出身の私は、地元や地域のために何かしたいと長年考えていました。地域の食材を探していたとき、地方には地域資源や価値が点在しているのに、過疎化や流通やマーケティングの問題でうまくアピールできていないことや赤字になっていたりする現実を知りました。そこで、自分の経験をもとに地方の企業をサポートすることで地域経済を活性化したいと思い、転職活動を始めました。友人から有限責任監査法人トーマツの西日本アドバイザリーチームのことを聞き、ぜひやってみたいと応募しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　企業の規模が大きいからこそ、できることがたくさんあります。このチームは共通のビジョンのもと、それぞれが自らの専門性や個性を存分に発揮して、地域のエコシステムの在り方を探りながらチャレンジしています。夢を語ると賛同してくれる仲間がいて、チームとして大きなことを成し遂げられる環境です。私はチームのメンバーがとても好きで、世の中に価値のある重要なことをやっていると自負しています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. いろいろな活動をしていますが、私が当面目指しているのは地方創生の一つのモデルケースを作ることです。地域の資源を生かした産業を活性化することで、地元の人が自分の地域に誇りを持ち、笑顔が広がる。これこそ私が考える地方創生のあるべき姿であり、そのモデルを全国に広めていくことが使命だと考えています。
さらに私たち有限責任監査法人トーマツが、人事や広報、新規事業、ビジネスマッチング、海外展開など、ビジネスをする上で必要なあらゆることをサポートできる体制を整えることができればと考えています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

地域イノベーションエコシステム構築と人事支援を行い、地元九州に貢献し、企業の挑戦をサポートする

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
シニアスタッフ
メーカーからの転職／スタートアップ企業支援
2020年5月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 大きく2つの軸があります。一つは地域におけるイノベーションエコシステムの構築です。自治体や地域の企業、金融機関、専門家など、さまざまなステークホルダーと協力しながら、その地域で奮闘する起業家が挑戦を続けられる環境や土壌づくりに取り組んでいます。
もう一つは、個社に対する人事領域を軸とした伴走支援です。人や組織への興味、過去の人事経験を生かしながら、スタートアップやベンチャー、中小企業の採用や組織づくりのお手伝いをしています。人事の話は事業や経営に直結していて、どの企業にも何かしらの悩みがあるものです。でも、この領域は課題に対してアクションすればすぐに変化できるものではないことが多く、明確な答えがないことも多いと思うのです。だからこそ、起業家や経営者と一緒に悩み考えるスタンスを大事にし、日々尊敬できる多様な起業家や経営者から学びをいただきながら推進しています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　新卒で総合化学メーカーに入社し、新卒採用や若手研修、工場での人事業務全般に従事して、一定のやりがいを感じて過ごしていました。しかし、プライベートで社外の勉強会や集まりに参加する中で、自らのミッションやWillに純粋に向き合うスタートアップの起業家たちやそこで働く人に出会い、私は自分自身の根底の気持ちに向き合い、社会のために夢中になれているだろうかとハッとしました。同時期に、転勤で地元の九州に戻ってきており、その際、私は九州の人間で、地域に尽くすことでより充実感を得られると実感しました。そこで、スタートアップの支援と、地域のために何かしたいという思いから、有限責任監査法人トーマツに転職しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　私たちのチームは共通の目指す世界と価値観を持ち、自分たちの利益のためではなく、それぞれが自分の人生のアジェンダを重ねながら目指す世界へと向かっています。尊敬できるメンバーばかりで、監査法人として中立の立場であるため、様々なステークホルダーと大きな動きを作っていけること、デロイト トーマツ グループのリソースを最大限に活用して起業家やクライアントに価値提供できることが、このチームで働く魅力だと思います。
私自身は、支援する相手のことを愛し大事に想い、その方の思いや成し遂げたい世界に寄り添いながら、一緒に考えたり悩んだりすることがとても大切だと感じています。辛いときもうれしいときも同じ景色を見ながら、共に成長していくことが面白くやりがいを感じています。
また、個社や経営者個人への向き合いだけではなく、マクロに動きをつくるところに携われるのも魅力です。数年関わっている地域でのイノベーションエコシステム構築の事業では、コツコツ積み上げたことで少しずつコミュニティが拡大していき、そこで出会った人たちが新しい取り組みを始めたり何かが生まれたりする瞬間に立ち会えることがうれしいです。仕事を通して幸せをかみしめています。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. 今取り組んでいることを引き続きやった上で、今後は地域の中小企業の経営支援にもより力を入れて関与していきたいです。伴走支援をする中で、とても素晴らしい技術や思いを持っている経営者に出会ってきました。お話を聞いていると、相手の方や企業を心から尊敬し好きになり、自分に何ができるだろうと考えます。
企業が成長していくために、次世代経営者やマネジメント層の育成、新規事業の創出が必要になるケースがあります。新規事業の創出には同時に組織の風土づくりも重要なのだと感じています。
地域で働く皆さんの自己肯定感が上がり人と組織が成長すると、地域ももっと元気になっていくと思います。中小企業は歴史がある企業も多く、創業時から育まれてきた組織文化や価値観を大事にしながらも、人や組織が変化していく過程に関わり、熱い思いを持ち行動する方々の次の一手につながるところに関わりたいと願っています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

アクセラレーションプログラムを推進し、スタートアップと中小企業の支援を行う

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
シニアスタッフ
スタートアップ企業からの転職／スタートアップ企業支援
2021年4月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 主にスタートアップ向けの支援としてアクセラレーションプログラムをメインとした各種支援プログラムと、中小企業を対象としたアトツギ支援プログラム、新規事業・刷新事業創出プログラムに従事しています。自分が起業を経験したからこそ、このタイミングで何が大変だったかなと実体験に即して考えながら、事業の提案に入れるように心がけています。福岡県が行うリリース投下型の新しいアクセラレーションプログラムでは、目標達成に向けて徹底したコミットメントと伴走支援を行ってきました。1年目からプロジェクトマネジメントを担当してきた愛着のある事業で、社内では全国的にベンチマークされている取り組みの一つです。年々関わる企業が積み上がり、プロジェクトが終わってもご相談いただくことが増えていて光栄です。これからもしっかりアップデートして、結果を残していきたいと思っています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　もともと起業に興味があり、大学生になったら起業したいと考えていました。九州の大学に入学し、まずはその地域のスタートアップの創業初期に参画。その後、在学中に自分でデザインやウェブ制作の受託事業を始めて、規模は小さいながらも上流から下流まで全て経験しました。大学卒業後は、実際に自分で事業の立ち上げを行いました。自分がプレイヤーとして事業を推進していた際に様々な課題感を抱えており、今度は支援者側として大企業のリソースとアセットを活用して挑戦するプレイヤーに寄与したいと思い、有限責任監査法人トーマツへの入社を希望しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　チームの魅力は大きく3つあります。まずは、チャレンジに対して前向きなところです。新しい取り組みや変革に対して前向きな雰囲気があり、応援し後押ししてくれます。自分が考えた新しい取り組みが事業に追加されると喜びを感じます。次に、プロジェクト単位で行動するとき、どんな案件においても裁量を持って取り組むことができることにやりがいを感じます。自発的に行動する人には圧倒的に成長できる環境が整っています。
また、仕事とプライベートを両立しやすいことも、このチームの魅力です。担当部門パートナーが「家庭が第一」と公言し、家族や子どもを最優先してくれるため、メンバー間で気持ちよくカバーしサポートし合う態勢ができています。家庭のある人でも、安心して働くことができます。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. まず自分のためには、新しい取り組みやチームとして未開のプロジェクトに関して、積極的かつ大胆に挑戦していくつもりです。そして、チームのためには、チームメンバーがそれぞれイキイキと取り組めるために最適な業務環境を整えること、笑いと真剣が介在する健全な職場環境を作ることが私の役割だと捉えています。もともと風通しがよく、何でも言い合える職場ですが、楽しくリラックスして発言できる雰囲気づくりにこれからも貢献していきます。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

広告代理店の経験を活かし、
九州と四国の企業成長を促進する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
スタッフ
広告代理店からの転職／スタートアップ企業支援
2022年8月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. 主に地方に特化したマーケティングの支援に携わっています。また、行政が主催する様々なテーマの事業運営をきっかけに、九州と四国の一部のエリアのスタートアップや中堅・中小企業の皆さんと出会い、事業成長に向けて様々な取り組みを行っています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A. 福岡出身で東京の大学を卒業後、銀行、メディア、総合広告代理店にて営業やプランナーとして仕事をしてきました。その間、九州に根差す多くの挑戦者と出会い、皆さんの情熱や誇りに触れ感銘を受ける一方で、地方独自の課題も目の当たりにしてきました。
ただ、前職時代は、例えばファイナンスや広告といったある特定の領域でクライアントを支援することしかできず、地方に根差した企業の根本的な課題解決につながらないもどかしさを感じていました。そんな中、有限責任監査法人トーマツではクライアントの事業成長という目的に対して、選択する手段やチャネルの自由度が高く取り組むことができる環境があり、何より九州をはじめ、地方ブランドを本気で変えていこうというマインドにあふれていたため、ワクワクして入社しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A. チームメンバーは年齢もバックグラウンドも多様性にあふれており、何かしらの分野で突出したプロフェッショナルが多く所属しています。私にはできないことを得意とするプロがそろっているので、そうしたメンバーを巻き込んで一つの領域だけではなく体系的にクライアントの課題を解決していけるところに大きな魅力を感じます。また、特定の飛び抜けたスキルを持っているメンバーには独特な奇抜性や人としての奥深さがあり、そういった特性を身近に感じながら仕事をしていると、自ずと視座が高まり、自分自身が豊かになっていく感覚もありますね。
このチームではよく「チームを利用する」というフレーズが使われます。そうした思考を通じて自分がどうありたいかを定義し、その実現に向けてひた走る人はきっと幸せになれる環境です。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A.　やや誤解を生む表現かもしれませんが、チームとして活動しない時間・活動を増やしていきたいです。
プロボノ的に支援先の実業に取り組んでいくこととかがイメージに近いですが、地方でマーケティング支援をしていると、その支援スタイルが実務に寄っていく感覚があります。この領域に限った話ではないと思いますが、地方の挑戦者に寄り添いたいと本気で思うのであれば、実業を自分で回すことで自分も挑戦者と同じ痛みを知ること、でも楽しみながら、そして挑戦者と同じ感情で事に当たることができるプレイヤーでありたいと考えています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

官公庁や行政案件のサポートを通じて、チームの負担を軽減する

有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
ジュニアスタッフ
金融機関からの転職／スタートアップ企業支援
2023年2月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容はどういったものですか。

A. アシスタントとして、フロントオフィスメンバーのフォローを行っています。主に官公庁や行政案件の業務で伴走支援に入り、日程や補助金管理、支援先スタートアップへのフォローアップなどの細かなやり取りやプレスリリースの作成を行っています。必ず行うべき業務が決まっているわけではなく、フロントオフィスメンバーのフォローを行いながら、次に必要な資料の用意や作成、ワークフローの手続きの準備を行っています。特にフロントオフィスメンバーの負担が重くなる時期や負荷の高い業務があった際は、可能な限りフォローを行い、負担を軽くできるように心がけています。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社したきっかけ、経緯を教えてください。

A.　福岡の大学を卒業後、銀行に入行し営業を行っていました。結婚を機に退職し、子育てが落ち着いたタイミングで、北九州市のDXベンチャーに就職しました。DXベンチャーでは、スタートアップ支援特化のコワーキングスペースでコミュニティ・アクセラレーターとして働き、スタートアップ企業の伴走支援や相談相手として関わりながら、5年間勤めていました。スタートアップ企業の方々とコミュニケーションを取って支援する業務が好きでしたが、スタートアップの企業の方々と関わっていく中で、もっと自分ができる支援を続けたいという思いが強くなっていたところ、有限責任監査法人トーマツからお話を聞き、ビジョンやチームがとても魅力的だったので、アシスタントとして関わりたいと思い入社しました。

Q.有限責任監査法人トーマツに入社してよかったこと、現在の所属組織で働くことの魅力を教えてください。

A.　育児と両立しやすい環境や雰囲気を整えていただけることと、成長している実感が持てるところです。入社時にフロントオフィスメンバーのアシスタントとバックオフィスメンバーのアシスタントのどちらを希望するかを聞かれた際に、本音としては、人と接することが好きなので前者と答えたかったのですが、子育て中のため出張が難しく、後者の方がいいのかもしれませんと正直に話しました。しかし、周りのメンバーから、「自分が本当にやりたいことや得意・好きだと思うことを全力でやった方がいい。出張はできる人がフォローすればいいから大丈夫」と言っていただき、それならば、とフロントオフィスメンバーのアシスタントを務めることになりました。普段は福岡市のオフィスではなく、自宅や自宅近くの事務所で業務を行うことができるため、育児と両立することができ、とても助かっています。
また、このチームは同じビジョンに向かって成果を上げるために前進していて、働いていて本当に気持ちがよく、みんなで成長している実感があります。メンバーはそれぞれ専門性が高く、協力体制が素晴らしいことも魅力です。「自分が苦手なことを無理してする必要はない。苦手なことは得意な人にやってもらい、自分の得意なことをどんどん伸ばそう」という環境です。私はこれまで自分の得意なことが分からなかったのですが、ここで「プレスリリースを書くのがうまい」「司会が向いている」などと言ってもらい、自信を持ってできることが増えました。

Q.今後のキャリアプラン、ビジョンをお聞かせください。

A. まだ入社2年目なので、しっかりと業務を行っていきながら、いろいろなことを貪欲に吸収していきたいと思っています。私の役割はフロントオフィスメンバーを支えることで、必要なことを自ら考え周到に準備するように意識しています。
フロントオフィスメンバーは専門性が高く、その分野で困っている企業をサポートすると「〇〇さんのおかげでとても成果が上がりました」と感謝されるのを何度も目の当たりにしてきました。チーム内ではいつも「ありがとう」という言葉が飛び交っていますが、アシスタントがクライアントの方から直接感謝される機会はなかなかありません。アシスタントとしてフロントオフィストメンバーをフォローしながらも、自分なりに勉強して、クライアントにとっても私が必要だと思ってもらえるような存在を目指します。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

九州・アジアイノベーションエコシステムの構築と発展に向けて

■パートナー
有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
2022年7月入社

■シニアマネジャー
有限責任監査法人トーマツ
監査・保証事業本部　西日本事業部　西日本アドバイザリー　福岡事務所
2020年2月入社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

西日本アドバイザリーが目指す世界とは何か

西日本アドバイザリーのチームをリードするパートナーとシニアマネジャーが、チームの成り立ちと、チームの目指す方向性について語り合いました。

Q.西日本アドバイザリーの部署がどうやって生まれたのか教えてください。

パートナー（以下「P」）：もともとは有限責任監査法人トーマツからスピンオフして、1997年にトーマツ・ベンチャーサポート株式会社(現デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社)が福岡で立ち上がりました。日本国内でも先駆け的な存在で、デロイト トーマツ グループのベンチャー支援の動きは福岡から広まったのです。
私は佐賀出身で、公認会計士として当法人に入りました。福岡事務所でキャリアを積む中でベンチャーやスタートアップの人と話していると、自分たちにできることがたくさんあると気づきました。そこで監査業務の傍ら、全国のスタートアップのイベントを回りつつ、九州のスタートアップを支援することで大変喜んでいただき、より一層やりがいを感じるようになりました。現在は、西日本アドバイザリーという部署を作り、20名超のメンバーで成長志向のある企業を全力でサポートしています。

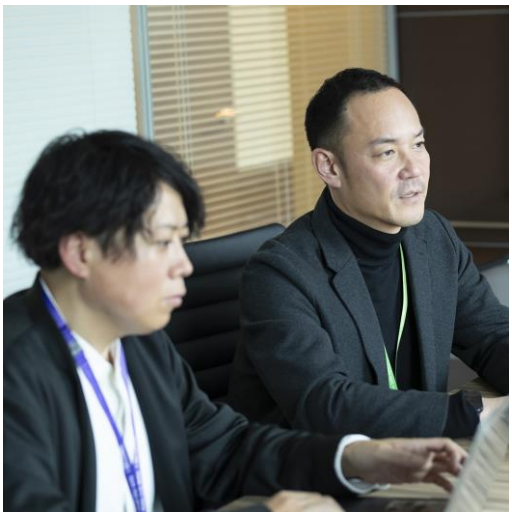
シニアマネジャー（以下「SM」）：大分で中小企業の専務として苦労しながら働く父の姿を見て育ち、中小企業を支援する仕事を志すようになりました。公認会計士と中小企業診断士の資格を取って有限責任監査法人トーマツに入社し、数年後に自ら希望して福岡事務所へ。監査ではなく、地方のベンチャーや中小企業のサポートをしたいと思い、前のめりで業務に邁進してきました。

Q.チームのミッションを教えてください。

P：私たちは、「世界規準の地域価値を共創する」（チームミッション）ために、まずは「地域の挑戦者が多様な選択肢と機会に出会える世界を実現する」（チームビジョン）ことを目指しています。例えば、挑戦者の代表格であるベンチャー企業は、地域において経済の新陳代謝を促し、新たな産業や雇用といった価値を生み出す役割を果たします。他にも中小企業や自治体の方、学生の皆様など「自分たちの住む地域がこうなったらいいな」「こんなことができないかな」と地域に想いを持って行動する挑戦者こそが、地域の未来と価値を創っていくと考えています。
私達はそのような挑戦者と共に、世界に胸を張って自慢できる地域の価値を一緒に創りたいと考えています。
はじめは会計士ばかりのチームでしたが、7年ほど前から多様な専門性を持つメンバーを採用しています。

現在もデザイナー、エンジニア、デジタルマーケティングなど、地域企業の成長に必要なスキルセットを持つメンバーを募集しています。もちろん個々のスキルも重要ですが、チームビルディングにあたって最も大事にしていることは、地域を本気で盛り上げたいという熱い思いを持っているかどうか、正しいことをみんなで楽しみながらチャレンジができる文化や環境が作れているかだと考えております。

SM：ベンチャー企業に限らず、未来に向けて現状を打破したい、地域を良くしていきたいなどの思いを強く持つ挑戦者の方々をチーム伴走型で応援しています。企業という点の応援だけではなく、地域や産業に広く関わる官公庁や各種協会・団体の方々と連携した面での取り組みも多くあります。私たちのチームは、上からアドバイスをするのではなく、あくまでも共に悩み考え行動し、一緒に汗をかくスタンスが特徴です。母体のグループにはあらゆる分野のプロフェッショナルがそろっているのに加えて、組織の枠を超えて九州を良くしていこうという数多くの同志とつながっているため、最高のチームで企業や地域が抱える課題に対して深く入り込むことができるのではないかと思っています。



Q.チームの活動エリアは主に九州の地域が対象になるという理解でよろしいでしょうか。

SM：長期的には全国地域と世界なのですが、中期的には九州及び中四国地域、そしてアジアを対象としています。もちろん限定しているわけではなく、実際には現在もアフリカのプロジェクトなども動いているのですが、まずは地域から東京を目指すのではなく、アジアを目指せる流れを作れたらと考えています。
九州でいえば、昔からアジアと経済的な連携をしようというビジョンを多くの人が掲げてきました。今こそそれを実現するチャンスで、当法人グループはアジア各国に事務所があり、多くのネットワークとクライアントを抱えているので、私達のチームは旗振り役として多くの貢献ができると考えています。これらを、志を同じくする地域の挑戦者と一丸となってやり切りたいです。
近年は地域に拠点を移したり、移住する人が増えていますが、その理由が「地域でビジネスをする方が圧倒的に成長できるから」「この地域に来たらアジア単位のビジネスができるから」と言われるようになりたいです。

P：地域のスタートアップと海外の投資家のマッチングをはじめ、アジアとつながって動くプロジェクトが確実に増えてきています。2033年までには、アジアと地域の経済的密度を高め、創造と変革を望む地域の挑戦者が、アジアレベルで活動するための多くの選択肢と、事業機会を創る。地域企業が進出可能なマーケットエリアと狙える市場規模の拡大を図り、アジアから選ばれるための世界規準の価値を地域に創出することを目指しています。地域とアジアが一体の経済圏になり、シームレスにつながる世界観は面白く、本気で目標に向かっています。

Q.どのようなチームを目指していますか？

P：私が最も大事にしているのは、個人のやりたい思いと組織のやりたい思いが一致するかどうかという点です。私たちのチームは地域軸が最上段にあり、その上で自分がやりたいことをこの組織を使って実現してほしいと思っています。個人のWillを成し遂げるために、このチームでやったほうがより早く・より大きくできることが理想です。一人ひとりがWillに向かって能力と個性を発揮することでチームの力が最大化して、より良いチームになれば地域も活性化するという好循環を生み出していきたいです。

Q.最後に、今後の構想を聞かせてください。

SM：私たちのチームは大規模な組織の中でスタートアップ的な動きができる唯一の部隊です。会社の利益優先で考えると、どこの会社も誰もやらないプロジェクトでも、私たちはそれが地域にとって必要なことであれば、何としてでもやり遂げる覚悟を持っています。ありがたいことにそうした考えに共感頂き、プロジェクトも年々増えてきているため、2024年4月から新しい体制で新事業を複数展開しています。

P：これからもっともっと九州の経済を活性化し、アジアとつながり、ひいては世界へと打って出るためには、九州という地域に熱い思いを持つ人たちの力が必要です。ぜひ私たちのチームの仲間になり、一緒にチャレンジしませんか。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

オープンで安心して働くことができる環境

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
西日本リスクアドバイザリー　コンサルタント
事業会社出身
システム監査／西日本エリア／自己成長／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容について教えてください。

A. システム監査に従事しています。業務内容は、企業の財務報告に関連する情報システムが正しく構築されているか、システムの運用が内部統制に則って行われているかを評価することです。
チームは、クライアントの規模に応じて2～5名程度で構成されており、複数のクライアントを並行して担当するため、毎日異なるメンバーと業務を行っています。また、クライアント先に直接赴いて作業を行ったり、自宅からリモートで作業することもあります。
近年は、IT環境の変化が非常に早く、日々新しい知識を習得する必要がありますが、業界の最新トレンドや技術を学ぶ機会が多く、専門性を高められることに充実感を得ています。

Q.デロイト トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 前職では金融機関のシステム開発を担当していました。高い品質が求められる金融機関のシステム開発の中でも、テスト工程や品質管理に注力し、システムの安全性を確保することがいかに重要であるかを学びました。この経験から、システム監査に対する関心が高まりました。
デロイト トーマツへの入社の決め手は、福岡拠点で、西日本の上場企業を含む多様な企業に関与でき、監査に関してレベルの高い業務を行える点です。
システム開発では特定のプロジェクトや業界に限定されることが多かったですが、システム監査では幅広い業種の企業と関わり、多様なシステムやプロセスに触れる機会が増えたため、視野が広がりました。また、デロイト トーマツの尊敬できるメンバーと働くことができ、入社してよかったと実感しています。

Q.社内の雰囲気について教えてください。

A. 入社して最初に感じたのは、非常にオープンな環境が整っていることです。職位に関係なく、質問や相談がしやすい雰囲気があるため、新しいメンバーでもすぐに馴染むことができます。
また、西日本リスクアドバイザリーは、ほとんどのメンバーが中途入社であるため、多様なバックグラウンドを持つ人々が集まっています。異なる業界や企業文化を経験してきたメンバーが揃っているため、独自の視点やアイデアが豊かに交わる点が非常に魅力的です。自然とオープンなコミュニケーションが推進されており、居心地の良い雰囲気です。

Q.入社前に不安に感じることはありましたか？

A. システム監査の経験がなかったため、業務の理解や仕事のペースに適応できるか心配でした。特に、IT、会計、監査など専門的な知識が必要とされる分野であるため、ついていけるかどうか不安が大きかったです。しかし、入社後は、社歴の近い先輩メンバーに相談に乗ってもらえるチューター制度や、Coachから成長支援を受けられる制度があり、心強い支えとなりました。また、チューターやCoachに限らず、どの方も丁寧に質問に応じていただき、安心して働くことができています。

さらに、充実した研修プログラムが用意されており、学んだ内容を実務に活かす機会が豊富にあります。
実際の業務に即した研修を受けることで、理論と実践が結びつき、自信を持てるようになりました。このおかげで、入社前に抱いていた不安は徐々に解消され、現在は自己成長にむけて業務に取り組んでいます。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

地域社会の発展と組織の成長に貢献

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
中京リスクアドバイザリー　パートナー
多様な専門家との協働／働く環境・魅力／中京エリア

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. 現在の仕事内容について教えてください。

A. 自治体におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)や住民サービス提供の基盤となるITの企画・調達・構築に関するアドバイザリービジネスをリードしています。主たる担当エリアは中京地区ですが、関西や西日本の自治体からお声がけをいただいたり提案に行ったりなど、実際に現地に足を運び、会って話をすることで、多くの自治体を支援しています。こうした活動をとおして、地域課題解決や地域のデジタル化推進に貢献していると感じています。

また、中京リスクアドバイザリーユニットの事業ユニット長補佐として、中京リスクアドバイザリーユニット全体に関する戦略立案と実行、組織人事、他さまざまな業務の運営を補佐しています。
組織の持続的かつ高い成長を実現するために、戦略的な視点からのアプローチを重視し、各チームと協力して目標達成に向けて取り組んでいます。
一方、デロイト トーマツ ウェルビーイング財団の理事として、社会課題解決をつうじて公益の増進をけん引することで、より一層の社会価値の創出に貢献する活動も行っています。

Q. デロイト トーマツ グループで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 最初に挙げるのは「デロイトが非常に多岐にわたる専門家の集団である点」です。会計、税務、法務、戦略、組織、デジタルなどの各分野の専門家が多数在籍しており、クライアントの経営課題や地域課題に対して総合的かつ専門的な提案が可能です。これはデロイトで働く者にとって非常に心強いことであると同時に、クライアントにとって、幅広いサービスと深い知見に基づく課題解決提案に驚きと価値を感じていただけているものと思っています。

次に挙げるのは「デロイト トーマツは個を尊重する組織風土を持っている点」です。タレント一人一人の個性や強みを最大限に活かし、チームとしてのシナジーを生み出すことを重視しています。このような環境で働くことで、自身の成長を実感しながら、組織の目標達成に貢献することができます。

特に、名古屋事務所にはご本人やご家族が中京地区に何らか地縁があって、名古屋で働くことをファーストプライオリティにしているメンバーが多くいます。名古屋で働きながら、地域のクライアントや地域課題解決に貢献できることに誇りと喜びを持っており、そして名古屋に400名を超える仲間がいることは大きな魅力です。

Q. どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A. 仕事のやりがいを感じる瞬間は日常的にあります。
まずプロジェクトを通じて、私たちの専門性や支援がクライアントの課題解決に貢献できたと実感できた時には、大きな達成感が得られます。また、その結果としてクライアントから感謝の言葉をいただけた時も、仕事のやりがいを強く感じます。クライアントからの「ありがとう」や「あなたのおかげで解決できました」という言葉は、私にとって何よりの報酬です。これらの言葉は私たちの努力が認められた証であり、次のプロジェクトへのモチベーションになっています。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. 自治体向けのデジタル／ITアドバイザリービジネスについて、デロイト トーマツの総合力をより活かすことで「自治体のデジタルアドバイザリーといえばデロイト」と思ってもらえる存在になることを目標としています。これによりデロイトが一つでも多くの地域課題の解決に寄与したり、自治体による住民サービスの質を向上させたりすることができると信じています。また、中京リスクアドバイザリーがクライアントから選ばれる唯一無二の存在になり、あり続けられるよう、部門運営をリードしていきたいと考えています。

さらに、中京エリアで働くプロフェッショナルにとって最も憧れる職場にすることも重要な目標です。多様な働き方に対応した制度運用を行い、個を尊重する組織風土を維持することで、一人一人が自分の能力を最大限に発揮できる環境を提供したいと思っています。

これらの目標を達成するために、常に前向きな姿勢で挑戦し続け、チームと協力して目標達成に向けて取り組んでいきます。地域社会の発展と組織の成長に貢献することで、楽しみながら自分自身も成長し続けることができると信じています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

多様なバックグラウンドをプロフェッショナルと切磋琢磨できる環境

有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザリー事業部
ガバメント＆パブリックサービシーズ　コンサルタント
金融業界
前橋ソーシャルイノベーションハブ／Uターン

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

Q. 担当している業務の内容を教えてください。

A. パブリックセクターに関係する業務を担っている部門に所属し、主にスマートシティ事業の支援を担っています。具体的には、スマートシティ事業の推進主体となる官民連携で立ち上げられたスタートアップ企業に対し、前橋市で展開している地域通貨事業の支援を主に担っているほか、財務や法務、人事といったコーポレート業務のサポートを行っています。

Q. デロイト トーマツ グループを転職先に選んだ理由を教えてください。

A. デロイト トーマツグループの拠点である「MAEBASHI Social Innovation Hub」が前橋市に設立されたことが大きな理由です。
私は前橋市の近隣地域に居住しており、そのなじみのある場所にデロイト トーマツグループの拠点ができ、さらに人材採用も行っていることを広告で知りました。それを見て、ぜひコンサルティングファームで働いてみたい、チャレンジしてみたいと考えるようになりました。
募集要項を見ると、募集職種の1つにパブリックセクター向けのDXコンサルタントがありました。当時はクレジットカード事業を展開する企業に勤めていて、DXにもつながるIT関連の業務経験があったほか、官公庁向けの業務を担当したことがあったため、自分の経験を活かせるのではないかと考えて応募することにしました。

Q. 現在勤務されている「MAEBASHI Social Innovation Hub」の魅力を教えてください。

A. 新しくて快適なオフィスであることがMAEBASHI Social Innovation Hubの大きな魅力です。
特にファシリティ面が優れていると感じています。コロナ禍を経て、リモート会議が定着した現在ではWeb会議はもちろん、対面会議にも柔軟に対応できる設備が整っていることは大変便利に感じます。最近では前橋駅から徒歩数分という立地を生かして、他拠点メンバーが対面会議を開催することも多くなってきました。またスペースに余裕があることがうれしいですね。パーソナルスペースをしっかり確保した上で仕事に取り組めますし、共有エリアも広いため、複数のプロジェクトメンバーで集まるミーティングや共同作業もストレスがありません。

Q. MAEBASHI Social Innovation Hubへの転職を検討している人へメッセージをお願いいたします。

A. デロイト トーマツグループは異なるバックグラウンドを持つプロフェッショナルが数多く在籍していて、そうした人たちが集まることによって新たな価値を生み出しています。
たとえば我々のチームには事業再生に強みを持つ人もいれば、ヒューマンリソースや企業法務、あるいは財務に精通した人など、さまざまなジャンルの人がいるプロフェッショナル集団になっています。こうした人たちが1つのプロジェクトに集まり、共通の目標に向かって仕事に取り組むことによって新しい価値が生まれています。そして一緒に働くことで多くのことを学ぶことができ、自身の成長につながります。
コンサルティングファーム、プロフェッショナルファームなどと聞くと躊躇してしまうかもしれませんが、自分のこれまでの知見や経験を活かしたいと考えているのであれば、思い切って飛び込んでほしいと思います。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

枠組みを飛び越えて、
これからの金融業界を考えていきたい

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
ファイナンシャルサービシーズ　シニアマネジャー　〈2011年4月入社〉
大手金融機関出身
リスク管理／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.ファイナンシャルサービシーズでの仕事内容について教えてください。

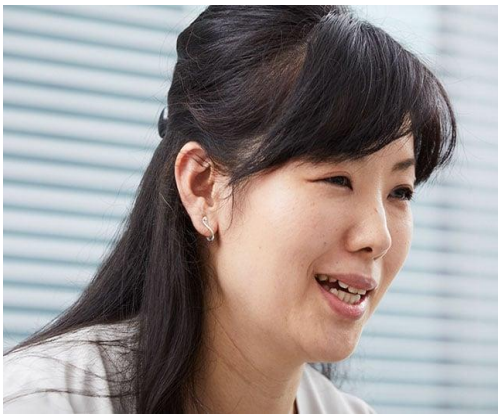
A. 金融機関向けにリスク管理関連のアドバイザリー業務に従事しています。金融機関のリスク管理の実務は、リスク量の計測、計量化といったテクニカルなものから、ガバナンスや組織・体制、内部管理体制、内部監査といった内部統制の側面も整備していくことが重要であり、チームで提供しているアドバイザリーサービスは多岐に渡ります。
また、銀行を対象とした健全性の基準として自己資本規制があり、従来から銀行の内部管理手法を取り入れたものとして進展してきていますが、2017年末には、海外展開する大手銀行を対象にした新たな国際資本規制の枠組み（バーゼルIII）の最終化が完了しています。
今後は、本邦金融機関の国内実施の内容が具体化する中で、クライアントの円滑な実施をサポートしていく必要があると考えています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 大手金融機関でリスク管理業務を担当した後、大学院に進学し、その後、監査法人で市場リスク管理、信用リスク管理、オペレーショナルリスク管理及びバーゼル規制のアドバイザリーサービスなどを行っていました。トーマツに入社したのは知人に声をかけていただいたことがいちばんのきっかけですが、当時、トーマツがちょうど金融機関向けのアドバイザリー業務を広げていこうとしている時期で、興味を持ったことも大きいですね。
リスクアドバイザリーはお客様のために何ができるかを考え、それをアウトプットすることでお客様からも周りからも評価される仕事。社内調整や社内政治といったものではなく、仕事の質でしっかりと評価されるので、とてもやりがいがあります。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 前職に比べると上下関係があまりなく、組織がフラットで、やりたいことを主張できる自由な雰囲気があるので非常に働きやすい職場だと思います。
また、ベビーシッター制度や病児育児への補助、企業内保育園など、子育て支援制度が充実している点は母親としてとても助かります。私は祖母がバックアップしてくれているので使っていませんが、いざというときに使えるインフラがあるのは安心感があります。
私自身、一時期仕事を辞めようかと考えた時期もありましたが、今は仕事を続けていてよかったと思います。男性、女性に関係なく、社会との接点を持つことは大事ですし、仕事はそのうちのひとつの手段。ですから、仕事は長く続けられる環境があることが重要だと思います。
子育てに専念する時期も人生の1コマとしてとても素敵ですが、私は子どもと接している自分と、社会と接している自分の両方があることでバランスが取れているので、子育ても仕事も両立できるのはとても嬉しいですね。



Q.今後の目標を教えてください。

A. 今、金融業界は異業種の参入が加速しており、情報サービスを始めとする非金融分野のサービスの進展が様々な金融サービスと組み合わさって、フィンテックのようなイノベーションがもたらされ、それらが銀行法の再編など金融機関の規制環境すら変革しようとしています。
そうしたなかで、私たちも新しくお手伝いできることはないかと常に考えていく必要があります。金融機関だからこういうことをやるべきと考えるのではなく、これまでの枠組みを飛び越えて、これからの金融業界ができること、求められることをお客様である金融機関と一緒に考えていきたいですね。
また社内では私はマネジャーという立場なので、スタッフの適性を見極めながら、チームとして成熟度を高めて、お客様をサポートできればと思います。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

多様なセクターを“つなげる”ことで、社会課題にアプローチする

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
ガバメント＆パブリックサービシーズ　マネジャー　〈2016年1月入社〉
行政職員出身
パブリックセクター／グローバル連携／グループ内連携／多様な専門家との協働／会社の雰囲気

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

Q.現在の仕事内容について教えてください。

A. 国や地方自治体、大学等の機関に対し、地方創生や起業家育成、条約対応といった業務に携わっています。昨年は海岸の活性化による地方創生に取り組み、従来の海水浴メインの在り方を見直し、企業等と連携したビーチパークの創出などを検討しました。また、大学の経営改善に向けた学生確保施策を提案したり、起業家の方々の事業拡大のために共にニューヨークに行き、現地での活動をサポートしたりしました。このように、パブリックセクターの仕事は非常に幅広いという特徴があります。
ほかにも、他部門との連携が多いことも特徴といえます。起業家育成ならDTVS(デロイト トーマツ ベンチャーサポート)と、まちづくりならDTFA（デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー）、地方創生はDTC（デロイト トーマツ コンサルティング）と一緒に動いています。また海外調査等においては、現地のデロイトメンバーファームと連携することもあります。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 様々なセクターの連携を促す立場での仕事ができると考えたからです。
私の前職は行政職員で、人材育成やダイバーシティの推進、待機児童対策などの業務を担当しました。その中で、社会の抱える課題を解決するためには、行政だけのリソースでは不十分ということを痛感しました。これからは、多様なセクターの協力が欠かせません。そのため、行政職員として働きながら、多様なセクターのことを理解するため、政治塾や経営大学院に通ったり、コミュニティファンドの立ち上げに参画したりしました。（その後、それらをつなげるポジションを担える仕事をと考え、公共系のアドバイザリーに取り組んでいたトーマツに入社しました。入社前のトーマツのイメージは、監査法人ということもあり「会計をする人の集まり」でしたが、実際には多様なバックグラウンドの人が、それぞれの強みを活かし、会計に限らず様々な領域でサービスを提供していました。トーマツ入社前に、行政職員出身の先輩を紹介してもらい、その方の高い視座や勤勉な姿勢にも刺激を受け入社を決めました。

Q.どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A. 当初から希望していた「さまざまなセクターをつなげて社会課題にアプローチする」ということに挑戦できているので、非常に強くやりがいを感じています。特に私たちのユニットのリーダーは、収益性だけを追求するのではなく、いかに社会に価値を提供するのかという点に強くコミットしています。その姿勢はユニットの文化となっており、働くスタッフのモチベーションにつながっています。
パブリックセクターで大変なことは、社会情勢によって毎年仕事の内容が変わるため、自分自身も変わり続け、学び続けないといけない点だと思います。

Q.社内の雰囲気について教えてください。

A. マイクロマネジメントはほとんどなく、自分がやりたい仕事に、やりたい方法でアプローチできます。また、役職や入社年度に関係なく、自由に意見を言い合える雰囲気があります。私自身も入社1年目から、自分が興味ある案件への提案を行うなど、自分の意志で取り組みたい仕事に近づくことができました。ただ、きっちりとした枠組みのなかで、指示を受けて働きたい方はやりづらいかもしれません。
パブリックセクターには、コンサルティングファーム出身者以外にも、行政、銀行、NGO、青年海外協力隊などでの経験者や、システム、建築、経営、会計等様々な専門家が在籍しており、刺激を受けることも多いですね。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 仕事として「つなげる」ということを、より追求していきたいです。行政は今後さらにリソースが少なくなっていきます。そこにビジネスの力、市民の力を使って新たな価値創出の仕組みを作っていきたいと考えています。それを実現させるには、多様な業界での専門的な知見や、国内外のネットワーク等が求められます。トーマツは全国に根差したサービス提供をしながら、グローバルでも知見や事例を共有しており、充実した体制でサポートしてくれています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

すべての経験が線になってつながる仕事

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
コンシューマー・マニュファクチャリング・TMT　パートナー〈2004年12月入社〉
ガバナンス領域／海外勤務／グローバル連携／キャリアパス／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

Q.コンシューマー・マニュファクチャリング・TMTの仕事内容について教えてください。

A. コンシューマー・マニュファクチャリング・TMTは、「コンシューマー・マニュファクチュアリング/テクノロジー・メディア・通信」に特化したインダストリー事業部のユニットで、私は主にグローバル企業の海外拠点における管理体制や内部統制など、ガバナンス領域の強化支援を担当しています。
海外、とくに新興国における子会社では、日本との文化の違いやコミュニケーションの問題から業務がうまく回らないことがあります。
そうした際にお客様の海外子会社に対して、私たちがチームを組み、ルール決めやモニタリングをできる仕組み作りのお手伝いをすることで、業務が滞りなく進むようにサポートしています。経済成長によって海外拠点の重要性が増す一方で、オペレーションが追いついていないという悩みを抱えている企業は少なくありません。
ですから、私たちのようなアドバイザリーの仕事は、今後も伸びていく分野だと感じています。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 私はトーマツに入社後、大阪で会計監査、東京でM&Aのアドバイザリー、1年半の証券会社出向、4年間のインドネシア・ジャカルタ事務所駐在を経験したあと、さまざまな経験や人とのネットワークを活かした仕事をしたいと思い、今のユニットへの希望をだしました。
トーマツでは基本的に本人の希望が最大限に尊重されます。私のようにさまざまな場所で多様な経験を積みたいと思えばそれも可能ですし、仕事をしながら英語の勉強をするのに限界を感じて、1か月間の休みをもらい、語学留学に行ったこともあります。
もちろん反対に1つの場所で、専門性を高めたいという働き方も可能です。こうした本人の希望を尊重する働き方は、まさにトーマツにいたからこそできたことだと思います。トーマツは組織がフラットで、年齢やポジションにかかわらず意見を言い合える風土がありますし、取り組んでみたい仕事や、目標にしていることを言えば、それをサポートしてくれる制度も、実行できる規模もあります。こうした点がトーマツの魅力ではないでしょうか。

Q.トーマツに入社して、成長できたと感じている点を教えてください。

A. 今のユニットでは、これまでトーマツで身につけたすべての経験が活かされていますが、なかでもジャカルタで文化の違う人たちと一緒に仕事したことは、非常に役立っています。日本であれば、仕事が終わるまで遅くまで働く人も珍しくありませんが、海外では時間がくれば帰るのが当たり前という人もいます。ただ、日本のやり方を押しつけるのではなく、その国の文化を理解して、現場で働く人の顔を見た上で仕事を進めないと、何事もうまくいきません。
そうした肌感覚を持てたことが今の仕事につながっています。また、海外で業務を進めるにあたっては、デロイトのネットワークが必要不可欠です。
海外のトーマツで働くことでネットワークができ、信頼できる人間関係が築けたことは今の仕事で大きな助けになっています。

Q.どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A.「財務報告及び関連する内部統制等を第三者の立場から見る」監査と比べ、リスクアドバイザリーは「クライアントの立場に立ちながら、外部のプロフェッショナルとしてアドバイスを行う」側面が大きいと言えます。自分たちだけでは解決できない課題だからこそ、お客様は私たちに価値を見いだし、依頼してくださっているわけですから、そこでしっかりと成果をだし、海外の拠点がしっかりと動き出すことは大きなやりがいのひとつです。
一方で、非常にハードルの高い課題を任されますから、当然、簡単なプロジェクトはひとつもありません。お客様や国内のチームはもちろん、海外ともしっかり連携していかなければいけませんし、常に専門家として知識をアップデートしていく必要があります。だからこそ、お客様から感謝の言葉をかけていただいたときは、本当に嬉しいものです。 今はアジア中心の仕事が多いのですが、今後は欧米も含めてお客様をサポートしていきたいですね。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

お客様の目線に立って、未来を想像する仕事

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
オートモーティブ　マネージングディレクター　〈2021年6月入社〉
大手自動車メーカー出身
自動車業界／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

Q.オートモーティブでの仕事内容について教えてください。

A. もともとオートモーティブユニットはコンシューマーユニット（製造業に専門性を持つチーム）の一部でしたが、自動車業界向けのビジネス拡大が期待されることから、独立してユニットとして動きだしたばかりのチームになります。そのため、現在は主に組織の基盤作りに注力し、人材を増やしながら、どのようにビジネスを展開していくのか、戦略を立てている段階です。リスクアドバイザリーの仕事で最も難しいのは、リスクの重要性をお客様に気づいていただくこと。お客様は日々の業務や目の前の課題への対応に追われていることも多く、将来、予想されるリスクについて説明してもなかなか心に響きません。そこで、リスクテイクによって、結果的に戦略がよりスムーズに実行できることを丁寧に説明し、リスクを放置することの危険性を認識していただくように気をつけています。

Q.デロイト トーマツ グループを選んだ理由を教えてください。

A. 前職は大手自動車メーカーに17年間在籍していました。新卒で入社してから一貫してサプライチェーンマネジメントやマニュファクチャリング領域などに関わり、情報システム部門を代表して、海外に駐在した経験もあります。そうしたなか、デロイト トーマツ グループのリスクアドバイザリービジネスがオートモーティブユニットを立ち上げると聞き、転職を決意しました。前職でのキャリアには恵まれていましたが、新しい組織を牽引していく仕事であること、これまでの経験を活かして自動車業界に外部の立場から貢献できる点に大きな魅力を感じました。

Q.デロイト トーマツ グループで働くことの魅力はどんなところですか？

A. いわゆるビッグ4と呼ばれる大手ファームを見ても、自動車業界に対するコンサルティングやファイナンシャルアドバイザリーなど、さまざまなプロジェクトが動いています。そのうえでトーマツのリスクアドバイザリーは、デロイト トーマツ グループのソリューションを組み合わせて支援することで、お客様のさまざまな部門を横断しながら課題を把握し、トータルで最適なサービスを提供することができます。また、私自身もグループに所属するたくさんのプロフェッショナルと会話することで、さまざまな知識を身につけることができ、成長を感じています。コンサルティングやアドバイザリー業務はハードワークというイメージがありましたが、トーマツではスタッフ、マネジャー、シニアマネジャーそれぞれが互いの意思決定を尊重し、権限委譲がしっかりとされており、効率的な働き方ができていると感じます。スピード感のあるサービス提供ができるのも、こうした組織体制だからこそだと思いますし、社内でしっかりと信頼関係ができているのは素晴らしいですね。

Q.今後の目標を教えてください。

A. まずは自動車メーカーやサプライヤーの目線に立って、日々の運用のなかできちんと使っていただけるツールや仕組みを提供することが目標です。一方で、リスクは常に変わりますから、将来にも備えなければいけません。たとえばこの先数年で考えても、自動車業界には大きく「サイバーセキュリティー」「デジタルトランスフォーメーション（DX）」「サードパーティーリスクマネジメント」「サステナビリティ」の分野でリスクが想定されるため、この4領域でサービスを提供していきたいと考えています。さらに中長期的には日本のみならず、国内メーカーやサプライヤーが進出しているアジアパシフィック地域全体を我々がサポートするための環境を整えたいですね。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A. リスクアドバイザリーは「未来を想像する」仕事です。担当する業界の10年後、20年後、30年後をどのようにイメージができるか。将来をイメージしてシミュレーションできる能力が、リスクアドバイザーとして重要な素養だと思います。中長期的な視点が明確でなければ、お客様から話を引き出せません。お客様との会話を発展させながら課題にフォーカスできる人が、リスクアドバイザーに向いていると思います。特にオートモーティブユニットでは、デジタルに特化した人材を強く求めています。これまでデジタルソリューションを使ってビジネスのプロセスを変えてきたような経験を持つ方には、幅広く活躍していただけるはずです。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

仕事と育児を両立するプロフェッショナルを目指して

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
GRC／ストラテジックリスク　マネジャー　〈2017年2月入社〉
外資系総合コンサルファーム出身
グローバルガバナンス領域担当／グループ内連携／多様な専門家との協働／女性活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

Q.ストラテジックリスクの仕事内容について教えてください。

A. ストラテジックリスクユニットでは、「経営層が健全にリスクテイクできる経営管理の構築」をミッションとしています。
中長期リスク、新規事業・M&Aなどに関わる事業/投資リスク、ポートフォリオリスク等の分析や、パフォーマンス・リスクの統合的マネジメント、戦略を実現するためのガバナンス、また事業継続を揺るがすクライシスの平時・有事対応など、重要経営課題に正面から向き合い、多岐にわたるサービスを提供しています。
その中で私はグローバルガバナンス領域を主に担当しており、多くの日系グローバル企業が抱える「海外事業・拠点のガバナンス」に関する課題に対してグローバルガバナンスポリシーの策定や本社の経営陣・事業部・コーポレートと海外拠点の双方への落とし込み、地域・事業・拠点に固有のリスク分析や内部監査サポートといった目の届きづらい海外拠点へのモニタリングを中心に行っています。
海外子会社の社員の方や、その地域のデロイトのメンバーと協業する機会も多く、英語を含めたコミュニケーション力が鍛えられることも、その仕事内容とあわせてやりがいのひとつになっています。
以前はリスクへの対応は必要だと思われるけれども、本当に必要かどうかわからないものという意識を持つ企業も少なくありませんでした。しかし、近年は私たちがサービスを提供するなかで、リスクを可視化して日頃から対応していくことがいかに重要か、理解をいただいています。加えて、新型コロナウイルスの影響もあり、さまざまなリスクに対して企業の意識は大きく変化しつつあると感じています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 前職では、外資系総合コンサルティングファームでITコンサルタントとして働いていました。転職のきっかけは仕事を続けるうちに、ITという枠にとらわれず、より経営層に近い立場でクライアントの発展を支援したいと考えたことです。
トーマツを選んだのは、転職活動中にリスクアドバイザリーという仕事を知り、課題だけでなくリスクに対しても、中長期的な視点から支援する点に面白味を感じたこと。ほかのプロフェッショナルファームと比べてもリスクアドバイザリーをコアな業務としていることが理由です。現在の業務では常に経営層と同じ目線、会社全体に対する視野の広さが必要になりますが、それが難しさと同時にやりがいにもなっています。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 一人で担うには大きな重責のある仕事ですが、デロイト トーマツ グループには想像していた以上にさまざまな分野の専門家が集まっています。多くのプロフェッショナルがクロスファンクションでサービスを提供していくことで、難しいプロジェクトも一丸となって乗り越えることができますし、その一翼を担えていることも大きな魅力です。また、トーマツにはFWP（フレキシブルワーキングプログラム）という制度があります。私も最近、育児休暇から復職し、現在はこの制度を適用して在宅勤務中心に働いていますが、チームメンバーが育児と仕事の両立を当然のこととして

サポートしてくれているので大いに助けられています。
前の職場では産後に復職した方は社内の仕事が多くなりがちでしたが、トーマツではそうした制限も一切なく、引き続きクライアントへのサービス提供を行えており、キャリア形成の上でも働きやすい環境です。育児休暇から復職した際に、お客様からまた一緒にやりましょうと声をかけていただいたことも嬉しかったですね。

Q.今後の目標を教えてください。

A. トーマツのリスクアドバイザリーは、社会情勢やクライアントのニーズに応じて常に柔軟に変化していく集団であると感じています。プロジェクト毎にまったく違う仕事をしている気持ちになるほど扱うテーマが変わり、情報や知識のキャッチアップに難しさを感じることもありますが、知らないことはすぐに社内の専門家に教えてもらえる環境が整っているので、今後もクライアントの課題に対してしっかりとしたサービスを提供していくことが仕事の上での目標です。

もうひとつの目標は、後輩たちのロールモデルになっていくこと。管理職のなかにも子育てをしながらキャリアアップされている先輩がいらっしゃいますが、社内全体でワーキングマザーが増えてきている今、私もFWPの制度も活用しながら対クライアントの仕事を続けていきたいですね。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

100か0ではなく、働き方の選択肢がいくつもある

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
GRC／オペレーショナルリスク　マネジャー　〈2007年9月入社〉
独立系SI企業出身
内部監査・内部統制／異業種からの転職／育児との両立／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.GRCの仕事内容について教えてください。

A. FO（フロントオフィス）職としてGRCに所属し、不動産業界のお客様を担当しています。業務内容は大きく分けて2つあり、1つ目が個人情報やマイナンバー、情報セキュリティに関する管理体制の構築や内部監査の支援。2つ目が内部統制報告制度（J-SOX）のサポートです。
前者は、経済産業省が公表する情報セキュリティ関連の基準や個人情報保護委員会が公表するガイドラインに従い、社内のルールを作成するところから、実践、内部監査、是正措置等の支援を行っています。
また、後者では、お客様の実態に合わせて経営者評価業務をサポートしています。
トーマツの業務は会計監査が主軸となっていますが、デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社は会計以外の部分でも、お客様と一緒により良い方法を考えていくところが醍醐味でもあり、難しいところでもあります。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 以前は独立系のSI企業で金融機関のシステム構築やセキュリティ設計をしていました。
ですから、入社前はこれまでとまったく違う業界・業務に自分が対応できるのか不安もありましたが、それ以上に幅広い業務や知識に触れられる点に魅力を感じたのが、トーマツを選んだ理由です。
偶然ですが、前職の頃に簿記や財務諸表論、財政論などを勉強し、システム監査の資格も取っていたことが入社後は非常に役立っていますし、入社後は充実したトーマツの研修プログラムを活用しながら、業務に必要な知識を身につけていくことができました。

Q.子育てと仕事をどのように両立させているのか教えてください。

A. 私には2歳になる息子がいるのですが、現在はFWP制度（フレキシブル・ワーキング・プログラム）を利用しています。これはライフステージに応じて休職や業務量軽減、業務時間軽減などを申請できる制度で、私は業務軽減を選択して、クライアントに伺わなければいけない案件を減らし、急ぎではない社内業務を増やしてもらっています。
また、子どもがまだ小さく、急な病気などでお休みすることもあるので、プロジェクトを担当する際は、なるべくバックアップを受けられるような体制を組んでいただいています。子どもが小さいうちは、仕事の第一線から外れて働く方も少なくないと思うのですが、その場合、キャリアが一時的にストップしてしまうことにもなります。私は、出産後も仕事内容は変えずに、業務量や時間で調整して、「細く長く」キャリアを構築したいと考えていたので、今の働き方は理想的ですね。
それにトーマツでは子育てに関する制度は女性に限らず男性も利用しやすく、遠慮しなければならない雰囲気はまったくありませんから、安心して今の働き方を続けることができています。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 今、介護が必要な家族がいるのですが、今後のことを考えると公的なサポートや会社の制度も利用しながら、子育てと介護、そして仕事も続けることが理想です。
トーマツは会社としてはもちろん、上長の方も、一人一人のライフステージに合わせて成長することを期待してくれているので、業務量や内容を相談すると、チャレンジも、セーブもさせてもらえる風土があります。

100か0かではなく、場合によっては60でいいという働き方ができる制度があるのは、子育てや介護を考える上で、大きな安心感につながります。
仕事に子育てに介護と、すべてをこなすのは大変ですが、同時にそれぞれが良い意味での気分転換にもなります。
今、トーマツにも子育てをしながら働いている女性もたくさんいますし、今は別の会社で働いているけれど、子育てや介護をしながら、トーマツで働いてみたいという女性もたくさんいらっしゃると思います。
私が実践することで、トーマツならこういう働き方ができるということを知っていただけたら、嬉しいですね。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

広い視野と人間性を身につけられる仕事

有限責任監査法人トーマツ（デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社 出向）
IT／アシュアランス　シニアコンサルタント　〈2014年4月入社〉
損害保険会社出身
異業種からの転職／人材育成

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.アシュアランスの仕事内容について教えてください。

A. 主に財務諸表を作成するシステム及び内部統制を調査評価し、システム面から会計監査をサポートする仕事です。自動計算などがルールに則ったものか、システムが正しく構築、運用される仕組みとなっているかなどを評価します。
システムはサイバーセキュリティやクラウドなどのシステムへの脅威の高まりや最新技術の導入によって日々進化しているため、監査とシステム両方の知識が必要になります。
さらに海外に上場しているお客様の場合は、現地の基準で監査する必要があるので、海外のデロイトメンバーと情報共有しながらフィードバックしてもらうなど、海外との連携も少なくありません。

Q.この職種を選んだ理由を教えてください。

A. 以前は国内の損害保険会社の情報システム部に勤めていたのですが、そこで「監査」という言葉を耳にする機会が多く、興味を持ったのが最初のきっかけです。
その後、社内システムを担当するうちに、他の会社のシステムを知りたいと思ったことや、広い世界でいろいろな人と触れ合うことで、自分の人間性を高められる仕事をしたいと思うようになり、この仕事を選びました。トーマツはデロイト トーマツ グループならではのグローバルな視点に長けている印象があったので、広い世界でたくさんの人とコミュニケーションをとり、視野を広げたいと願っていた私にとって非常に魅力的でした。

Q.入社前に不安に感じることはありましたか？

A. 私自身、監査する側の経験はなかったので、業務についていけるかがとても不安でした。
ただ、社内の研修が充実していて、集合研修やe-learningによる自己学習など、意欲さえあれば知識を身につけられる環境は整っています。
それに転職者も多いので、入社年次は関係なくサポートしあう雰囲気ができあがっているように感じます。
監査法人という言葉から、どうしても「固い」イメージを持っていましたが、そうした人の温かさは、良い意味で意外でした。
そしてなによりトーマツには様々なバックグラウンドと豊富な経験を持っている人が大勢いるので、そうした人たちと一緒に仕事をできることが刺激的ですね。

Q.仕事において難しいのはどのような点ですか？

A. 監査法人という立場上、指摘しなければいけない機会があり、クライアントへの伝え方が難しいと悩むときがあります。
信頼できる人が言わなければ、クライアントも受け入れがたいものがあると思います。
信頼されるためには、知識・スキル・経験があるのが前提。
そして言っていることと、やっていることが矛盾しないように首尾一貫していないといけません。
私の入社の動機が自分の人間性を高めたい、コミュニケーション力を高めたいというものでしたが、今後もシステムや監査など、幅広い知識を吸収して、信頼される人間になるということが、この仕事には必要不可欠だと思います。

Q.今後の目標を教えてください。

A. お客様から「トーマツさんなら知っていると思いますが…」「さすがトーマツさんだね」と言われることが多く、大きな看板を背負っていることを自覚する場面が少なくありません。
お客様から求められる水準が高いなかでも、「この人に相談したい」「この人の言っていることなら間違いない」と言ってもらえるような人になることが目標ですね。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

クライアントの戦略的なデータ活用をサポートする

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
IT／デロイトアナリティクス　マネジャー　〈2015年10月入社〉
異業種からの転職／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

Q.デロイトアナリティクスの仕事内容について教えてください。

A. デロイトアナリティクスは、企業活動に伴う様々な領域でアナリティクスを活用したサービスを提供し、また独自に有するR&D部門で最先端技術や新しい分析手法の研究開発を行うことで、データ分析における専門的な知見と技術を集約した組織として、デロイト トーマツ グループのアナリティクスサービスをリードしています。

昨今、ビジネス環境が急激に変化し、テクノロジーの浸透が進む中、企業のデジタルトランスフォーメーションへの取り組みは避けられない重要な経営課題となっており、その中核となるのが経営判断への戦略的なデータ活用と言われています。その背景の中、我々はデータ収集、分析モデルの開発・選択、分析実行、分析基盤設計・提供、分析人材育成、データや分析モデルのガバナンス整備などの幅広い領域をカバーしており、クライアントの戦略的なデータ活用に資するサービスを提供しています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 前職はフィナンシャルエンジニアとして、金融機関向けにリスク管理システムの構築やデリバティブの数値検証業務などを行っていました。ちょうど転職を考えていた当時、AIやビッグデータがバズワードになっていたことや、大学院まで統計学を専攻していたということもあり、それまで培ったITスキルと、学生時代に学んだ統計学の両方をいかせるのではと考え、データ分析コンサルタント職に興味をもちました。そうしたなか、デロイトという高い知名度に加え、数あるプロフェッショナルファームのなかでもいち早くアナリティクスのユニットを立ち上げていたことから、デロイトアナリティクスを選びました。データ分析業務のプロセスはシステム開発のプロセスとも似ている部分もあり、ITスキルの面では前職の経験が現在の業務にも活かせていると思います。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. クライアントに対して最適なサービスを提供するために社内の他ユニットや、グループ会社のデロイト トーマツ コンサルティング、グローバルのデロイトメンバーファームと協業するケースも多く、ファンクションの垣根なくチーム構築できるところに、デロイト トーマツならではの総合力を感じます。
また、クライアントのビジネスを理解しながら、課題に対して最適なソリューションを提供するため、アドバイザリー及びアナリティクスの両面において高いレベルが求められる大変さもありますが、同時に大きなやりがいを感じています。

Q.今後の目標を教えてください。

A. データ分析をコアとして、クライアントとともに企業を変革し、前進させることが我々データ分析コンサルタントの使命です。様々なプロジェクトを通して深いビジネス知識と最先端のテクノロジー、そしてデータ分析のスキルを駆使して、社会に還元していきたいと考えています。
また、今年度よりマネジャーとしてチームを率いる立場にもなりましたので、更なる組織拡大のために、人材育成や新規のサービス開発にも力を入れていきたいと考えています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

お客様の成長に立ち会えるのが仕事の醍醐味

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
アカウンティング&ファイナンス／ファイナンシャルマネジメントアドバイザリー
マネジャー　〈2016年9月入社〉
一般企業出身
投資マネジメントプロセスに関するアドバイザリー業務／M&A／公認会計士／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.ファイナンシャルマネジメントアドバイザリーの仕事内容について教えてください。

A. 会計及び財務領域の専門家としてM&Aをはじめとした投資マネジメントプロセスに関するアドバイザリーサービスを提供する仕事で、具体的には、M＆A等の対象となる会社の財務デューデリジェンス業務や、バリュエーションと呼ばれる企業価値評価業務、無形資産評価業務、M＆Aにおける財務・会計助言などを行っています。
また、投資マネジメントの前工程として投資基準の策定や投資リスクの定量化業務、投資マネジメントの後工程として経理のPMI業務や子会社管理体制強化の支援といった、M&A前後の工程にも業務を拡大しています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 前職は一般企業の経理部でグループ全体の財務数値や開示資料を作成する業務を行っていました。
その会社がM＆Aに積極的な会社であったことが、この仕事に興味を持ったきっかけです。
前職では経理部に所属していたため、主にM&A後に発生する業務が中心でしたが、M＆Aという最も重要な経営手法に、上流の部分からサービス提供できるところで、もっと広く深く関わりたいと思う気持ちがありました。
転職に際しては、M＆Aに軸足を置きながらも、顧客のニーズに合わせて幅広くサービスを提供できる組織であることをまず重視しました。
2点目に重視したのが、クロスボーダーの案件にも積極的に関与できる組織である点で、その両方を兼ね備えているという理由からトーマツを選びました。

Q.トーマツで働くことの魅力を教えてください。

A. トーマツのファイナンシャルマネジメントアドバイザリーは、特定の業務に対して特定の人のみが担当するのではなく、ひとりの人間が様々な業務に関与できる環境にあります。
もちろん、それぞれの業務で必要なスキルを身につけるのは大変ですが、一方で、様々な業務に関与することで、多角的に捉える視野の広さを養えるというメリットがあります。
また、財務デューデリジェンス業務を提供し、M＆Aが成功した後は無形資産の評価やM&Aの対象となった会社に対する管理体制強化の支援を行うといった具合に、お客様のニーズに合わせて継続的に一貫したサービスを提供できるところがトーマツの強みであり、トーマツで働くことの魅力ですね。

Q.どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A. 以前、投資会社の設立から、投資基準の策定、財務デューデリジェンス業務まで幅広くサポートさせていただく機会があり、お客様の会社がどんどん軌道に乗っていく瞬間に関与することができました。お客様の成長に立ち会えるのは本当にやりがいを感じますし、反面、お客様が抱える重要な課題に関与するため大きな責任を伴う仕事であり、常にプロ意識を持って仕事に取り組んでいます。

Q.トーマツに入社して、成長できたと感じている点を教えてください。

A. 私は公認会計士としての専門知識に加え、一般企業で実務的な側面を経験したため、今までに培った専門知識と経験を生かして、お客様の立場と課題を理解したうえで、対応案を提案し、実際にサービス提供できた際に成長できたと感じます。
トーマツに入社してからは、多様なサービスに関与できているため、自分の専門知識と経験値がさらに増えてきたと感じます。
これは、幅広いサービスラインを持っているトーマツに入ったからこそだと思います。新しいお客様と出会うたびに新たな課題にぶつかり、それをプロジェクトメンバーとともに解決していく経験を積み重ねることで、成長していると実感します。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

大きな責任が伴う仕事。だからこそ、大きなやりがいがある

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
中京リスクアドバイザリー　マネジャー　〈2015年8月入社〉
金融系システムコンサルタント出身
中京エリア／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.中京リスクアドバイザリーの仕事内容について教えてください。

私は愛知県に拠点を置く大手製造業様に対して、中期経営計画の策定を支援するシステムを導入するプロジェクトにコンサルタントとして参画しています。このプロジェクトには私たちのようなITアドバイザリーやインダストリーに知見を持つチームに所属しているメンバー、大阪や東京に在籍しているメンバー等も参画しています。
現在、クライアントの中期経営計画は担当者の主観や経験、勘に頼っている部分も多く、根拠となるデータも膨大なエクセルファイルで管理されているため、作成に大きな労力がかかっていることに加え、データをうまく活用できていないという課題があります。
そこでデータやAIを上手に活用し、より効率的に、より精度の高い計画を作るためのシステムの開発・導入をサポートするのが私たちのミッションです。これまで仕組み化されていなかったものをシステム化しようとするのは非常に困難ですし、トーマツとしても、そしておそらくグローバルで見ても、あまり前例のないプロジェクトであり大きな責任を伴いますが、大きなやりがいも感じています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 前職は東京で8年間、金融系のシステムコンサルタントとして働いていましたが、子どもが生まれたのをきっかけに名古屋に引っ越すことになり、転職を決意しました。これまで主にシステムの上流工程に携わっていたため、当初はシステムのコンサルティングや、事業会社のシステム部門の企画をやりたいと考えていました。しかし、そうした業務は東京で担っているケースが多いのが実情です。そうしたなか、名古屋に拠点を置き、中京のお客様に対してしっかりとサービスを提供している点、なおかつレベルの高い業務を行える点がトーマツに入社した決め手です。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 幅広く、かつ高い専門性を持っている人材がそろっているのが、トーマツの強みです。たとえば前職では、システムについては高い専門知識を持った方が多くいましたが、一方で狭い範囲に特化したものでした。しかしトーマツでは、経営層の方や、営業の方、事業計画の方など、非常に幅広い方と話をする機会があるため、私自身もさまざまな知識を身につける必要があります。トーマツで経験を積むことで、どのようなポジション、業務の方とも円滑にコミュニケーションがとれるようになりましたし、それに対するソリューションを考えられるようになりました。そして、自分がわからないことも、名古屋のメンバーをはじめ、大阪や東京、グローバルなどトーマツのネットワークで探せば、必ず専門家が見つかり、協力してもらうことができる。こうした点がトーマツで働くことの魅力だと思います。

Q.今後の目標を教えてください。

A. まずは現在のプロジェクトを成功に導くことがいちばんの目標です。難易度の高い仕事をできること、その結果、お客様から評価して頂けることは大きなやりがいです。長期的な目標では、AIなど新しい技術を理解、活用しながら、お客様のビジネスに寄り添ったソリューションを提案できるアドバイザリーでありたいと思っています。また、今回のような大規模プロジェクトになると、関わる人の数も多くなるため、人材が何より重要です。ITに関する専門家は国内全体で不足している状況ですから、トーマツ内での人材育成にも力を注いでいきたいですね。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

会社と人が成長し続けるための仕組みを作る

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
中京リスクアドバイザリー　ディレクター　〈1999年10月入社〉
労務リスクマネジメントアドバイザリー／中京エリア／グループ内連携／多様な専門家との協働

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.中京リスクアドバイザリーでの現在の仕事内容について教えてください。

A. 愛知、岐阜、三重、静岡などに拠点を置くお客様に向け、主に組織の再編、M＆A、働き方改革、間接業務改革など組織改革や労務リスクマネジメントに関するアドバイザリー業務を行っています。
お客様のニーズは時代や社内の体制によって変わりますが、最終的なゴールは、持続的に会社を成長させていくことにあります。
そのために部署やグループ会社など、組織の形や仕組みを変え、働く人の行動を改革していくことで、より働きやすい職場にしていくことが、どのようなプロジェクトにも共通するテーマになります。
アウトプットとしては、グループ会社を含めた現状の実態把握から始まり、コストも含めた現実的な落としどころを提案してほしいと要望されることが多いですね。
自動車やインフラ関連など、製造業のお客様が多いのがこのエリアの特徴で、大手のお客様の場合は、デロイト トーマツ コンサルティング（DTC）、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー（DTFA）、デロイト トーマツ税理士法人やDT弁護士法人など、デロイトのグループ法人と一緒にプロジェクトにあたることもよくあります。

Q.この仕事のやりがいと難しさを教えてください。

A. この仕事に就いて20年ほど経ちましたが、若いころに一緒に仕事をした方が、今は社長や部長として活躍されている姿を見られることは非常に嬉しいことです。
一方で、私たちの仕事によって、リストラの対象になったり、職位が下がったりと、厳しい局面に立たされる方もいらっしゃいますので、その瞬間だけを捉えるとすべての人に感謝される仕事だとは思っていません。
ただし、一旦は厳しい局面に立たされた方が、新たな環境や職場でリスタートされ、活躍なさっていると耳にすることもありますので、仕事のやりがいは、長い目で見て判断することが重要かなと思います。
第三者として経営者が言いにくいことを伝える必要もあります。ただ、最大限雇用を守り、持続的に成長できる会社になることが大事だと考えていますので、そうしたなかで一緒に仕事をさせていただいた方が重要な職責を担われ、会社が成長していると思うと、良かったなと感じます。
また、この20年でさまざまなことを経験するうちに、「大川に任せる」と言ってくださる方もいて、個人的な成長を実感しています。

難しい点は、この仕事は若いときから経営層の方と接する機会が多く、こちらもいろいろな経験を積み、研鑽を続けなければいけない点です。
しかも、一番努力をしなくてはいけない時期が、ちょうど20代、30代という男女ともにライフイベントが多い時期と重なりますので、私自身仕事と生活のバランスをとるのが難しかった思いがあります。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 私はトーマツ以外で働いた経験が少ないので、ほかの会社と比較することはできませんが、真面目で誠実な方が多く、人間的に信頼できる人が多いことは今も昔も変わりません。
また、地方では監査はできても、大手のお客様にアドバイザリーまでできる会社はそれほどありません。監査とリスクアドバイザリーが連携し、国内はもちろん、デロイトのグローバルネットワークで得た人材や情報をフル活用しながら、お客様にワンストップなサービスを提供できるところがトーマツで働く魅力の1つだと感じます。

Q.今後の目標を教えてください。

A. ビジネスのグローバル化同様、今後は労務や人事においても、よりグローバリズムが進んでいくでしょう。違う価値観・文化を持った人たちを活用し、どうマネジメントしていくか。今まで以上にお客様からそういった課題が出てくると思いますので、我々は常に一歩、二歩先を見据えて、会社が持続的に成長するためにどうすればいいかを提案し続ける必要があります。
トーマツでは現在、労務リスクマネジメントを名古屋や大阪を中心に展開していますが、これを国内に広げ、ゆくゆくはグローバルに展開していけるようにしたいですね。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

ワークライフバランスを保ちながら自己成長を実現できる

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
西日本リスクアドバイザリー　コンサルタント　〈2020年9月入社〉
システム監査／西日本エリア／成長実感／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容について教えてください

A. 私が担当している主な業務は、システム監査です。
具体的には、財務数値が作成される過程で使用されているシステムが正しく動いているか評価する業務です。
また、監査におけるアナリティクス業務も担当しています。クライアントの売上、在庫、仕入などあらゆる膨大なデータの中に不正なデータがないか、BIツールを使って会計士と一緒に分析する業務です。
西日本リスクアドバイザリーの管轄である広島県以西にある上場企業や大企業を中心に対応しています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてくださぃ

A. 前職はシステムエンジニアとして、システム開発・保守、BIツールやAIツールなどのプリセールス・導入を行っておりました。これまでのシステム開発に関する知識や経験が、システム監査の中で活かせると分かり、監査の道に進もうと考えましたが、いくつかある監査法人の中でトーマツを選んだ理由は、トーマツがBIやAIなどのアナリティクス分野に特に力を入れていると分かったためです。
精度の高い監査を短期間で効率的に実施するには、やはりBIツールやAIツールを有効活用することが必要だと個人的にも思っていましたし、前職での知見を更に活用できると思いました。
とはいえ、さすがにすぐにはBIツールなど使うことはないだろうと正直思っていましたが、実際に入社して数日でTableau（BIツール）を使った業務を担当することになり、驚きと同時に即戦力になれた気がして嬉しかったのを覚えています。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 一つ目は、マイペースに仕事ができるところです。複数のクライアントの業務を平行して対応するため、一つの業務に付きっ切りで対応するということはほとんどありません。そのため、一つの業務を細かな期日に迫られて対応するというよりは、自分でスケジュールを立てて複数のタスクを平行でこなしていくイメージに近いと思いますので、自分なりにコントロールしながら仕事ができると思います。また、往査でクライアント先に出向くこともありますが、在宅で作業を行う日もあり、また閑散期には長期の有給休暇も取得できますし、育児休暇の取得も推奨（もちろん男性も！）されていますので、仕事とプライベートの両方を充実させることができると思います。

二つ目は、自分が興味がある分野の知識、知見を伸ばすことができるところです。トーマツは監査業務だけでなく、コンサルに近いアドバイザリー業務も行っているので、多くの、また幅広い業務があります。併せて、E-Learningなどの研修も豊富にあります。気になる研修を自由に受講できますし、実際にそのような業務にアサインしてもらうこともできるので、業務の中で経験しながら身につけることができます。

Q.トーマツ入社して、成長できたと感じている点を教えてください

A. スケジュール管理、タスク管理が上手になったと思います。複数のクライアントの業務を平行して対応する必要があり、また突発的な作業ももちろん発生するので、先を見越して、プライオリティをつけて、業務にあたることができるようになりました。
また、個人的なことではありますが、第一子が誕生したタイミングで1か月半の育児休暇を取得しました。チーム内のサポートも厚く、当たり前のように育児休暇を取得できるトーマツの環境が、父親としての成長にも繋がったと思っています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

プロジェクトのニーズに合わせて、お客様に価値を提供していく

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
西日本リスクアドバイザリー　コンサルタント　〈2021年1月入社〉
IT業界出身
DX推進支援アドバイザリー／西日本エリア／多様な働き方／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.現在の仕事内容について教えてください

A. 私は事業会社や地方公共団体のお客様へDX推進を支援するアドバイザリー（コンサルティング）業務に従事しています。お客様の情報システム化構想策定やシステム調達の助言（RFP作成やベンダー選定の助言）、システム導入のPMO支援等、お客様の情報戦略策定から実行まで攻守にともに広くサービスを提供しています。また、その営業・提案活動にも携わらせていただいております。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 人と情報、そして多様な働き方ができる点です。
トーマツには様々なスキル・経験を有した人が在席しており、多くの専門性がデロイトのネットワーク内に存在し共有できる環境にあります。そのような方々と働けることが日々勉強になっていますし、お客様からの多様なニーズにも応えられる点が強みであり魅力です。また、職位や役割等に関わらず、発言を受け入れてもらえる風土ですので、入社間もない方でも安心かつ積極的に働けることも魅力です。
トーマツでは基本的にはプロジェクト単位でチームを組み、仕事をします。
業界やテーマも様々で、希望するプロジェクトがあれば西日本エリア以外のお客様のプロジェクトへも手を挙げることができます。プロジェクトにアサインされるかはタイミングにもよりますが、コーチや上位職の方とは、面談等を通じて希望を伝え、意向を汲み取ってもらえる風土です。昨今はテレワークが中心で、必要に応じてお客様先へ訪問するなど効率的に働くことができます。このように多様なプロジェクトへバーチャルとリアルの両面で参画し働ける点も魅力です。
西日本リスクアドバイザリーでは、様々な業界やテーマ（システム監査、ITコンサルやセキュリティコンサル）のプロジェクトがあります。専門性を深めていきたい人にも、新しい分野にも挑戦しスキルの幅を広げていきたい人にもおすすめだと思います。

Q.このお仕事の難しさとやりがいを教えてください

A. トーマツでは、それぞれのプロジェクトのニーズに合わせて、お客様に価値を提供していくことが必要になります。ここが難しさでもあり、ご納得いただいたときのやりがいにもなります。
お客様はトーマツへは監査法人として経営（会計）視点でのアドバイザリーを提供して欲しいという期待値を持って仕事のご依頼をいただくことが多いです。例えば、情報システム化構想策定がテーマのプロジェクトであっても単に経営計画に沿った最適なソリューション導入を検討するだけではなく、経営や会計、ときには組織のあり方までを意識したアドバイザリーを求められます。この点も一般的なＩＴコンサルタントよりも難しいところかと思います。
私は前職までＩＴ業界でシステムを作るという経験しかありませんでしたが、月日と共に多くのことを学んでいける環境であり成長を実感できる点がトーマツで働くことの楽しさでもあります。

Q.今後の目標を教えてください

A. 私自身、まだまだ学んでいる身ではありますが、チームや他のリージョンから必要とされる専門性を身に付け、トーマツが向き合っている多くの社会アジェンダにも関与して幅広く知識・経験を積んでいきたいと思っています。
今後さらにデジタル化が進んでいく反面、デジタル人材の不足も課題となっています。日本では組織内部でデジタル人材を抱える割合が少なく、デジタル化に課題を抱えている企業、地方公共団体等が多いです。そのようなお客様を支援し成長のお手伝いをすることで少しでも社会の発展に貢献できるよう私自身も成長し続けていきたいと思います。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

新しい技術とビジネスの接点を作ることがミッション

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
RA新規事業推進　シニアマネジャー　〈2013年5月入社〉
広告代理店出身
新規事業推進／女性活躍／女性の働きやすさ

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.RA新規事業推進チームの仕事内容について教えてください。

A. 私はRA新規事業推進チームで、主に技術とビジネスの接点を作るという新しいオファリングサービスの開発に取り組んでいます。
また新規事業の開発と並行して、アナリティクス戦略やテクノロジー活用に関わるアドバイザリー業務、ブランディングやマーケティングに関する海外デロイトが提供するソリューションの日本導入なども行っています。
チームのミッションは、AI、IoT、ビッグデータ、Fintech、ブロックチェーンといった新しい技術を活用して、企業や社会のリスクを低減するソリューションを構築すること。業務が幅広いため、お客様も金融機関や保険会社、消費財メーカー、IT、旅行業界など非常に多岐にわたり、さまざまな課題に対して、サービスを提供するのが特徴です。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 新卒で広告代理店に入社し、その後、外資系化粧品会社に勤めていました。広告代理店では戦略プランニング部門のディレクターとして、ブランド戦略、新規事業戦略など、現在の業務のベースになるような仕事を、化粧品会社では、CRM統括として、顧客育成戦略や顧客データを活用したマーケティング計画立案に携わってきました。
トーマツに入社したのは、当時MBAのクラスメイトだったトーマツ勤務の友人に紹介いただいたのがきっかけです。カスタマーアナリティクスという、マーケティング領域のアナリティクスサービス立ち上げというチャレンジングな仕事に魅力を感じたことが1つ。
もうひとつがトーマツで働く人の専門性の高さや多様性、そして新しい取り組みに対して積極的な企業風土にも惹かれ、入社を決めました。

Q.どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A. 現在の業務は、正解が1つではないところが魅力でもあります。
課題解決に向けて、いくつもの選択肢を見つけ、お客様とチームが一丸となって最善の方法に取り組むことがこの仕事の醍醐味です。そしてその結果、お客様が新しい一歩を踏み出し、会社や事業を推進するお手伝いをできるのが、一番のやりがいであり、幸せを感じられる時ですね。

一方で難しいのは、私たちのサービスが企業の中長期的なビジネスに直結したり、社会にインパクトを与えることもある点です。
もちろんそれはやりがいでもあるのですが、当然責任も大きくなりますから、常に緊張感を持っています。

Q.トーマツでの女性の働き方について教えてください。

A. 企業によっては産休や育休を取りづらい雰囲気があると聞きますが、トーマツには（少なくとも私が所属する部署では）そのようなことは全くありません。
私も産休と1年間の育児休暇を取得しましたし、男性で育児休暇を取得する方もいます。転職の際に私自身、女性としての働き方について考える機会がありましたが、トーマツは女性だけでなく、外国籍の人も働きやすい環境になってきているなど、非常にダイバーシティ推進に積極的だと感じます。
今後はシニアマネジャーとして、メンバー全員の家庭と仕事のバランスをうまく取りながら、質の高い業務ができる環境を整えてゆくことに貢献できればと思います。
私はトーマツの企業内保育園を利用して、出社前に子どもを預け、17時半までに仕事を終わらせて、子どもを迎えにいくというスタイルで働いていますが、これが特別なことではなくなる環境となればよいと思っています。
プライベートが充実していれば人間力の幅も広がりますし、より柔軟性と弾力性を持って業務にあたれるはずですから。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

今、世界で起きていることを知りたい。その好奇心を満たせる仕事

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
リスク管理戦略センター　マネジャー　〈2017年10月入社〉
証券会社出身
計量経済／働く環境・魅力／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.リスク管理戦略センターの仕事内容について教えてください。

A. 私が所属するリスク管理戦略センターは、社会や経済、政治などを横断的に見ながら、将来起こりうるリスクにフォーカスし、お客様に「御社の事業環境にはこういったリスクが考えられる。」といった情報を提供するユニットです。お客様は金融機関が中心ですが、近年、トランプ大統領の言動による影響や、中国の情勢など、グローバル化が進むなかでお客様は常に世界経済におけるリスクを意識していることもあり、一般事業会社からの引き合いも増えてきています。チームのメンバーがそれぞれ、定量・定性の様々なアプローチでリスクを整理・分析していますが、その中で私は主に、リスクシナリオの下で金利やGDPといった事業に影響を及ぼす可能性のあるマクロ経済の数字がどうなるかを想定する業務に携わっています。
私たちがベースラインと呼んでいる、何もなければこういう世の中になっているだろうという標準的なシナリオに加え、悪いことが起きたときに想定しうる状況を具体的な数字でお見せして、金融機関のストレステストに使っていただいたりしています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

A. 大学を卒業後、証券会社のリサーチ部門や、新聞社の計量経済モデルを使った分析や予測をする部署などに勤務していました。
その後、一時期、計量経済の仕事から離れていたこともありましたが、やはり今までの経験をトータルでいかせるような仕事をと考えていたところ、出会ったのがトーマツでした。私にとって、この仕事に取り組む一番のモチベーションとなっているのは、「今、世界で本当に起きていることを知りたい」という強い思いです。
これは純粋な好奇心でもあるのですが、同時に、様々なビジネスを考える上でも重要だと思います。今、起きていることを正しく把握できれば、避けられるリスクやコンフリクトもあるはずですから。
トーマツであれば、好奇心を満たすと同時に、お客様のお役に立てるのではと考えたのが、入社の決め手でした。

Q.このお仕事の難しさとやりがいを教えてください。

A. 私たちは「フォワードルッキングな」情報を提供することを目指しています。
それは、リスクをどうやって「見える化」するか、つまり、今、起きてない、でもこの先起きるかもしれないリスクに根拠や具体性を持たせることです。当然ですが、私たちが作るリスクシナリオは空想であってはならず、こういう事象があれば、その影響はこれぐらいになるはずという根拠を伴った情報を提供しなければいけません。それが非常に面白いと同時に難しくもあります。
私が担当している業務は、将来のリスクを想定する判断材料の提供ですから、明確なゴールはありません。
そのため、お客様に提出するシナリオに具体性を持たせると同時に、日々変わっていく情勢のなかで、新しいリスクの芽が出てきたら、それをいち早くお伝えすることも非常に重視しています。

Q.トーマツに入社して、成長できたと感じている点を教えてください。

A. トーマツに入社してまず感じたのは、上下関係が非常にフラットで、効率的になるべくベストなものを出そうとしている社風であるということ。「働き方」が非常に洗練されていて、私もそれは見習わないといけないなと感じています。
業務では、私がこれまで扱っていたのは古くからある大型・ケインズ型の計量経済モデルが中心だったのですが、社内のプロジェクトでそれ以外のモデルについても勉強する機会があり、少しずつですが試行錯誤を重ねている途中です。
私の業務はお客様の今のビジネスに直結するサービスではないからこそ、数年後、あるいは数十年あとになって、あのときの想定は正しかった、あの情報が役立ったとお客様に感じてもらえるようなサービスを提供していきたいですね。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

クライアントのDX推進に向け、リスク起点でITプロジェクトを支援する

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
デジタルガバナンス　マネジャー　〈2016年10月入社〉
証券系シンクタンク出身
基幹システム構築／働く環境・魅力／Welcome back（再入社）

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

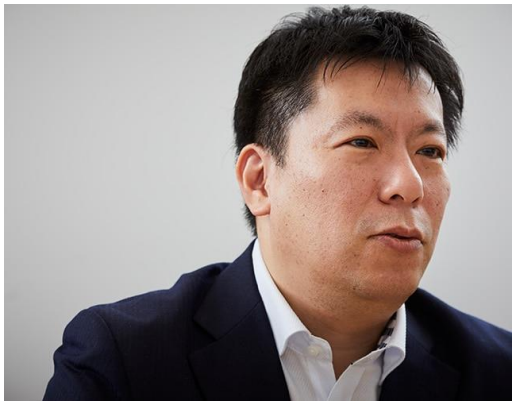
Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A.基幹システム構築における最初の段階のサポート業務をしています。具体的には、システム構想立案や要件定義、外部設計、ITシステムを守るための制度整備など、ITに関する"よろず相談"と言ってもいいかもしれません。

Q.DTRAを選んだ理由を教えてください。

A.大学卒業後、証券系シンクタンクで5年半ほどSEとしてシステム開発・保守を経験し、その後コンサルティングの世界に入りました。3～4社に在籍しましたが、そのなかのひとつが、デロイト トーマツ コンサルティング（DTC）でした。そうしたキャリアを重ねるうちに、再びデロイト トーマツ グループのメンバーとして働きたいという思いが強くなったのが、DTRAに入社したいちばんの理由です。

デロイト トーマツ グループはクライアントからの信頼が非常に厚く、経営層の方と直接コンタクトすることもできるため、より高い次元で会社のビジョンやビジネスを知ることができます。またデロイト トーマツ グループのアセットをフル活用してクライアントにサービスを提供できることは、自分自身の成長にも大きく役立っていますね。



Q.DTRAで働くことの魅力はどんなところですか？

A.グループ内に監査業務を担うメンバーがいることで、クライアントのビジネスや業界全体について把握しやすい点は大きな強みです。もちろん、共有できる情報は一部に限られていますが、それでもクライアントの置かれている状況や課題感を把握した状態からスタートできることは、私たちにとっても、クライアントにとってもメリットです。しかし、信用の大きさの裏返しとして、クライアントからは高い品質を求められるので、アウトプットはしっかりとしたものでなくてはなりません。そのために内部でレビューを重ね、期待を超えるものを常に出し続けることが求められます。

いまは働き方改革の流れもあり、提供する価値を落とさず、いかに効率的に働くかを重視しており、昔からイメージされている「コンサル業」からは変わりつつあります。働く人の環境を常に改善している点も、デロイト トーマツ グループの特徴ですね。

Q.今後の目標を教えてください。

A.クライアントからもっとも期待されているのは「業務がスムーズに回る仕組み作り」。加えて、コストの削減、納品スピードの上昇、情報提供などの付加価値です。会社に蓄積されたデータを活用してビジネスをドライブさせたいというニーズは日々大きくなってきますし、2019年からは経済産業省を中心に「デジタルガバナンス・コード」策定への動きが進み、デジタルトランスフォーメーション（DX）を踏まえたITガバナンスはこうあるべき、というガイドラインがでてきました。一方で、そうしたガイドラインにしっかり対応できている企業はまだ多くありません。日々進化する最新のテクノロジーを駆使しながら、クライアントDXを推進していく上での、リスクを起点としたアドバイザリーサービスを提供していきたいと思っています。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A.私たちの仕事に何より欠かせないのは、「何にでも興味を持てる」こと。コンサルタントは、「面白いな」と思うだけでなく、その裏にある仕組みがどうなっているのかを考える癖がついています。社会やビジネスがどのように成り立っているのか、その背景や仕組み理由に興味を持つことが、成長につながります。そしてもう1つ大事なことが、仕事を自分ごととして前向きに取り組めること。この2つを持っている人にとって、コンサルタントはとてもやりがいのある仕事だと思います。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

正しいことを言える独立した立場から、金融・保険業界の健全な発展に貢献する

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
デジタルガバナンス　シニアマネジャー　〈2018年11月入社〉
DX支援／グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A.私の主な業務内容としては、保険会社のクライアントに対して、経営管理態勢や内部管理態勢の実効性分析と強化、不正事案と報酬・業績評価体系の関連分析、それらの課題分析に基づくデジタルソリューションの助言業務を行っています。
主なプロジェクトとしては、ビジネスモデル総点検や模擬的な金融検査、内部管理業務のDX（デジタルトランスフォーメーション）支援等があります。持続可能なビジネスモデルとするために、どのようなガバナンスや3つのディフェンスライン（3LoD）が必要なのかを、経営陣や現業部門の方々と意見交換を重ねて、クライアントに適合した解を導き出す。現実的な解がデジタルソリューションになることは多く、DXに関する具体的な助言業務は、クライアントの興味も強い領域です。。
これらのプロジェクトの背景には、昨今、金融庁が公表した「コンプライアンス・リスク管理基本方針」や「顧客本位の業務運営に関する原則」が強く影響しており、リスクアドバイザリー業務は、今後一層重要になっていきます。

Q.DTRAを選んだ理由を教えてください。

A. 経営管理態勢や内部管理態勢と、デジタルソリューションに関するアドバイザリー業務の双方を担えることが理由です。
デロイト トーマツという独立した立場で、世界的な企業の経営陣と直接意見交換を行い、ガバナンスや3LoDの実効性を検証し、問題があれば解決に向けた対策を一緒に考えていく。その中で具体的な解決策がデジタルソリューションに帰結するのであれば、監督官庁の見解や業界動向を踏まえて、経営陣にDXの助言を行っていく。このような仕事は、とても大きなやりがいがあります。

しかし、保険会社の一社員の立場で、会社を内部から改善していくのは、容易ではありません。
そこで、正しいことを言える独立した立場であれば、業界そのものを改善、変革していくことができるのでは、と考えたことが保険会社から転職したきっかけです。デロイト トーマツ グループであれば、業界に与える影響も大きいと考え、入社を決めました。

Q.DTRAで働くことの魅力はどんなところですか？

A.多くのプロフェッショナルと外を向いて働くことができる点は魅力だと思います。
現在監査法人トーマツからDTRAに出向しており、経営管理態勢や内部管理態勢等については、監査法人トーマツの立場として助言業務を行い、デジタルソリューションについては、ITリスクに関するコンサルティングサービスに特化したDTRAの立場として助言業務を行います。広範な領域について、外部専門家として仕事を行う中、相応の知見も必要とされます。実際のプロジェクトでは、監査法人トーマツやDTRA、その他のグループ会社と協働することがほとんどで、チームで検討を重ねながら、みんなが納得するソリューションを、チームワークによって出していきます。

クライアントに貢献できる質の高いアウトプットを出すために、グループのプロフェッショナルの知見やノウハウを集約し、アウトプットの評価はクライアントが行う。その一連の流れがシンプルで、個々の能力が最大限に発揮できる職場だと思います。

Q.今後の目標を教えてください。

A.大きな目標は、金融・保険業界に顧客本位の業務運営を定着させること。そのためにも、まずは個々の会社が顧客本位の業務運営を実施しやすくするための支援を続けていきたいですね。たとえばリスクの可視化もそのひとつ。顧客本位に反する行為に対して、事後的に対処するのではなく、予兆管理を実施し、リスクが顕在化する前の段階でその行為をコントロールしていき、不正の未然防止を図る。
年間数十万件以上の新契約や保全を取り扱う保険会社では、人手でそのリスクを網羅的に把握するのは不可能です。そこで解決策となるのが、デジタルソリューションによるリスクの可視化です。今までトレードオフになってきた業績向上とコンプライアンスをITにより両立させる。この課題を解決して、健全な業界の発展と社会の安定に貢献できればと考えています。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A.デロイト トーマツのようなプロフェッショナルファームは、ビジネスを通じて社会を良くしたいと考える方に最良のポジションだと思います。もちろん、クライアントへの提案の際は、クライアント以上にその業界やビジネスのことを熟知していないと、説得力のある内容にはなりません。特に、経営陣に対してアドバイザリー業務を行う以上、広範かつ深い知見が必須になります。プロフェッショナルとして業界や社会を良くしていき、貢献していくという気概を持ち、努力を続けることが何より大事だと思います。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

DX時代の新しいアドバイザリー像をつくりたい

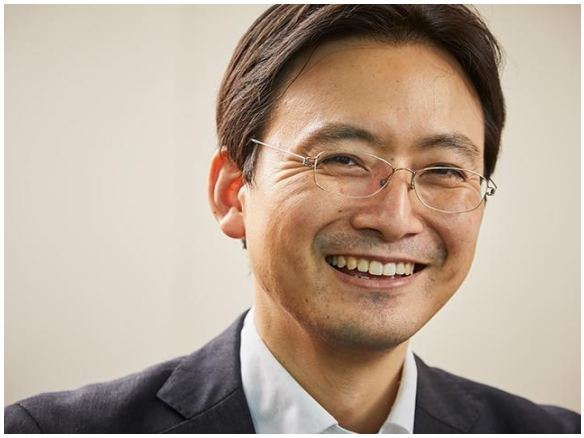
デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
デジタルガバナンス　シニアマネジャー　〈2020年12月入社〉
金融系Sier出身
グループ内連携／多様な専門家との協働／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A. 現在、担当している主な業務は3つあります。1つ目は、収益管理のアドバイスで、製造業のクライアントのプロダクト・ライフサイクル・マネジメントに関わっています。2つ目は、あるクライアントのM＆A後のシステム統合における財務領域のシステム要件定義を担当しています。3つ目は、オファリングと呼ばれる新しいサービス開発にデジタルガバナンスの代表として参加しています。これはDTRAの各サービスを一気通貫した形で提供するための仕組み作りで、まさにこれからという段階です。

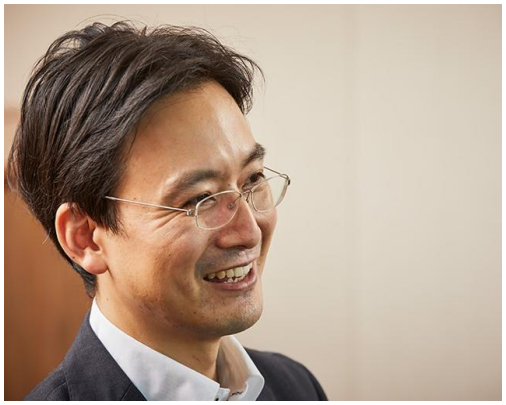
Q.DTRAを選んだ理由を教えてください。



A. 入社前は金融系のSIerを経て、日系大手コンサルティング会社、その後、連結決算システムを提供する会社で経験を積んできました。キャリア全体としてはシステム構築から、徐々にアドバイザリーに軸足を移してきたと言えます。DTRAに転職した理由は、大きく2つです。ひとつは、前職ではグループ経営管理を支えるベンダーとして、しっかりとしたソリューションを提供できるようになった反面、ある課題にはこの製品、別の課題にはまた別の製品といった具合に、トータルでサービスを提供することが難しくなっていたこと。もうひとつは、昨今のアドバイザリーに求められることが、課題を整理し、時間をかけて解決するよりも、クライアントと並走しながらその時々で最適なソリューションを提供することなのではないかと感じはじめていたことでした。
ちょうどそんなとき、エージェントから紹介されたのがDTRAでした。DTRAは会社のミッションとして、仮説を立て、試行錯誤することから成果を見出そうとしており、その考え方に共感したことが入社の決め手でした。

Q.DTRAで働くことの魅力はどんなところですか？

A. いちばん大きいのは、グループ全体で課題にあたっていく体制があることです。たとえば今、携わっている2つのプロジェクトはどちらもDTC（デロイト トーマツ コンサルティング）の案件で、デロイト トーマツ グループとしてクライアントにサービスを提供しています。このようにグループの枠組みを超えてさまざまな案件に関われることを、非常にポジティブに捉えています。
また、グローバルのメンバーファームとして、アメリカやヨーロッパのデロイトとも連携して仕事ができるのも大きな魅力です。クライアントのグローバルな課題に対して、“オール・デロイト”として当たることができています。国を問わず、誰もがグループのプロフェッショナルとして強みを発揮しながら、チームとして仕事ができていることがモチベーションを高めてくれますし、最善のサービスを提供できることにもつながっています。



Q.今後の目標を教えてください。

A. デジタルトランスフォーメーション（DX）時代のアドバイザリーの新しいあり方をつくりたいというのがいちばんの目標です。
近年では世の中を変えるようなITサービスがどんどん生み出されており、コンサルタント/アドバイザリーにはそうした最先端のITソリューションを活用することが求められています。

ドラッカーの言葉に「テクノロジスト」というものがあります。技術を理解し、それを正しく活用して世の中を変える存在という意味ですが、これからの世界では、「複雑な顧客課題を理解し、技術を活用したDX時代のあるべき姿を提示し、その実現までをリードできるテクノロジスト」が求められるはずです。
ITベンダーでも、コンサルティング会社でもない「監査法人のアドバイザリー」というビジネスフィールドでこそ実現できるものがあると、私は確信しており、そこにチャレンジしたいと思います。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A.アドバイザリーには、何事にも興味を持ち、積極的な行動をおこせる人が向いていると感じます。
興味の方向はIT、ビジネス、クライアント企業等、どのようなことでも構いません。プライベートの趣味でも構わないと思います。
自分なりの強みを意識して持った上で、仕事の上では積極的に必要な情報を集め、コミュニケーションを図ってゆく。
そうした姿勢を持っている人は、この仕事に向いているのではないでしょうか。
特に、クライアントと並走してサービスを提供しているDTRAには、一人一人の個性が輝き、認められるチャンスが多く存在すると思います。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

各分野のスペシャリストと一緒に働く喜びがある

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
デジタルガバナンス　シニアコンサルタント　〈2020年3月入社〉
独立系SIer企業出身
グローバル連携／若手活躍／リモートワーク

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A. 入社後、最初に参画したプロジェクトは、ある消費財メーカーをクライアントとするシステム開発プロジェクトでした。クライアントがグローバルで事業展開を進めるなかで、同じ商品や素材でも各国で管理コードの体系が異なる状況が続いており、グローバルでの迅速かつ適切な意思決定に支障を来していました。プロジェクトでは、各国の担当者と会話しながら、グローバルで共通となるコード体系の作成を支援しました。
現在は、あるクライアントにおける大規模なシステム更改プロジェクトに参画していますが、ユーザー権限に関する方針を検討するチームに所属しています。別のシステムへ移行するため、ユーザー権限に関する設定をそのまま引き継ぐことが難しく、新システムにおけるユーザー権限に関する設定のあるべき姿をクライアントと協議するところから支援しています。
ほかには、デロイトの他国のメンバーファームと協業して、コロナ禍でクライアントとの接点が減っているという課題に対して、VRなどのテクノロジーを活用したタッチポイントの創出に挑戦しています。
参画する案件によって業務内容は異なりますが、クライアントの課題を理解し、支援するという点は共通しています。

Q.DTRAを選んだ理由を教えてください。

A. クライアントがデジタル技術を活用していく場面において、幅広く支援できることです。
前職ではETLやデータガバナンスに関わるツールの導入や開発支援を行っていました。独立系のSIer企業だったので、さまざまな製品に触れられる環境ではあったものの、クライアントを支援できる範囲が実装フェーズなど限られた領域となるケースも多かったです。DTRAはデータガバナンスに関わるサービスを幅広く展開していることから、構想策定から実装までクライアントとともに考え、支援しています。

Q.DTRAで働くことの魅力はどんなところですか？

A. DTRA社内、デロイト トーマツ グループ内に各業界・各分野の専門家がおり、そこから最新の動向を知り、それを自ら主体的に社会に還元できることです。
先に触れたVRを使ったプロジェクトも、既にデロイトUKが社内で取り組んでいたものです。UKのメンバーと連携し、その環境を活用して進めました。こうした最先端の情報や取り組みを活用できるのはデロイトという、グローバルなプロフェッショナルメンバーファームならではだと思います。グループ内で規模の大きなプロジェクトもハンドリングできるので、チーム一丸となって、クライアントが求めている以上の品質を提供することが可能になっています。
また、入所したのはコロナ禍の2020年3月でしたが、社内の人とはプロジェクト内外問わず、リモートでも距離を感じずに、スムーズに連携ができました。リモートワークに不自由さを感じないのは、一人ひとりがプロフェッショナルとして仕事をしながらも、互いを尊敬し、一体となってクライアントに最善のサービスを提供するというDTRAの社風も影響していると思いますし、そうした雰囲気も気に入っています。

Q.今後の目標を教えてください。

A. ビジネス視点においてもガバナンス視点においても、デジタル技術やデータの重要性は年々増しています。どうすればビジネスを推進しつつ、しっかりとリスクを低減していけるのか。実際にプロジェクトに参画すると、クライアントのIT部門とビジネス部門など、企業内でも温度差として、このことが顕在化するケースが少なくありませんが、このようなギャップを解消することがクライアントにおけるデジタル技術やデータの活用の鍵となると思っています。これらの案件にさらに注力していきたいと思っています。
私個人としては、プロジェクトが完了しても、次にまた「あの人にお願いしたい」と言って頂けるようなコンサルタントになることが目標です。大企業になればなるほど最新のソリューションを期待されますから、常に知識面でも圧倒的に強いと言えるようにしておきたいですね。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A. DTRAをはじめ、デロイト トーマツ グループには、誠実に人と接し、周囲から求められているものを把握し、やるべきことを自ら考えて取り組む人が多いことが特徴だと思います。
私自身もプロジェクトの最中は学びながら手探りで進める部分もあり、大変なことも反省点も多々あるというのが正直なところです。しかし、それだけにプロジェクトが終わった段階で大きく成長したと感じています。

豊富なスキルや知識だけではなく、時に泥臭い作業を進んで実行し、常に最善を尽くすためには努力を惜しまず、愚直にやりぬくことで、クライアントに価値を提供しつつ、自らも成長していける、そのような仕事を求めている方は是非、DTRAに来ていただきたいと思います。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

業界全体をより良くするための力になりたい

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー株式会社
デジタルガバナンス　シニアコンサルタント　〈2020年7月入社〉
保険会社出身
保険業界／成長実感／若手活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.デジタルガバナンスでの仕事内容について教えてください。

A. 前職の保険会社での経験を活かし、主に保険業界のクライアントに経営管理態勢や内部管理態勢の実効性の分析とその強化のアドバイザリーを行っています。昨今、業界では顧客本位の業務運営、いわゆるフィデューシャリー・デューティーの考えが急速に進んでおり、需要の高まっている分野です。例えば、不適切な事案が起きた場合には、その会社の業績評価体系などについて分析を行います。ヒアリングをもとに現状を把握し、可視化したうえでマニュアルなどに落としこみ、最終的にはガバナンスや内部統制の観点、業界の動向トレンドを踏まえつつ、それぞれの会社のビジネスモデルや業務、組織の特性に合った改善案を指し示していきます。
クライアントのなかには同業他社や現場の声を気にされる方も多く、その点では保険会社で勤務していた経験が知見のベースとして役立っており、経営陣から見えにくいところも踏まえて助言することを大切にしています。また、現在は保険業界の高いレベルのガバナンスの知見を最大限に活かすため、重厚長大なインフラ系企業やメガキャリア、インターネット関連のスタートアップ企業など、本質的に求められるものが同様のため、幅広く他業界への支援も行っています。

Q.DTRAを選んだ理由を教えてください。

A. 保険会社の一社員という立場ではどうしても会社経営に関して見えにくい部分があり、経験を重ねるうちに、経営管理態勢や内部管理態勢にも関わりたいという思いが強くなっていきました。そうした考えから、独立した立場で客観的な改善案や情報を伝えられるアドバイザリーを選びました。デロイト トーマツは、クライアントに大企業が多く、業界全体をより良くするための改革に関わることができ、業界に与える影響も大きいと考えたことが入社の決め手です。以前からデロイト トーマツ グループをはじめとするファームには深い専門知識を持つプロフェッショナルが多いという印象をもっており、一緒に働くことで自分も知識を身につけたいと感じたこともデロイト トーマツに惹かれた理由のひとつです。

Q.DTRAで働くことの魅力はどんなところですか？

A. DTRAでは探究心をもって常に勉強されている人が多く、そうした一人ひとりの姿勢が、グループ全体の強みにつながっていると実感しています。他業種からの転職ということもあって最初に参画したプロジェクトでは戸惑いもありましたが、ひとつのプロジェクトを終えるごとにそれまで培った知見を活かして円滑に進められるようになり、成長も感じています。また、DTCや監査法人トーマツと一丸となって案件に取り組む機会がほとんどで、想定していたよりも幅広い仕事ができていることも嬉しいですね。複数のプロジェクトに参加することでさまざまなノウハウを蓄積できますし、次のプロジェクトで伝えられる情報も豊富になるので、さまざまなチャンスが用意されていると思います。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 企業のガバナンスが問われる今、顧客を第一に考えることが保険契約継続を促し、長期的には私たちのクライアントの成長にもつながっていく。こうした考えをもとに、業界全体の改革に今後も携わっていくことが一番の目標です。とはいえ、顧客第一という視点だけではクライアントの利益が伴わないケースもありますし、ガバナンスの強化もすぐに成果にはつながりにくく、難しさもあります。業界の動向やベストプラクティスをしっかりと伝え、契約継続率等、システムを用い可視化することで、その成果と重要性を説明するようにしています。ガバナンスや内部統制に関する問題をデジタルソリューションで解決するという仕事を極めて、業務改善をしっかりと提案できるアドバイザリーになっていきたいですね。

Q.この業界を目指す方へメッセージをお願いします。

A. アドバイザリーは短期間で複数のプロジェクトに取り組むため、積極的にたくさんのことに関わっていくような、チャレンジ精神のある人にはとても向いている仕事だと思います。同時にクライアントとの間で認識相違のないよう、高いコミュニケーション能力が問われる仕事でもあります。
私はコロナ禍での異業種からの中途入社で不安もありましたが、DTRAには周りのメンバーが細やかにフォローしてくれる環境が整っていますし、入社以来完全リモートで働き方も一人ひとり柔軟にコントロールできる体制もあって、女性でもとても働きやすいと感じます。業務に関してもチームの定例ミーティングをはじめ、勉強の機会は豊富に用意されていますから、アドバイザリー経験のない人にも興味をもっていただけたらと思います。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

仲間とともに得られる達成感は、何事にも代えがたいもの

デロイト トーマツ リスクアドバイザリー合同会社
西日本リスクアドバイザリー　シニアマネジャー　〈2006年5月入社〉
サイバーリスク／西日本エリア／人材育成／女性活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.西日本リスクアドバイザリーでの仕事内容について教えてください

A. 西日本リスクアドバイザリーは福岡と広島に拠点を置き、様々なクライアントに対して、重要かつ喫緊な経営課題に対応するためのアドバイザリーサービスを提供しています。東京はもとより、中京や関西とも連携し、プロフェッショナルとしての様々な専門知見を集積するとともに、地域固有の課題を正確に把握することで、クライアントや地域経済の持続的な成長に貢献しています。
近年は、様々なクライアントへのDXやサイバーリスクへの対応に関するアドバイザリー・コンサルティングも増加しており、それぞれが直面するステージに応じた対応策の検討やプロジェクトのエンジンとなりシステムリスクへ対処する業務まで、幅広くサービスを提供しています。
地方ならではの実情や課題の切迫感は、地方に身を置く我々だからこそ理解し、力を尽くすことができるものと確信しています。

Q.現在の仕事内容について教えてください

A. 私自身はヘルスケアチームをリードする1人として、厚生労働省をはじめとする官公庁や都道府県、市町村、医療機関をクライアントとするプロジェクトに多く携わっています。日本は少子高齢化による疾病構造の変化や医師偏在の問題に直面しており、国はこれまでの病院の在り方を抜本的に見直し、各地域の事情に応じた持続可能な医療提供体制の整備を求めています。個別の医療機関の経営はもとより、国や自治体と連携しながら、地域全体で持続可能な提供体制をいかにして整備していくかについて、医師の働き方改革との両立を含めて検討しています。
医師不足に悩む地域において、異なる経営形態の医療機関間での医療資源の集約化や地域住民の理解をいかにして進めるか、非常に難題ではありますが、長期的視点から必要な提言や支援を行っています。

Q.デロイト トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

A. 過去に複数の事業会社を経験してきた私の目線から見ると、デロイト トーマツの魅力は大きく2つあります。
1つは、真に自由な組織であること。私たちは課題解決を生業としており、自身の組織においてもそこに課題があれば、常に解決に向かいます。そのため、法人としての歴史や伝統がある一方、古き悪しき慣習などは無く、声の上げやすい働きやすい職場です。自身の希望やキャリアプランを最大限に尊重した配属やチーム組成、人材育成が成されるため、私たちはクライアントに対する成果やその品質に集中して仕事を行うことができます。
もう1つは、仲間と達成感を共有できることです。ご想像に違わず、アドバイザリーやコンサルティングは簡単な仕事ではありません。明日出すレポートは、本当にクライアントにとって正しい答えであるか、最後の最後までチームメンバーとともに悩みながら業務を行っています。同じ想いで、同じ目標に向かって苦楽を共にする仲間とともに得られる達成感は、何事にも代えがたいものと感じています。

Q.デロイト トーマツでの女性の働き方について教えてください。

A. 育児支援を始めとする各種制度は充実していますので、女性として働きにくさを感じる場面はほぼ無いに等しいと考えています。キャリアか育児を選択する必要はありませんし、キャリアの他に選択するものが育児である必要もありません。内外ともに女性比率も高くなっているので、逆に女性としての特性を活かした考え方や働き方が求められていると感じます。過去の慣習や固定概念にとらわれない、多様な考え方を組織やプロジェクトに取り込むことで、これから求められる社会課題への取り組みにおいて新しい価値を創造していけると考えています。
デロイト トーマツではジェンダー平等に限らず、外国人を含む多文化の共生や、LGBT＋、障がい者活躍など、幅広い取り組みを進めており、多くの方が成功体験を積み、私たちにフィードバックすることでさらによりよい支援制度を構築する、好循環のある組織です。
女性だから、経験がないからといって何も躊躇することはありません。あなたの持てる優秀な能力を最大限発揮していただける場がここにはあります。

プライバシー・セキュリティ領域に強いコンサルティングファームであり、まさに理想通りの会社

A.K.
デロイト トーマツ サイバー合同会社
Cyber Advisory　マネジャー
事業会社出身
プライバシー／リモートワーク

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

前職の仕事内容、転職理由、DTCY を選んだ理由を教えてください。

前職は事業会社のコーポレート部門で、情報セキュリティを担当していました。コンサルティングファームやベンダーなど外部の専門家とともに、社内情報システムの入れ替えや個人情報保護のマネジメントシステムの運用など、幅広く様々な業務を手掛けていました。その中でも、情報管理体制の統制のあり方を考えることや、PDCAを回して運用していく仕事が面白く、やりがいを感じていました。
一方で、自分のキャリアに確固たる核が育っていないような思いも大きくなっていきました。様々な業務を担当させていただいても、専門性が問われる部分は外部の方に支援していただいており、自分自身は内部調整や各種手続きに追われている。今後のキャリアを考えたときに、高い専門性を持った人材になりたいと考えました。デロイト トーマツ サイバー(以下、DTCY)は、プライバシー・セキュリティ領域に強いコンサルティングファームであり、まさに理想通りの会社だと思い入社しました。

現在の業務内容について教えてください。

私が所属するチームでは、プライバシー関連のコンサルティングサービスを提供しています。その中でも私は金融系、特に保険会社のクライアントを担当しています。単にプライバシーに関わるシステム構築を支援するにとどまらず、会社全体を統制する視点で、幅広い課題に対応しています。例えばグローバルに事業を展開する企業では、国内だけでなく海外の法規制にも対応しながら、どうガバナンスを強化していくのか、全社的な仕組みを作り込んでいく必要があります。また、近年はDX（デジタルトランスフォーメーション）の流れを受けて、多くの企業が積極的にデータの利活用に取り組んでいます。例えば保険会社でいえば、自動車の走行情報をもとに保険商品の設計をしたり、車載カメラの画像などを活用して事故対応の精度を高めたりしています。様々なデータが手に入るようになった現在、その活用にあたってプライバシーのリスクをどう管理していくか、あらゆる業界にとって重要な課題となっています。

特に印象に残っているエピソードを教えてください。

数年前に担当したあるクライアントのプロジェクトが印象に残っています。EU域内の個人データ保護を規定する「GDPR（一般データ保護規則）」の施行に対応する大型案件でした。法令対応と言っても、規定された要件を満たすためには、業務のやり方を変えたり、カバーできない部分はシステムの機能で補ったり、全体が適切に回っていく仕組みを構築しなければなりません。
そのため法務部門だけでなく、システム部門、総務部門、業務部門など複数部門が連携して課題を整理していく必要がありました。それぞれの立場によって考え方も異なるため、各部門と密にコミュニケーションをとり、ときには全担当者が一堂に会して意見を出し合うような場面も。規定や業務フロー、要件定義書などをひとつひとつ作り上げ、全社的な仕組みを構築することができました。関わる人数も多く、コミュニケーションは大変でしたが、その分、達成感も大きかったです。

今後の目標を教えてください。

現在の目標は、マネジャーとしてさらに力を付けていくことと、金融、保険業界に関する専門性を高めていくことです。やはりマネジャーになると、クライアントの中でも上位の役職者の方と相対することが増えてきます。安定的に案件を獲得していくこともマネジャーの仕事なので、役員クラスの方々ともうまくコミュニケーションを取り、より信頼される存在を目指したいですね。同席するパートナーやディレクターは、サイバーセキュリティの最近の動向など、クライアントにふと尋ねられたことにも、即座に的確な説明をすることができ、とても勉強になります。
私もそうでしたが、最初はコンサルティングワークに苦労することがあるかもしれません。それでも自分なりに考えて自分から動いていくことが大切。たとえ間違っていても自分から答えを持っていけば、そこから議論が広がりますし、周囲に相談すればアドバイスをもらえます。意欲をもって積極的に動いていけば必ず成長できる環境だと思います。

オフの過ごし方を教えてください。

ほぼ毎日リモートワークのため、最近は自宅で過ごす時間がとても増えました。ゆっくりと料理をすることもありますし、趣味の観葉植物を育てるなどして、オフの時間を楽しんでいます。昔はよく枯らしてしまったものですが、毎日きちんと手をかけてあげると、すくすく育っていきます。それを見るのがとても楽しくて、将来は自然に囲まれた広い庭のある家で、本格的にガーデニングをやってみたいと思うようになりました。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

この人たちと一緒に働くことで、
自分自身の成長にも繋がる

S.H.
デロイト トーマツ サイバー合同会社
Cyber Advisory　マネジャー
外資系ソフトウェアベンダー出身
自動車業界／サイバーセキュリティ／ワークライフバランス

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

前職の仕事内容、転職理由、DTCY を選んだ理由を教えてください。

前職は外資系ソフトウェアベンダーでセールスを担当していました。クライアントの要件に沿ったソフトウェアを販売する中で、要件を策定する側に興味を持ったのがコンサルタントの仕事との最初の接点です。
転職先としてデロイト トーマツ サイバー（以下、DTCY）を選んだ理由は2つあります。まず1つ目は、自動車業界のセキュリティに携われるという点です。昨今の自動車業界は、コネクテッドや自動運転といった次世代自動車技術を指す「CASE」というキーワードが盛り上がっています。100年に1度の大変革とも呼ばれるほど、社会的インパクトのある出来事であり、そこに携わることで得られる経験やスキルは非常に大きなものになると考えました。2つ目は、前職時代にDTCYの社員と一緒に仕事をする機会があったのですが、ドキュメントの内容や仕事の進め方など、非常に丁寧で心に残っていたからです。この人たちと一緒に働くことで、自分自身の成長にも繋がると考えました。

現在の業務内容について教えてください。

私が所属するチームでは、自動車業界のクライアントに対し、サイバーセキュリティに関わるアドバイザリー業務を行っています。自動車という人命に関わるプロダクトを製造するクライアントにとって、サイバーセキュリティはより大きな関心事。そんな最中に、ネットワーク化された自動車、いわゆるコネクテッドカーが、ネットワーク越しに操作を乗っ取られるというサイバー攻撃の実証実験が行われました。これが現実で起こってしまえば、生産停止に追い込まれることだってあるでしょう。また、自動車業界はグローバルで大量のリソースを保有しています。何万、何十万と存在するネット―ワーク端末を、どこを中心にどれぐらいコストをかけて守っていくかという方針や仕組みのデザインは大きな課題。その課題解決に向けて、ITによる業務効率化、セキュリティに関するインシデントやウイルス情報などのグローバル共有を支援する仕組みの検討を支援しています。

特に印象に残っているエピソードを教えてください。

「ゼロベースで考えなければならない」これこそがこの仕事のエキサイティングな所であり、コンサルタントの真骨頂です。まずはクライアントの抱える課題感を正しく言語化し、ステークホルダーと共有しなければなりません。例えば、報告書をまとめる際、些細な言い回しの一つ一つにこだわり、パートナーやシニアマネージャーとの議論が数時間に及ぶこともあります。問題を構造化し、課題解決までの道筋を時間をかけて考えていくのです。ことサイバーセキュリティにおいては、情報の機密保持のため、クライアントに他社事例を紹介しながら提案することができません。前職とは全く異なる提案スタイルのため苦労しましたが、前向きな議論が好きな人が多いので、相談すれば時間を取って真剣に話してもらえます。そういったやりとりを通して、コンサルタントとしての考え方やスキルを短期間に学ぶことができました。

今後の目標を教えてください。

転職理由の1つでも挙げた、「CASE」に深く関わっていきたいです。私は元々あらゆるものがネットワークで繋がるということに、強い関心がありました。将来的には、「スマートシティ」にサイバーセキュリティやITといった観点から関わることが目標です。DTCYには手を挙げればチャレンジできる文化がありますので、そうしたチャンスが来た際にいつでも飛び込めるよう、準備をしておくことが重要。最近は、世界で注目されているサイバーセキュリティに関するキーワード「ゼロトラスト」(信頼せず攻撃されることを前提とした、セキュリティのコンセプト)についてデロイト トーマツ グループ内の研究レポート、オンラインセミナーで学ぶなど、知見を深める活動もしています。

オフの過ごし方を教えてください。

プロジェクトの合間には連休を取得して、趣味の旅行を楽しんでいます。普段の休日は子供を公園に連れて行ったり買い物に行ったりしながら、外に出て体を動かすことで、考え事の整理をしていますね。平日においても、今は基本的にリモートワークですので業務を調整して、夕方は保育園のお迎えに行ったり、夕飯づくりなど家事もしています。従来のコンサルティングファームは激務であることが多かったようですが、当社では自分次第で調整可能です。成果を出すことがコンサルタントの本分ですので、仕事の進め方は自由。ワークライフバランスを保てる環境だと思います。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

国内トップクラスのセキュリティの専門家が数多く、ここなら大きく成長できる

I.K.
デロイト トーマツ サイバー合同会社
Cyber Advisory　シニアコンサルタント
総合電機メーカー出身
セキュリティ／ワークライフバランス／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

前職の仕事内容、転職理由、DTCY を選んだ理由を教えてください。

もともと総合電機メーカーで、組み込み系エンジニアとして様々な製品を開発していました。スマートフォンやカーナビのほか、自動運転車の試作などにも携わりました。その中で、特に近年はインターネットの発展に伴い、モノ同士がつながることが増えており、製品開発においてセキュリティ視点が欠かせないものとなっています。例えば自動運転車などは、もしセキュリティが破られて、運転している車を悪意のある誰かに乗っ取られてしまうと、人命に関わる事態にもなりかねません。
とはいえモノづくりの最前線では、機能を確実に実装していくことが優先されがちで、設計段階からセキュリティを組み込むことはなかなか難しいのが現状。そこで、セキュリティの知見と経験が身に付く環境に移りたいと考えるようになったのです。転職活動ではセキュリティに関わる会社を複数見て回りました。その中でデロイト トーマツ サイバー（以下、DTCY）は国内トップクラスのセキュリティの専門家が数多く、ここなら大きく成長できると感じ入社しました。

現在の業務内容について教えてください。

私の所属チームでは、メーカーの案件を数多く手掛けています。これまでモノづくりの世界では、セキュリティと聞くと、どちらかといえば「守り」の印象が強かったように思います。実際、セキュリティ対策は後付けで考えられることも少なくありませんでした。
これに対して、私たちは企画・設計段階からセキュリティを組み込んでいく「セキュリティ・バイ・デザイン」の考え方に基づいて様々なソリューションを提供しています。具体的には、製品セキュリティに関するリスクアセスメントや対策の支援をするほか、特許調査の支援も行っています。製品設計に他社が特許化している技術を採用していることが判明したら、設計を変えることで特許侵害を回避することができます。また、特許化されていない技術があれば特許化することで、セキュリティ機能を「攻め」のビジネス戦略として活用することができるのです。

特に印象に残っているエピソードを教えてください。

ひとつには絞れませんが、いくつものプロジェクトを経験してきて、最もやりがいを感じるのは、クライアントに新たな気付きを与えられたときです。「そこには気付かなかった」「そういう視点もあるんだね」などと言っていただけると、とても嬉しく思います。
クライアント先でお話をうかがっていると、モノとモノがつながるコネクテッドの時代に、セキュリティが重要であることは、多くの方が理解されています。しかし、それをどう実現すればいいのか困っているという声も少なくありません。私自身もエンジニア時代に同じように感じていたので、その感覚はよくわかります。セキュリティ対策に取り組まなければなりませんが、どこにフォーカスをあてて作り込むか、いかにコストをかけずに実現するか。考えるべき課題は多く、実はクライアント自身も意識されていない悩みも多いものです。そうした漠然としたお困りごとを丁寧に整理して、クライアントご自身が確実に答えにたどり着けるように、しっかり伴走するのが自分の役割だと考えています。

今後の目標を教えてください。

プロジェクト経験を重ねていく中で、セキュリティに関する知見をさらに深めていきたいと思います。技術的な知識はもちろんですが、特許など法律もからんでくるので、幅広い知識を身に付けていく必要があります。また、モノづくりの分野だけでなく、金融、サービスなど他業界への支援にも関わっていきたいです。様々なプロジェクトを通じて短期間で多様なビジネスや製品、それに関わるセキュリティの知見を増やせるのはもちろん、社内に各分野の専門家が多く、人から学べる環境があるのは、DTCYならではのメリット。セキュリティ対策に絶対的な正解はありませんが、その中でもベストプラクティスを導いていきたいです。セキュリティの専門家として、クライアントと一緒に良い製品を作り、日本のモノづくりに貢献することができれば嬉しいですね。

オフの過ごし方を教えてください。

コンサルティングファームは忙しいイメージがあるかもしれませんが、自分次第で調整のきく部分も多いので、土日はしっかり休めています。小さな子どもが2人いるので、公園に連れて行って遊んだり、一緒にご飯を作ったりして過ごすことが多いですね。子どもたちはまだまだ手が掛かるので、平日も妻と協力しながら、仕事と子育ての両立を図っています。最近は自宅でのリモートワークが中心ですが、なるべく定時に仕事を終えるようにしています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

ビジネス革新や経営戦略のなかにセキュリティを取り込んでいく攻めのアプローチ

S.W.
デロイト トーマツ サイバー合同会社
Cyber Advisory　シニアコンサルタント
国内クレジットカード会社出身
サイバーセキュリティ／グループ内連携／多様な専門家との協働

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

前職の仕事内容、転職理由、DTCY を選んだ理由を教えてください。

前職は国内クレジットカード会社でリスク管理業務全般を担当していました。サイバーセキュリティを中心とした専任部隊として、サイバー攻撃からどう情報資産を守るか、様々な対策を講じていました。特に最近では、DX（デジタルトランスフォーメーション）に関わるイノベーション創出や、モバイルデバイスを使ったリモートワークの推進など、新しい技術を使ってビジネスを進化させていくような案件が増えてきました。それがとても刺激的で楽しく、こうした仕事に本格的に取り組んでいきたいと考えたのが転職のきっかけです。
コンサルティングファームを目指したのは、各業界で進むトランスフォーメーションに貢献することができる機会の多さと、単一企業や業界の枠を越えた異業種とのコラボレーションなどダイナミックな取り組みに惹かれたからです。その中でデロイト トーマツ サイバー（以下、DTCY）に魅力を感じたのは、セキュリティに対する考え方。面接前に社員と話をする機会があったのですが、リスク管理など守りだけではなく、ビジネス革新や経営戦略のなかにセキュリティを取り込んでいく攻めのアプローチの話を聞き、心から共感できたのが決め手となりました。

現在の業務内容について教えてください。

私の所属するチームでは、サイバーセキュリティという専門性を活かしながら、「守り」と「攻め」の両方の観点から広くコンサルティングを行っています。クライアントの業種は様々で、コンサルティングの内容も多岐にわたっています。
「守り」の観点では、会社全体のセキュリティを高度化したいという案件や、最近ではコロナ禍におけるテレワークを推進するにあたりリスク評価をしたいというご要望も増えています。「攻め」の観点では、戦略的に市場投入を目指している新しい商品やサービスに関して、セキュリティの機能を企画したり、安全性を訴求するため第三者認証を取得したりします。一昔前は、セキュリティ対策というと手間やコストばかりかかる後ろ向きの仕事と捉えられがちでしたが、今やセキュリティ機能を備えることによって、ビジネスの効率や利便性、信頼性を高めることに繋がるのです。それだけ重要な経営判断に携わることができるのは、この仕事の醍醐味と言えます。

特に印象に残っているエピソードを教えてください。

クライアントのビジネス展開の根幹に携わるため、プロジェクトを完遂した際の達成感はとても大きなものです。ただその中で、一口にセキュリティと言っても、技術だけでなく法規制への対応やビジネス的な観点など、様々な要素がからんできます。実際にプロジェクトに入ると、クライアントが求めるレベルで全ての領域をカバーすることはなかなか難しいのが現状です。
でもそんなときにも、社内を探せば必ずその分野に詳しい専門家が見つかるのです。クライアントとの打ち合わせに同席してもらったり、個別にアドバイスをいただいたりすることができます。オールデロイトの力でクライアントに価値を提供していることを目の当たりにし、改めてデロイト トーマツ グループの強さを実感しました。

今後の目標を教えてください。

セキュリティを軸として、さらに専門性を高めていきたいです。今後セキュリティは、製品やサービスの付属物ではなく、メインのアピールポイントになっていくでしょう。新しいビジネスを企画する段階からセキュリティを組み込んでいかないとサービスとして訴求できなくなるからです。IoT等の新技術を活用したスマートシティ構想や、移動をサービスとして考えるMaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）など、もはやインターネット上の情報やデータだけでソリューションが完結することはありません。サイバー空間に加えて、ビルや街など物理的なフィジカル空間にもセキュリティが及んできています。そうした中で、セキュリティの知見を活かし、経営ビジョンやビジネス戦略に展開していけるようになりたいと考えています。事業会社のCISOやCIOクラスの方と同等に渡り合い、全体最適でサイバーセキュリティを活用できる人材として、コンサルティングサービスを提供していくのが理想です。

オフの過ごし方を教えてください。

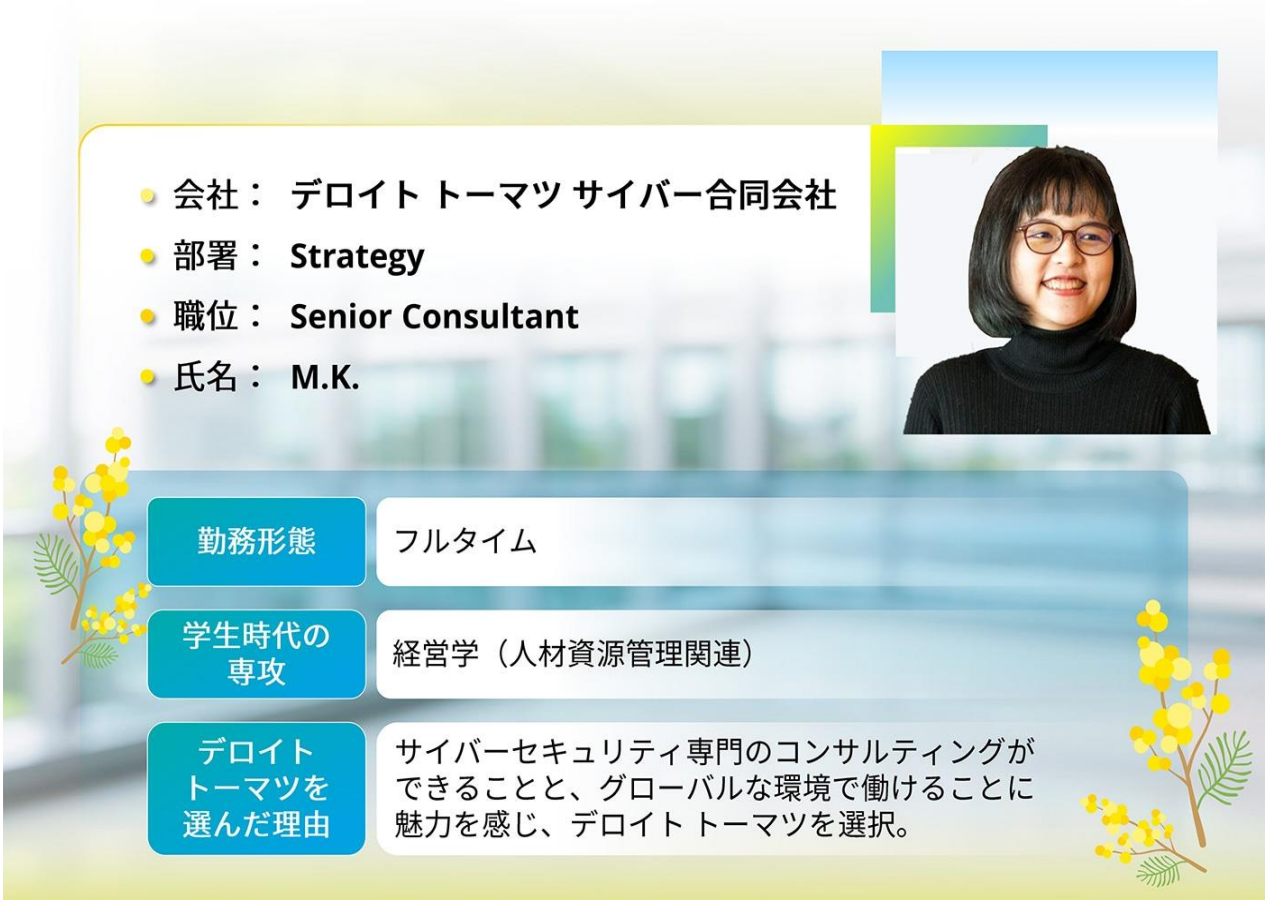
温泉が好きなので、休みを利用して全国の温泉巡りをしています。基本的に自分の裁量で仕事を進めていくことができ、休むときはしっかり休めるので、年に一度、少し贅沢して、良い宿に泊まるのを楽しみにしています。最もお気に入りなのは、福島県の温泉です。最近は気軽に遠出できないのが残念ですが、近所にスーパー銭湯があるので、しばらくはそちらに通って気分転換を図ろうと思っています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

育児とプライベートタイムのバランスを取りつつ働くシニアコンサルタントのリアルライフ

A Day in the Life at Deloitte Tohmatsu Cyber LLC
M.K.
デロイト トーマツ サイバー合同会社
Strategy　シニアコンサルタント
ITの事業会社勤務
働く環境・魅力／多様な働き方／チャレンジできる環境／女性活躍／育休

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.デロイト トーマツ サイバー合同会社（以下、DTCY）ではどんな仕事をしていますか？

A. 私はStrategyという部署に所属し、企業へのアセスメントや組織設計支援などの業務を行っています。
現在は、主に製造業のクライアントへセキュリティ教育や訓練の提供を行うプロジェクトに従事しています。直近では、クライアントの海外拠点向けの教育用に、現地の特性を踏まえたコンテンツを提供する準備をしています。
教育関連のプロジェクトでは、自分が作成したコンテンツを通してクライアントのサイバーセキュリティの成熟度を向上させることに貢献し、体制が強化されたことを実感できます。特にそういった場面で、自分の仕事に意義を感じます。

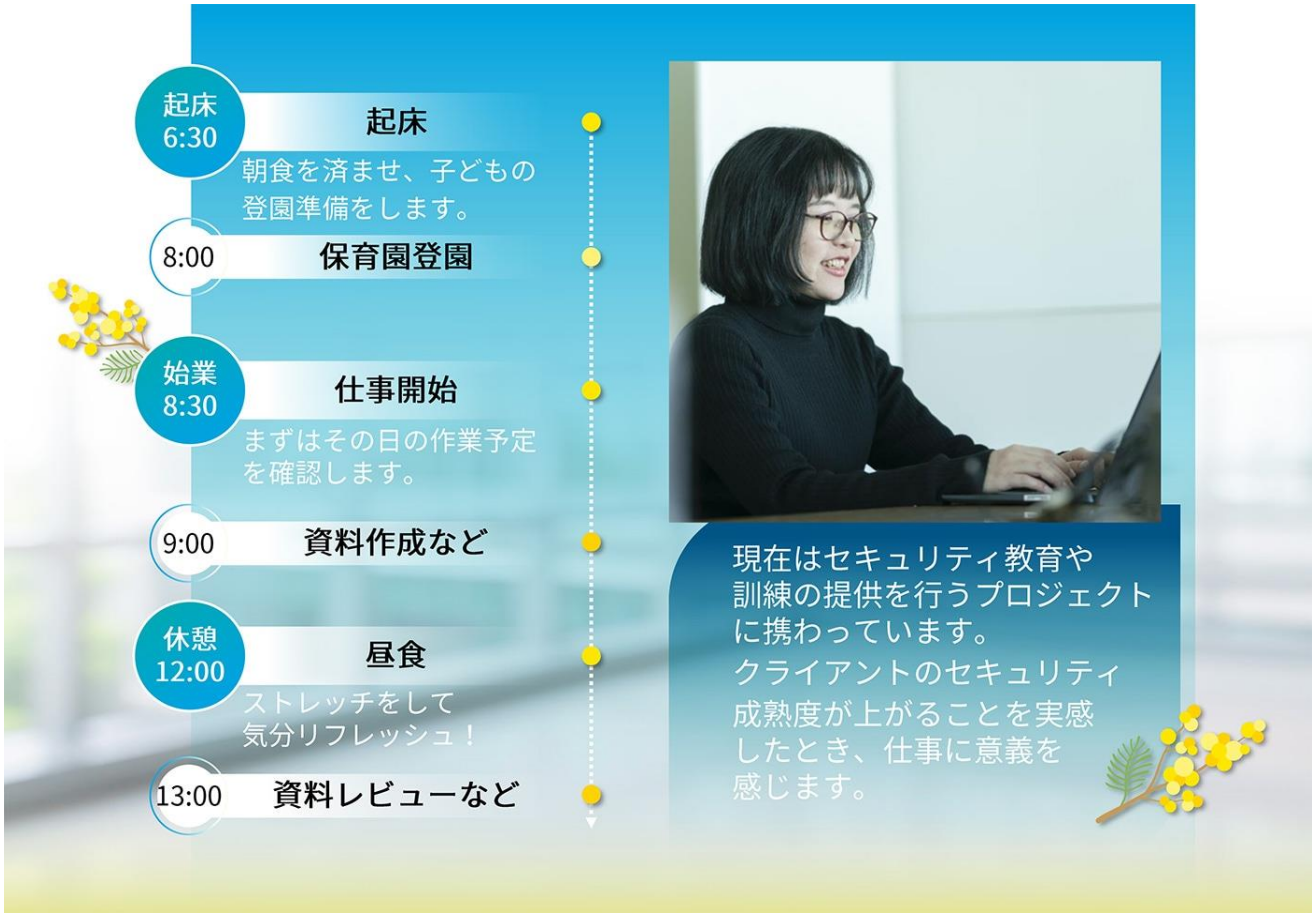
Q.DTCYに入って驚いたことはありますか？

A. 私はDTCYに2020年2月に第2新卒として入社しました。
入社した当時から、自ら積極的に仕事に取り組む姿勢や、与えられたタスクに対してフィードバックを受けるためにコミュニケーションを取ることが求められました。この点が前職と異なり、新鮮な驚きとともに学びとなりました。
DTCYでは、自分でやるべきことを見つけて取り組むことが大切にされており、そのおかげでより充実した働き方ができていると感じます。

また、私はよりスキルアップをする意欲があったため、主任やコーチに積極的に仕事を求めたこともあります。DTCYの主任やコーチは部下の要望や話をよく聞いてくれるため、自分の考えや要望を伝えやすかったです。振り返ると主任やコーチのおかげでとても成長できたと感じます。
この環境は現在も変わらず、DTCY全体でチーム内外でのコミュニケーションを重視していて、とてもサポートが充実していると思います。

Q.サイバー業界に求められている人はどのような方ですか？

A. サイバー業界でコンサルタントとして働く場合、コンサルタントとして必要な論理的思考ができる人、現在はできなくてもそういった考えを今後、自発的に身に付けられる人が求められると思います。
もちろん、既に身に付いている人はサイバー業界でコンサルタントとして働くことがとても適していると思いますが、自信がない方でも問題ありません。このようなコンサルタントとして求められるスキルやふるまいは入社後の研修や案件の中で身に付いていきます。実際、私自身も最初から全てできていたわけではなく、現在も磨かなければならないスキルだと考えています。
だからこそ「できる人」より「自発的に身に付けられる人」が求められると強く思います。
サイバーやITの知識・スキルは個人的に入社後も継続的に学ぶことで身に付けられるため、そこまで心配する必要はないと思います。

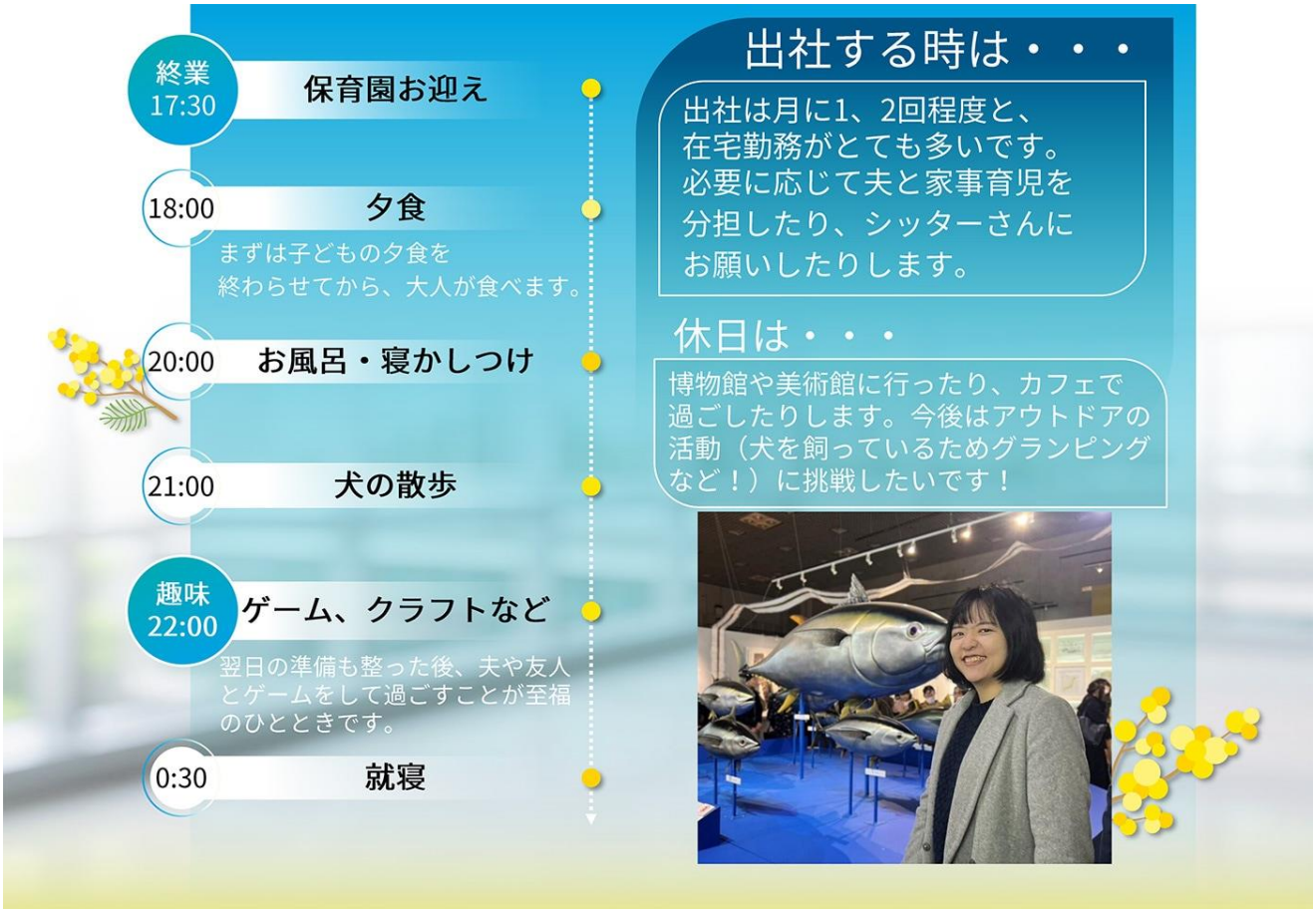


Q.家庭と仕事の両立はどのようにされていますか？

A. 私には1歳半になる娘がいます。
夫は同業者であり、出社が多いのでリモートワーク中心の私が家事をメインで担っています。そのため、夫とも相談し、土日は夫やシッターさんにお願いし極力自分の負担を減らしてもらっています。そうすることで、土日は好きなことをする時間が取れています。
また平日に突然子どもの体調が悪くなる場合などにもシッターさんを利用しています。DTCYには、病児保育を含むシッター費用補助制度があるため、非常に助かっています。

Q.出社の頻度はどのようなものですか？

A.出社する頻度はそこまで多くなく、月に1回程度です。ただ、会社に行くといろいろな人とコミュニケーションを取れますし、学びも得られるため、私は出社することが好きです。
また、会社が丸の内にあり、ロケーションがおしゃれでオフィスもスタイリッシュなため、仕事をしていても気分が上がります。
美味しいご飯屋さんも会社周辺に多く、同僚とランチに行くなどして出社日を楽しむこともしています。



Q.子育ての面白さや経験の中で得たものなどありますか？

A. 育児で得たものはとても多いです。子どもの成長には日々目を見張るものがあります。
これまでハイハイしていた子どもが突然立ち上がったり、歩き始めたりする瞬間はまさにシャッターチャンスの連続で、とても面白いです。育児は楽しんで取り組めています。

Q.自分時間をどのように過ごされていますか？

A.プライベートな時間はとても自由に過ごしています。
子どもがまだ小さいため、平日は20時半や21時ごろには寝ます。それ以降の時間は夫や友人とゲームをしています。
休日は趣味である美術館に行ったり、友人と会って食事などをしたり、一人で過ごすこともできています。また、義両親が近くに住んでいるため、夫婦で長時間出かけるときには義両親に子どもを見てもらうこともあります。夫も私も適宜休みを取りながら、仕事・子育て・プライベートタイムをバランス良く取ることができていると思います。

Q.これから挑戦してみたいことなどありますか？

A.過ごしやすい季節に、家族と飼い犬と一緒にグランピングなどのアウトドア活動を企画したいと思っています。
また、海外出張を控えているため、私が不在の際に発生し得るイレギュラーなことにうまく対処できるよう、夫や家族の協力を得ながら調整したいと思っています。
仕事をする母親にとって、子育ての全てを一人で担うことはとても難しいです。夫や実母にもサポートしてもらえるように準備するなど、キャリアと子育てを両立して進めていけるように挑戦し続けたいです。

求職者へのメッセージをお願いします

DTCYは助け合える環境があります。最初から「できる社会人」である必要はなく、気負うことなく積極的に仕事に取り組めば、いろいろな人がサポートをしてくれて、個人としてもチームとしても良い仕事ができます。この環境を活かして、経験を積み、将来的には助けてあげる立場になってもらいたいです。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

サイバーインシデント対応のプロフェッショナルとして働く3児の父のリアルライフ

A Day in the Life at Deloitte Tohmatsu Cyber LLC
D.M.
デロイト トーマツ サイバー合同会社 Attack & Respond　マネジャー SIer出身
働く環境・魅力／多様な働き方／チャレンジできる環境／
育休／多様な専門家との協働/育児との両立

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. デロイト トーマツ サイバー合同会社（以下、DTCY）ではどんな仕事をしていますか？

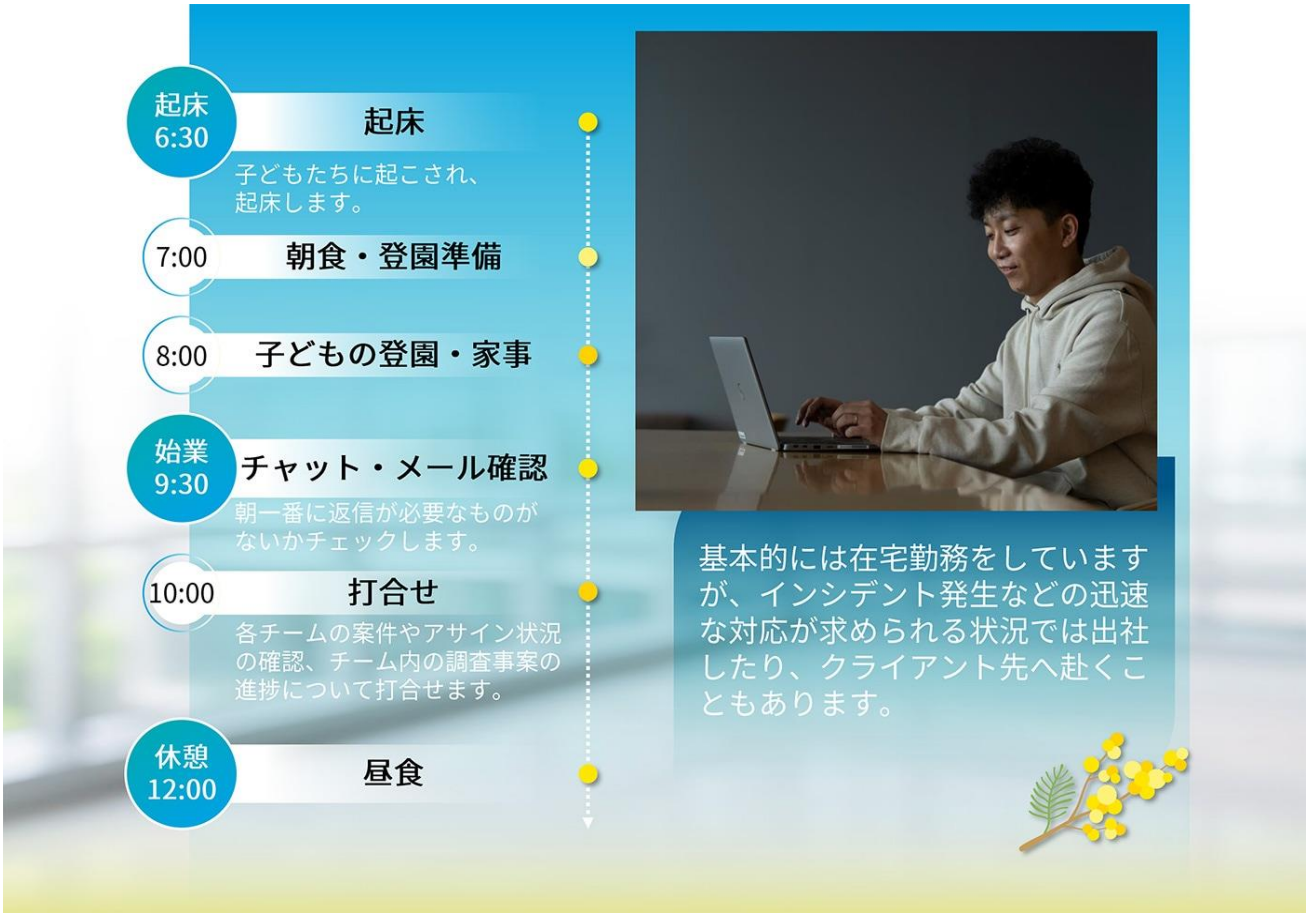
A. 私はサイバーインシデント対応を担当しています。
具体的には、サイバー攻撃を受けた際のフォレンジック調査や被害範囲の特定、対外的な発表の支援などを行っています。インシデントを未然に防ぐための準備や訓練、再発防止策の助言も行っています。
仕事をする上では、クライアントに寄り添った対応を心がけており、クライアントが安心して事業展開できる環境を提供できるようにサイバーセキュリティを強化しています。サイバー攻撃によって事業停止したクライアントをサポートする案件では、迅速な対応が求められ大変なこともありますが、最終的に感謝のお言葉を頂けると、非常にやりがいを感じます。

Q. DTCYに入って驚いたことはありますか？

A. 求められる業務の幅広さです。広範囲な対応が求められる場面において、他部署の専門家と協力することもあります。実際に、危機管理や個人情報保護の観点で弁護士と議論する機会があり、経験の幅が広がったと感じました。
入社前は技術スキルを求められるという印象がありましたが、技術面だけでなくサイバーセキュリティに精通していない方とのコミュニケーション方法も意識するようにもなりました。

Q. サイバー業界に求められている人はどのような方ですか？

A. 自分のできる範囲を絞らないことが重要です。
サイバー業界では、技術力はもちろんのこと、それ以外の経営などに対する興味を持つことも重要だと感じるようになりました。特にDTCYでは、単なる調査だけにとどまらず、他の専門家とコミュニケーションをとる機会も多いです。



Q. 家庭と仕事の両立はどのようにされていますか？

A. 3人目の子どもが生まれてからは、家事や育児の役割が増え、よりハードになりましたが、DTCYのリモートワーク制度を上手く活用しています。
仕事と家庭のバランスを取るためには、効率的に仕事を進め、家族との時間を大切にすることが重要です。私は、極力18時には仕事を切り上げ、残った作業があれば子どもを寝かしつけた21時以降に作業する、といった工夫をしています。子どもがいるからこそ、メリハリをつけた働き方ができていると感じています。

Q. 出社の頻度はどのようなものですか？

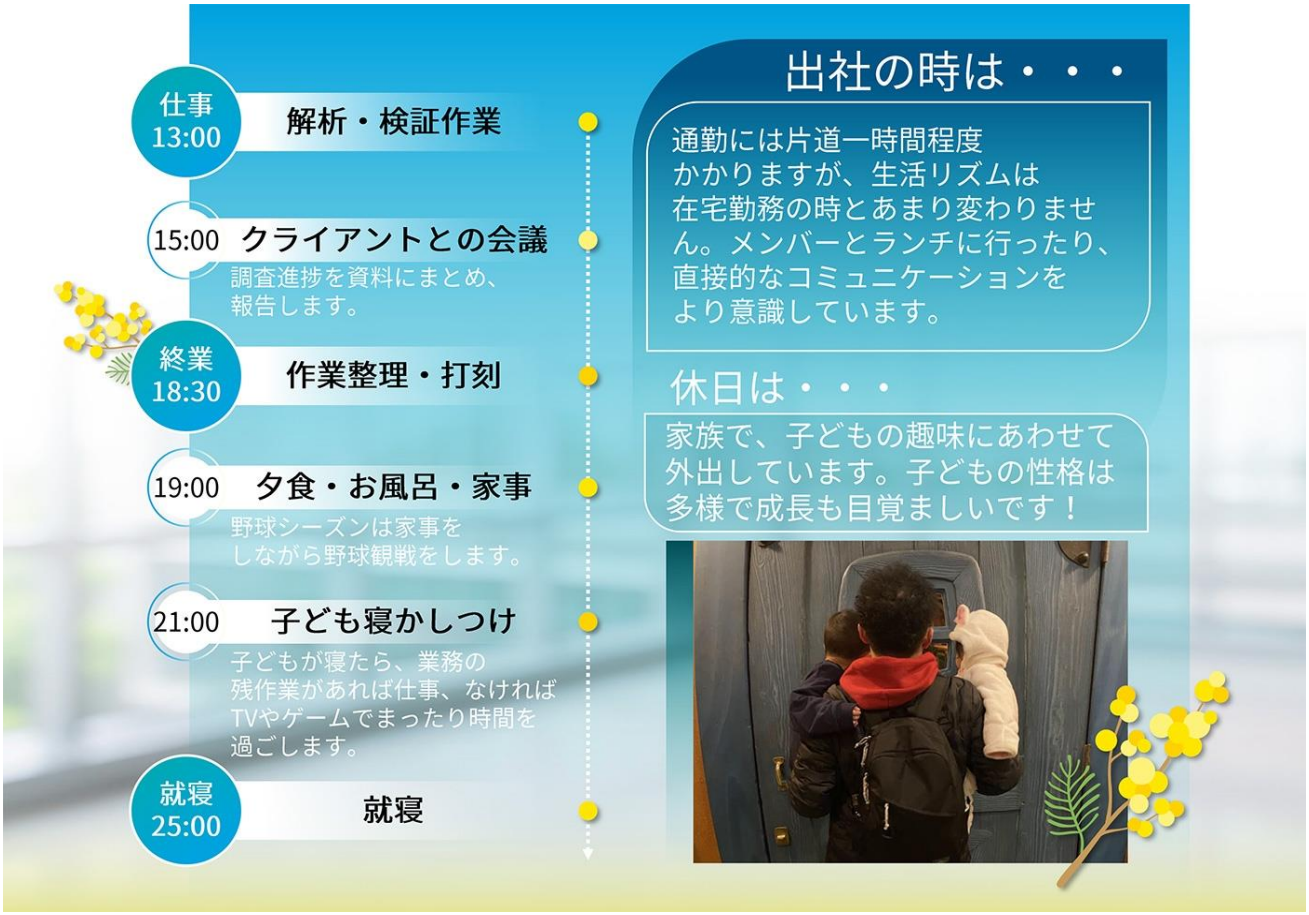
A. インシデントの発生直後は現場に駆けつけることが多く、出社と在宅勤務の割合は流動的です。現場には、主に調査メンバーに赴いてもらうことが多く、出社の必要がない時には在宅勤務で働いています。

Q. 子育ての面白さや経験の中で得たものなどありますか？

A. 子どもたちの成長過程を見守る中での面白さを感じます。特に3人目の子が生まれてからは、甘えていた上の子たちが兄・姉としての役割を果たすようになり、成長を感じます。また、子どもたちの性格や個性がそれぞれ異なるので、一緒にゲームをしたり、おままごとをしたりと、それぞれの興味に合わせた時間を一緒に過ごすことが楽しいです。

Q. 自分時間をどのように過ごされていますか？

A. プライベートでは、テレビゲームや家族との時間を楽しんでいます。また、家族での旅行やBBQも楽しんでおり、リフレッシュする時間を大切にしています。スキルアップや新しい技術を使った活動も時間を見つけて、継続して実施しています。



Q. これから挑戦してみたいことなどありますか？

A. 今後は、サイバー以外の分野でも、AIなどの新たな技術の活用に挑戦してみたいと思っています。便利な技術を積極的に活用することで定常業務の効率化を図り、より良いサービスを提供したいと考えています。
プライベートにおいては、週末に家族と外出することも多く、充実した時間を過ごせています。今後は、旅行などの遠出も楽しめたら嬉しいです。

求職者へのメッセージをお願いします

DTCYの魅力は、リモートワークやフレキシブルな働き方を支援する環境が整っていることです。インシデント対応は24時間365日対応するイメージがあるかもしれませんが、家庭を持っていてもメリハリをつけて働くことができます。

業界問わず、サイバーインシデントが多く発生しています。実際のサイバーインシデント対応をDTCYで経験することはあなたのキャリアにとって大きな財産になるでしょう。サイバー業界に興味がある方は、ぜひ私たちと一緒に働いてみませんか？

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

大学卒業後に住み慣れたアメリカ、メキシコを離れ、社会人として日本での新たな生活を選んだ彼女のリアルライフとは

A Day in the Life at Deloitte Tohmatsu Cyber LLC
A.H.K.
デロイト トーマツ サイバー合同会社 Port　アナリスト
働く環境・魅力／多様な働き方／チャレンジできる環境／
グローバル連携／グループ内連携／多様な専門家との協働

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

Q. デロイト トーマツ サイバー合同会社（以下、DTCY）ではどんな仕事をしていますか？

A. 私はPortというユニットに所属しています。Portは入社した新入社員が入るユニットで、いろいろな部署で2年弱程度の経験を積んで、自分がどの業界のクライアント向けにどんな仕事をしたいかをトライアルのような形で探ることができるユニットです。
DTCYでは、この期間を経ることで自分の特性や興味に合う部署をじっくりと考えることができます。
現在は新規サービスのセキュリティ審査についての仕事をしています。
日々新しい手法やニュースが入ってくる部署なので、毎日発見があります。仕事をしながら毎日勉強させていただいていると感じます。

Q. DTCYに入って驚いたことはありますか？

A. 入社前は、技術職の方がたくさんいると思っていました。しかし入社してみると、技術職の方だけではないことがわかりました。
実際に、DTCYに在籍されている方はさまざまなバックグラウンドを持っています。
例えば、前職が自衛隊員や警察官だった方など、良い意味で個性的であったり、専門性が高かったりします。そういった方々とお話しできるのは面白いと感じています。

Q. サイバー業界に求められている人はどのような方ですか？

A. サイバー業界はスピード感があるので、探求心がある方やフレキシブルなマインドをお持ちの方は楽しみながら活躍できるのではないかと思います。
日々アップデートががあるため、それを面白い！もっと知りたい！と思う方にはぴったりの職場なのではないかと思います。

Q. 仕事とプライベートの両立はどのようにされていますか？

A. 仕事のランチタイムにメキシコの両親とビデオコールをつないで顔を見ながら食事をとっています。日本の正午はメキシコの夜9時頃なので、メキシコで夕食をとっている両親と一緒に食事をしながら、日々の出来事や家族の1日の話を聞いてコミュニケーションを図っています。

Q. 出社の頻度はどのようなものですか？

A. 出社の頻度はそれほど多くありません。月1回程度で基本はリモートワークです。
多くても2週間に1回程度の出社なので負担に感じることはありません。
出社日を社内イベントに合わせることもできるので、ワークライフバランスを取りながら社内コミュニケーションをとっています。

Q. 自分時間をどのように過ごされていますか？

A. 特別なこだわりを持っている趣味はありませんが 週末のプライベートな時間は友人と会ってカフェなどに行くことが多いです。
カフェは好きなのですが、コーヒーが好きではないのでお茶を飲みに行くことが多いです。あとはSNSで素敵なカフェを見つけて、リストを作ってカフェ巡りをして楽しんでいます。
散歩が好きなので、いろいろな場所を歩いて東京散策を楽しんでいます。

Q. これから挑戦してみたいことなどありますか？

A. 情報系の資格を取得したいです。
仕事にも直結しますし、興味のある分野なので自分をアップデートしていきたいと思っています。
プライベートで挑戦してみたいこととして、私はDTCYに入社する前まで日本に住んだことがなかったため、お出かけするときは地図アプリなどを使用することが必要です。たくさんお出かけして、東京の都会っ子を目指し、マップなしでどこへでも行けるようにしたいです。

求職者へのメッセージをお願いします

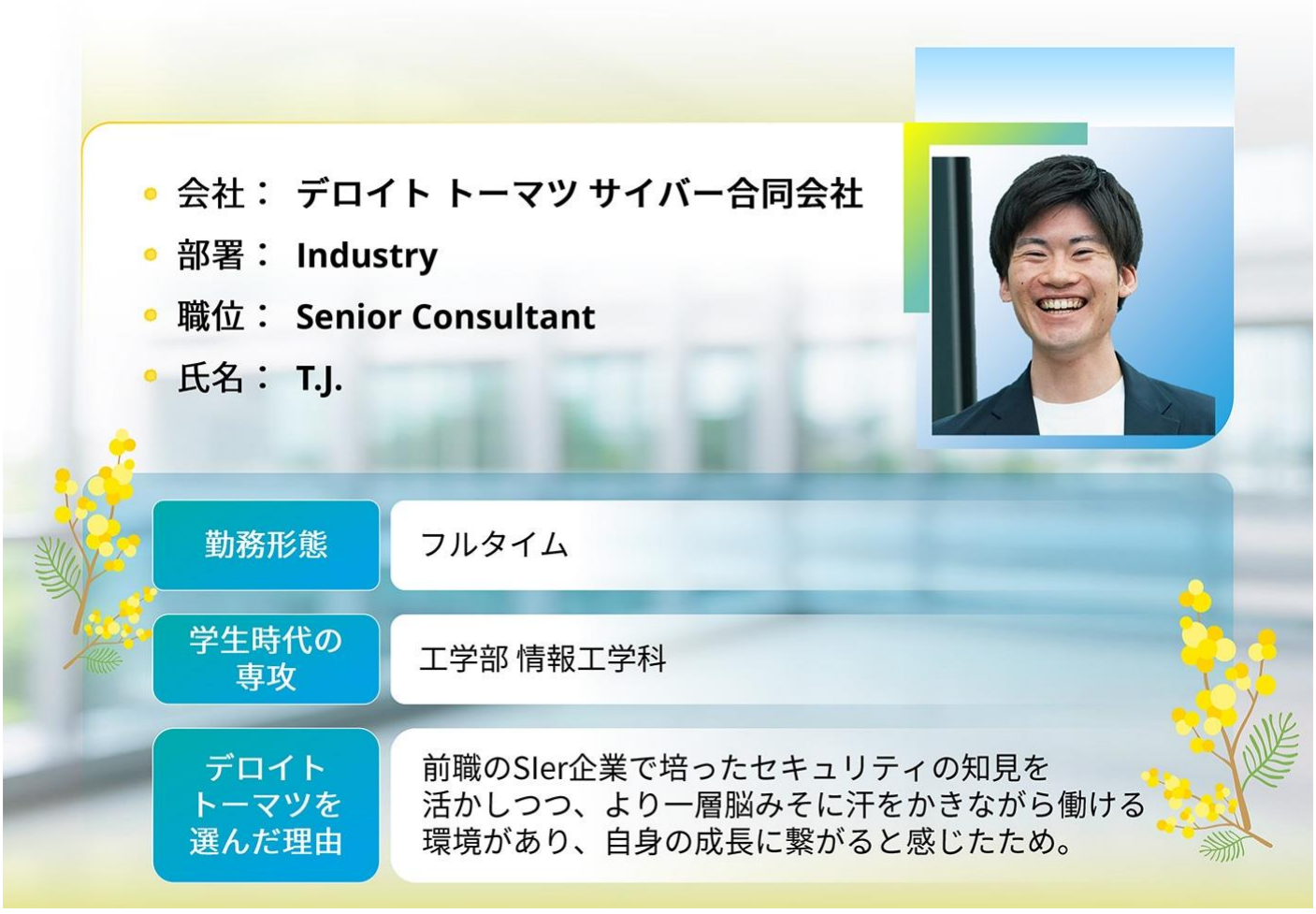
大学や大学院で学んできたこと、強みを生かせる職場なので自分の色を大切にしながら自分を成長させたい方、ぜひDTCYに来てください！

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

育児を楽しみ、家族との時間を大切にしながら、仕事では日々学びを得ながらキャリアを築いていくシニアコンサルタントのリアルライフ

A Day in the Life at Deloitte Tohmatsu Cyber LLC
T.J.
デロイト トーマツ サイバー合同会社　Industry　シニアコンサルタント　SIer出身
働く環境・魅力／育児との両立／多様な働き方／チャレンジできる環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



Q. デロイト トーマツ サイバー合同会社（以下、DTCY）ではどんな仕事をしていますか？

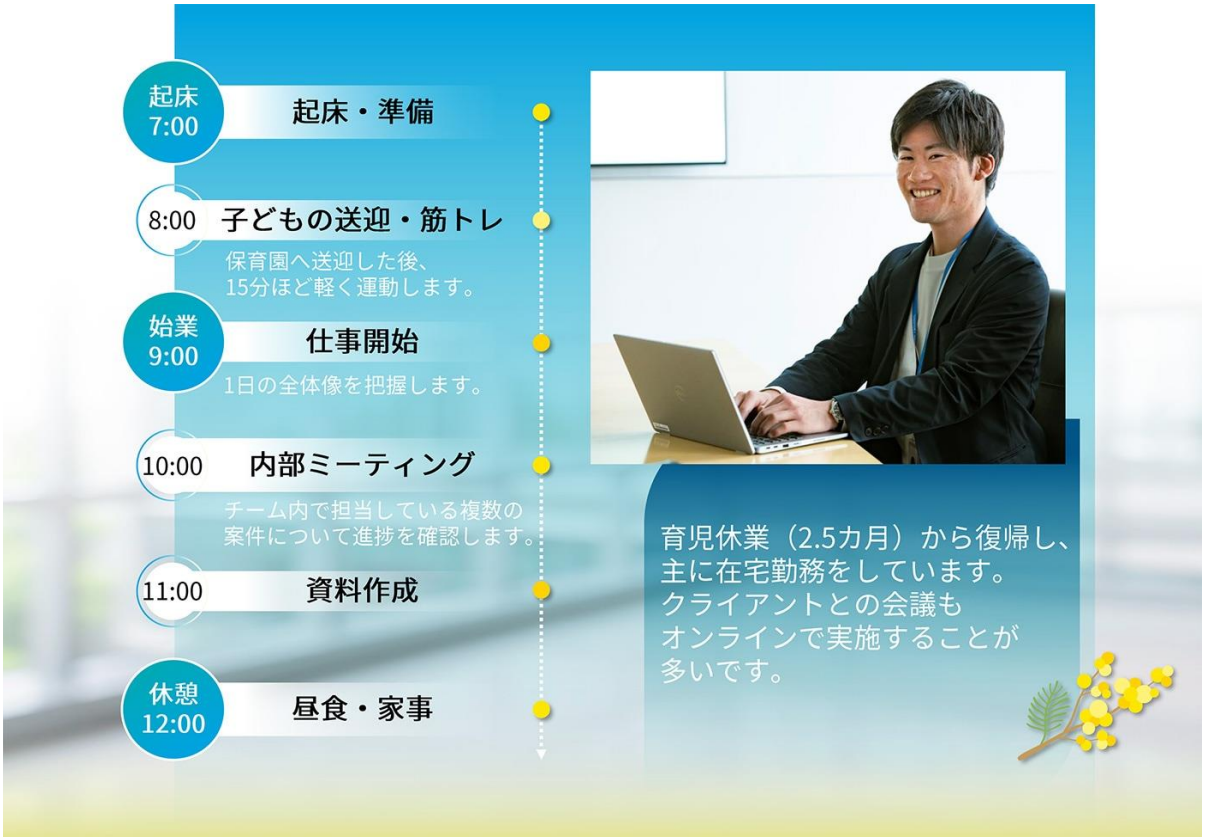
A. 自動車業界のクライアントにサイバーセキュリティ及び個人情報保護に関する対応の支援をさせていただいています。
日本の基幹産業である「自動車業界」に携われていることに仕事の面白さを感じます。
自動車は多くの方々の日常に大きく関わっているものです。その自動車という業界で仕事ができることは人の役に立てている実感があり、私自身も日々成長できる環境だと思っています。

Q. DTCYに入って驚いたことはありますか？

A. 入社前、コンサルティング業界はドライで厳しい環境だと思っていました。
実際に入社して仕事を始めるとその考えは完全に覆りました。上司からのサポートも受けやすく、悩みがあれば相談できる職場なので、とてもいい環境だと驚きました。

Q. サイバー業界に求められている人はどのような方ですか？

A. 自分から学びを獲得する姿勢を持った方だと思います。
変化が激しい業界なので、アンテナを張って貪欲に情報を収集し、自分自身の糧とするサイクルを回し続けることが重要だと感じています。



Q. 家庭と仕事の両立はどのようにされていますか？

A. 私は子どもの成長を見過ごさないように、日々家族との時間を大切にしています。特に仕事の忙しさを言い訳に育児・家事を妻任せにしないように気を付けています。
男性ができない家事・育児はほぼ存在しないので、主体的に行うよう意識しつつ、妻と二人で力を合わせて、何よりも楽しんで取り組んでいます。
今、仕事も子育ても両立できていることは、妻とのコミュニケーションがしっかりとれていることが秘訣かと思います。例えば、子どもの登園時の機嫌・体調などの様子も共有し、お互いのその日の業務都合を踏まえつつ、フォローする体制を作るなどして、その時々で歯車が噛み合うように調整しています。

Q. 出社の頻度はどのようなものですか？

A. 出社の頻度は月に1回から２回程度です。
クライアントとの会議もオンラインでのやり取りが中心です。
出社が少ないことは家事・育児はもちろん、自己研鑽の時間を取れることに繋がるため、とてもメリットを感じています。
その一方で、仕事を行うメンバーとのコミュニケーション量は減ってしまうため、そこのバランスを取ることが大事だと感じています。

Q. 子育ての面白さや経験の中で得たものなどありますか？

A. 子どもが教えてもいないことをできるようになっているのを目の当たりにすると、「子どもってすごいな」、「面白いな」と感じます。おそらく、誰かのマネをしたり、いろいろな動作を組み合わせたりしているのだろうなと思いますが、特にすごいのは意識的ではなく、無意識に楽しみながらやっていることだと思います。
子どもの成長過程を見ていると、私自身の人生に対する姿勢が正される気持ちがします。

Q. 自分時間をどのように過ごされていますか？

A. 今は子どもが小さいので自分の時間はかなり少ないですが、1年に1回ぐらいゴルフに行ったりします。
自動車が好きなので、家事や育児の合間に自動車関連の動画を見るのも楽しみの一つです。

Q. これから挑戦してみたいことなどありますか？

A. 自分自身が挑戦してみたいことというより、子どもがもう少し大きくなったら家族で一緒にスノーボードやキャンプに行けたらいいなと思います。
そのうち一緒に遊んでくれるようになったら、と思って想像するととてもうれしく、幸せに感じます。

求職者へのメッセージをお願いします

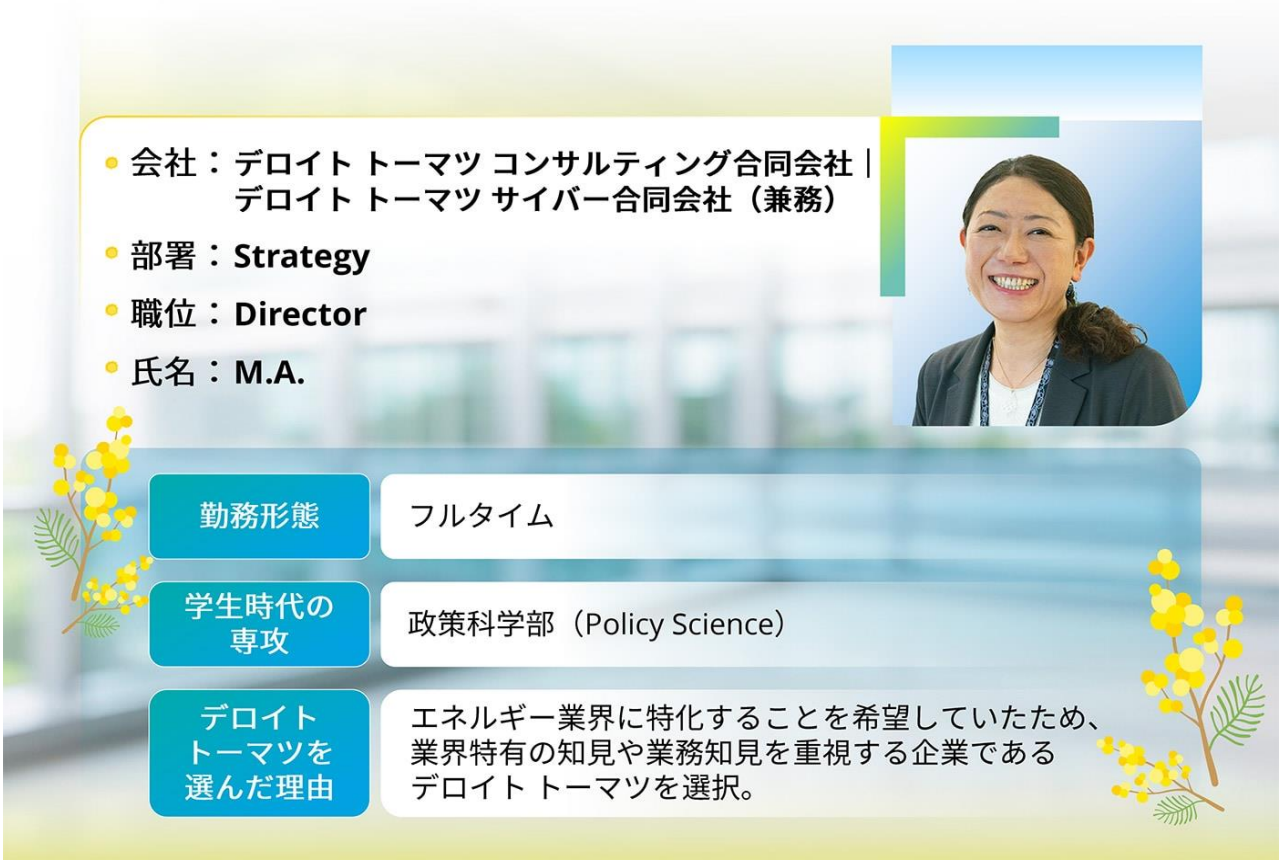
DTCYで育児休暇を取得した私だから言えますが、仕事も育児も両方全力で取り組める環境が整っています。業務が忙しくて、育児に手が回らないなんてことはありません。自分自身が工夫することはもちろんですが、上司や同僚からの理解も得やすいので、子どもの成長を見逃すことなく家族を大事にできると思います。
挑戦的な仕事ではありますが、皆様がイメージしている以上に柔軟性が高い職場です。
仕事も育児もしっかりやりたい！という方にはベストな会社だと思います。あなたも一緒にサイバー業界で働きましょう！

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

子育てとキャリアを両立し、自分のキャリアを確立していく彼女のサイバー業界でのリアルな働き方とは

A Day in the Life at Deloitte Tohmatsu Cyber LLC
M.A
デロイト トーマツ コンサルティング合同会社｜デロイト トーマツ サイバー合同会社（兼務）
Power, Utilities & Renewables　ディレクター
外資系総合コンサルティングファーム出身
働く環境・魅力／女性活躍／育児との両立

※役職・内容はインタビュー当時のものになります



デロイト トーマツ サイバー合同会社（以下、DTCY）ではどんな仕事をしていますか？

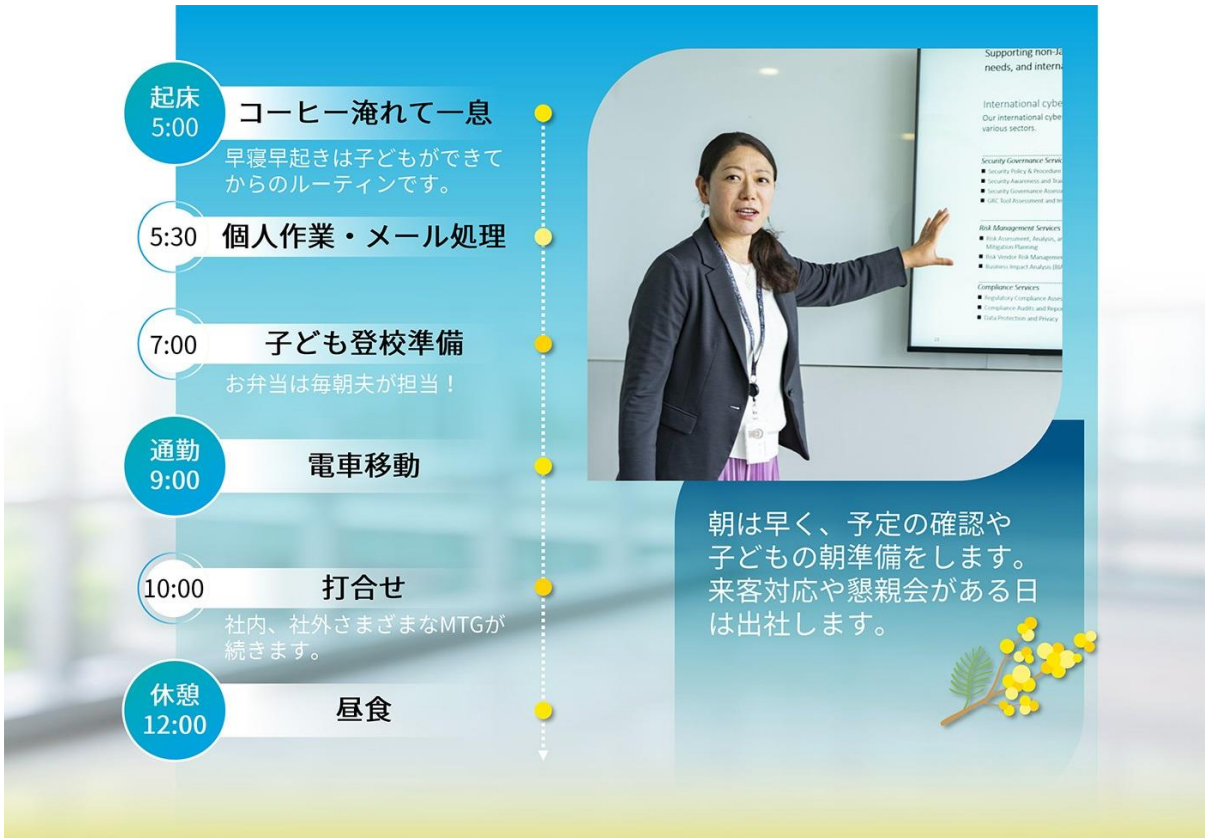
電力やガスなど、重要インフラを担うエネルギー業界のサイバーセキュリティに関わるサービスを担当しています。
元々はデロイト トーマツ コンサルティング合同会社の所属で、電力・ガス業界のDXや人財育成関連のプロジェクトに従事していました。出産・育休からの復帰を機に、2020-2021年の東京オリンピック・パラリンピックに向けたサイバーセキュリティ対策関連のサービス強化のため、サイバーセキュリティの領域に関わったのがきっかけです。部分出向（兼務）で実際にサービスの提供まで担当しているうちに、DTCYのPU＆R（Power, Utilities & Renewables）セクターのサブリードとして活動するようになりました。
具体的には、チームの年間の活動計画や目標設定・管理、サービス開発、各種サービスを担うチームメンバーとの連携、クライアントへの営業活動、プロジェクトのデリバリーまで全体に関わっています。
私の仕事の面白さ・やりがいと言えるところは、まず、電力・ガスの業界は、発電から送配電、小売と大きく事業や組織が異なるところです。それぞれの事業の中でもサイバーセキュリティリスク、プライバシーのリスクなどは大きく異なり、その対応を幅広くご支援できるところです。また、再生可能エネルギーなど分散電源の増加や小売自由化など、多くの変化点にあり、その対応としてIT・デジタル技術の活用が進む中、サイバーセキュリティリスクに対応していくという点にも最新のリスクに対応していく面白さがあります。さらに、日本の最重要インフラの1つであるエネルギー業界をご支援するという点には大きなやりがいを感じています。

DTCYに入って驚いたことはありますか？

私は新卒からコンサルティング業界で、他コンサルティングファームを経験してからデロイト トーマツコンサルティング合同会社に中途入社し、DTCYに兼務で勤務していますが、DTCYは会社が「インテグリティ」を最重要としているだけあって、ものすごく誠実・真摯な姿勢でビジネスに臨む会社だと感じました。
献身的に、クライアントのためにプロジェクトに関与することができるメンバーが集まっていると感じます。。
蓄積・整理された知見やナレッジをうまく活用するのは他社でもやっていると思いますが、DTCYはさらにクライアントのビジネスやこの先、考えている将来像にしっかりと寄り添って、その実現のために一生懸命考え、伴走していくタイプのプロジェクトが多いです。。
若手はプロジェクトデリバリーの仕方ではなく、クライアントの問題を定義し解決していくという本質的なコンサルタントとしての力をつけながら専門性を伸ばすことができると思います。入社時の研修などサポートも手厚く、業務にあたる際にも各分野の専門家にわからないことをすぐに聞ける組織風土があるので心配せずに入社してきていただきたいです。

サイバー業界に求められている人はどのような方ですか？

サービスの提供の領域に関係なく、経営リスクとしてサイバーの話をすることが多いので、サイバー業界に関心を持ち、経営リスクへの影響を考えてアウトプットできる人だと思います。
業界に関わらず、クライアントの会社を取り巻く経営環境の変化を敏感に感じとり、クライアントの現状を俯瞰して、かつ自分事として捉え、お話しできるような方が必要だと感じます。



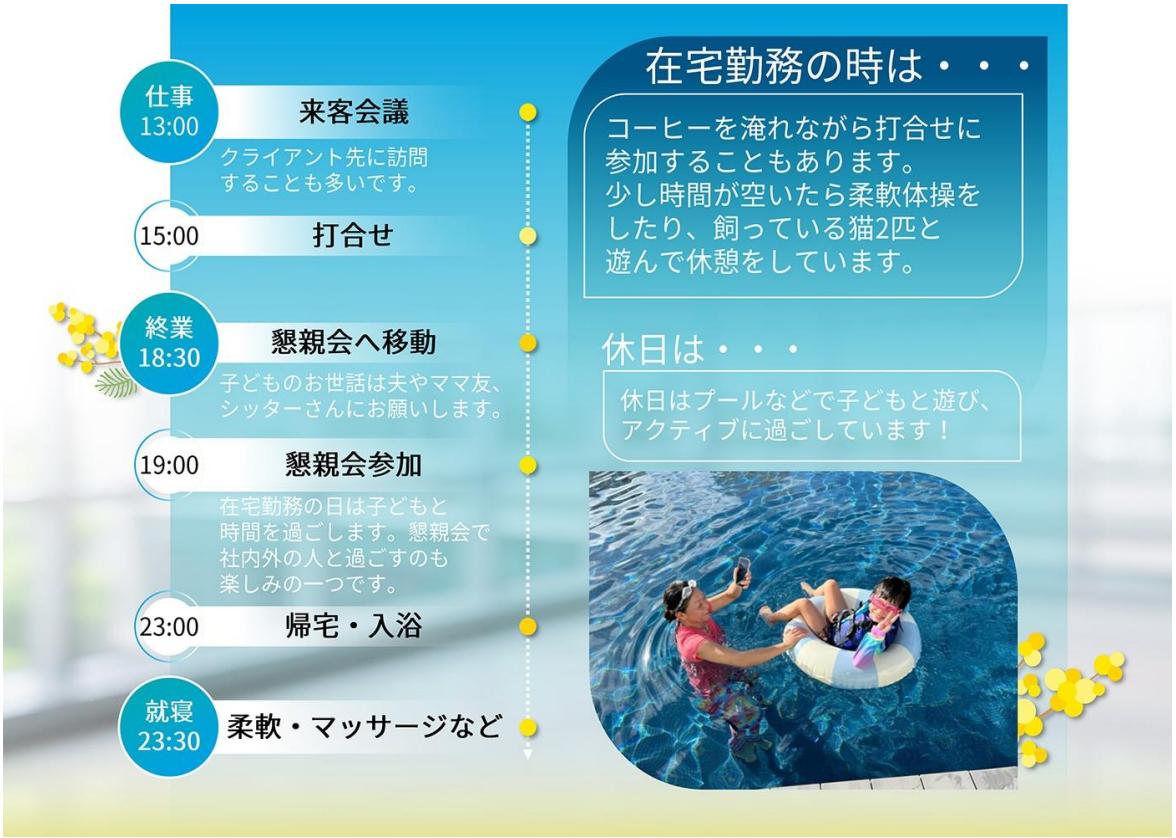
家庭と仕事の両立はどのようにされていますか？

私には今、8 歳の娘がいます。家族の予定については、家族用の共有カレンダーを使って把握し、どの日が出張でどの日が会食、どの日が学校行事・習い事行事なのか、どちらが子どもを迎えに行くのか等の確認をしつつ役割分担しています。
子どもは小学校受験をしたのですが、その期間は半年ほど、会社のFWP（フレキシブル・ワーキング・プログラム）制度を使って両立させていただきました。本当に感謝しています。
子どもが小学生になってからは、毎日お弁当を作る必要があるのですが、ここは夫が担当してくれています。デロイト トーマツの先輩育児者からあるお弁当本を進められ、「これを見せたら配偶者がお弁当を担当してくれるようになった」と聞き、試してみたら本当に自分から弁当作りを申し出てくれたのです！その方には本当に感謝しています。
仕事については、朝早く起きて仕事をするようになりました。
夜は子どもと一緒に寝て朝五時くらいに起床し、家族が寝ている時間なので一人で集中して作業しています。子どもが生まれるまでは、夜に仕事をやってから夫と居酒屋に集合して夕飯を食べるのがパターンだったので、大きな変化です。

こうしたルーティンになったおかげで、夜は仕事を早く終えて子どもを迎えに行った後は晩酌などを楽しんでいます。
そのせいか子どもは海ブドウなどお酒のおつまみを好む子になってしまいました。

出社の頻度はどのようなものですか？

週1～2回程度オフィスに出社し、週1回はクライアント先にて勤務しており、あとはリモートワークです。年間の勤務全体からすると2割程度だと思います。また、出張が月に1～2回あります。元々出張が好きで、子どもが生まれるまでは1週間通して出張ということもありました。出張の楽しさは、いろいろな地方のクライアントとお話しできること、さらに言うならそこにしかない食事やお酒を楽しみながら、ご一緒できることです。会食や顔を合わせてでしか聞けない話もありますし、クライアントのニーズをよくキャッチできると思います。



子育ての面白さや経験の中で得たものなどありますか？

結婚してから10年、不妊治療なども経て遅くにできた子どもなので、本当に子育ては楽しいですが、大変さもありますね。子どもって予想外のことをたくさんするもので、その中で経験などを積んでいると思います。もともと叱ることが苦手なタイプでしたが、それも必要なので、こういうケース・この段階まできたら注意する、叱る、と自分の中でできるだけ基準を決めてやっています。ほとんど自分が子どもに返って一緒に遊んでいるような生活ですが、子どもと時間を過ごす中で、自動的に複数タスクのやりくりやアンガーマネジメントがうまくなったように思います。

自分時間をどのように過ごされていますか？

プライベートでは、週1回ホットヨガに通っています。昔は1人きりで地方クライアント先に出張・常駐、ということも多かったので、リモートでの打合せも含め常に誰かと一緒にいる今は、自分ひとりの時間が本当に貴重です。汗を流して、体を伸ばして心も体もリラックスできる時間は大事な時間です。

これから挑戦してみたいことなどありますか？

子どもと一緒にできる趣味を始めたいと思っていて、ピアノを一緒に習うのもいいなと考えています。
他には私は過去にブラジル発祥の音楽とダンスを組み合わせた格闘技であるカポエイラをしていたので、また子どもと一緒に始めてもいいなと思っています。

求職者へのメッセージをお願いします

DTCYは若手の力を伸ばす会社として、最適な場所だと思います。
自分の強みを見つけたい人、力をさらにつけたい方、ぜひ一緒に働きましょう！
新しい一歩を踏み出す際、不安が当然あると思いますが、各領域の専門家がたくさん在籍しているのでDTCYのみんながあなたをバックアップしてくれます。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

描けるキャリアは多種多様専門性を磨き、自分の理想像を実現できる

新卒入社者トークセッション（3職種対談）
Cyber advisory、R&D、CICという3つの領域で活躍する同期入社の3人の若手社員が
DTCYの魅力を語ります！
K.M、S.K、M.K
デロイト トーマツ サイバー合同会社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

DTCYならではの幅広い事業領域と専門性

現在の配属部署とミッション、そしてなぜDTCYを選んだのか、お聞かせください。

K.M：私はCIC（Cyber Intelligence Center）に所属しています。お客様のインフラストラクチャをサイバー攻撃から守るため、ネットワークやデバイス、セキュリティ製品のログを収集して監視・分析することがメインの業務です。いわゆるブルーチームですね。

M.K：私が所属するのは、サイバーセキュリティ先端研究所（R&D）です。ミッションは、研究成果を社会実装するためのツールやアセットの開発です。先行研究の論文を読み、論文を書いてアウトプットするだけでなく、実際に手を動かして実装や検証も行います。研究だけでなく、研究の成果を世に届けるところまで手掛けることができる点に惹かれて入社しましたが、先輩たちはすでに研究成果を活用した新しいサービスの提供や、お客様と共同でシステム開発をしており、研究成果をスピーディに社会実装できる環境を実感しますね。

S.K：脅威情報を収集する研究などもされていると聞いたことがあります。

M.K：研究所ではSNSから情報収集し、フェイクニュースの検知に役立てる研究やブロックチェーンのトランザクションデータを収集し、不正な取引を分析する研究などにも取り組んでいます。私自身は、Webサイトのレピュテーションをテーマとし、Webの情報を用いた企業のセキュリティやプライバシーのリスク評価について研究するポジションです。また、「衛星の打ち上げ」というテーマにも取り組み、セキュアな衛星開発についての研究も進めています。

K.M：衛星の開発とは、またスケールが大きいですね。S.Kさんはコンサルティング領域を担当していると思いますが、どういう業務を担当しているのですか？

S.K：私はCyber advisory（コンサルティング）として勤務しています。Cyber advisoryには、クライアントのセキュリティ戦略立案を行うチームもあれば、個人情報保護に対応するチームやシステムの導入支援を担当するチームなどさまざまなカテゴリーがあります。その中で、私自身は、お客様のシステムに対して疑似的なサイバー攻撃を行い、そこから識別された課題や対策案のご提示を行っています。対策に際しての具体的な攻撃の監視方法やシステムの運用方法を提案し、今後の支援を行うこともあるので、技術的な仕事だけでなくコンサルティングワークもかなり多いですね。

K.M：私たちは同期といっても、やはり業務がそれぞれまったく違いますね。そもそもなぜDTCYを選んだのかも興味があります。

M.K：私は実はサイバーセキュリティに興味を持ったのは、主人公がホワイトハッカーの、とあるドラマがきっかけです。高校生の頃に感化されて、将来の夢はホワイトハッカーと言っていました（笑）。それが私のサイバーセキュリティの原体験ですね。

K.M：そう言われると、私の原点はゲームかもしれません。近未来のIoT社会が舞台で、そこで起こるセキュリティ犯罪が題材になったアクションゲームです。

S.K：私もやっていました（笑）自分は高校生の時にとあるテレビ番組でサイバーセキュリティの概念に触れたのを覚えています。かっこいいな、と思いサイバーセキュリティを学べる大学に行こうと考えました。

K.M：サイバーセキュリティ領域を仕事にしたいというのは3人とも共通していたのですね。ちなみに私自身、初めは漠然とした興味からのスタートでしたが、大学院でサイバーセキュリティの基礎理論、システム関連、法律やマネジメントまで学んでいく中で、自分はコンサルティングよりも技術寄りの志向だなと実感しました。調べていく中で、DTCYのCICであれば、監視だけでなく提案にも携われるため、大きなやりがいを得られそうだと思い志望するようになったのです。

M.K：私自身は初めはホワイトハッカー、そしてコンサルタントへと興味の対象は変わっていったのですが、次第に社会に貢献できる研究開発に携わりたいと思うようになりました。あるとき所属する研究室にDTCYの方が来られ、お話をお伺いすることができ、それが志望のきっかけでしたね。

S.K：研究所を持っているコンサルティングファームはなかなかありませんからね。私は、セキュリティの事業会社も検討したのですが、必然的に監視や製品開発など守る側になってしまうケースが多いのです。ですがコンサルティング側であれば、ハッキング技術などのテクニカルなスキルが活かせるケースも多いと知りました。そこでDTCYを目指すようになったのです。

蓄積したナレッジ、そして先人のノウハウから学びを

日々の学びや業務の中で磨ける専門性についてお教えください。

K.M：SOC（Security Operation Center）といわれるサービスを提供する企業や組織は他にもありますが、DTCYのCICは非常に幅広い製品に触れられるため、とても刺激になります。監視しているだけでも多くを学べますし、最新の脆弱性（OSやソフトウェアにおけるセキュリティ上の欠陥）診断の技術も吸収できるため、日々の仕事が全て学びになっています。
我々の性質としては、攻撃を受けてから何が起きているのか、問題はないかを分析するので"守り"の部分が主業務ではあります。しかし、影響があった場合は早急にクライアントに通知することが必要なので、日々、分析を重ねてスピードや成果を挙げるスキルを磨いていくしかありません。セキュリティを守る最前線にいるポジションだからこそ、日常の監視業務が全てノウハウになっていると思いますし、すぐ隣にいる先輩方からさまざまな知見を学びながら成長できますね。

M.K：研究所には幅広い分野においてスペシャリストの先輩がいるので、多様な専門知識を学べる機会が非常に多いです。新しい分野を学ぶ際には、外部研修を受けさせてもらうこともできます。私も小型衛星のトレーニングに参加させてもらい、衛星開発の知見を磨きました。参考文献となる学術書も購入できるので、文献から得た知識をもとにして自ら手を動かして学ぶことができます。

K.M：CICでもメンバーから希望が上がったら、学びに必要な図書を購入しています。普通なら手の届かないような高額な専門書をタイムリーに入手できるのは、ありがたい環境だと感じますね。

S.K：私は業務上、ハッキングを行うため、やはり日々の経験がそのまま学びになります。どのクライアント先も、それぞれがセキュリティを固めてシステムを守っており、導入されているセキュリティ製品やSOC等の監視の目をかいくぐるために、どういった攻撃をしていくのか、どう脆弱性を発見していくのかを実践で学ぶことができますね。
とはいえ、環境固有の知識に偏らないようにするためには、日々の勉強も必要です。DTCYでは資格取得の補助を受けることができますし、外部研修も受けられます。ラスベガスで開催されるBlack Hatというセキュリティのカンファレンスに参加させてもらったメンバーもいて、飛行機代も含めて数百万円もの費用を会社が負担してくれました。

M.K：それは羨ましい話です。

K.M：そんな支援もあるんですね。

S.K：これだけ充実した学びの環境はそうそうないと思っています。

キャリアの幅を広げながら挑戦する醍醐味がある

DTCYだからこそできることについて教えてください。

K.M：私は今、アナリストとして監視業務を担当していますが、インテリジェンス（サイバー攻撃の検知に向けて情報収集・分析し、情報提供・アドバイザリーを行うこと）の分野にも興味があります。ダークウェブに流出している情報を集めるノウハウなどもDTCYならではの高い技術があってこそのものなので、いずれ学びたいですね。
DTCYの強みは、サイバーセキュリティにおける多様なキャリアが描け、選ぶこともできるという点だと思います。今日、お二人のお話を聞いてみて、それぞれの仕事も面白そうだと感じましたし、この先CICで一定の経験を積んだ後は、また違う領域に進むのも面白いのかも知れません。

M.K：R&Dでは、大学の研究とは使える予算が違い、大きなチャレンジができる楽しさを味わえます。衛星の研究は、未経験の分野でしたが自ら手を挙げて参加させてもらいました。今後も新しいテーマに次々と挑戦し、DTCYでしか得られない経験を積んでいきたいと思います。
社会やビジネスに貢献しながらもアカデミックな研究に注力できるのは、この会社ならではの大きな強みだと感じます。衛星の研究は大学機関でもできるかもしれません。けれど、打ち上げた衛星で実証実験を行い、その先のビジネスに結びつけていけるのは、DTCYだからこそできることでしょうね。

S.K：Cyber advisoryの魅力は、自分達の技術力を使ってお客様の課題を解決できる点にあります。ストラテジーの戦略立案や長い目で見たセキュリティ対策はもちろん大事ですが、即時的な効果を生む対策を提案できるのは魅力です。いってみれば、明日サイバー攻撃を受けてもおかしくないわけですから。そうした大手企業の足元に潜む脅威に対して、アドバイザリーを行い課題解決ができるのは、DTCYならではの経験と面白さなのかなと思います。
現在、私が担当しているのは金融業界のお客様が中心なので、そこからさらに幅を広げ、メーカーやインフラなど、ものづくり大国・日本の根底を支える業界のお客様にもサービス提供できる技術を身につけていきたいですね。コンサルタントとしてのスキルとホワイトハッカーとしてのスキル、どちらも高めて成長していける環境はDTCYの魅力だと思います。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

自らのバックグラウンドを活かし、バリューを見出す挑戦を重ねていく

新卒入社者トークセッション（対談セキュリティ）
サイバーセキュリティのバックグラウンドを活かして活躍する同期入社の2人の若手社員が、
DTCYの魅力を語ります！
I.T、K.M
デロイト トーマツ サイバー合同会社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります

セキュリティ知識を活かせる、この上ないフィールド

DTCYに入社された経緯と理由についてお話しください。

I.T：私はアメリカの大学に留学し、サイバーセキュリティを専攻していました。具体的には、社会に対するサイバーセキュリティ教育の拡大を目指し、プラットフォームの整備やWebサイトへの寄稿など幅広く経験しました。実はプログラミングを学びITに親しんだのは大学からだったのですが、サイバーセキュリティの面白さにのめりこんでいきましたね。

K.M：私も情報系の学部という点では同じです。大学ではコンピューターサイエンスを学び、その後、大学院で人工知能を専攻してからアメリカに留学しました。そこでは人工知能に対するセキュリティにおける攻撃とその防衛策について研究していましたね。

I.T：当時の最先端の研究ですね。そこから就職活動をスタートするわけですが、私は最初はアメリカで就職するか迷いました。しかし、長期的に腰を落ち着けて働ける環境がいいと考え、日本に戻る決断をしたのです。グローバル企業でありながら日本法人で働けるデロイト トーマツに興味を持ち、ボストンキャリアフォーラム（毎年10月～11月頃にボストンで開催される世界最大級の就職イベント）を通じてDTCYに興味を持ちました。
DTCYに惹かれたポイントは二つあります。まず、これまで自分が研究してきた分野をそのままビジネスに活かすことができるということです。もう一つは、チームでコンサルティングに取り組めるという点ですね。ITというキーワードには、どこか内にこもるようなイメージもあると思います。しかし、お客様の課題解決につなげるためには、お客様の気持ちに寄り添う必要があります。コミュニケーションをすることが好きな私にとって、チームでお客様に対してコンサルティングを行え、技術的な知見も磨けることは大きなポイントでした。さらに言うなら、国境を越えたコラボレーション案件にも取り組めるので英語力も活かせると考えました。これは他のコンサルティングファームやSIerにはない魅力でしたね。

K.M：DTCYは、新卒でもサイバーセキュリティを専門としたコンサルタントのポジションに就けると明言していましたからね。ですが私の場合、I.Tさんのような計画性はなかったかもしれません（笑）。実は当初は、留学先の友人と起業するつもりだったんです。しかし就職というキャリアの可能性も残そうと考え、ボストンキャリアフォーラムに急遽参加することにしました。

I.T：なぜDTCYを選んだのでしょうか。

K.M：ウォークイン（当日に履歴書を会社ブースに提出し選考を受けること）を実施していたのはDTCYを含むコンサルティングファーム2社のみでした。そこでDTCYを知り、新卒採用でサイバーセキュリティの専門職を募集していることにまず驚きました。日本の大学でサイバーセキュリティを専攻している学生は本来、ほとんどいませんからね。そんな中、自分の専門領域が活かせるということもありDTCYを訪れ話を聞いてみると、お会いした社員の人柄が良く、どんどん会社の方針に興味が湧いていきました。サイバーセキュリティ領域の人材を新卒で採用し、組織を拡大していこうというビジョンを知り、納得がいったのを覚えています。そして選考がスムーズに進み内定を頂き、計3日間で就職活動を終えました。

I.T：3日とは、すごくスピード感のある話ですね。今の話とつながるかもしれませんが、私にとっても面接は大きなターニングポイントでした。他社の面接であれば、人事の方など、サイバーセキュリティのフロントポジションにいない方が対応されるケースが多いのですが、DTCYは面接のときに現場にも参画しているパートナーの方が来られたので、とても好印象でした。話もわかりやすく、働くイメージが明確になりましたね。

自らの知見が仕事に活き、バリューを見出せる

現在の業務内容と、学生時代の経験をどう活かせているかお聞かせください。

I.T：グローバル製薬企業様の国内工場のセキュリティ製品の導入支援と運用を手掛けています。具体的には、サイバー攻撃などのセキュリティにおける脅威から工場を守るために、シンガポールや東南アジア、ヨーロッパなどの全ての工場に標準化されたセキュリティ製品を導入する大規模なプロジェクトです。扱う製品は、最先端のファイアウォールやモニタリング機器、ネットワーク通信の脆弱性（OSやソフトウェアにおけるセキュリティ上の欠陥）を検知するモニタリングツールなど、多岐にわたります。自分の知識を駆使し、サイバー攻撃から工場の製造ラインを守り、薬品の品質管理検査データや研究情報の流出を防ぐことができるため、お客様の工場内における大切な資産を守ることにつながります。これはまさに自分がやりたかったことだと、やりがいを感じているところです。

K.M：私の場合は、機密保持の観点で詳細にお話できないプロジェクトが多いのですが、とあるお客様のインシデント対応という観点で、セキュリティ態勢や対策の有効性を攻撃者として確認するプロジェクトに参画した例が挙げられます。もちろん擬似的なものではありますが、サイバー攻撃を受けた現場に入り、実際にどうウイルスが執行され、どのような被害を及ぼすのかというリアルな実態を目の当たりにできました。この学びは、自分にとって大きな収穫であり、DTCYという信頼があるからこそ、これだけ大きな企業からインシデント対応を任せてもらえたのだと思いますね。

業務全般に言えますが、私が積み重ねてきたサイバーセキュリティの知識を認めてもらえる機会が非常に多く、そこに大きなやりがいを感じます。かつ、チームの先輩と専門的な知識について話し合えるので、仲間と分かり合える喜びがありますね。DTCYでなくては得られない経験、味わえないポジションだと思っています。

I.T：そこには大きく共感します。DTCYが提供するサービスは上流に関わるものが多いですが、上流から下流まで多様な知識を持つ先輩方がいます。サイバーセキュリティの知見としては全てをカバーできますし、私自身が持つ知識もバリューとして見出してもらえる。これまで積み重ねてきた学びが活きる瞬間を日々実感できますね。

社会貢献性の高いミッションへ挑み、見える世界も広がっていく

I.T：ライフサイエンスとヘルスケアの領域で一流のコンサルタントになりたいと考えています。私は大学でアメフト部に所属していたので、ケガなどで病院にお世話になることも多かったのです。だから病院や製薬会社などのメディカルといわれる領域は、非常に身近であり、自分ごと化できる領域でもあります。

K.M：社会に貢献している実感が得られるわけですね。

I.T：過去には、病院がマルウェアに感染し、カルテを暗号化されたことで患者情報を確認できなくなった事件もありましたが、今後はますますサイバーセキュリティに深い知見を持つアドバイザリーの力が必要とされます。そして、患者の情報を守ることで、真に助けを求めている人々の役に立つことができるのではないかと思っています。

K.M：私は常にワクワクする場に身を置きたいと考えています。DTCYに入社してからの3年間、アサインされた案件は自身が希望したものか、想定をはるかに超えた面白いものばかりでした。知的好奇心を満たしてくれる難易度の高い案件に挑戦し続けているので、常に胸が高鳴ります。
DTCYで働くメリットの一つに「見える世界が広がる」という点が挙げられますね。DTCYという大きなフィールドに身を置いてこそ、見える景色があるということを実感しています。そうした意味では、自分の目標は達成し続けられていると思いますね。

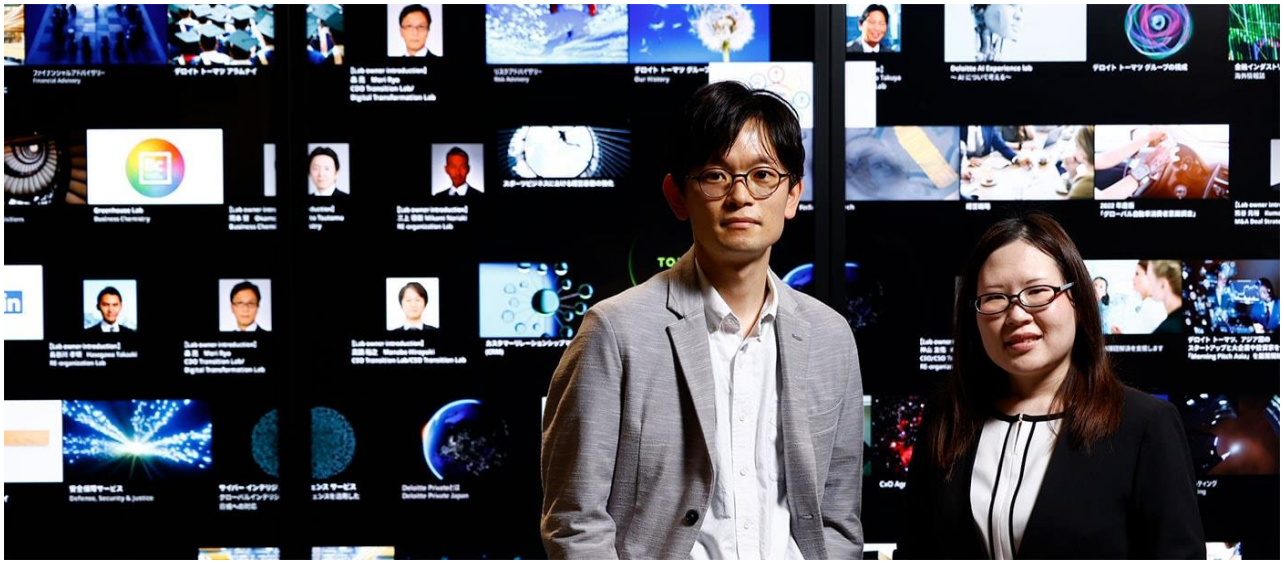
一覧へ戻る

採用ページへ戻る

やりたいことに挑戦できる環境で、自分の専門性を磨いていける

新卒入社者トークセッション（CIC・R&D）
セキュリティの脅威から企業を守るCICと、基礎技術から研究開発を行うR&D。DTCYならではの専門職種で活躍する同期入社の2人の若手社員が、仕事の面白さについて語ります！
N.Y、N.A
デロイト トーマツ サイバー合同会社

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



やりたいことを追究した結果、DTCYに行き着いた

現在の配属部署とミッションについて教えてください。また、なぜDTCYに入社したのでしょうか。

N.Y：私は、サイバーセキュリティ先端研究所（R&D）に所属しています。DTCYではサイバーセキュリティにおけるコンサルティングサービスを提供していますが、戦略や対策の提案のみでなく、実現するためのセキュリティ機器の導入やツールの提供も行っています。中でもR&Dでは、サイバーセキュリティが実用・実装されている分野だけでなく、新たな分野に役立つ技術開発にもチャレンジしています。例えば、昨今は宇宙分野のビジネスに注目が集まっていますが、私は人工衛星をサイバー攻撃から守る研究を進めています。先端分野で蓄積したナレッジをコンサルティングサービスに還元し、研究開発の成果を社会に還元していくことを目指しています。

N.A：私はCIC（Cyber Intelligence Center）に所属し、お客様のネットワークやPCなどのインフラ環境をサイバー攻撃から守ることをミッションとしています。監視・分析を通じて、サイバー攻撃の検出・通知を行う専門部隊で、SOC（セキュリティ・オペレーション・センター）といわれるサービスを提供しています。お客様のインフラが攻撃された際に、マルウェア感染や攻撃者による横展開など影響を受けた可能性があるかを確認し、お客様に攻撃によってどのような事象が発生しているか、どのような対応をとるべきかをリアルタイムで通知・助言することが私たちの仕事です。

N.Y：なぜDTCYを目指したのかという話ですが、実は私は、大学ではサイバーセキュリティと関連性がない物理工学を専攻していました。しかし、自分の将来を考えるにあたって、もっと楽しめることを仕事にしたいと思ったんです。また、専門性と市場価値を高めながらキャリアを築きたいという考えもありましたね。そこで、以前から興味のあったサイバーセキュリティを学ぼうと決意し、大学院ではサイバーセキュリティを専門とする研究室に編入しました。

こうした背景があったからこそ、就職活動の際には、セキュリティの専門部署を置いている企業を中心に見ていきました。また、研究室のOB・OGにはサイバーセキュリティ関連の企業に入社している方が多くいましたが、一口にサイバーセキュリティと言っても、千差万別です。例えば医者の担当領域が「外科」「内科」など細分化されているのと同じくらい、セキュリティの領域も奥深いわけですね。私はこれまで培った知見を活かしつつ、新たな学びを得たいと思いがあったので、近い将来のキャリア像で参考にしたい先輩から直接話を聞き、道筋を探した結果、自然とDTCYのR&Dにたどり着いたというイメージです。

N.A：私の場合は、ITに触れたのは専門学校時代。専門学校でコンピューターサイエンスを勉強する中、セキュリティって面白いなと興味が芽生えたんですね。その後、大学に編入し、大学院では情報セキュリティの研究に従事しました。主にフィンガープリント（人物や端末などの識別に用いられるデータの集積）の研究をしていました。Webサイト上でフィンガープリントを収集することでアクセスしてきたユーザーの属性をある程度識別できてしまうという点に魅力を感じたんですね。研究とはまた別ですが、個人的にはハニーポット（不正なアクセスを受けることを前提としたシステムやネットワーク、コンピューター機器）への攻撃を観察することが一番好きでした。

N.Y：ハニーポットって、攻撃を引き寄せるおとりとか罠みたいなものですよね。

N.A：そうです。集まった攻撃を観察して、何を目的とした通信なのか、最初の攻撃がもし成功したら次に何を行おうとするのかを、実際に見て学んでいくのが好きだったんです。ですから、就職活動の際、「好きなことを仕事にしたい」と考えた結果、その感覚に一番近いのが、サイバー攻撃の実態をこの目で見ることができるSOCでした。ただ、SIerなど他の企業では、入社時に「セキュリティ分野の、特にSOCの仕事がしたいです」と伝えたとしても、必ずしもSOCの仕事ができるとは限りません。その点、DTCYのCIC職採用はそれが確約されているので、受かったら絶対に行きたいと考えていました。

N.Y：自分が好きだったセキュリティの知見がそのままベースとして活かせる、DTCYという環境がとても魅力的だったというところは私たち二人とも共通していますね。

N.A：専門性と楽しさを突き詰めていった結果、DTCYにたどり着きました（笑）。

R&DとCICは、業務内容も働き方も特殊

具体的な業務内容や仕事の進め方、働き方について教えてください。

N.Y：基本的には個々がメインとなる研究テーマを持ち、それに沿って研究を進めています。プロジェクトごとの定例会議で研究の進捗報告や今後の方針についての議論を行い、それぞれの成果をまとめていきます。近年はコロナ禍でDTCY全体がリモートワークを推進しているので、R&Dでも引き続きリモートワークを主体としています。定例会議もオンラインで開催することが多いですね。午前中はこれをやってその後は、というようなタイム感ではなく、自分でスケジュールを組みながらフレキシブルに動いています。私は現在、人工衛星の研究でプロジェクトリーダーを務めているので、衛星の開発・打ち上げスケジュールを引きながら、サイバーセキュリティの観点からどのような脅威が想定でき、それをどう防ぐのか、どう実装を実現していくのかを考えています

N.A：年間を通じて見ると、忙しい時期などはあるのでしょうか。

N.Y：研究成果がある程度蓄積されたら、国内や海外の学会で発表するため、論文の執筆や研究発表の準備なども行います。例年10月に開催されるコンピューターセキュリティシンポジウムなども含め、国内だけでも年に2、3回は学会が開催されるので、準備期間はかなり忙しくなりますね。
動き方としては、チーム単位が基本です。プロジェクトや研究テーマごとにチームを組むわけですね。最もプレッシャーが掛かるのは、自分が開発した成果物をお客様に向けてサービスとしてリリースする時です。サービスや開発で利用するツールについても、基本は自分たちで一から組み立てていきます。私の場合ですと、セキュリティ人材の育成を目的としたサイバー演習のサービス化に向けて、演習で用いる仮想組織ネットワーク環境の構築や、疑似マルウェアの開発、それらを制御するWebインタフェースなども、チームで内製したりしています。そういう意味では、いわゆるIT企業のエンジニアと近い側面もあるかもしれませんね。CICはどうですか？

N.A：CICは監視業務を行うので、出社することが基本になっています。個人でお客様を担当するのではなく、チームですべてのお客様の環境を監視するのがセオリー。異常を検知するアラートが上がったら状況の分析を行い、問題があると判断した場合にはお客様に通知を行います。日中は企業が活動しているため、マルウェア感染の疑いのあるアラートなども発生しやすいですね。多い時には勤務時間内に50件以上ものアラートが上がってきます。もちろん、すべてに即時対応が必要というわけではありません。ログをパッと見ただけで影響があるかどうかを判断できるケースもあれば、深掘り分析が必要なケースもあります。
インシデント対応が必要な場合は、迅速に動かねばなりませんが、チームで相談できる体制があり、スーパーバイザーにもすぐにエスカレーションできるようになっているので、早く結論を出すことができるのは強みだと言えます。また、セキュリティ・オペレーションの自動化ツールを活用したり、お客様への通知をテンプレート化したり、分析方法のテキスト化をしたりなど、全体をシステマチックに効率化することで、重大なインシデントが発生してもリソースを割けるようにしています。

N.Y：いわゆるレスキュー部隊のような動き方をするわけですね。

N.A：そうですね。CICは24時間体制で動いているので、働き方も特殊です。日勤・夜勤のシフト制で勤務するので、例えば朝の9時半から21時半まで勤務、というような形ですね。その切り替わりのタイミングには３～５日間のお休みが入ります。日中は5人くらいで勤務することが多く、余裕のある夜間は2名程度となるケースが多いでしょうか。

N.Y：本当に大きなインシデントってどのくらいの頻度で起こるんですか？

N.A：私自身が経験した範囲でお話すると、年に1回くらいは大きなマルウェア関連のインシデントが発生しているような気がします。とはいえ休日がまとまって取れ、自由になる時間も多いので、スキルアップの勉強もできますし、プライベートを充実させることができます。また、夜勤の場合はアラートも少ないので、専門書を読んだり、仮想環境を使って実際に手を動かして技術を習得したりとスキルアップや自己研鑽に費やす時間もしっかり確保できますね。

N.Y：20代の先輩社員など、かなり年齢の近い方も多いので、チャットなどで相談・質問しやすいフラットなカルチャーですよね。人間関係はとてもよいと思います。

N.A：チーム全員で情報共有し、お客様のことを考えて最善の動きを皆で設計していく。誰か一人に負荷がかかるのではなく、皆で協力してクオリティの高い監視を提供していこうという一体感はありますね。

専門性を磨き、達成感と自己成長につなげていく

仕事の面白さや身に付けられる専門性について教えてください。また、今後のキャリアの展望についてもお願いします。

N.Y：R&Dでは、複数のプロジェクトが走っていますし、さまざまな企業や自治体と連携しながら実用化に向けて取り組んでいます。DTCYにおいては、研究の中で専門性を磨いていくことができますし、ただ研究するだけでなく、社会に実装されていく達成感を味わえますね。私がメインで携わっている人工衛星のプロジェクトを実現するには、まだ数年の時間を要すると思いますが、打ち上げの瞬間を楽しみにしています。まず当面の目標は、人工衛星を無事に打ち上げることです。しかし、それがゴールではなく、研究者としてまた新たな挑戦をすることが求められます。サイバーセキュリティが必要とされる場所を探し、自分で課題を見つけていくことが大事だと思っているので、次に何をするのかを考えていきたいですね。

N.A：チャレンジという観点で言えば、最近のトピックスはありますか？ 自分の仕事が社会にどう役立っているか見えるのは面白そうです。

N.Y：前橋市とのプロジェクト（前橋市のスマートシティの推進をデロイト トーマツはトータルで支援・知見を提供）が挙げられるでしょうか。新しいデジタルIDやプラットフォームをDTCY側から提案ならびに実装し、市民の方や利用者により良い行政サービスや民間サービスの提供を開始しています。長期にわたって取り組むプロジェクトなので、足の長い仕事になりますよね。

N.A：自分の仕事が身近に感じられるのはいいですね。私は今後、もっと分析力を高めていきたいです。私のお客様の環境は多種多様ですが、どのような機器を使っているのか、それらがどういう関わり方をしているのかという構成図を読み解くことで、自分の中の解像度が上がります。「どこまで状況を把握できて、どこから不明なのか」をちゃんと伝えられる瞬間に、分析のスキルが磨かれていることを実感できますね。お客様にサービス提供する以上は、そのクオリティをより高めていくことが大事ですから。自分の分析力を高め、どこまで現状を理解・把握できたのか、どこに不明点があるのか、それをお客様に確認してもらうことが必要なのかを迅速に明確にしていけるようになりたいです。それができたら、自分の仕事に対する満足度もさらに高まると思っています。

N.Y：サイバーセキュリティの世界は、非常に幅が広いので、どの分野で専門性を磨いていくのかが重要ですね。DTCYがまだ着手していない領域もきっとあるので、サイバーセキュリティそのものを学んだ経験がなくても、その領域に専門性を持っていれば活躍できる可能性は大きい。多様なバックグラウンドを持つ人と一緒に働くことで、新しいテーマの発見につなげていけるだろうと思っています。

クライアントに寄り添い、真の変革にコミットする

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Region シニアマネジャー
コンサルティングファーム出身
成長実感／多様な専門家との協働／クロスボーダー

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A.大学卒業後、CRM系コンサルティングファームに入社しました。小さなファームだったため、若手の頃からフロントに立つ機会が多く、脳みそに汗をかく毎日でした。そのおかげもあり、コンサルタントの基本動作（クライアントの言葉の裏にある背景を理解し、示唆を出し、具体的なアクションにつなげる）が身についた思います。
その後、日系コンサルティングファームに転職し、製造業・金融業を中心にDXや業務改革、PMI（Post Merger Integration）などの案件に従事しました。マネジメント層と会話する機会が増える中、何をどう実現するか（What・How）だけではなく、Why（なぜすべきか）の意思決定にも関与していきたいという思いが強くなっていきました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A.DTC入社後は、想像以上に幅が広がったと感じています。
業界軸のインダストリー領域・サービス軸のオファリング領域双方のチームを有するRegion（西日本）組織に所属し、双方のチームでの経験を通じて、今では幅広い引き出しを持ちながら、クライアントとの日々の議論に臨めるようになったと感じています。
また、クライアントの課題・ニーズに合わせ、Region内のインダストリー・オファリングチームや東京側の組織とコラボしながら、面的なサービス展開が可能な点も、DTCの魅力だと感じています。実際、クライアントからも「抽象的なテーマや困ったことがあった際、DTCに頼むと必ず何かが返ってくる」というコメントをいただく機会が多いです。

Q.（他ファームと比較して）DTCの良さを教えてください

A.今後、生成AIをはじめとしたテクノロジーの進展で、情報の非対称性による価値提供だけではコンサルタントの価値は薄らいでいくと感じています。その中で、Go-to-Marketを常に意識しながらクライアントの声・関心事を丁寧に汲み取り、将来を見据えたアジェンダ設定・示唆出しにとどまらず、変革までコミットする、という共通言語が社内の多くのメンバーにある点は、DTCの強みだと感じています。また、Regionという西日本に根差したコンサルタントメンバーが多く、様々なRegion発に携われるチャンスがあることも大きな魅力だと感じています。

Q.（これを見ている他社の）ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A.私が所属するRegion Divisionは、インダストリー・オファリングそれぞれの専門性を持ったメンバーが在籍し、組織の壁なくクライアントへの価値提供を目指しています。特に西日本エリアには、日本の産業を牽引してきた製造業が多く、今後さらにグローバルに目を向けた取り組みが増えていくと思います。その中で、ビジネスモデル変革やデジタル化、人的資本最大化、ESG対応など多岐にわたるテーマへの取り組みが必須となり、皆様のご知見・ご経験が最大限活きる刺激的な環境だと感じています。是非一緒に働けることを楽しみにしております。

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Region Division 西日本エリア（関西・福岡オフィス）コンサルティングサービス領域

クライアントやメンバーとともに、困難を乗り越え成長する実感

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Region マネジャー
ITソリューション企業出身
成長実感／多様な働き方／チャレンジできる環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.転職（就職）の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか

A.新卒で入社したSIerでは様々な業界のクライアントのビジネス要件を、テクノロジーで形にする楽しさを学びました。そして、その後転職した事業会社では、サービスを深く追求し、プロダクトや業務をITの面からプロデュースする責任にやりがいを感じていました。
事業会社のいくつかのプロジェクトでは、コンサルタントの方々に支援していただいたことがあります。その方々と接する中で、コンサルティングという仕事は、私がこれまでに経験したふたつの職種の両面の要素を持つと感じ、興味を持ちました。クライアントに伴走し、ビジネス戦略の検討や業務課題の解決を行うプロセスは、事業会社で私が魅力を感じていた点と重なります。しかしそれだけではなく、プロジェクト単位で多くのクライアントと向き合う機会を得られる点は、コンサルタント職の魅力だと感じました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A.私はITガバナンスやセキュリティに関するアドバイザリー業務に携わっており、クライアントが直面する内外のリスクや脅威に対し、リスク対策戦略立案や態勢・プロセス構築などを行っています。
テクノロジーが日々進化するのと同じく、事業環境を取り巻くリスクや脅威も日々アップデートされています。そのため、私の経験や知識だけでは、リスクを戦略的にマネジメントすることは困難です。クライアントやチームメンバーとのディスカッション、デロイト トーマツ グループの様々なファンクションとの連携やナレッジ調査等を通して、ひとつひとつクリアしていきます。いろいろな人を巻き込みながらストーリーを描き、クライアントやチームメンバーと何かを成し遂げたとき、ともに成長できる喜びを感じます。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A.成長を支援する文化が浸透しているように感じます。評価やマネジメントを行う上長とは別に、個人のキャリア開発を支援するコーチ制度があり、コーチはキャリアステップに関するアドバイザリーを行います。プロジェクトアサインの際は、対象者のコーチにキャリア志向や状況を確認の上で、本人やプロジェクトマネジャーと調整を行います。
また、働き方や多様性に関する意識も高いと思います。私の所属する福岡オフィスには、時短勤務制度や育児休暇を取得する男性マネジャーが何人もいますし、私自身二人の子供を育てながら働いていますが、そのことで困難やビハインドを感じるような場面はありません。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A.コンサルティングファームは、厳しい業界だというイメージがあるかもしれません。確かに常に向上心や努力が必要ですが、成長したい人には、DTCは素晴らしい環境だと思います。切磋琢磨する優秀なメンバーがいて、成長を支援する文化や制度があります。そして、福岡拠点は比較的コンパクトな部隊でありながらも、様々な領域のプロフェッショナルがいますので、日々刺激を受けながら西日本・九州圏の多くの地域ビジネスに関与する機会があります。ぜひご一緒できる機会を楽しみにしています。

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Region Division 西日本エリア（関西・福岡オフィス）コンサルティングサービス領域

クライアントに真摯に向き合い、自分自身も成長し続けられる環境があります

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Technology Media＆Telecommunications（テクノロジー／メディア／通信領域）
シニアマネジャー
コンサルティングファーム出身
働く環境・魅力／女性活躍／グローバル連携

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A.メディア・エンターテインメント(以下M&E）企業の変革・成長を支援するコンサルタントになりたいという思いを持ち、新卒で外資系総合コンサルティングファームに入社しました。Technology, Media & Telecommunications Division（以下TMT）というインダストリーの部署に数年間所属し、複数のプロジェクト経験を積みコンサルタントの基礎スキルを修得しました。マネジャーを見据えて今後のキャリアを具体的に考え始めたタイミングで、それまでの経験の延長線ではなく、よりM&Eのクライアントにフォーカスしつつ様々な種類の案件に携われる環境でインダストリーコンサルタントとしてのスキルアップを図りたいという考えに至り、DTCのTMTへ転職を決めました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A.期待以上に幅広い種類のプロジェクトを経験することができ、スキルの幅が広がり、多角的な観点からクライアントの課題を捉え最適なアプローチを検討する力を養うことが出来ました。前職では案件内容がやや偏り気味でしたが、DTC入社後のTMTでは事業戦略、デジタル、人事、テクノロジー等様々なテーマに携わることが出来ています。
TMTには業界動向に対する高い感度、担当クライアントへの強い思い、多様なバックグラウンドを持った個性的なメンバーが所属しており、組織内でのナレッジシェアも活発に行われているので、先端知見やトレンドを常にキャッチアップできる環境です。またプロジェクトでは専門家とのコラボレーション機会が非常に多く、業界知見のみでなく周辺の領域知見も強化することが出来ます。そのような環境で、インダストリーコンサルタントとしての提供価値や、自分ならではの目指したいコンサルタント像を具体的にイメージできるようになりました。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A.やはり各分野のプロフェッショナルが揃っており、どの分野でも高いレベルのサービス提供やダイナミックな変革のサポートが可能なこと、またそのためにグループ内・部門間のコラボレーションを重視していることは大きな魅力だと思います。日々の業務においても、どのようなテーマに対しても社内で有識者に協力を仰ぎタイムリーに議論を深められる環境です。
また、個の強みを尊重しながらチームとしてのパフォーマンス最大化を図るカルチャーはとても良い所だと感じます。私の所属するTMTでも、一人一人が生き生きと働ける環境作りと、それを組織力強化に繋げるための各種施策を多くのメンバーが主体的に推進しています。

Q.コンサルティングファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A.クライアントへの提供価値・品質にこだわりたい方、年次に関係なく自分自身の成長をもう一段加速させたい・キャリアの可能性を広げたいと考えておられる方は、変化を恐れず、コンサルタントとしてのステップアップの環境にDTCを選んでいただけたらと思います。また先端のテクノロジーを活用しながらTMT業界の変革に貢献したいという思いのある方は、TMTでやりがいのある仕事ができるのではないかと思います。

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Technology, Media ＆ Telecommunications（テクノロジー/メディア/通信領域）

不確実な未来に備えるのではなく、クライアントと共に未来を創り出したい

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Automotive　ディレクター
コンサルティングファーム出身
社風／グローバル連携／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A.大学卒業後、コンサルティング業界に入り、最初の7年間は自動車OEM・サプライヤーのSAPシステム導入とグローバルロールアウトに従事し、主に倉庫の生産・需要予測モジュールの要件定義、システムアーキテクチャを担当しました。
SAPプロジェクトでは、システム導入からプロジェクトマネージャーへと役割が増すにつれ、お客様の対話相手も現場担当レベルからCXOレベルへと上がっていきました。その過程で強く感じたのは、企業にとってシステムを取り込むだけでは変革はできないということでした。そこで、より高い視点（IT中長期戦略、DX戦略、GX戦略）から、クライアントの変革を実現し、激変する市場変化への対応を支援したく、コンサルティング業界に入って8年目に経営コンサルタントへと転身しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？（前職では得られない魅力・充実感、スキルアップ等）

A.DTCは、企業戦略、DX戦略からプロジェクト管理、システム導入まで、End to Endの全領域をカバーし、且つグローバルネットワークによる横連携もあり、不確実な環境下でのクライアントへ変革の支援をすることが可能です。
私自身は、入社後は自動車OEM1社のアカウントリーダーの役割として、1エリア、1プロジェクトにとどまらず、アカウント全体に焦点を当ててきました。中長期的な全社戦略から、各事業部の戦略、各主要マーケティング戦略やDX、GX戦略の実行まで支援でき、より深く自動車OEMのことを理解することができました。DTC社内の横断連携、グローバルサポートの深さと広さに感銘を受けており、1プロジェクトや1部門だけではなく、DTC全体がクライアントに価値を提供するために全力を尽くしていると感じております。

Q.（他ファームと比較して）DTCの良さを教えてください

A.少なくとも私の経験では、DTCほどプロジェクト管理や品質管理にパートナーが深く関与しているファームはありません。また、社員のキャリアに対するサポートや尊重は、これまで経験したことのないものでした。新しい分野(例：GX、モビリティサービス等)の開拓等も他社にはない先駆者的な力があると思います。

Q.（これを見ている他社の）ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A.「Client Thinking」、「Innovations for the Future」、「Challenge of Uncertainty」のチームと働くことができる！「Thinking of you」、「Helping you grow」の仲間がいる！

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Automotive（自動車領域）

Automotive（関西・東海エリア採用 / 自動車・製造業領域）

多種多様なバックグランドを持った仲間と、やりたいことにチャレンジ

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Automotive　シニアマネジャー
外資系ソフトウェア企業出身
多様性／女性活躍／グローバル連携

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.異業界からコンサルティング業界へ転職されたきっかけを教えてください

A.大学卒業後は、ソフトウェア会社にてシステム導入などの業務に従事しておりました。やりがいを感じつつも、システムがカバーする領域に縛られず、戦略から実行まで幅広い領域の支援をしたいと思うようになりました。そこで、まずはビジネスの知見を深めるため、英国の大学院でMBAを専攻しました。
世界各地域から集まる仲間と学ぶ中、自分の強みとは何か、日本の強みは何か、今後どのような人と働きたいのかを考えたところ、以下の3つが軸であると考え、転職活動を始めた中でDTCと出会いました。

1. システム知見を活かせること
2. 日本の基幹産業である「ものづくり産業」向けにサービスを提供できること
3. グローバルメンバーと切磋琢磨しながら働けること

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？（前職では得られない魅力・充実感、スキルアップ等）

A.まずは、上記3つの軸が実現できる環境で働いており、やりがいを感じております。希望していた戦略から実行までのプロジェクトをデリバリーしておりますが、クライアントの真の困りごとやニーズを引き出し、そこから方針や戦略を策定し、実行に落とし込むまでは、毎回チャレンジがあります。
DTCの各分野のスペシャリストと共に、「何が必要か」、「なぜ必要か」、「なぜ今なのか」を、クライアントの各担当者の視点に寄り添って伝えていくと、相手から、「そういうことか、自分たちでもやり方を考えてみる」などというポジティブな言葉を頂くことがあります。そのような時は、自分が成長できたのではないかと実感する瞬間です。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A.DTCのカルチャーは、周囲がいつでも協力的であることだと思います。自分のやりたいことを伝えると、実現できるよう直接アドバイスをしてくれたり、国内だけではなくグローバルネットワークから適任者を探し紹介してくれたりもします。そのおかげで、ドイツ出向も実現できました。
このような経験から、私自身、仲間から、こんなことをやりたい、または実現したいと相談があった時には、全面的にサポートするよう心がけております。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A.私は、Automotive Unitに所属しておりますが、自動車業界は、「100年に1度の変革期」の真っ只中にあります。DTCは、自動車会社がこの変革を勝ち抜けるように戦略（本社の経営戦略）から実行（販売店の業務改善・デジタル化）までを、クライアントに寄り添って支援しております。今後は、さらに多種多様な知見が必要になってきております。ぜひ、皆様の知見・経験を融合し、より良いシナジーを創出していきませんか。

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Automotive（自動車領域）

Automotive（関西・東海エリア採用 / 自動車・製造業領域）

異業種出身者ならではの価値は多彩。
是非チャレンジを。

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Consumer Business & Transportation シニアマネジャー
中途採用
グローバル連携／チャレンジできる環境／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.異業界からコンサルティング業界へ転職されたきっかけを教えてください

A.新卒で入社した前職では、約10年間経営企画部に所属し、グループ会社の経営管理・支援を行いながら、組織再編やM&A等のプロジェクトに従事していました。グループ全体に波及する様々なテーマに従事できる恵まれた環境ではありましたが、内向きの実務を繰り返す中で、業界を超えたネットワーキングや体系的なビジネス知見の学びを求めて、自ら国内のMBAに通い始めました。日々、学習したことを仕事の中ですぐに実践するという2年間を過ごす中で、様々な業界から集う仲間からの刺激を受け、コンサルティングにチャレンジしたいという思いが強まり、MBA卒業直後に転職を決意し、入社しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A.DTCは、飽きることのない多種多様なテーマが舞い込んでくる、もしくは、自ら掴みに行ける、という環境で、かつ、それを乗り越えるためのバラエティに富んだ仲間が身近にいるという環境ですが、私個人としても、日々、InputとOutputを繰り返すことで、自分なりの課題解決の型を蓄積しながら、成長できていると感じています。特に、前職ではチャレンジできなかった経営課題に対して、クライアントとともに汗をかきながら取り組み、結果を出した時には、大きな充実感とともに、改めてコンサルティングにチャレンジして良かったと感じます。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A.異業種から飛び込んだ人材でも、その強みに着目し、尊重・育成しようとする雰囲気や制度がある点は挙げられると思います。例えば、入社直後から、業界出身者として意見を求められることも多かったですし、プロジェクトの中では、クライアントの特徴を捉えたコミュニケーションの推進等は、私自身の強みとして評価してくれる場面が多くありました。加えて、まだまだ成長途上の会社で、社内ルールや組織等がどんどん変化しているので、変化に対する柔軟性・耐性が組織的にあると感じます。私自身も、所属ユニットの組織改善に取り組んでいますが、ユニット・部門・会社の課題や改善策を提案できる機会は多く存在するので、各メンバーが、他人任せにするのではなく、主体性を持って組織をより良くしていく雰囲気はあると思います。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A.DTCという組織を最大限活用して、世の中に広くインパクトがある課題に向き合い、その中で自己成長したい人にはお薦めの会社だと思います。もちろん、自分自身も成長し続けなければならないというチャレンジングな側面もありますが、それを支える制度やマインドを持ったメンバーが揃っていますので、モヤモヤ悩んでいるくらいなら、ご自身を信じて、是非チャレンジしてみてください！

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Consumer （消費材、小売・流通、航空運輸・ホスピタリティ・サービス領域）

バックグラウンドを活かした"その人ならでは"の価値提供

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Consumer Business & Transportation シニアコンサルタント
中途採用
女性活躍／チャレンジできる環境／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.転職（就職）の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか

A.事業会社でシステム担当をしていたのですが、関係者が多く、調整が難しい場面も多くありました。都度、わかりやすい説明や進め方を検討し、その結果、PJを推進できた際にやりがいを感じていましたが、そのメソッドは手探りであり、より最適な手法を習得したいと考えていました。コンサルタントであれば、その点の強化ができるのではないか、と思ったのがきっかけでした。
加えて、目の前のシステムに向き合って最適化を検討するだけではなく、より広い視点で、どのようなシステムがその会社・組織・業務にとってマッチしているのか、グローバルでの最新トレンド等もふまえて、高い視座での検討ができるようになりたいと考えました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？（前職では得られない魅力・充実感、スキルアップ等）

A.まずは、スキル面です。基礎スキルに加えて、案件を前に進める課題抽出・アプローチ設計等を強化することができたことは、今後のキャリアにとっても貴重な経験だと思っています。物事が進むスピードも早く、密度高く経験ができています。
次に、想像以上に、多様な経験ができている点です。自分の希望を発信し実現するチャンスもあり、これまでIT領域を軸に業界横断での経験や、海外オフィスメンバーとの協業等も経験できました。基本的にはルーティンワークはなく、新しいことの連続なので、推進方法の検討やお客様に提供できる価値の向上方法に毎度頭をひねり、日々新鮮な気持ちで業務しています。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A.想像していたよりもフランクでサポーティブだと感じています。上司とのコミュニケーションやフィードバック機会も多くあり、成長を目指す人を会社としてサポートしようとする雰囲気があると感じました。
また、いろいろなバックグランドの方がいる環境だからこそ、個を尊重する雰囲気も浸透しています。役職・属性に関わらず意見を聞かれますし、異なる意見があるからこそ新しい価値を創出できる、という理解もあります。出産・育児についても制度があり、自分の希望次第で、調整ができやすい環境だと感じています。私も現在育児中で、一時期、夫が中東赴任で不在の期間もありましたが、引き続きフルタイム勤務しています。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A.コンサルタントは、スキルアップとともに、ご自身の専門性の追求や興味ある分野へのキャリア形成をしやすい環境だと思います。またDTCでは、自ら手を挙げる人や成長のために頑張る人を応援する雰囲気があり、チャンスも多く存在します。
自分の道を追求したい方にも、決められたルートだけでなく自分で道を切り拓きたい方にも、柔軟に対応できる環境だと感じています。ぜひご検討をいただければ幸いです。

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Consumer （消費材、小売・流通、航空運輸・ホスピタリティ・サービス領域）

「私らしく」いられるDTCで、価値創出と自己成長を実現

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Insurance　マネジャー
新卒入社
女性活躍／チャレンジできる環境／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

転職（就職）の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか？

A. 元々私は、大学で映画・アニメ製作を学び、卒業後はハリウッドに行ってプロデューサーになるんだ！と思っていましたが、絵しか描いてこなかった自分がプロデューサーになるにはビジネスも学ばないといけないと思い、大学院ではビジネスを学びました。
その時のクラスメイトにコンサルタント出身者が何人かいて、「1つの企業に属しながら、様々な業界・領域に関する経験を積むことができる」という話を聞き、コンサルタントという仕事にワクワク感を感じていました。
改めて、コンサルタントという仕事を振り返ると、この業界は常に成長し続けられる環境に自らを置くことができる、やりがいがあり刺激的な仕事だと実感じています。
中立的にアドバイスをする立場ですので、常に多方面の最新の動向・方法論などをグローバル規模で学び続けることが重要で、それはパートナーのような上位ランクになっても同様です。
映画の世界に居続けていたら知らなかった世界や業界に触れ、知識もマインドセットも各段に幅が広がり、コンサルティング業界に入って本当に良かったと、今はそう感じています。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 学生時代に得たデザインやクリエーティブスキルを活かし、クライアントに貢献できている点に自己成長を実感しています。
大学時代は映画・アニメ制作学部で、映像・脚本やアートの歴史等の様々な「表現」を通じ、人々を感動させる方法論を学びました。
これらの「表現」するスキルは、一見すると私のクライアント（保険会社）の業務に関連が薄いと思うかもしれませんが、デザイン思考やクリエイティブを通じて感動的なエクスペリエンスを提供する観点で活用できています。
デザイン思考を通じた新体験・新ストーリーを構築するプロジェクトを複数支援し、金融業界を従来のイメージから、より親近感のある存在へ一新させる事に価値を感じています。
今まで学んできたアートのスキルが、コンサルティング業界でも通用しクライアントから求められることで、社会活動・経済活動の一躍を担っているというやりがいや自己実現を実感しています。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. DTCは私が私らしくいられる職場です。私は外国人で、私以外にも外国籍の方も多数在籍していますが、DTCは多様性を重んじた職場であり、私の強みを活かし、弱みをカバーしてくれるような業務付与や役割分担をしてくれるため、得意領域でバリューを発揮し会社に貢献しようという意欲が湧きます。

また、年齢やランクにとらわれず風通しの良い環境で、フランクな相談や助け合いがグローバル規模で活発に行われています。
新卒入社してまだ半年の頃、クライアントからご提案の機会をもらった際に、まだ進め方がわからず、同僚やマネジャーに相談せず直接パートナーに電話したこともあったのですが、その際もそのパートナーが一緒に提案活動をしてくださり、プロジェクト化できたことは今となっては良い思い出です。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. コンサルタントという仕事は、確実に視野が広がり、自身の領域を拡大できる機会になります。また、評価がしっかりしていて、年齢や属性に関わらず実力主義の職場です。
デロイトの海外メンバーと接点を持ち仕事をする機会もあるため、日本にはまだない考えやビジネス手法等を学べる刺激的な環境です。
「このままでいいのだろうか」、「もっと成長したい」、「いつまでもチャレンジしていきたい！」そんな想いが少しでもある方は私の経験を通じ、ぜひコンサルタントという仕事に興味を持っていただけたらうれしいです！

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Insurance（保険領域）

クロスオファリングの専門性を梃子に、本質的な課題に向き合うやりがい

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Life Sciences and Health Care　マネジャー
医療・ヘルスケアコンサルティングファーム出身
ヘルスケア／女性活躍／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A. 大学院卒業後、事業会社にて数年従事した後、大学・大学院時代に専攻していた薬学、ヘルスケアの領域に携わりたいと思い、ヘルスケア専門の外資系コンサルティングファームに転職しました。そこでは、主に開発後期品の上市後の事業性予測やマーケティング戦略立案に多数携わっていました。患者さんの治療生活を変えうる画期的な医薬品に対しての検討だったので、非常に大きなやりがいを感じました。
一方で、時代の変化から、従来型の医薬品の上市手法からの変革が求められるようになり、開発後期～販売以外のバリューチェーンや、デジタル活用にも関わり、継続的に価値を発揮したいという気持ちが強くなり、ヘルスケア業界に最大の規模を有し、幅広くヘルスケア案件を実施しているデロイトに入社しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. デロイト入社し、より「真にクライアントが求めていることは何か？」を考え、行動するようになりました。
マネジャー昇格後、アカウント担当として、あるクライアントの経営課題に伴走しています。経営課題なので難易度が高く、広範にわたりますが、自分が解決しやすいところに我田引水する必要がありません。それは、デロイトはヘルスケア部門を超えて幅広い分野のスペシャリストが近くにおり、なんでも解決の糸口を見つけ出せるからこそです。逆にいれば、クライアントが本当に困っていること・解決すべきことは何か？を考えさせられる機会になっています。
結果的に、以前は、自分が多少頑張れば価値を発揮できるところへの時間投下で物事を解決しようとしがちでしたが、それ以外の価値発揮の仕方を覚えたように思います。

Q.DTCの良さを教えてください

A. 入社前は、デロイトはドライなのかなと不安でしたが、むしろ逆でした。「自己責任で頑張ってこい」というよりは、「思うように挑戦してよい、もし何かあったら全部なんとかするから！」と後押しを貰えます。挑戦した後には、Bi-weeklyでの公式的なフィードバックだけではなく、パートナーやシニアマネジャーから直後に直々に電話が掛かってきて、「あれ、よかったよ！」だったり、次の挑戦に向けたアクショナブルなアドバイスなどを貰えたりと、仲間の成長を応援し、互いをリスペクトする風土だと感じます。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. 時代の変化のスピードが速くなり、唯一絶対解がない一方、より早く解を出していくことが求められる中で、部門を超えて幅広い分野のスペシャリストが近くにおり、互いにリスペクトする風土は、非常にありがたいと感じます。また、ヘルスケア業界に特化しても、最大の規模を有するからこそ多様な役割の担い方が存在し、どのようなキャリアを歩んでいくか柔軟に変えていきたい方にも、安心して働ける環境であり、一緒に働けることを楽しみにしています。

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Life Sciences ＆ Health Care（製薬、医療機器、医療・異業種参入領域）

やりたいことにチャレンジできる環境があります！

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Customer & Marketing　マネジャー
総合系コンサルファーム出身
成長実感／女性活躍／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCへ移って来られたきっかけを教えてください

A. 新卒で入社した総合系のファームでは、業務基幹システムの刷新プロジェクトに主に従事しておりました。
お客様と伴走しながら業務改革を進めていく面白さは感じつつも、要件定義フェーズから入ることが多かったため、業務改革の大方針やシステム選定といった上流フェーズでの意思決定に疑問を感じることもあり、お客様の抱える課題を戦略面も含めもっとEnd to Endで支援できるコンサルタントになりたいと思うようになりました。
そんな中で前職からデロイト トーマツ コンサルティング（以下、DTC）に転職した先輩から、DTCでなら上流フェーズ含めての支援ができる旨を伺ったこと、DTCで働いている知り合いが皆、活き活きしていたことがきっかけとなり入社を決意しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 想像以上に世界が広がり、仕事を楽しいと思える瞬間が増えました。
転職時に希望していた通り、経営計画の策定や新規業務の立ち上げ支援といった上流フェーズも経験でき、はじめは苦労もしたのですが、Why・Whatを考える力や習慣が前職以上に身についたことで、成長を実感しています。根気強く指導してくださった上位者の方々にはとても感謝しています。
また、プロボノ活動やユニットでのソリューション開発活動といったプロジェクトワーク以外の成長の機会も希望すれば手に入る環境であるため、プロジェクトをしっかりデリバリーしながらもそうした活動に楽しく取り組めることも魅力ですね。

Q.DTCの良さを教えてください

A. やりたいことにチャレンジできるところが良いです。所属部門のパートナー・上位者との距離が近いことがその一因かと感じています。私の部署では、パートナー・上位者との面談が定期的に設定されており、キャリアの方向性や興味を伝えることができます。前述したプロボノ活動やユニットのソリューション開発活動にも手をあげればチャレンジできるため、パートナー・上位者との距離の近さは自らの可能性を広げるためにとても助かっています。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. 同業間でできる仕事に違いがあるのか？と疑問を抱く方もいらっしゃるかと思いますが、私はDTCに入社したことで、様々なことにチャレンジする機会に恵まれました。DTCにはメンバーのやりたいことを聞き、サポートしてくれるカルチャーがあると感じています。DTCで、前職で培ったスキルをさらにブラッシュアップさせながら、一緒にワクワク働きませんか。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

真のカスタマーセントリックを実現する

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Emerging Solutions & Incubations　ディレクター
ITコンサルティングファーム出身
成長実感／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCへ移って来られたきっかけを教えてください

A. 新卒で入社したERPの導入を主力としたITコンサルティングファームで、ERP導入プロジェクトに従事しておりました。周囲の環境にも恵まれておりましたが、クライアントのビジネスの成功を支援するというコンサルタントの存在意義と照らしあわせたときに、変革の手段であるIT導入のみに縛られず、クライアントから相談された際により幅広い引き出しをもったコンサルタントを目指したいと思い転職を考えました。
そんな折、当時"Executable Strategy"を標榜していたデロイト トーマツ コンサルティング（以下、DTC）への転職のお話をいただき、ここならば本質的なクライアントの課題解決に貢献できる力が身につくのでは？と考え転職を決意しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 転職前に目指していたコンサルタントの姿に近づき、幅広い引き出しを持ってクライアントに提供できるまでに成長したと感じています。業界問わず戦略～IT導入まで幅広いプロジェクトに従事する機会を与えられ、そこで沢山の経験を積むことができましたし、DTCだけでなく海外メンバーファームや監査法人・税理士法人などの専門性の高い人材がと協力することで、自分だけでは出せない価値を組織としてクライアントに提供することができています。こうしたポジティブなループを生み出す環境があることが、DTCの魅力であると考えてています。

Q.DTCの良さを教えてください

A. 自由な組織風土があることです。昨今、テクノロジーが著しく進化している影響で、クライアントサービスにより高度な専門性を求められており、サービスの分業化が大きく進んでいます。多くの場合、サイロ化が進みプロダクトアウトな発想に陥りがちですが、DTCではマーケットインの視点でコンサルタント自身が自由にプログラムを企画し実行することを推奨してくれます。その結果、一人一人の裁量の幅が大きく、クライアントへの価値提供の幅と質を向上させていると感じます。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. 企業変革を支援する中で企業は常に変化するものだと常々感じています。
そんな日々変化するクライアントへ価値提供するためは、DTCは社内外問わず様々な専門性を持った人材とコラボレーションすることで、常に最新の価値をクライアントに提供することを目指しています。時として文化や背景が異なるため、成長痛を起こすこともありますが、変化に挑戦することができる環境は整っていると思います。そんな変化に富む環境を活かして、真のクライアントセントリックの実現を目指しませんか？

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

グローバルで活躍する日本企業に向けた チェンジマネジメント支援を実施

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Human Capital パートナー
IT系コンサルファーム出身
女性活躍／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A. 2002年に日本の大学を卒業後、他社コンサルファームでITの革新を伴うグローバルプロジェクトに日本、中国、欧州、北米で5年間従事しました。前職を通じて、日本企業が海外拠点を巻き込んだ業務改革を遂行する難しさを知り、ヒト・組織に向けた施策の展開がグローバルビジネスの成功要因としては不可欠であると考えるようになりました。

グローバル環境における日本企業の躍進を実効的に支援するためには、それに耐えうる人材の育成・登要を組織的に実現する仕組み作りの必要性を覚え、2007年から米国の大学院で組織学習・リーダーシップ開発に関する修士課程を経て、2009年にDTCに入社しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. DTCのコンサルタントとして、自分の専門性を活かし、チームでクライアントサービスに寄与できる喜びを覚えるようになりました。クライアントが抱える多様な課題を解決するために必要な施策は何か、目的を達成するために有効な施策をどう展開するか。私は、ヒト・組織の観点から提案することができます。しかし、クライアントが抱えるビジネス課題は非常に複雑であり、複数の視点から施策を講じることが求められます。

DTCでは、他ユニットのメンバーとチームを組むことで、それぞれの知見を組み合わせた総合的なソリューションをクライアントに提供できる。そんなプロフェッショナルチームの一員として寄与できる実感を味わえることは最高に楽しいです。1つ1つのプロジェクトが、ただの「仕事」ではなく「新しい学習と感動」を覚える場に変わったと感じています。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. DTCに入社してから4年間、毎日がとても充実しています。ヒト・組織の側面から改革支援を、という漠然とした思いからチェンジマネジメントプロジェクトを始め、今年はユニットの1サービスラインとして事業展開できる規模に成長させることができました。
私はクライアントと同じ目線で課題に向き合いたいので、クライアント先にできるだけ常駐させていただくスタイルを貫いています。その分、自社で過ごす時間は、極わずか。それでも、このキャリアを築けた理由は、本当に素晴らしい上司や先輩方に恵まれたからだと確信しています。
様々な機会を提供し、自由に挑戦することを許し、困ったときは支えてくれる。また、どんなにクライアントに怒られても、めげずに一緒に考え、励ましてくれる後輩達なしには、今の自分はありません。DTCのチームメンバーに、心から感謝しています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

グローバル日系自動車産業をデロイトネットワークで支える

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Auto　ディレクター
総合系コンサルティングファーム出身
グローバル連携／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A. 幼少のころから国内で過ごし2011年に日本の大学を卒業しました。
それまでは海外との接点もあまりなかったのですが、1社目の総合系コンサルティングファームでは主にグローバル企業の基幹システム刷新の案件に携わり、入社1年目から東南アジア、ヨーロッパ、アメリカ現地でデリバリーを行い、様々なバックグラウンドを持つ現地メンバーとOne Teamで仕事をする楽しさを味わいました。

その中で
①システム導入に至るまでの経営判断・経営戦略領域にも携わりたい
②上流～下流までの一気通貫したサービスをグローバル同じ品質でデリバリー出来るチームを作りたい
と感じるようになり、各ファームの特性を知っていく中でDTCが最適解という結論になりました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 前職ではより業務プロセス改革・基幹システム導入関連の案件が多く、PJの開始時にやることが明確になっている案件が多かった印象です。
DTCに入って特に戦略系・新規事業関連の案件をデリバリーする機会が増えました。外部環境が目まぐるしく変わり、日々自分の周りの情報へのアンテナを高くしておかないといけないと感じました。
また、カバーしなければならない知識も幅が広がり、より経営者目線での発言・示唆が求められていると感じるようになりました。

前職では海外拠点が少なく、海外現地ではフリーランスメンバーと協業することも多かったのですが、デロイトグローバルネットワークを活用し、戦略案件から実行案件までデロイトメンバーファームのリソースで品質を担保することができることは魅力の一つだと思います。

Q.DTCの良さを教えてください

A. 個人的にDTCは大企業とベンチャー企業をMixしたようなカルチャーだと感じています。
デロイトとしての規模感やブランドバリューは大企業と同じようにあります。しかし、仕事の仕方は各個別PJ最適化されており、少人数で行うものも多いため、ベンチャー精神が必要となることも発生します。

自分のやりたいことを主張していけばやらせてもらえる風土もあり、自己実現は比較的しやすいプラットフォームではないかと感じています。

その風土は日本だけでなく、海外のデロイトコンサルタントも同様に持っているため、
協業する際も障壁なくOne Teamを形成できるところも良いところだと思います。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. 私はAutomotive Unitに所属しておりますが、日本の基幹産業である自動車産業のこれほど深くかかわっているコンサルティングファームは他にないと思います。
担当しているクライアントの経営陣の皆様からも上記お言葉を頂いています。

DTCとして持っている戦略～実行まで寄り添って支援できるケイパビリティを活用し、
今後もよりお客様の課題解決のカバレッジを広げ、真の意味での経営コンサルティング(戦略・業務・ITどのようなこと課題も解決できる)サービスが提供できるよう、努力していきたいと思います。

想像以上に真面目、想像以上に自由

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Finance & Performance　パートナー
外資系コンサルティング会社出身
グループ内連携／多様な専門家との協働／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A. 元々、外資系コンサルティング会社に在籍しており、コンサルタントとして5~6年経験した後にコンサルタントを続けるか、事業会社に行くかを数年前から悩んでいました。
途中、事業会社に転職したこともありましたが、前職のコンサルティング会社に転職するタイミングでコンサルタントの道を選択しました。

しかし、グローバル案件やより専門性に特化した案件の実績を通じて大手企業とのリレーションを構築しなければ、将来的なキャリアを考えた際に仕事の幅が狭くなると感じ始めていた頃に他コンサルティングファームとDTCへの転職の話しがあり、Deloitteの「As One」の考え方があれば、幅広いコンサルテーションをクライアントに提供出来ると感じてDTCに転職しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 専門性の高い人材が多くクライアントの課題に対して最適なチーム体制で、社内ナレッジやグローバル企業の先進事例を参考にそれぞれの専門性を活かしながらクライアントに適した方法論を作ることが出来ています。
社内や監査法人、税理士法人などのグループ内に様々な専門家がいるので、プロジェクトスコープ外の問合せに対しても的確に対応可能であり、結果としてクライアントからの信頼感も向上し、複数案件へ広げることが出来ます。
自分の専門性とは異なる領域に関するクライアントからの問合せに対応していくことで、これまでとは異なる専門性の領域に関する知識が深まり、自分の専門性の幅が広がったことを感じています。

Q.DTCの良さを教えてください

A. 監査法人や税理士法人との連携がし易く、様々な視点（幅広いアセットの活用）とアジア地域を中心とする豊富な駐在員メンバーとの連携でクライアントの課題に対して対応することが出来、またその過程を通じて自分自身も知識・知見を習得することが出来ます。
“マチュア”な人が多く、お互いを尊重し、クライアントのために何が最適かを深く考える文化がある。また多様性を大事にする文化があるので、皆がそれぞれの価値観を持って様々な提案やソリューションを考え抜く文化は、自分にも非常にいい刺激になっていると感じています。また、DTC自体が成長過程のため、良い意味でまだ“未成熟”であり、楽しみながら会社の成長を実感することが出来ます。
他ファームに比べて規模の割には自由度が高く、プロジェクトにおける意思決定が早く出来るうえ、ユニット内の運営について主体的に推進出来る場です。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

Consulting is a service. Strive to serve for the client's best experience.

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Financial Services Industry ディレクター
IT系コンサルファーム出身
グループ内連携／多様な専門家との協働

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.What motivated you to join DTC?

A. On my way out of undergrad my next step was focused on either consulting or the finance industry. My decision was why not both, consulting for the finance industry, and here I am.
I joined an IT oriented consulting firm and experienced the full gamut in the finance industry from regional banks to global banks, securities firms and stock exchanges and even some insurance and pharmaceutical companies. I designed systems, designed data models, consulted on risk management and performed PMO support. Deciding then to shift to a more strategic consulting role but still be able to leverage my background to execute, I joinedDTC. AtDTC, a good mixture of strategy and execution was exactly what I got.

Q.How did you grow personally and achieve your goals since you joined DTC?

A. One of the first projects I worked on was about building a hypothesis, building a case by analyzing data to back the hypothesis and proposing the case to the client. The close collaboration with data analytics experts providing a set of new insights from a different angle led to building a stronger case and in the end allowed us to propose the case with full confidence to the client.
This mobility to form the "best team" of experts with different backgrounds and skillsets locally/globally allows me to broaden my horizons and is something I look forward to in the future.

Q.Please describe any positive or strong points about DTC

A. The ability given for us consultants to leverage the entire firm to provide services to our clients amazed me from Day 1 in this firm. One year in the firm and I had already been given the opportunity to collaborate with accountants, data analytics experts and world renowned regulatory experts.
In addition, the support from research specialists specifically for the Financial Services Industry, and the ease of tapping into the vast global knowledge resource of best practices, cleansed deliverables from past projects allows us to better meet client needs. But, what astounded me the most was the level of professionalism that individual Deloitte colleagues around the globe demonstrate to maintain this knowledge resource.

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

実現したい未来を、共に目指すことができる仲間や環境がある。

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Life Sciences and Health Care　マネジャー
営業職経験／情報システム部門出身
女性活躍／ワーキングプログラム／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.異業界からコンサル業界へ転職されたきっかけを教えてください

A. 大学時代は産業組織論・企業経済学を専攻しており、企業行動の分析に興味がありました。まずは企業がどう運営されているのか内側から理解したいと思い、事業会社で営業を経験したのち、多岐に渡る部門とやりとりができ、事業を俯瞰できる情報システム部へ異動を希望、上場支援やERP導入を筆頭にビジネスを構築・改善する機会に恵まれ、企業変革に携われていることにやりがいを感じていました。
その後、既存業務の枠を超え、よりグローバル且つ世の中にインパクトを与える仕事がしたいという想いと、自身の成長スピードを加速できる環境に身を置きたいという気持ちから、10年前に転職しました。
入社後2年ほど複数部署を経験し、その中でもこの先、業界として大きな転換が見込まれ、コンサルティングテーマも多岐に渡りそうなライフサイエンスヘルスケア業界に興味を持ちました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 事業会社にいた頃、ぼんやりとしか感じ取れていなかった企業課題に対する解像度があがりました。ビジョン・ミッションとは、中計・事業計画とは、企業ブランディングとは、採用・育成とは、、、。うまくいっていないことはわかるが、根本的な課題やとるべき対策はなにか、解を求めていたことがクリアになりました。コンサルスキルを一から学ぶことができ、多様な経験を通じて仕事の質・幅が増え、一層のやりがいを感じています。そして、「自分なんてまだまだだ」と思えるほど尊敬できる人たちに囲まれ、日々たくさんの刺激・気づきを得られています。
ビジネスを通じた世界の広さと、デロイトのグローバルネットワークを通じた世界の狭さを両側面から感じることができ、この業界に携わる様々なステークホルダーと一緒に10年後、20年後の新しい未来を創り上げる面白さを感じています。多岐に渡るテーマに飽きることなく、そして目指していた自分に近づけている嬉しさもあります。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. 好奇心旺盛で、社会をよりよくしたいという熱い想いを持っている人が多く、医師、看護師等の医療従事者、研究者、製薬・医療機器企業出身者など多種多様なバックグラウンドを持ったメンバーが集結し、アイディアを出し合って新しいビジネス機会を創出したり、地に足のついた提案ができるというのが強みで、それが実現できる風通しのよさがあります。
また、私には幼い子供がいますが、ワーキングプログラムがあるのはもちろん、ロールモデルが身近にいたり、育児と仕事の両立にむけて部署全体でバックアップしてもらえています。各人のライフサイクルに合わせたキャリア形成が尊重され、のびのびと働くことができると感じます。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. やりたいことが実現できる環境か、成長できるかなど、人それぞれ転職の動機や、企業選定の基準は異なると思います。私の場合は最終的に「人」で決めました。デロイトで10年間働くなかで、もちろん悩むこともありましたが、色んな人が手を差し伸べてくれました。モヤモヤを解決に導いてくれて、視野も広がり、新しいことに次々とチャレンジできていると感じます。
一緒に、世の中に変革を起こしましょう！！！

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Life Sciences ＆ Health Care（製薬、医療機器、医療・異業種参入領域）

自分色のコンサルタントになろう！

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Life Sciences and Health Care　コンサルタント
製薬会社出身
チャレンジできる環境／女性活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.異業界からコンサル業界へ転職されたきっかけを教えてください

A. 前職でPost-Merger Integration（企業統合後のマネジメント）に関するプロジェクトマネジメントオフィスを担当し、企業の成り立ちや、部署ごとの課題感や考え方の違いを知る機会を得ました。部署間調整を多数続けていくうちに、ヘルスケア業界では「それぞれの部署が考えている課題感を横ぐしでつなぎ、一丸となって解決する事が、変革の時代を乗り切るKeyになるのではないか」と考え始めました。幅広な課題にプロジェクトベースで立ち向かい、多種多様な経験を積むコンサルタントであればそのような存在に近づけるのではないかと考え、コンサル業界に興味を持ちました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 周囲からのサポートが手厚く、コンサルタントとしての基礎能力を比較的短期間で成長させることができると感じます。2週間に1度のフィードバックのみならず、日常業務での作業を通じて丁寧で的確な指導をしてもらえており、日々成長中です！また、取り組みたいと思っている課題を明言すれば、チャンスを与えてもらえることもDTCの魅力です。私はグローバルの課題解決にとても興味があるのですが、最近パートナーの米国出張に同行させてもらう事が出来ました。そこで世界中に広がるデロイトのグローバルネットワークの強さと一つのチームとして協力したり、知見を共有する仕組みを学び、グローバルプロジェクトでの自身の動きも磨かれていると感じています。

Q.異業種からのコンサル業界への転職の成功ポイントを教えてください

A. 異業種での経験を武器にできるよう、自分の強みを棚卸しておくことだと思います。コンサルタントとしての基本的な能力（ロジカルシンキング、PPT/Excelの取り扱いなど）は中途入社であってもきちんと教えてもらえるので、その上で、自分が活かせる武器は何かを周囲に明確に伝えられるようにしておくと良いのではないでしょうか。武器が明確な人は、力を発揮しやすいプロジェクトにアサインされたり、自分にマッチした活動の声がかかりやすく、転職後もうまく軌道に乗れるのではと感じています。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. DTCは取り扱う案件の種類も多く、世界中のデロイト ネットワークと知見の共有をしています。コンサルティングファーム全体にいえる事だと思いますが、扱う案件の幅の広さが自慢の業界ではないでしょうか。それ故に、みなさんのこれまでの経験や、得意な事、人と違った事が必ず活かせる業界とも言えます。一緒に自分だけのコンサルティングスタイルを模索し、色鮮やかな職場を楽しみましょう！

▼ご興味ある方はぜひ！

＜応募職種一覧ページ＞

Life Sciences ＆ Health Care（製薬、医療機器、医療・異業種参入領域）

企業の変革をサポートするため、成長し続ける

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Process　シニアコンサルタント
新卒入社
成長実感／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.就職の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか

A. 企業の課題解決という仕事の意義の大きさと、早いスピードで成長できる環境があるという点です。
就職活動の際は、ビジネスを通して世界をより良くする、日本企業をもっと強くする、といったことに貢献したい、またそれができる人間に早くなりたい、と漠然と考えていました。
コンサルタントの仕事は企業の変革支援そのものであり、また、ファームにはそのために必要なスキルを早くから身に着けることができる環境があるということを知り、コンサルティング業界に興味を持ちました。
特に、デロイト トーマツ コンサルティングが「社会課題解決に取り組む」ということを掲げていた点には強く共感していました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. ありきたりな話なのかもしれませんが、コンサルティングのベーススキルを学ぶことができていると思います。
論点志向、仮説志向等、課題解決のための物事の考え方を入社の研修後やプロジェクトを通して学んだときは心から感動したのを覚えています。
また、私は素材・化学業界のチームに所属しているのですが、クライアントが今まさに抱えるサステナビリティ（サーキュラーエコノミー、脱炭素等）やデジタルトランスフォーメーションといった課題の解決に仕事を通じて携われることができており、やりがいを感じています。
今挙げたスキル面、及び社会課題解決への貢献はこれからも力を入れ続けていきたいです。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. 私のユニットでは、他ファーム出身者、事業会社出身者、デロイト トーマツ コンサルティング新卒入社等、多様なバックグラウンドの方がそれぞれの強みを生かしています。また、自発的に動くことで機会を得ることができる職場環境であると考えています。自発的に動き、相談すると、アドバイスをしてくれる方々が周りに必ずいます。
カルチャーの面では、コンサルはドライと思われがちですが、人間関係構築を積極的に行っている方が多く、リモートワーク中心に移行後も、オンラインで懇親会が積極的に行われています。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. コンサルは、刺激的でやりがいのある仕事だと考えています。私のユニットは業界の特性もあってか、デロイト トーマツ コンサルティング他のユニットと比べると女性は少ないのですが、性別関係なく活躍できる仕事なので、女性メンバーにとってもチャンスが多い職場だと考えています。加えて、道を切り拓いてくださった女性メンバーの先輩方がいらっしゃるため、とても心強いです。
ぜひ、コンサルティングのキャリアに挑戦してみてください！

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

日々、自分が社会に与えるインパクトを実感

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Civil Government　マネジャー
新卒入社
チャレンジできる環境／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.就職の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか

A. 私は新卒でデロイトトーマツコンサルティング（以下、DTC）に入社をしました。就職活動の際には、日本社会に影響を強く与えられるような仕事に就きたいと漠然と考えていました。大学生活の中では「働く」ということすら明確に理解できない中、自分のやりたいことも明確に定まっていない状況で、迷いながら就職先を模索していたことを記憶しています。
業界研究をする中でどの業界も社会に何らかの形で影響を及ぼしており、魅力的に見えていました。そんな中、経営コンサルティングに就職した先輩から話を聞く機会があり、この業界に興味を持ち始めました。
話を聞いていくうちに、社会にインパクトを与える業界に就くのが大事なのではなく、社会にインパクトを与える人になることも重要であると思うに至り、自己成長と自己実現の双方が出来るコンサルティング業界を志すに至りました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 私は現在DTCで、官公庁のサービスを主に行っております。DTCのクライアントは業界でも一流の企業・組織が中心となっており、更に重要な意思決定に関与している方がカウンターパートとなっていることが多いです。
このようなクライアントと仕事をすることを通じて、自分の仕事が直接的に社会に対して影響を及ぼしていると感じることができ、日々充実感をもって働くことができています。
また、重要な意思決定に際しては、DTCの様々なエキスパートと協業しながら、熟慮に熟慮を重ねて最善と思われる提案をしていきます。エキスパートと質の高い仕事をするためには、当然自分自身も相応の人間になる他なく、日夜勉強を行いながら業務にあたっていました。仕事をこなしながら勉強もしていくことが辛い時もありましたが、気が付く頃には、自分も人に誇れる専門知見と経験を身に着けるに至っていました。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. DTCには、学び合いの文化とチャレンジの文化があると感じています。
チームメンバーへのナレッジシェアが頻繁に行われおり、それが知識集団を形成しているのではと思っています。自分自身、同僚と勉強会を企画することもありますし、その中で参加者から質問や関連知見を紹介してもらうことで企画者である自分の知見も深まっています。
また、チャレンジの文化については、自分の幅を広げる機会が積極的に紹介され、その機会に当たっていく中で自分の幅が広がっていくことを感じています。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. DTCには最高の環境があると思います。
成長の機会に溢れているだけでなく、仕事を通じて日々社会に対するインパクトを与えている実感があります。そのような日々が、今この世に生きているのだ、と感じさせてくれます。
是非共に成長する日々を歩むことができれば幸いです。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

想い溢れる同志と、切磋琢磨し道を切り開いていきたいならば、、、

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Customer&Marketing　マネジャー
国内Sier出身
グローバル連携／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.異業界からDTCへ転職されたきっかけを教えてください

A. 前職は国内SIerでシステムエンジニアでした。転職のきっかけは勤続10年になる前に今後のキャリアを考え直したことで、転職のポイントは２つ、１つはシステム導入のみならずクライアントの根本課題を解決すべく業務改革など上流にチャレンジしたかったこと、もう１つはグローバルの経験を積みたかったことです。今、どちらの目標も達成しているのでデロイト トーマツ コンサルティング（以下、DTC）の門戸を叩いて良かったと強く感じています。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 接するクライアントが大企業のCxOや部長クラスになったことから視野を広げる必要性に迫られ、常に全体から、長期の視点で、かつ様々な角度から物事を考える習慣がつきました。常に忙しいポジションの方々のため、端的に本質を突く伝え方や、臨機応変なやりとりにも即座に対応できるよう引き出しを多く持っておくことなど対応スキルが身につきました。
また、グローバルプロジェクトを経験して日本にとどまらず欧州、APAC等多様な価値観に触れ、ノウハウ、メソッドを吸収できた点も大きいです。優先付けや結論ファーストなど頭では分かっていたことも、実際に日々接して議論を交わすことで体験として蓄積し、自分のメソッドとして活用できるようになったと感じています。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. DTCに入って一番良かったと思うこと、そしてアピールできることはヒト、カルチャーです。
DTCでは意識高く仕事に打ち込んでいる人ばかりで、日々刺激を頂いています。受け身な人はおらず、皆率先して課題を解決すべく全力を打ち込んでいます。
同時に、Up or Outのようないわゆる外資コンサルのイメージは無く、チームとしてパフォーマンスを上げられるよう皆でフォローしあうカルチャーがあります。また中途社員の割合も多いことからキャッチアップの為のツールや環境が整っており、私も入社時に転職自体もコンサル業界も初めてで右も左もわからない時に、様々な人が手を差し伸べてくれたことは非常に心強かったです。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. DTCにはヒトの成長を支え、互いに切磋琢磨し、クライアント含めOneチームを長期的に構築していくカルチャーがあり、確固たる意志を持った人が集まっています。同時に様々な知見、スキル、専門性を活かせる機会があります。
カルチャーに共感頂き、ご自身の経験を活かせる機会が何かしら見えたのであれば、是非とも共に働けることを心待ちにしています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

もしあのとき手を挙げていなければ

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Human Capital シニアコンサルタント
人事系ベンチャー企業出身
異業種からの転職／人材育成／ワーキングプログラム

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCに入って来られるまでの経緯を教えてください。

A. 新卒で入ったのは約300名の人事系ベンチャー企業です。システム開発と導入に携わりながら5年勤めた頃、シンガポールに新拠点を設ける話が持ち上がり、初期メンバー3人の枠に手を挙げました。海外に興味があったわけではないのですが、新しいことをやりたいタイミングだったのと、今行かなければ一生海外勤務はないと思ったのが理由です。現地では丸2年間勤務しました。

Q.そもそも人事を目指したのはなぜですか？

A. 学生時代のチームスポーツ経験が大きいです。キャプテンを務める機会が多く、チーム全体の成果向上や個人の能力の引き出し方などを常に考えてきて、やはり組織は人という実感が身につきました。

Q.キャリアチェンジでコンサルタントを選んだ理由を教えてください。

A. 前職でシステムベンダー寄りの仕事に携わる中で、自社システムの導入だけでは解決しきれない課題があることにもどかしさを覚えるようになりました。コンサルタントであれば様々なシステムから最適解を選択し、システム導入にとどまらない幅広いソリューションを顧客に提供できると考え、キャリアチェンジを決めました。数あるファームの中からDTCを希望したのは、私が転職活動をしていた当時のDTCの社長が、『100年先に続くバリューを、日本から。』というメッセージのもと、海外に進出する日本企業を強くしたいという思いを発信していたからです。Deloitteのグローバルネットワークに属しながらアイデンティティは日本という考え方は、シンガポールで働いていた自分に強く響きました。

Q.DTCで働き始めた感想は？

A. ゴリゴリ働くイメージを持っていましたが、前職でもそれなりに働いていたので、こう言っては変ですが意外と楽に感じました。しかし仕事で求められるレベルは前職以上。何よりコンサルタントの基本的スキルであるロジカルシンキングに経験値がなかったので、その点では苦労しました。そんな私でもやっていけたのは、メンターとの定期的な面談を始めとした周囲の手厚いサポートのおかげです。キャリアを積むための適切なマイルストーンを置いてもらえたことに感謝しています。

Q.海外赴任経験を踏まえ、DTCがグローバルファームだと実感した瞬間は？

A. まずは入社3日目に一人でUS研修に行かせてもらったことですね。その3か月後には、シンガポールで開催されたDeloitte主催の研修会に参加し、同じ領域で活躍するグローバルメンバーのナレッジに直に触れることができました。現在もシステム導入案件でインド、香港、USと日常的なコラボを行っていますが、文化や習慣の違いを受け入れながら協業する中で、日々自分自身が変わっていく経験は何にも代え難く楽しいです。前職のシンガポールでの経験以上に日本にいながらグローバルを実感する毎日で、もしあのとき手を挙げていなければ今ここにいないだろうというのが、私の職歴を踏まえた実感です。

Q.働く環境はどう感じていますか？

A. 労働時間の希望を叶えるワーキングプログラムはもちろん、産休や育休から職場復帰した方が精力的に働いている姿を見ていても、各種の制度が正しく機能していると思います。ライフステージが変っても仕事をあきらめたくない私にとって、この環境は最良と言えます。
*ワーキングプログラム：育児者、介護者、不妊治療者などを対象に、業務負荷を軽減したり、勤務時間・場所について個別の取り決めをすることで、柔軟な働き方を可能にする制度

Q.今後HCで挑んでみたいことは？

A. ひとつは、異なる領域のメンバーとコラボして得意分野以外のサービスを提供すること。もうひとつは、なるべく早くマネジャーになることです。

Q.ランクへの意識が強いのですか？

A. 単にランクが目標ではなく、信頼してくれるメンバーとチームで働ける醍醐味を味わうには、責任と裁量が必要だからです。私は責任に伴うリスクにマイナスイメージがありません。よりおもしろい仕事ができるなら、上れる階段は昇っていきたいです。

Q.転職を経てDTCを目指す人にメッセージをいただけますか？

A. 私が転職を考えたときに行ったのは、スキルの棚卸でした。これまでの経験を違う業界でどう生かせるのか。コンサルタントになるなら何を身につけなければならないか。キャリアを検討する局面では徹底的な自己分析が欠かせないと思います。元々悩むのが苦手で、5分考えたらひとまず走り出す。もし間違っていたら軌道修正すればいい。そんな性格は、スピード感が重要なコンサルタントに合っているだろうと分析したのも棚卸の結果でした。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

パブリックセクターの原体験をプロジェクトに生かしたい

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Human Capital シニアコンサルタント
公務員出身
異業種からの転職／ワークライフバランス／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.DTCに入って来られるまでの経緯を教えてください

A. 前職は公務員です。会計検査院という、端的に言えば国の無駄使いをチェックする独立機関に4年ほど勤めました。在職中は与えられた仕事に精一杯向き合っていましたが、機関の特性上、各組織の問題点を指摘できても改善には深く踏み込めないことにジレンマを感じてしまいました。そこで、長期的なキャリアを真剣に考えた末に新たな挑戦をしようと決断しました。

Q.コンサルタントへの転職を目指したのはなぜですか？

A. 何かを変えたい、良くしたいという強い意欲を持つ人に憧れを抱くところがあって、そんな人々を応援できるのがコンサルタントと考えたからです。人事を希望したのは、学生時代からの心理学や労働行政への興味が原点です。DTCは人事領域の規模が大きく、また内容も多岐に渡っていたので、ここなら私でもやっていけそうな可能性を感じました。

Q.入社前のイメージと入社後の現実にギャップはありましたか？

A. 年功序列ではなく実力主義の世界で、できない人間は追いつめられるのだろうと覚悟していました。けれど入社してみると、上から価値観を押し付けるのではなく、話をよく聞いて一人ひとりを理解してくれようとする方が多く安心しました。できないことに関しても上司や先輩から責められるのではなく、一緒に解決方法を考えてくれます。とは言え、クライアントに対するパフォーマンスは、高いレベルが求められます。前職では経験しなかったプレゼンにも苦労しました。クライアントの前で上手く伝えられず、見かねたマネジャーに割って入られたときは自己嫌悪に陥りました。

Q.苦い経験はどのように乗り越えましたか？

A. 周囲のサポートに救われました。助けを求めればできるまで教えてくれる方がDTCには多いです。たとえば私が苦手としたプレゼンも、有志が集まって練習会を開いてくれました。それからCheck-inという制度にも大いに救われています。これは、1～2週間に一度、同じプロジェクトに携わる上司から、業務に関するフィードバックを受けたり、仕事上の悩みを相談したりできる制度です。そんな助け合いの経験を積み重ね成長していくと、やがて個人の裁量に委ねてもらえる領域が増えていきます。それはこの仕事をしていく喜びですね。その一方で、プロジェクトの進め方やクライアントとのコミュニケーションなど、任せてもらえる範囲が広がると、自分の発言や行動の重さを実感する場面も増えます。入社4年を経て、少なからず自信がついてきた証拠かもしれませんが、自身の責任を強く意識するようになってきました。

Q.働く環境はどう感じていますか？

A. 柔軟な働き方ができています。DTCに入社した時点から、不要な長時間労働はせず効率的に働きたいと考えていました。実際に通勤ラッシュを避けて遅めに出社したり、仕事量が少ない日は早めに帰宅して自炊したりと自分の生活のペースに合わせて仕事ができています。場所に関しても、オフィスに来る必要がなければ自宅で作業することが可能です。そこも個人の裁量ですね。

Q.今後HCで挑戦したいことは？

A. 入社年数に鑑みても、そろそろ専門性を確立したいところです。「このトピックなら」と指名される人材になりたいですね。その上で、パブリックセクターで働いた私の原体験を各プロジェクトにどう生かせるか。未知数ですが、その実現は個人的な目標のひとつです。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. 私の場合で言えば、公務員とコンサルはまるで違った世界でしたから、戸惑うことはたくさんありました。特にDTCでは、常に「何をしたいか？」が問われます。それも当初は、単なる願望や我がままと混同してしまい、上手く表現できませんでした。しかし、自分の意志や考えが確立されていなければ、クライアントに対して本当にインパクトのある仕事はできないと思いますし、自分らしい働き方・生き方も実現できません。そして強い意志を持ち、それを周囲に伝えていくことができれば、ここでは多くのサポートが受けられます。コンサルへの転職についてアドバイスするなら、自分のキャリアは自ら築き上げていくものだという意識を持ち、自分から発信・行動することが重要ということです。

異業種からの転職を障壁と捉えず、成長・自己実現の機会を掴んでほしい

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Finance & Performance　マネジャー
総合電機メーカー出身
異業種からの転職／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.異業界からコンサル業界へ転職されたきっかけを教えてください

A. 前職の総合電機メーカーで経理や経営管理業務を経験する中で、「煩雑な業務をもっと効率化したい」「事業価値向上に寄与するより効果的な経営管理を行いたい」といった思いを日々感じていました。しかし、改善手法に関する自身の知見不足や、通常業務以外で割ける時間の制約等もあり、中々改善施策を打ち出すことができずにいました。
そんな中、外部専門家として豊富な知見や先進事例を活用しながらクライアントの変革を支援するコンサルタントの存在意義を強く感じるようになり、自身もその立場から同様の悩みを抱える多くのお客様の課題解決に貢献したい、またその過程で自身の専門性・スキルを研鑽したいという思いから、転職を決意しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. プロジェクトにおける各種課題に対して、多様な知見を持つデロイト トーマツ コンサルティング（以下、DTC）メンバーやお客様と一緒に頭を悩ませながら議論を行い、一歩一歩解決に取り組むというプロセスはとてもエキサイティングであり、やりがいを感じながら充実した日々を送ることができています。
またプロジェクト以外では、サービス開発や提案活動に関わらせていただく機会も多くあり、入社前の期待以上に自身の知見が日々広がっているように感じています。
事業会社との違いとしてよく言われますが、ルーティン業務が一切無く、次々と新しいチャレンジが続くので、知的好奇心が旺盛な方や変化を楽しめる方にとっては最適な環境なのではないでしょうか。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. 一言で表現するなら、「温かみのあるファーム」だと感じています。
入社前は非常にドライなカルチャーを想像しておりましたが、入社後の印象は全く逆で、"お客様への価値提供"という共通目的の下に、プロジェクトやユニットを越えた協力が盛んに行われており、個々の成長へのサポートは当然のこととして認識されているように感じます。
私はコンサルティング未経験での入社でしたが、比較的短期で慣れることができたのは、上記カルチャーに基づく周囲の方からの積極的なサポートや、各種研修や定期的な面談といった制度のおかげだと思っています。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. 異業種からの転職は、新たなスキルセットが求められることや、働き方等の環境変化といった観点での不安を感じると思います。私自身も、入社直後にバリューが中々出せずに悩むこともありました。しかし、諦めずチャレンジする姿勢さえ忘れなければ、個々の成長・自己実現を支えるカルチャーや制度がDTCには存在しますので、異業種出身であることを障壁と捉えずに是非前向きにDTCでのキャリアを検討いただければと思います。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

キャリアを変える/新天地に飛び込む勇気

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Finance & Performance　シニアマネジャー
異業種からの転職／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.就職の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか

A. 元々、大学院で工学を学んでいた自身にとって、コンサルタントという仕事の魅力は大きく3つありました。
1. 年功序列ではなく実力主義であるところ
2. お客様（クライアント）と一緒に価値を創造できるところ
3. 企業や市場、世界を変えることができるポジションに存在するところ

実際にこの業界に飛び込んでみて、上記の魅力は正にこの職にチャレンジする前に想像していたものと一致するものでした。
寧ろ、第三者的な視点からアドバイスを提供するというより、クライアントと協業しながら一緒に“より良いもの”を創っていくというスタイルは、良い意味で自身の想像を超えたものであると日々感じています。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. デロイトトーマツコンサルティング（以下、DTC）に参画して感じることは、大きく3つあります。
1. 自身の知見を拡張するためのチャンスが想像以上にあること（グローバル連携、他ファンクション連携、等）
2. 手を挙げれば、惜しみなく会社・組織としての支援を得られること
3. 日々切磋琢磨できる環境、仲間が周りにあること

“毎日”といっても過言ではないほど、日々新しいテーマに触れることができ、
自身の経験や知見、スキルを向上することができるチャンスが周りに満ち溢れている、と感じています。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. DTCの特徴は、
1. とても真面目
2. 面倒見が良い、成長・育成への支援を惜しまない
3. 組織の垣根を超えた連携を惜しまない
ことだと実際に働く中で感じています。

特に育成面に関しては、各種のトレーニングが用意されており、またグローバル（US）で主催されるトレーニングに現地で参加させてもらったり等、数々の投資が行われています。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. キャリアチェンジには大きな“期待”と“不安”が伴うものと思います。
DTCには、皆さんのキャリアを実現するための多くのチャンスが存在します。
ぜひご一緒する機会を創れればと思いますので、チャレンジをお待ちしています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

世界情勢の動向を踏まえ、変化していく政策アジェンダに対応していく

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】インフラ・公共セクターアドバイザリー　マネジャー
コンサルティングファーム出身
グローバル連携／多様な専門家との協働／チャレンジできる環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. インフラ・公共セクターアドバイザリー（以下：I&CP）の仕事内容について教えてください。

A. I&CPは、官公庁や自治体、デベロッパーやインフラ事業者などの民間企業、国際ドナー機関などの幅広いアクターに対して、インフラ分野に関する複合的なアドバイザリーサービスを提供しています。主要なテーマとして4領域あり、①インフラ投資・M&A、②インフラ調達・ファイナンス、③キャピタルプロジェクトという三つの軸と、国際ドナー資金に基づく④国際開発があります。

Q. DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 前職では、民間企業に対する経営コンサルティングに従事しており、その仕事もやりがいはありましたが、学生の頃に国際協力に関心を持ち開発学を学んでいたことから、あらためて国際協力や、広く社会課題に取り組みたいとの思いを強くし、DTFAに転職しました。現在、海外展開や国際協力を専門とするチームに所属していますが、国際色豊かなチームメンバーと、モチベーション高く働くことができ、やりがいを感じています。

Q. どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 私は国際開発アドバイザリー（前述の④）のなかで、特に都市開発・都市政策に携わることが多いですが、同分野は交通、住宅、エネルギー、環境など、テーマは多岐に渡ります。そうしたなかでも、さまざまなテーマのプロジェクトに挑戦することで、海外動向を踏まえた日本の政策のあり方を検討し、道筋を見いだすことに日々取り組んでいます。公共セクターは学び続けていく姿勢が必要となる領域だと感じていますが、今後も興味や追及心を持ち続けて、取り組んでいきたいです。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. 国際開発アドバイザリーでは、さまざまな経歴や海外経験を持つメンバーが、デロイトのグローバルネットワークも活かし、日本の国際協力・海外展開の支援を通じて、より良い社会を目指し日々取り組んでいます。取り組むテーマは、従来の海外インフラ・PPP支援や民間企業海外進出支援に加え、昨今ではウクライナ復興支援や外国人材の受入れ支援など、新しいテーマにも取り組んでいます。世界情勢の動向を踏まえ変化していく政策アジェンダに対応していく必要がある点は難しさもありますが、チームメンバーで一丸となり、同分野でプレゼンスを発揮していきたいと思います。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. I&CPは、日本の課題だけでなく、途上国・先進国含め、世界を視野に、より良い社会の構築に向けて日々取り組んでいます。持続可能性、気候変動、貧困・格差、紛争など、課題は絶えることがない世界において、私たちの仕事は非常にチャレンジングですが、その分やりがいを感じることも多いです。私自身、学生時代の関心に立ち返り、国際開発アドバイザリーにたどり着き、現在に至りますので、学生時代の興味・関心を大事にして、突き進んでください。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

最先端の課題と対峙し、日本の技術を再び強く、世界へ。

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】知的財産アドバイザリー　コンサルタント
新卒入社
多様な専門家との協働／チャレンジできる環境／女性活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. 知的財産アドバイザリー（以下： IPG）の仕事内容について教えてください。

A. IP（知的財産）関連のあらゆるサービスを通じて、クライアントの技術資産活用などにおけるアドバイザリー業務を提供しています。具体的には、知的財産コンサルティング（戦略策定、研究開発支援、ライセンス交渉支援）、知的財産価値評価、IPランドスケープ、知的財産デューデリジェンスなど、多岐に渡りますが、総じて答えのない最先端の課題と対峙する業務が多く、日々挑戦の連続です。
私自身は入社以降、技術・知財起点の新規事業戦略策定や、知財の価値評価、AIを利活用した創作の特許法上の保護の在り方に関する調査研究*1などに携わらせていただきました。
そこでは、技術や事業に関する知見や、知財バリュエーションの知見、特許法関連の知見など、幅広い知識・知見を要すため、キャッチアップは大変であるものの、新しい課題に取り組む度に知識を得ることができるので、成長を実感しやすい仕事内容だと感じています。

*1:https://www.jpo.go.jp/system/patent/gaiyo/sesaku/ai/document/ai_protection_chousa/zentai.pdf

Q. DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. DTFAを選んだ理由は大きく二つです。
一つ目は、早い成長が期待できる環境である点です。DTFAは若手のうちから手を挙げれば挑戦できます。また上の人からの適切な指導も貰える環境であるため、トライ＆エラーを高速で回すことができます。私は、かねてより技術立国であった日本を復活させなければという使命感を抱いていることから、いち早く知財関連の知識・知見やコンサルタントとしての能力を磨きたいとの想いでDTFAを選びました。日本企業の技術進展に貢献するべく、これからもDTFAでさまざまな挑戦をしていきたいと思います。
二つ目は、DTFAの「人」に魅了された点です。会社説明会や面接の時から感じていたのですが、他者を尊重し受け入れる印象でした。また、入社後の印象は、高いプロ意識を持って仕事に取り組んでおり、日々の自己研鑽も怠らない姿勢が素敵だと感じます。尊敬できる方々と一緒に仕事をし、毎日良い影響を受けられることを大変嬉しく思います。

Q. どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. まだまだ成長中の身ではありますが、私自身は日々の小さな成長を実感しています。
例えば、初めは上の人の指示に従って業務を行っていたところから、少しずつ任せていただける機会が増えてきた際や、自身の担当範囲の業務においてチームメンバーの中で最も詳しくなり、上の方々との議論に貢献できた際に成長を実感します。また、過去に自身が指摘をいただいたことを、同じように後輩にお伝えすることができるようになった際は、感傷に浸りつつ、自身の成長を感じています。
DTFAでは、自身のレベルよりもやや高いレベルの課題に取り組む機会や、日々のミーティングで自身の成果物のレビューをいただく機会が多いので、成長を感じやすい環境だと思います。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. 将来の目標は、日本の技術立国としての再建に貢献できる人材になることです。
とはいえ、抽象的すぎる目標なので、まずは3年間で先輩にも後輩にも、「一緒に仕事ができて心強い」と信頼して貰えるような仕事力・人間力を身に着けることを目標にしています。そのために、いかなる業務に対しても、理想を高く設定し、素直に反省を繰り返すことで、日々自分を成長させていければと思っています。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. コンサルタントと言えば、厳しい業界と感じている方も少なくないと思います。私もその一人でした。確かに業務自体は答えのない最先端の課題と対峙することが多く、またプロフェッショナルとして求められる基準の高さから、厳しい局面もあります。
一方で、DTFAのIPGでは、弁理士や会計士、理系修士・博士卒人材、キャリア採用・新卒採用と、多様な人材が在籍しているため、個を尊重したり、互いに学びあったりと、温かい環境です。
成長したい方、知財や技術を活用した課題解決に熱意をもって取り組める方にとっては、DTFAのIPGは非常に魅力的であると思います。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

ブランディングを通じて、社会課題の解決に携わりたい

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【イノベーションビジネス】ブランディングアドバイザリー　シニアコンサルタント
官公庁出身
多様な専門家との協働／異業種からの転職／女性活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. ブランディングアドバイザリー（以下：BA）の仕事内容について教えてください。

A. BAでは、企業ブランディング、組織文化創造、地域ブランディング、新規ビジネス開発、採用ブランディング、ブランド空間設計、ブランド調査など、戦略を主軸としながら施策実行までのブランディング業務を実施しています。また、クライアント向けのプロジェクト以外に、多組織・多業種での連携・横断による社会課題解決をテーマとして、事業パートナーと共に、デロイト トーマツ自身が事業開発・社会実装を推進しています。DTFAが保有する経営・財務などの専門性を強みとしつつ、目に見えない「ブランド」という資産をより強固なものにできることが、DTFAでブランディング業務に携われることの意義だと思います。

Q. DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 多種多様なプロジェクトを通じて、社会の課題に向き合うことができるからです。私は前々職の政府観光局在籍時にイタリアに駐在していたのですが、そこで地方都市やファミリー企業が生き生きとしている姿に感銘を受け、任期満了後、帰郷し家業を数年経験しました。久しぶりに再び住んだ地元では、多角的に地方の課題を考えさせられ、今後は広く社会の課題解決に携われる仕事に就きたいと考えるようになりました。DTFAには「日本のビジネスを強く、世界へ」というスローガンがあり、総合力でビジネスを支えているのはもちろんのこと、日本社会を強くするために、自ら社会実装事業を行っていることも魅力だと思います。

Q. どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 今はまだ成長を実感できていると自信をもって言い切れないのが正直なところで、日々学んでいます。しかし振り返ると、日常の中で気になるサービスや製品に出会った時、それをめぐる「ブランドストーリーは？コア・バリューは？顧客インサイトは？」と自然に考えを巡らせることが増えましたし、趣味の芸術鑑賞、旅行、読書、文化体験といったことが、右脳的アプローチをとるブランディング業務に関わるうえでも、一層大切な位置づけになってきているなど変化を感じています。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. ブランディングを軸として、多様なプロジェクト経験を積むことで、対応力を向上させることです。チームメンバーは、どのような領域・場面であっても、クライアントの成長プランを描ける方ばかりで、その深い洞察力、思考力、実行力から学ばせて頂いています。DTFAに入社して1年程度の期間において、地方創生、観光、製造業、宇宙、音楽、ファミリービジネス、ダイバーシティなどの関心のあるテーマに携わる機会に巡り合い、クライアントも公共機関、事業会社、教育機関など多岐にわたります。学び成長できる機会は多いので、今後も真摯に取り組みたいと思います。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. 気になっているテーマや、関心のある分野に対する好奇心や探求心をぜひ大切にしていただきたいです。プロジェクトに関わるうえで、クライアントの置かれた状況を理解し、共にゴールを描き、業務を遂行するには、高いコミットメントが重要だと感じています。その際、好奇心や探求心は大きな力になると実感しています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

デロイト トーマツ グループのAsset Enabled Business （AEB）全体の成長に貢献する

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【イノベーションビジネス】プロダクト＆ソリューション　シニアマネジャー
事業会社出身

グループ内連携／キャリアパス／女性活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. プロダクト＆ソリューション（以下：P&S）の仕事内容について教えてください。

A. P&SはITの視点からDTFAにおけるAEB戦略をドライブし、AEBを通じたクライアントのデジタルトランスフォーメーションに貢献すること、またデロイト トーマツ グループのAEB全体の成長に貢献することがミッションとなります。AEBとは、従来のプロフェッショナルサービスにデジタルアセットを組み合わせることで、新しいサービスオファリングモデルを創出する取り組みです。P&Sの業務は多岐に渡り、AEB戦略の策定・アセットの企画、アセットの投資計画の策定・投資判断、AEBを支えるプラットフォームの開発・運用およびプロジェクト管理、アセットによる売上の創出からAEBにおけるPL責務なども手掛けています。

さらに最近では業務領域の拡張や体制規模の拡大、AEBプロセスの標準化の施策も推進しています。
体制規模拡大の一環としては前橋市にMAEBASHI Social Innovation Hubという開発拠点を中心とした人員拡大、また一方では運用内製化体制を整えるなど、AEBを支える環境づくりもP&Sの業務となります。

Q. DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 前職のWeb系企業に在職中にDTFAの方から仕事の環境やDTFAの文化なども詳しく説明していただき応募することを決めました。中でもDTFAは幅広い業界にサービスを提供していることもあり、自分のスキルや知識を生かせる機会を得ながら、キャリアを築く上でも理想的な環境と捉えられたこと、また社風や価値観にも共感できたことが理由です。社風に関しては職能や部署が違っても話しやすい雰囲気でフラットな組織であることがとても魅力だと思います。

Q. どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. P&S部門には立ち上げ時から所属しており、部門全体の業務を推進するための活動も行っています。それぞれのプロジェクトの成功や課題解決をサポートすることでチームや組織の成長にも貢献できることが自分としても成長を感じるところであり、日々の業務を通じてその過程を大切にしたいと思っています。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. P&Sが開発を手掛けるアセットも年々増えてきており、求められるニーズは引き続き高いと思われます。
私はAEB戦略の中でも特に予算管理やアセットの業務管理を担っていますが、それらの業務を通じDTFAにおけるAEBをP&S全体で推進していくことや、一方ではプロダクトマネジャーとしてチームを率いてシステム面からアセットの発展に貢献することを目指しています。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. P&Sは割と最近創設された新しい部署です。そのため異なるバックグラウンドを持ったメンバーと協力し合い創造性を発揮できる環境です。また他の部署と連携して業務を推進していくことも少なくありません。プロフェッショナルな知識や経験を持つ人材にたくさん出会えることも魅力の一つです。
業務においては責任感のある姿勢は必要で、自らスキルを磨くことや、トレンドに敏感でいることなども重要になります。
日々学びがあり時には厳しさもありますが、自分の専門領域以外も知識を拡げ成長できる環境かと思いますので、ぜひ挑戦していただきたいです。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

生成AIを活用し、社内外ともに Digital Transformation （DX）を推進

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【イノベーションビジネス】プロダクト＆ソリューション　シニアコンサルタント
事業会社出身
グループ内連携／異業種からの転職／チャレンジできる環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. プロダクト＆ソリューション（以下：P&S）の仕事内容について教えてください。

A.DTFAをはじめ、デロイト トーマツ グループ全体のDXを推進することが部門全体の役割だと認識しています。その役割の中でさまざまな仕事内容があり、クライアントのIT化支援に関わる業務や、社内のプロフェッショナルサービス（M&A、フォレンジック＆クライシスマネジメントなど）をIT化支援する業務、またその運用を支援する業務などがあり、ITに関わる幅広い業務があります。

Q. DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 前職はITを含む技術系の新規事業・事業開発・技術知識を用いた投資関連のコンサルティングをしておりました。その中で、大きく事業変革ができる手段であるM&Aに興味を持ったのがきっかけです。
入社の段階では、DTFAは生成AIが出てくるかなり前の段階からAIに着目しており、M&Aに関わるサービスに応用できないか検討している段階でした。私自身はプログラミングスキルやITに関わる知識があまりなかったため、AIやプログラムに関わる知識を業務を通じて獲得し、事業開発を推進するとともに、クライアントへその知見を提供したいと考えていました。また、将来を見据えたチャレンジングなDTFAの姿勢に興味を持ち、入社を決めました。￥￥

Q. どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 私自身、キャリアのはじめからITに特化していたわけでもなくスキルもありませんでした。ITに関わる知見に加えて、ITのプロジェクトマネジメントに関わる業務は新鮮で日々学びを得ています。
また、特にDTFAはさまざまな領域におけるプロフェッショナル集団であるため、一緒にプロダクト開発をする際に深い知見も得られます。クライアント向けにリリースする機会を得たツールもあり、専門領域を持つプロフェッショナルと協業しながら仕事を進めることはやりがいがあります。

Q. 今後の目標を教えてください。

私の現在の業務は、プロフェッショナルの知見をIT化しクライアントにもご利用いただくこと、また、プロフェッショナルと協業する中で付加価値の高いビジネスチャンスを見つけて企画を推進することです。現在複数のプロジェクトを推進しており、それを無事にリリースすることが目先の目標です。
将来を見据えると、それぞれのツールが繋がり社内外に大きな付加価値を提供することができると考えています。加えて、最近進歩が著しい生成AIについて、DTFAならではの活用方法を見つけるのもP&Sの役割だと考えています。
生成AIを活用し、社内外ともにDXを推進したいと考えています。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. DTFAにはさまざまな分野に深い知見を持つ方が多くいらっしゃいます。そういった方々と働くことができるのは一つの大きな魅力だと思います。また、この業界においてDXはまだまだ推進できると考えており、ご自身のやる気次第でやりがいのある仕事ができると考えています。
学習意欲や向上心があることは前提にはなりますが、挑戦する意義があるチャンスは多く転がっていると思います。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

複雑化する課題に総合知で立ち向かう

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】資源・エネルギー・生産財(IP&C/PU&R) Digital　マネジャー
SIer／コンサルティングファーム出身
成長実感／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.Digitalの仕事内容について教えてください。

A. Digitalの仕事は大きく①業務・IT観点でのM&Aアドバイザリー業務・②民間企業へのコンサルティング・③官公庁へのコンサルティングの3種類の仕事に分類され、私は主に①と③をやってきました。①では事業再編に伴うカーブアウトディールのセルサイド支援として、Day1に向けたプランニング・分科会体制の立ち上げ・契約書に記載のDay1までの対応事項の推進などの事務局支援や、Day1のシステム構想策定・TSAの検討・Day1に向けたシステム対応のPMOなどのIT分科会支援を行っています。③は行政サービスオンライン化・利便性向上に向けた中長期計画策定やシステム開発の工程管理支援を行っています。また、有事の際(クライシス発生時)の緊急対応の事業立ち上げや事務局支援等も行っています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 前職もコンサルティングファームだったのですが、ファームの規模拡大に伴い組織が細分化され、また長期プロジェクトが多くなったことで、特定のクライアント・サービスの案件のみを担当するようになり、コンサルタントとして特定領域の知見・知識しかないことに危機感を感じたため、転職を決意しました。DTFAはM&A・Crisisを軸にしていることから、特定の領域に閉じない会社・社会全体の変革に関与でき、またDigitalはインダストリーやサービスにあまり縛りがなく他の会社と比べると幅広く仕事ができるため、現職に閉塞感を感じている方にはとても働きやすいと思います。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 初めて担当するインダストリーやサービスの案件において、今までの知見・経験を活かしてクライアントの期待値を超えるバリューを発揮できたときに成長を感じます。セルサイドの事務局支援の案件では20を超える分科会を立ち上げ、各分科会とディスカッションをしてきました。クライアントとのディスカッションの際にSIer時代で培ったITの知見・経験やコンサル時代に培った業務・PMOの知見・経験を活かすことで、各分科会の担当者の課題検討をリードできた時はとても楽しく、成長を感じました。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 近年、社会課題や事業会社の課題が複雑化しており、またステークホルダーも多様化していることから、単独あるいは少数の専門分野の知による課題解決はますます困難となってきており(*1)、今後は多様な知(=総合知)を活用して新たな価値を創出できるコンサルティングが求められると考えています。複雑化した課題を総合知を活用して総合格闘技的に解決できるコンサル集団の役割をDigitalが担い、みんなで楽しい仕事をやっていきたいと考えています。

*1 内閣府「『総合知』の基本的考え方及び戦略的に推進する方策」
（https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20220317/siryo1_2.pdf）から引用

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A. DTFAはサービスラインを拡大しており、デューデリジェンスや契約締結までのM&Aアドバイザリー業務だけでなく、後続のPMI支援やコンサルティング業務などM&Aをトリガーとしたコンサルティング案件の仕事もあります。幅広い知識が求められますが、逆にそれにワクワクする方はとても向いていると思いますので、ぜひチャレンジいただければと思います。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. 前職の上司からの受け売りになりますが、コンサルタントは恒常的自己研鑽が存立の基盤であると教えていただきました。大変な事もありますが、その分やりがいは大きく、自分自身のスキルアップに繋がっています。自分の力を試せる機会がこの業界にはたくさんありますし、特にDigitalは幅が広く自由度が高いため、プロジェクトがうまくいったときの精神的満足は毎回大きく感じております。そのような状況を求めている人と一緒に働けることを楽しみにしております。

社会の課題解決に向けて戦略策定から実行まで迅速かつ柔軟に支援

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】政府・公共サービス(G&PS) / Digital　マネジャー
事業会社出身
成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.G&PS / Digitalの仕事内容について教えてください。

A. 官公庁や自治体に向けにDigitalを中心とした各種サービスの提供やコンサルティングを実施しています。
日本が抱える社会課題に対し、中央省庁、地方自治体、独立行政法人、官製民間企業、特殊法人、学校法人等、公共性の高い企業・団体と共に、幅広く対応し課題解決しています。
コンサルティング領域は、社会課題に向けた政策立案支援だけでなく、施策遂行となる事業の立上げから運営も行っています。事業は、事業計画策定から事業を運営するために必要な業務設計や、システム・オペレーションチームなどを含んだプロジェクト全体のチームビルディングから業務モニタリングなど複合的かつ包括的なサービスを提供しています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. キャリアのスタートはアメリカにある会計事務所に入社し、ニューヨークとニュージャージーを中心に日系企業向けの監査業務・会計アドバイザリー業務を経験しました。日本に帰国後、外資系事業会社の経理財務部へ入社し、経理業務を中心に経験を積みました。その後、DTFAの当時のフォレンジックサービス部門へ入社しました。DTFAを選んだ理由は、世界的に知名度があることはもちろんですが、業務の幅も広く、各領域のエキスパートが集まっているため、自分の専門以外の領域においても知識を吸収することができ、成長する機会にあふれているのではないかと感じたことが一番になります。また、面接時に感じたパートナーを含めフラットな人間関係や、新しいことにチャレンジする人を後押しするカルチャーもDTFAを選んだ理由になります。
入社から数年は数多くの不正調査案件を担当するなかで、偶然にも関与することになったパブリック案件で大変な魅力を感じ、3年ほど経験させていただいた結果、この領域でキャリアを積みたいと感じ、G＆PS / Digitalに異動をしました。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 日々、不確実性が生じる現代社会の中で、セクターをつなげて社会課題にアプローチするという社会的命題に非常に強くやりがいを感じています。収益性を追求するのはもちろんですが、いかに社会に価値を提供するのかという点に強くこだわって業務に従事しています。社会貢献がしたいというその姿勢は新しく組成された部門の文化にもなっており、働くスタッフのモチベーションにつながっています。パブリックセクターで大変なことは、社会情勢によって日々仕事の内容が変わるため、その変化に対応できるように自分自身も変わり続け、常に最新情報にアンテナを張りながら学び続けないといけない点だと思います。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 行政だけでは対応できないような業務がこれからも多くなると想定しており、行政は今後さらにリソースが少なくなっていきます。そういった課題に対し、G＆PS / Digitalが培ってきた経験、各所とのリレーション、メンバーの力を総動員して新たな価値創出の仕組みを作っていきたいと考えています。具体的には、戦略立案から中期計画書の草案、実行支援に至るまで幅広にサービスを提供することを目標としています。また、パブリックセクターにおけるコンサルティング領域においてリーディングカンパニーとしての地位を確立するため、DTFAだけでなくデロイト トーマツ グループ全体の多様な業界での専門的な知見や、国内外のネットワーク等を活かし全国に根差したサービス提供をしながら、充実した体制でサービスを提供しています。

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A. DTFAではM&A、フォレンジック＆クライシスマネジメント、ターンラウンド＆リストラクチャリング、イノベーション、インフラ・公共セクターアドバイザリーなど幅広くサービスを提供しており、経営層への距離も近く、会社の経営判断や社会の変革に直結する仕事を経験する機会が多くあります。また、スポーツビジネス、宇宙ビジネス、ホテル・不動産、金融、小売など各インダストリーに深い知見があり、DTFA独自の顧客網にて他のコンサルティングファームでは体験できない経験を積むことができるのが魅力のひとつです。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. G＆PS / Digitalは専門的なスキルが必要なのはもちろんですが、最新の社会課題をキャッチし、その社会課題に対するソリューションを提供することが重要になります。そのためには会計の知識やファイナンス、IT、英語等の基礎が必要になりますので、ぜひ学生のうちに勉強しておかれることをお勧めします。あと、どの分野の仕事でも言えることですが、人と人とのつながりが仕事の幅を広げることが多いため、学生の時代には勉強をすることはもちろんですが、音楽でも旅行でも飲み会でもなんでも構いませんので、分野を問わず様々なことに経験を積まれると、コミュニケーション豊かで魅力あふれる人になるかと思います。よく学び、よく遊んでください！ 人生は一度きりです。

全てのステークホルダーにとって良いサービスを提供する

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】政府・公共サービス(G&PS) / Strategy　シニアコンサルタント
新卒入社
成長実感/若手活躍/働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.G&PS / Strategyの仕事内容について教えてください。

A. G&PSはGovernment & Public Servicesの意味で、官公庁や自治体向けに各種サービスの提供を行っている組織です。G&PS / Strategyでは、M&A関連業務や不正調査・危機対応といった有事対応における知見を活用しながら、日本が抱える社会課題に向けた政策立案支援のみならず、施策遂行にあたる短期間での事業の垂直立ち上げから運営についても行っております。事業の立ち上げにおいては、事業計画の策定や運営に必要な業務設計はもちろんのこと、プロジェクト全体のチームビルディングなども含めた複合的かつ包括的なサービスを提供しています。
また、超大型から中小規模まで、国内外問わず様々な種類の案件へ関与する機会があり、社内の多様な専門家との協業によるアドバイザリー業務に携わることが可能です。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 主な理由は次の2点です。一つ目は専門性を培っていけると考えたこと、もう一つはその専門性をもって関係者に価値を提供できる環境だと思ったことです。
私は元々研究者を志していたのですが、実際に研究をする中で、特定の領域を深めていく事には面白さを感じる一方、自分がやっている事が実際に誰かの役に立つまでの隔たりが大きいと感じるようになりました。
そのような考えのもと就職活動をしている中でDTFAと出会い、M&Aやクライシスマネジメントといった専門性が高い領域であり、かつ、クライアントにとっての重要局面において価値提供をしているという点に魅力を感じ、入社を決めました。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 自分の業務範囲が広がったと認識できた時に成長を感じます。
入社したての頃は、切り出された業務を与えられ、それをなるべく早く正確に遂行するという事に従事していました。
そういった業務を繰り返しながら、自分なりに業務における価値提供の仕方を考え、物事が前に進むよう主体的に動いていくことで、業務自体の設計やスケジューリング、関係者とのコミュニケーション、チームビルディングなどといった、それまで自分が行なっていた事よりも高いレイヤーの業務についても自然と担当させていただけるようになっていきました。
業務範囲が広がっていく事で、気が引き締まると共に、自分の能力が向上したことを実感できています。

Q.今後の目標を教えてください。

A. クライアント、クライアントの関係者、社内のメンバーといったステークホルダー全員に良い影響を与えられるアドバイザーになりたいと思っています。
G&PSの業務は性質上ステークホルダーが非常に多岐にわたっているため、全員にとっての100点満点の答えを見出す事が難しいことも多いと感じています。そういった中でも要所で最良の解を見出し、ステークホルダー全員にとってなるべく良い結果をもたらす事に貢献していきたいと考えています。
また、社内のメンバーにとっても良いチームであり続けることで、中長期的に良いサービスを提供し続けていきたいと考えております。

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A. DTFAには、多様なバックグラウンドの専門家が協力しながらクライアントに価値を提供し続けていける環境があると感じます。
実際、私自身も、あるプロジェクトにおいては、IT専門家のメンバーや会計専門家のメンバーと議論しながら業務を遂行するという経験をさせていただきました。グループ内の研修コンテンツも充実しており、様々な知識をキャッチアップしながら業務を遂行できるような環境も整っていると思います。
また、各メンバーの価値観や事情などへの配慮といった点も非常に重視されており、中長期的に働ける環境が整っていると感じます。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. 世の中には多種多様な仕事があり、それぞれ異なる形で世の中に価値を提供しているものと思います。
それぞれの仕事が世の中にどういった価値を提供していて、それをご自身がどう感じるのかを考え抜くことは、将来の自分の仕事を決めるうえで重要なことではないかと思います。
中でもコンサルティング業界やM&A業界の仕事はクライアントの重要局面を支援するものですので、大変な一方で非常にやりがいのある仕事の一つだと思います。
DTFAのG&PS / Strategyでは、政策立案の支援や施策自体の実行といった中長期に渡る内容も守備範囲としています。
クライアントの重要局面を中長期的な目線も持ちながら支援することに関心を持っていただけるようでしたら、是非一緒にお仕事をさせていただければ幸いです。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

「日本企業の海外進出」の一翼を担い、クライアントに貢献する

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】コーポレート ファイナンシャルアドバイザリー　パートナー　〈2017年12月入社〉
大手銀行出身
M&A／グループ内連携／多様な専門家との協働／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.コーポレート ファイナンシャルアドバイザリー（以下：CFA）の仕事内容について教えてください。

A. TMT（テクノロジー・メディア・通信）業界のクライアントを中心に、M&Aの案件の組成から、クロージングまでを担当しています。CFAとしてクライアントから求められる役割は、クライアントに寄り添って案件を成功に導くこと。アドバイザーとしてクライアントの利益を最大化することが期待されていますが、交渉の状況によっては当事会社同士の間に入り、円滑に交渉が進むよう、緩衝材になることも求められます。

もう一つ重要なのが、「期待値をコントロールすること」です。我々は多数の案件を手がけていますから、このように進めるとこういう結果になりそうだとか、こういったケースでのリスクはこれだ、といった経験と知見があります。これらのナレッジをいかして、次に起こるであろうシナリオを適切にコントロールしてクライアントのフラストレーションを最小限に留める。
また、交渉相手方に対しても適切にコミュニケーションをとることで両者間のボタンの掛け違いをなくし、交渉プロセスにおける信頼関係を築いていく。これもCFAの非常に重要な役割です。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 大手銀行に勤務し、銀行およびグループの証券会社で現在と同じようなM&A業務に従事していました。しかし、十年ほど業務に携わるなかで、大きな組織でのM&A業務は担当が細分化されていることや、業務自体の制約などもあり、銀行でのM&Aアドバイザリーに限界を感じ、転職を決めました。

DTFAは、デロイト トーマツ グループという枠組みのなかで組織やファンクションは分かれているものの、組織間の垣根がとても低く、グループ全体でサービスを提供する環境が整っていると面接で聞いたことが、入社した決め手です。M&Aのサービスは、自分1人ですべてのノウハウを蓄積することはできません。そのため、DTFAのように各領域のスペシャリストがおり、情報を共有できる環境はクライアントにとっても、自身の成長にとっても非常に重要だと感じています。
実際、入社後の印象もその通りで、デューデリジェンス（DD）やバリュエーション、PMI（Post Merger Integration）、組織再編など、M&Aの各プロセスに関わるメンバー間の垣根が非常に低く、パートナーから新卒のアナリストまで、フラットな関係で意見交換できる社風と言えます。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. DTFAのCFAはクライアントとの距離が非常に近いため、クライアントが抱えている課題をより深く把握できるようになったことがあげられます。その結果、会社としての関係性はもちろんですが、それ以上に人間同士としてのお付き合いから、お仕事のご相談をいただくようなケースも増えています。

また、やりがいという面ではシンプルかも知れませんが、やはりクライアントから感謝されること。「DTFAでなければできなかった」というお言葉をいただけると、それまでの苦労も忘れてしまいます。そして、クライアントから「あなただからできた」と声をかけていただけるように頑張ることも、やりがいの一つです。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 当面の目標は、アドバイザーとしてしっかりクライアントに付加価値を提供すること。将来的には、日本経済にとって大きなテーマである「日本企業の海外進出」に、微力ながらも一翼を担い、貢献することです。

M&Aは、何をもって成功と言えるのか、非常に難しいものです。例えば対象会社を安く買収できさえすれば、あるいは後に減損しなければ成功なのかと言えば、必ずしもそうではありません。成功の尺度を決めることは難しいですが、私は結果と同時に、M&Aのプロセスも重要と考えています。例えば上場会社がM&Aを行う際、果たすべきコーポレート・ガバナンスの基準にのっとって検討を進められたのか。対象会社のビジネスを適切に評価し、その評価に基づく意思決定ができたかといった点です。結果のみならず、クライアントの検討プロセスをしっかりと支援することもこれまで以上に大切にしていきたいですね。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. 私の学生時代は、大手銀行の経営統合など、大型のM&A案件が日本国内でも本格的に起こり始めた時期でした。ちょうどその頃、私は大学で会社法を学んでおり、それをきっかけにM&Aについて勉強を続けてきたことが、今につながっています。ですから、何かのきっかけで興味を持ったら、次は勉強し続ける意欲を持つことが大事。反対に学生の頃にやっておけばよかったことは、間違いなく英語です。DTFAではクロスボーダー案件が多くを占めるため、英語を日常的にコミュニケーションの手段として使います。関わる案件の幅を広げるためにも、ぜひ身につけておいて欲しいですね。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

好奇心をもって、仕事を創造する

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】コーポレート ファイナンシャルアドバイザリー
シニアコンサルタント　〈2019年4月新卒入社〉
M&A／成長実感／若手活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.コーポレート ファイナンシャルアドバイザリー（以下：CFA）の仕事内容について教えてください。

A. CFAの業務範囲としてはM&A案件組成からクロージングまで幅広い業務を提供しています。組成段階では、クライアントとのディスカッションを通してニーズを探りながら社内外のリソースを集め、最適なソリューションの設計を行います。組成後は、買手、売手、対象会社それぞれのディールへの思いや社会情勢などを勘案し、調整しながら、クライアントのニーズに沿った形でのディールの遂行をサポートします。

まだ直接クライアントや取引相手と対面することがないような1年目の時から、クライアントの意向やチームの方向性、日々変化するディールの状況一つ一つをリアルタイムで正確に把握し、一挙手一投足まで考えて行動することが求められます。
若手のうちからプロフェッショナルファームの一員として一定以上のレベルのアウトプットが求められる仕事ですが、自分のチームやクライアント、社会情勢など多方面から刺激を受けることのできる仕事だと感じています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 私は小学6年生から約4年間両親の仕事の都合で海外に住んでいた経験があります。その時に初めて異なる文化や言語に触れ、視点を変えることで物事の見え方が180度変化することを強く実感しました。就活中に自分の進路に悩んでいた時、広い視野と複数の視点を持ちながら働くことができる職に就きたいという漠然とした思いがあり、アドバイザリーの職がとても魅力的に感じたのがDTFAを選んだきっかけでした。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. DTFAには手を挙げれば常に新しいことに挑戦させてくれる社風があり、また周りにはさまざまなバックグランドを持っているプロフェッショナルがいる中で、若手のうちから成長機会に恵まれた環境で働くことができる会社だと感じております。入社直後はディスカッションについていくのが精いっぱいでしたが、1年たつと、多少なりとも議論の流れを理解して自分の意見を形成し、必要に応じて他の人に自分の意見を共有できるようになりました。DTFAでは若手のうちから自分の意見をもつことが求められ、また周りの人が自分の意見に耳を傾け、フィードバックしてくれる職場文化があると思います。
情報をインプットし、自分なりの意見を形成し、それを自分の言葉で他者と共有して、そしてフィードバックを受けて修正する―このサイクルを繰り返すことで、周りの意見を取り入れながら日々少しずつですが成長しているのではないかと思っています。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 現在はシニアコンサルタントとして、ほかのスタッフと協力し、案件を実際に動かすためのエンジンのような役割が求められていると考えております。一方で、ただ案件を前に動かすのではなく、どのような方向で、何に向かって前に進むのか、クライアントのニーズをくみ取りながら業務を遂行する必要があり、ものごとをただ前に進めること以上の付加価値を提供できるような人材になりたいと考えております。長期的にはクライアントのニーズをディスカッションなどを通して整理し、クライアントとともに能動的にDTFAとして仕事の機会を作っていけるようなマネジャーになりたいと思っています。

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A. 当社にはさまざまなバックグラウンドやスキルセットをもつ人材が集まっています。そのような環境下で、社内外から刺激を受け、自分に取り込み、成長の糧とするプラットフォームがDTFAには整っています。ただし、キャリアパスというものが明確に組織から提示されることはなく、自分のキャリアは自分で設計し、何が成長のために必要なのか、自ら考え、自分が足りていない部分を習得するよう行動に移すことが求められます。これはキャリア設計だけではなく、日々の業務でも同じことが言えるかと思います。私たちの業務内容はマニュアルやルーティンをベースとしたものではなく、毎回何が必要なのかその時々に最適なタスクの設計を若手のうちから求められます。好奇心を持ち、自分で考え、行動に移すところに面白さを見出すことができる人にとっては、とても魅力的な仕事だと感じています。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. 新卒として第一キャリアをプロフェッショナルファームにすることは、とても刺激的であるとともに、負荷の高い選択だと感じています。日々の業務の中に転がっている成長機会を自分で拾い、最大限に自分に取り込んでいくことでスキルを磨き、自分にしか発揮できないバリューを見出すことで新卒として周りのプロフェッショナルと肩を並べて仕事ができるようになるのではないかと思っています。そのことに好奇心をもって取り組むことができれば、仕事の負荷も気にならないほど仕事のやりがいを感じることのできる職場だと思います。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

すべての案件がオーダーメイド。考え続けることに仕事の醍醐味がある

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】M&Aトランザクション　パートナー〈2013年6月入社〉
通信会社出身
M&A／クロスボーダー

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.M&Aトランザクションサービス（以下：TS）の仕事内容について教えてください。

A. TSでは、財務デューデリジェンス（DD）を中心に行っています。DDとは対象会社を分析して、M&Aにおけるリスク要素を把握し、アドバイスを行う業務のこと。とくに財務DDでは、M&A後のシナジーではなく、リスクを重点的に見ることが基本であり、それと同時に他のファンクションの業務のベースとなっている側面もあります。とくに大型案件ではTSのチームがDDによって、クライアントや対象会社の状況を詳しく把握するため、デロイト トーマツ グループ全体でクライアントにサービスを提供するような場合の取りまとめを担いつつ、さらにPMI（Post Merger Integration）をご相談いただくことも多くなってきています。
例えば、DDからPMIまでサポートしたクロスボーダー案件では、税務面での検討とバリュエーションの検討を組み合わせて行う必要が生じ、さまざまな専門家のコーディネートと、その取りまとめや検討といった、財務DDにとどまらないことまで幅広く手がけたことが、強く印象に残っています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 最初に就職した通信会社で会計の重要性を実感し、数字がわかるようになりたいと思ったことから、公認会計士を志すようになりました。その後、大手監査法人でM&Aを中心に担当していましたが、クロスボーダー案件を数多く経験するなかで英語力の必要性を感じ、1年程アメリカへ留学しました。そして帰国後に、語学力を活かしたいと思いクロスボーダー案件の多いDTFAに入社、その希望通り現在私が担当するほとんどの案件はクロスボーダー案件になっています。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. TSでは、非常に難しい会計処理などに出くわすことも珍しくありませんが、そうした会計上の問題について、正解を見つけるために考えるプロセスは、私にとって仕事における楽しみになっています。M&Aは案件によって進め方も目的もまったく異なり、その都度、考えることが必要です。ルーティンワークでできることは何一つなく、常に考え続けなければいけないことに仕事の醍醐味があると思います。とくにDTFAでM&Aの経験を積むことで仕事の幅も広がり、ディールのクローズだけでなく、その先のPMIまで携われるようになったことは、私自身にとっても未知の分野への挑戦でしたし、成長できたと思います。
また、DTFAには税務だけでなくビジネスや人事など、デロイト トーマツ グループとしてさまざまなファンクションが揃っており、スピーディーにプロセスを進められるという強みがあります。とくに複数のファンクションにまたがるときは、私たちにとって業務を進めやすいだけでなく、クライアントにとってのメリットにもつながっていると思います。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 国内企業が海外に出て、拡大を目指す流れが強まるなか、PMIのニーズも高まってきています。これまでPMIは自社で担うケースも珍しくありませんでしたが、クロスボーダーで、かつ大型の案件になるとクライアントも把握できないことが多くなります。そうした際に、専門的な知識を豊富に持ったTSや、デロイト トーマツのグローバルネットワークをいかし、財務DDからそのままPMIも支援させていただく仕事が増えつつあります。ですから、今後は今まで以上にDDだけで終わらせるのではなくPMIまで、一貫してクライアントにサービスを提供する流れを増やしていきたいです。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. TSは極めて専門性が高いため、将来的にTSのメンバーとしてM&Aを手がけるには、事業会社なり監査法人で身につける財務・会計のしっかりした知識と経験が必須になります。もちろん、経験は実際に働かないと身につけられないので、最低限の会計の知識とファイナンスの基礎をぜひ学生のうちに勉強しておいてほしいですね。また、私は英語力で仕事の幅がさらに広がったのを実感していますので、余裕が有れば英語の勉強にもトライしてください。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

「知りたい」の気持ちをいつでも満たしてくれる仕事

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】バリュエーション＆モデリング　パートナー　〈2016年1月入社〉
プロフェッショナルファーム出身
M&A／女性活躍／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.バリュエーション＆モデリング（以下：V&M）の仕事内容について教えてください。

A. M&AにおけるV&Mには企業価値、無形資産、有形資産、金融商品などの評価業務や、モデリングなどさまざまな業務がありますが、なかでも私が主に担当しているのは無形資産評価と機械設備評価です。無形資産評価とは、企業の商標権やブランド、顧客関係、技術などを評価する業務。機械設備評価は、工場や化学プラントなどの機械設備について評価する業務です。

とくに機械設備評価は珍しい仕事といえるかもしれません。世界的な流れもあり、国内でも近年、機械設備の時価評価のニーズが高まっている一方、担当できる人材は多くなく、私もDTFAのインダストリーをまたいで関わっています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 前職は新卒で入社したプロフェッショナルファームに勤め、コーポレートファイナンス関連業務や現在と同じようなV&Mの業務を担当していました。そうしたなか、当時としては珍しい機械設備評価に挑戦し、自分のスキルや仕事の幅を広げようとしたのですが、当時は機械設備評価そのものが浸透してないこともあり、難しさを感じていました。

ちょうどその頃、DTFAの方から機械評価のチームを一緒に立ち上げたいと声をかけていただいたことが、入社のきっかけです。DTFAはさまざまなサービスを手がけると同時に、デロイト トーマツ グループとしての業務も非常に幅広いため、多くの領域のプロフェッショナルが集まっていることが特徴であり、大きな強みだと思います。またパートナーを含め、人間関係がとてもフラットで、非常に話しやすい雰囲気ですね。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. V&Mの業務は前職でも担当していましたが、近年は国内案件、クロスボーダー案件に限らず仕事が急増していることに加え、パートナーというポジションにいますので、今はこれまでにやってきたことと、プラスアルファとして人材の育成などにチャレンジしている最中です。

この仕事の醍醐味は、たくさんの会社、たくさんの方々にお会いできること。1つのプロジェクトが終われば、また次の新しいクライアントとの出会いがあり、その会社のビジネスに関わることができるのが最大の魅力です。同様に、工場のそれぞれにストーリーがあり、それに触れることで、私の「いろんなことを知りたい」という好奇心を満たしてくれます。

一方で、すべての機械設備を見たことがあるわけではありませんから、事前にその業界のことや製造工程を調査し、固定資産台帳を見て機械設備を理解するといった入念な準備が必要ですし、一朝一夕で把握できることではありません。ただ、新しいことを吸収することは好きなので、日々、勉強することを楽しみながら、仕事に取り組むことで成長を感じています。また、機械設備と技術などの無形資産は論点が似ている点もあり、相乗的に理解が深まっているという実感もあります。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 現在は案件の量に対して、V&Mの業務のなかでも、とくに機械設備評価のできる人材が足りていない状況です。既存ビジネスに加えて新規ビジネスを大きくするためにも、人材を育てつつ、新しいメンバーも積極的に探していかなければいけません。人材を集めてチームを大きくし、提供するサービスの数や質を上げていくことが今の目標です。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. 私自身は大学で臨床心理学を専攻していました。しかし仕事を始めた頃は、その知識をいかせるとは考えもしませんでしたが、キャリアを重ねていくと、特に意識することなく心理学の知識を使っている場面もあります。さらにマネジメント側になると、心理学が必要となる局面もあるのではないかと思っています。ですから、今は仕事に直結しないと思われる勉強をしていたとしても、むだなことは一つもありませんし、どんなことでも仕事にいかせるのがアドバイザリーの仕事とも言えますね。

正解のない課題を徹底的に考え抜き、クライアントの変化を導く

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】ストラテジー　マネジャー　〈2019年4月新卒入社〉
M&A／若手活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.ストラテジー（以下：Strategy）の仕事内容について教えてください。

StrategyではPre-DealからOn-Deal、そしてPost-Dealまで幅広い業務を行っています。Dealのサポートをリエゾン的に行うCFA（コーポレートファイナンシャルアドバイザリー）とは異なり、M&Aの各局面においてより専門的な知見や価値を提供することが我々の役目です。
Preフェーズであれば事業／M&A戦略策定やそれに係る市場調査、Dealフェーズにおいてはビジネス・IT・オペレーション・コマーシャルなどの各種DD(デューデリジェンス)、PostフェーズではPMI（Post Merger Integration）支援などが、我々が提供している業務の一例です。
業務の幅が広いという特徴ゆえに、一人のコンサルタントが一貫してPreからPostまでを担当するというよりも、同じStrategyに所属するコンサルタントやチームがバトンを繋いで一つのM&Aを成功に導くというイメージで仕事をしています。
Pre-DealのM&A／事業戦略策定案件の場合は、まずクライアントへの課題や狙いのヒアリングからプロジェクトが始まります。それらを基点として、クライアントが直面している現状を知るための市場調査や競合調査、クライアントのケイパビリティを整理する内部環境調査などを進めていき、最終的に戦略を組み立てていくステップが一般的です。調査の過程ではデータを使った定量分析や、レポートや専門書、有識者インタビューなどを活用した定性分析など、クライアントの課題や狙いに沿った分析手法を採用していくことになります。
調査や分析結果における新規性や示唆、洞察を導くだけでなく、それらをいかにクライアントに分かりやすく伝えるかというアウトプット作成・プレゼンテーションを含めたハード・ソフトスキル両面が重要になってくるのが、Strategyの仕事の難しさであり面白さであると感じています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. DTFAを選んだ理由は大きく分けて二つです。一つは企業や社会の変化に直結する仕事ができること、もう一つは人です。

私は学生時代、新聞社の編集局でアルバイトをしていました。リオ五輪や平昌五輪など日本中が熱狂した瞬間も、企業の統合や売却が発表された瞬間も、私は次の瞬間にそれらを世界へ発信するために動き続けるという日々を過ごしていました。もちろん、世界の変化を伝える仕事をサポートできることはやりがいでしたが、徐々に変化を伝える・享受するという受動的なポジションに居続けるのではなく、変化を起こす・生み出すよう能動的なポジションで仕事がしたいと思うようになりました。

その意味でDTFAはまさしくM&Aという企業の変化を生み出す仕事ができる職場です。しかも幅広い業界の案件に短いサイクルで数多く関与できるチャンスがあるという点も、大きな魅力であると感じました。

また、私自身はDTFAの新卒採用第1期として入社しています。入社の決め手となったのは、採用の過程で出会った一人の面接官です。その方から聞いた「DTFAの文化を担っていく人材を新卒から育成すべきという信念から、組織を説得してこの新卒採用を始めた」との話が今も強く印象に残っています。自分がまさしく社会人として達成したいと考えていた企業の変化を、クライアントのみならず自社の中でも生み出す「人」がDTFAにいることを知り、この方たちと仕事をしたいと思い、最終的にDTFAへの入社を決めました。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 新卒で入社した当初は指示を受けて、まずは指示通りにやるというところからのスタートでしたが、現在のマネジャーの立場では自分で考え、判断する作業が求められます。DTFAやStrategyという組織の中で、自身の裁量が広がった時や、新たに役割が与えられた時には成長を感じることができています。無論、裁量や役割が広くなるということは、それに比例して責任も重くなるため、単純に嬉しいというよりは気が引き締まる感覚です。複数案件に関与しながら各案件を俯瞰し、クライアントの期待値を常にクリアできるような質の高いアウトプットやデリバリーを続けること、チームメンバーを多く抱える中で彼らのチャレンジや成長に向き合っていくことの難しさと責任を感じつつも、大きなやりがいを感じています。

また、DTFAでは入社直後からクライアントと接する機会を得られます。相手はその業界のプロフェッショナルであり深い見識をお持ちの役職者の方ばかりですが、そのようなクライアントから「面白い」「知らなかった」という言葉を自分のアウトプットで引き出せたときも、この仕事をしていて充実感と成長を感じられる瞬間の一つです。
そのような仕事を続ける中で、「デロイトと一緒に仕事をしたい」「あなたの力を借りたい」というお言葉を聞く機会も増えており、日々の仕事のモチベーションになっています。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 一人のコンサルタントとしては、引き続き真摯にクライアントと向き合い、M&Aや事業戦略の策定を通して良き変化の一助となることが目標です。コンサルタントの仕事は、正解のないクライアントの課題に対して徹底的に考え抜くことが使命だと思います。正解がないゆえにクライアントに寄り添うという体のいい言葉で、クライアントが言うことをそのまま実現しようとするケースも見受けられます。ですが、私は本当にクライアントが解決すべき課題は何か、それらはどのようにして解決できるのかという点で真摯にクライアントと向き合い、本質を見抜き、考え抜いて提案できるコンサルタントを目指していきたいです。
またDTFAの一員としては、私だからこそ提供できる価値というエッジの部分を磨いていきたいです。DTFAにはたくさんの優秀な方が在籍されていますが、この領域であればあの人というように絶対的な強みを持ち、クライアントへ価値を提供している先輩方がいらっしゃいます。たくさんのお手本となるべき先輩方の姿を追いつつも、自分らしさを忘れずに邁進したいと考えています。
さらに、マネジャーとしてDTFAを背負ってクライアントと向き合う立場になって以降、「DTFA」、そして「自分のチーム」のファンとなってくださるクライアントを一社でも増やすことが自身の目標に加わりました。そのためには一つ一つの案件に真摯に向き合い続けることが大切であり、クライアントとの信頼を築き、そして維持し続ける努力が求められます。簡単なことではないと痛感する日々ではありますが、やはり「DTFA」だからこそ提供できる価値を、自分たちのチームだからこそ提供できる価値を追い求めることは、この先も意識し続けていきたいと思っています。

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A. DTFAのプロフェッショナルとして常に学びの姿勢を貫き、高いアウトプットを出し続けるという責任を負うことは簡単なことではありません。その点、これまでのバックグラウンドにある程度固執せず、スキルセットや知見をスピーディーにキャッチアップすることが求められる局面もでてくると思います。そのような局面でも柔軟性を持てる方や、知的好奇心が高い方はStrategyの仕事に向いているのではないでしょうか。

また、DTFA、特にStrategyは携わる案件の幅広さという点において、これまでの経験を活かしてさらなる活躍をしていく土壌、これまでのバックグランドを離れて新しい活躍をしていく土壌、いずれもが整っている部門だと思います。いずれの選択肢においても大切なのはご自身がDTFAの中で「何をしたいか」という点ですが、その点をきちんと伝えて、責任をもって行動していけば自分が携わりたい仕事を任せられることや目指すキャリアを歩むことも難しくないと思いますので、関心のある方はぜひチャレンジしていただければと思います。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. M&Aに携わる仕事であれば、英語力や会計・ファイナンスの知識が必須というイメージになるかと思いますが、Strategyの仕事ではむしろこれらに固執しない姿勢の方が重要になってくると思います。クライアント・業界・市場を知るために必要な言語はなにか、必要な知識とはなにか。クライアントが日本企業であれば英語はもとより日本語の方が重要になりますし、専門用語や技術用語を含めたクライアントの言語で話をすることが求められるケースもあります。会計・ファイナンスの知識だけでなく法律やIT、時には時事ネタやエンタメなど多岐に渡る知識が求められる場面もでてくると思います。
案件によってクライアントが変わるこの業界の特徴を柔軟に受け入れ、それを楽しみ、学んでいける姿勢のある方こそ、DTFAのStrategyには向いているのではないでしょうか。
私自身も国際政治という全く会計やファイナンスとは異なる領域からこの世界に飛び込みました。同じようにDTFAには多様なバックグラウンドを持つ人材がたくさんいます。過去のバックグラウンドに固執せず、変化を楽しめるマインドセットを持つこと、そしてその変化にプロフェッショナルとして対応できるよう学びの姿勢を貫くことが、どんなスキルセットや知識よりも大切だと思います。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

できない理由ではなく、できる方法を考える

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】Digital統括　パートナー　〈2012年5月入社〉
事業会社出身
異業種からの転職／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.Digitalの仕事内容について教えてください。

A. Digitalとは、ビジネス環境の激しい変化の中で、顧客や社会のニーズに合わせるために、業務(オペレーション)の変革やそれを可能にするテクノロジー(IT)を活用することであると考えています。
DTFAはM&Aや、企業再編・不正調査などのクライシスマネジメントの局面における重要な課題の解決を支援していますが、どのような課題においても解決策の1つとしてDigitalの観点は必要なものとなっています。
具体的には、M&Aでは大きくPre M&A、On Deal、Post M&Aと3つのフェーズに分けることができますが、Digitalではそれぞれのフェーズでサービスを提供しています。
Pre M&Aではテクノロジー(IT)やオペレーションの視点でM&Aにおけるフィージビリティを検討することが多いです。On DealではITまたはオペレーションに関するデューデリジェンスを行い、リスクを抽出し、買収価格への影響や対応方法を検討・報告を行います。Post M&Aでは、PMOや各検討領域における分科会の支援を行っています。
また、現在ではM&Aの経験を活かして、新規事業の立ち上げなどゼロからイチを造り出す支援や、データ分析を軸にしたサービスも提供しています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 新卒で事業会社に入社し、主に経理業務を中心とした業務改善コンサルティングやシステム導入支援に従事し、2012年にDTFAに転職しました。経理業務の仕事に面白みを感じていたものの、会社全体の1つの領域でしかなかったこともあり、抜本的に変えなければ、なかなか組織は変わらないと思い、より大きな変革に携わることのできる仕事に就きたいと考えるようになったのが転職のきっかけです。その中でDTFAを選んだ理由は、M&Aという企業の大きな変化に携われるという単純な理由でした。実際に入社してみると、M&Aだけでなく、クライシスなど様々な企業の重要な局面に関与することができますし、事業会社と比較すると組織の垣根が非常に低く、上下の関係もなく、非常に働きやすい環境であると思います。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 私はM&Aのみならず、大型のクライシス案件にも関与してきていますが、社会や企業の重要な局面に接することが多く、非常にやりがいを感じています。重要な局面に関与するということは、その意思決定を左右することにもなりますので、常に緊張感を持って仕事ができることに成長を感じるとともに、そのスピードも非常に早いと感じています。

Q.今後の目標を教えてください。

A. コロナショックの影響もあり、選択と集中を検討する企業も多くあると思います。一方で、デジタル化が進む中で産業別の縦割りの業界構造が大きく転換しており、産業横断的なつながりも求められていると思います。
そうなると、カーブアウト(事業譲渡)や二社間だけでなく複数間企業でのM&Aが増えてくると考えています。その中での我々の役割としては、これまで通り業務(オペレーション)やテクノロジー(IT)観点でのリスク最小化の検討はもちろん、複雑な形態の中での企業や事業の垂直立ち上げ支援をより強化していければと思っています。また、FA業務の中では我々は稀有な存在でもあると思いますので、グローバルでの連携・協業等も進めていければと考えています。
また、社会アジェンダへの取り組みも開始しており、社会全体の課題にも取り組んでいきたいと考えています。

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A. Digitalという組織は、幅広い知識が求められる領域ではありますので、様々な知見のある方が集まって成り立つと思っております。ご自身の経験を活かせる機会は多くあると思いますので、興味がある方は踏みとどまらずに、是非チャレンジしていただければと思います。
様々なバックグラウンドを持った方々と一緒に働けることを楽しみにしています。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. Digitalというと、テクニカルなスキルや知識がないと難しいと考える方も多くいるかと思いますが、現在一緒に働いているメンバーも初めは皆さんと同じだったと思います。一番大切なことは興味があることに携わりたいという意欲だと思いますので、その気持ちを強く持っていただければと思います。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

クライアントの最も重要な課題に真正面から向き合う

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【クライシスマネジメントビジネス】ターンアラウンド&リストラクチャリング
マネジャー　〈2016年3月入社〉
クライシスマネジメント／グローバル連携／チャレンジできる環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.ターンアラウンド&リストラクチャリング（以下：T&R）の仕事内容について教えてください。

A. 大枠としては、クライアントの「有事」局面（再生・撤退、不祥事・危機対応、M&A、事業承継など）を中心に、アドバイザリー業務や実行支援業務を行っています。サービス提供範囲は非常に広く、私たちの仕事内容も多岐に渡ります。有事にクライアントはさまざまな課題を抱えます。例えば業績不振に陥ると、資金繰り管理の強化や資金創出策を行う必要があり、金融機関から支援を得るために説得力のある事業計画を作らなければなりません。事業・資産の売却（M&Aなど）・海外拠点撤退なども同時に実行する場合もあります。このようなさまざまな課題に対して、私たちは幅広い知見・経験・スキルを用いて、解決に向かう道筋を立てていきます。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. グローバルな環境で働くことに憧れていたからです。実際DTFAに転職してから、海外メンバーファームとの協業、US Deloitte（アメリカ）への出向、DTFAに在籍する他国籍メンバーとの協働を多く経験できました。
T&Rを選んだ理由は、解決すべきイシューが深いことや自身が貢献した成果が目に見えることにやりがいを感じたからです。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 毎日できる事が増えていると感じます。私がDTFAの好きな所として、チャレンジ性や柔軟性の大きさがあります。事業再生業務やM&Aアドバイザリー業務自体は世の中に長く存在しますし、トラディショナルなサービスを提供し続けるプロフェッショナルファームも少なくありません。そんな中DTFAは常に世の中のニーズを捉え、サービスを柔軟に進化させています。私たちもチームとして、業界としてこれまでやったことない事に取り組んでおり、日々考え方やスキルをアップデートしています。また、事業再生という業務は純粋に業務範囲が広いので、いくらでも自分自身を成長させる機会が転がっていると思います。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 当面はこの世界の混沌期に少しでもバリューを出せるように、自分のできることを精一杯やりきりたいです。コロナ禍で事業再生業界はこれまでになく注目されています。多くの会社が先を見通せない今だからこそ、できることがたくさんあると思っています。
昔はキャリアの目標から逆算して仕事をしていましたが、このチームに来て考え方が変わりました。今できることに集中してやりがいを持って働いた先に、経験しないと見えなかったキャリアがあると考えています。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. コンサルタントの主な悩みの一つとして、自分の成果が見えにくい、世の中に貢献している実感が持ち辛いという話をよく聞きます。事業再生はその正反対だと感じます。思ったより何倍もやりがいがありました。ただ、同時に感じる責任も非常に重いです。責任が重くても、重要なイシューに取り組みたい、または成長したいと思う方は興味を持っていただけたら嬉しいです。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

不正の専門家として、クライシス対応から再発防止まで総合的にサポート

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【クライシスマネジメントビジネス】フォレンジック＆クライシスマネジメント
マネジャー　〈2020年1月入社〉
クライシスマネジメント／会計士からのキャリアチェンジ

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.フォレンジック＆クライシスマネジメント（以下：F&CM）の仕事内容について教えてください。

A. F&CMでは、会計不正やデータ偽装など企業が直面したクライシスに対して、不正調査を含む初動対応の支援や再発防止策の策定・導入支援を行っています。その他、クライシスマネジメント全般をカバーするサービスも提供しており、不正発見・予防プログラムの導入支援や内部監査部門の支援、M&Aにおける不正リスクの観点でのデューデリジェンスなど、企業内外に潜む不正リスクを洗い出すための支援にも力を入れています。
昨今のコンプライアンスやガバナンス意識の高まりを受けて、企業不祥事が明るみに出ることが増えてきており、また、その種類や手口も多様化・高度化しています。そのため、客観性・専門性を持ったフォレンジックのプロフェッショナルに対するニーズは急速に高まっています。

DTFAのF&CMは豊富な調査・改善経験や有限責任監査法人トーマツとの人材交流、海外メンバーファームとのグローバルネットワークに強みを持っていると考えており、これらを活かして社会のニーズに応えるための専門的なサービスを提供しています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 有限責任監査法人トーマツで6年間、製造業や商社などの会計監査に従事しました。
監査の業界では「不正リスクにどう立ち向かうか」が最大のテーマとなっており、不正に関する調査報告書や書籍を読んで不正事例を研究する中でフォレンジックという仕事に出会いました。公認会計士として強みを持ちたいと模索していたこともあり、フォレンジックの専門家としてキャリアを積みたいと考え、DTFAに転籍しました。
メンバーはプロフェッショナル意識や正義感が強く、バックグラウンドも監査法人やコンサルティングファーム、国内外の事業会社や公的機関などさまざまなため、普段のコミュニケーションの中でも勉強になることが本当に多く、刺激を受けています。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. クライシスに直面した際、今まで不祥事に出くわしたことのない企業の担当者の方々は、限られたリソースの中でさまざまな課題に対処しなくてはならず、困惑していらっしゃいます。
その中でフォレンジックの専門家として、不正等に関する知識や業務経験を活かした解決策を見出して助言を出来たときは成長を感じられます。
また、私は会計監査のバックグラウンドがありますので、一般的な会計知識に加えて、監査法人への説明や内部統制・開示書類への影響も見据えた考え方を提案できたときにもやりがいを感じます。

Q.今後の目標を教えてください。

A. F&CMの仕事は、正確に事象を捉える力やスピード感に加え、状況に応じて方向転換できる柔軟性が求められています。さらに、提供するサービスに対するクライアントからの期待も高く、専門的な知識だけではなく、資料の分かり易さや話し方の明瞭さ次第で信頼いただけるかが決まると感じています。
さまざまなケースのクライシスに対する業務経験を積むことで自身の「引き出し」を増やすとともに、クライアントとのコミュニケーション一つ一つを大切に、信頼いただけるプロフェッショナルになることが目標です。

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A. DTFAのメンバーは既に他の会社や業界で経験を積んできた方が多く、それぞれが何かに強みを持った個性的な方々が多いと感じています。
普段から意識して周りを観察していると、専門知識や業界知識はもちろんのこと、仕事に取り組む姿勢やクライアントとの接し方など、DTFAのメンバーから吸収できるポイントがそこら中にあると気付きます。
プロフェッショナルとして自己研鑽に励む意欲のある方、周りから知識や経験を吸収しようという気概のある方、そして個性的な魅力を持った方と一緒に働きたいですね。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. 会計系のコンサルティングファームというと、高度な会計知識が求められるというイメージを持たれる方が多いと思います。もちろん、会計知識があると強みになることは間違いありませんが、DTFAのメンバーはそれ以外にも強みを持った方がたくさんいます。
学生時代は自分の決めた分野で「一剣を磨く」ことが大切だと思います。その経験が自身の魅力になりますし、チームの力、組織の成長につながります。
個性的な魅力を持った皆さんと、プロフェッショナルとして一緒に働けることを楽しみにしています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

クライアントのために考え抜くことが自己成長にも繋がる

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【クライシスマネジメントビジネス】フォレンジック＆クライシスマネジメント
マネジャー〈2018年11月入社〉
国内大手生命保険会社出身
金融犯罪リスク管理関連のアドバイザリー／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.フォレンジック＆クライシスマネジメント（以下：F&CM）の仕事内容について教えてください。

A. フォレンジック＆クライシスマネジメントのサービスにおいて主にファイナンシャルクライムリスクマネジメント（以下：FCRM）に携わっています。F&CMでは、主にメガバンクや地銀等をはじめとする金融機関、仮想通貨交換業や資金移動業者などのクライアントへ向けた、AML（アンチマネーロンダリング）をはじめとする金融犯罪リスク管理関連のアドバイザリー業務を中心に、社内ガバナンスの立て直し、当局対応を含む金融フォレンジックのほか、海外買収・統合後の企業間のガバナンスの構築フォロー業務（PMI）等の支援も実施しています。
AMLを中心とする金融犯罪対応というテーマにおいては、国内のみならずグローバルな法規制の変化などによって、金融機関に求められる要件が年々厳しくなっていると感じています。そこで私たちは規制変更等のタイミングに伴い、クライアントの金融犯罪リスク管理態勢と現在の規制状況を照らし合わせ、どこにギャップがあるのかを分析・把握した上で、海外の先進事例等も踏まえた将来の目指すべきモデルを作る支援をしています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 前職の国内大手生命保険会社では、運用部門や保全部門を経験しましたが、最後に在籍していた保全部門の部署において、AMLをはじめとする法令対応の業務に携わることになりました。その際、AMLに関連する法規制や新たなテクノロジーの誕生により複雑な対応が求められる中で、法令等の調査や考察、会社の業務フローへの落とし込みを繰り返すことによって、自分の武器となる専門分野を作り、磨きたいと思う気持ちが段々と大きくなったことを覚えています。当時においても、国内の金融機関では人事ローテーションによるゼネラリストの養成がメインとなっており、業務の中で興味が出てきたことに対してスペシャリストとして専門性を磨くことに対してまだまだ門戸が狭いと感じていました。この制度については一長一短ありますが、自分の専門性を高め、能力を磨くために外に飛び出そうと転職を考えたきっかけとなったと思います。
また、チャレンジするなら業界のトップで自分の能力を磨きたいという思いが強かったため、この分野のリーディングカンパニーであるDTFAが最適と考えていました。DTFAは、海外でも信頼のあるデロイト トーマツ グループであることからクロスボーダー案件への関わりもあり、さまざまな情報、知識、経験が得られる場であることも要因であったと思います。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 知識面でいえば、AMLという領域は専門的な知見はもちろんですが、その他にも会計やテクノロジー、法律も関わってくることから、さまざまな分野に対する知識が業務の中で生きた知識として身についていくのを実感しています。そのうえで、DTFAは当該領域のリーディングカンパニーであることから、より深いコンテンツに触れられるというのはもちろんですが、この分野におけるトッププレーヤーの経験者が主要ポストにいるので、日々、新たな気づきや示唆を得ることができ、成長を感じることができています。
また、F＆CMでは一人ひとりに活躍する機会が多く与えられており、クライアントと直接やり取りをする中で、自分が作成した資料やプレゼンに対してダイレクトに反応が返ってきます。時には厳しい意見を頂戴することもありますが、クライアントに満足いただけた際には自身の成長を実感するとともに、そうしたチャンスを多く得られることもF&CMの魅力の一つだと思います。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 海外の知見や先進事例を日本に取り入れつつも、日本の商習慣に照らし合わせたガバナンスを構築し、日本の企業全体を導いていくのが我々のミッションです。私自身としても、クライアントにより深く向き合えるよう、知識を研鑽しより専門性を高めて、質の高いサービスをクライアントに提供していくことが目標です。

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A. DTFAでは、チームメンバーとディスカッションしながら、クライアントにとって何をすべきか、To Beは何かを考え抜いていきます。
個人のパフォーマンスには限界がありますが、チームとしていかに良いアウトプットを出せるかを考えるのが、デロイト トーマツ グループの強みですし、業界トップ知見と高い意識を持ったメンバーとともに業務に携わることができ、日々、刺激を受けることができます。自発的な行動、自己成長をしたいと考えている人にとって、DTFAは最善の環境を与えてくれる会社だと思っています。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. DTFAの携わる案件では、日々新たな法規制やテクノロジーが導入され、目まぐるしく環境が変化しています。この業界で活躍するプレーヤーには、そうした変化にキャッチアップするだけでなく、クライアントの現状を理解し、あるべき姿をただ唱えるだけでなく、時には細かくステップを踏みながら、クライアントと一緒に悩み、課題を解決することも求められています。クライアントの置かれる状況は千差万別なので、その時々に応じて自分の頭で考え、クライアントにとってのベストを模索する、そうしてクライアントのために考え抜くことで得られた知識や経験は他では得難いものだと思います。
相手の目線で物事を考え、答えが決まっていない課題に対して粘り強く立ち向かっていける方には、この上ない成長の環境が整っている会社です。ぜひ、いつか皆さんと一緒にクライアントのために知恵を絞る日が来ることを心待ちにしています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

日本が抱える事業承継問題にイノベーションを起こす

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【イノベーションビジネス】FAプラットフォーム　シニアマネジャー　〈2018年2月入社〉
M&A・事業承継プラットフォーム事業／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.FAプラットフォームの仕事内容について教えてください。

A. FAプラットフォームは2018年6月にできた新しいユニットで、私は「M&Aプラス」と「デロイト トーマツ アカデミー」という事業の全体的なマネジメントを行っています。

M&Aプラスは、事業承継に悩む中堅・中小企業とFA（ファイナンシャルアドバイザー）をWeb上のプラットフォームでマッチングする新しいサービスです。現在、順調に会員数が増えており、士業や金融機関、M&A専門会社など全国500社以上のFA会員が利用している状況で、毎月のように成果も出てきております。
私たちはこのプラットフォームを運営しており、具体的にはWEBサイトやシステムの改善、新規FAの勧誘、既存会員のサポートなどを日々の業務として行っております。

デロイト トーマツ アカデミーは、外部のFAや企業の方にM&Aのナレッジを提供するサービスです。現在、日本には中小企業が約390万社あり、そのうちの約半分が事業承継を考えている一方で、サポートが可能なアドバイザーは、質・量ともに十分な水準ではなく、今後もFAの不足が予想されます。一方で、ビッグクライアントにおいてはM&Aやクライシスマネジメントは一般化しつつあり、今後は企業内の戦略を推進できる人材も必要になってくるでしょう。そのためのナレッジやノウハウを提供するのがデロイト トーマツ アカデミーの目的です。現在では対面セミナーに加えて、特にeラーニングの制作に力を入れています。

2つのサービスを展開することで、中小企業から大企業まで幅広いクライアントがM&Aを円滑に行い、その成長や発展に貢献することを目指しています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 前職では全国の士業（特に会計事務所）向けに営業やコンサルの仕事を長年行ってきました。そういった自分の強みを活かしつつ、喫緊の大きな社会課題である中小企業の事業承継問題にも携わりたい想いもあったので、このプラットフォーム事業はまさにそれらと一致する業務内容でした。
さらに会社を選ぶ際にはM&Aなどの専門的な知見を増やしながら実務の経験も積んでいきたいと考えていまして、DTFAは各業界や専門分野のスペシャリストが多いので、そういった面にも惹かれて入社を決めました。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 私の携わるM&A・事業承継プラットフォーム事業では、運営者として様々な能力が求められます。例えば、新規会員増加のための営業やマーケティング力、既存会員であるFAや売り手買い手とのコミュニケーション能力、システム構築に関する知見、WEBサイトの分析能力、チーム運営のための計数管理能力などです。もちろんM&A自体に関する知見も必要になってきますので、日々の業務に取り組む中で自然と幅広い知識や経験が身についている実感があります。
このビジネスに関してはゼロから立ち上げていく経験も出来ているので、なにか新しい成果が出るたびに喜びと成長を感じています。
ほかにもグローバルファームとして本当に幅広い情報に触れる機会が多いので、常に新しい知見やノウハウ、考え方を取り入れることが可能です。

Q.今後の目標を教えてください。

A. M&Aは、アドバイザリーのスキルやコネクション、ノウハウで決まってしまう、いわば属人的な部分が多いのが実情です。対して、M&Aプラスは、M&Aライフサイクル全般の一連の流れを支援できるようなサービスに育てたいと思っています。どこまでをITでサポートできるかが課題ですが、M&Aプラスが標準ツールとして広く使われるようになり、全国の企業が抱えている事業承継の問題を解決するようなインパクトを残せればと考えています。

また、M&Aを円滑に行うためには、関係者が同レベルのナレッジを持ったうえで取引をしたほうがスムーズですから、デロイト トーマツ アカデミーでは、デロイト トーマツ グループが持つナレッジを全国のアドバイザーや企業に共有し、M&Aの裾野を広げていくことが目標です。

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A. DTFAは高い専門知識や、幅広いネットワークなど明確な"武器"持っている人にとっては、存分に力を発揮でき、それが評価される環境です。何かしら尖った武器を持っている方には是非ジョインしていただきたいです。実際に今のチームメンバーもM&Aに元々携わっていたメンバーは少なく、金融機関やコンサル会社、税理士法人などの異業種からの転職組が多いです。

さらに言えば、ITは道具であって、道具で何を実現するかが重要だと思える人がFAプラットフォームには向いています。私たちは"システム"ではなくて"企業の課題を解決するサービス"を作ることが仕事であり、ITだけによるものではありません。ビジネス全般に広いアンテナを張って、興味を持てる方にはこの上なくやりがいのある仕事だと思います

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. 実際には学生から新卒入社で急にプロフェッショナルファームに入って、すぐに社会人として働いていくのは大変なことです。そもそも求められる基礎能力やスキルが高いうえに、周りのメンバーもそれぞれがプロフェッショナルとしての強みを持ち第一線で活躍しているので、自然と業務品質や対応速度への要求も厳しくなります。
だからこそ「成長のスピード」は速くなります。ほかの企業とは一概に比べられませんが、社会人としての基礎的能力をいち早く向上させて、さらには自分の強みを磨いていきたいという方には、とても良い環境が揃っていると思います。
あとは新規ビジネスの立ち上げや、漠然とでも何かを変革していきたいといった「チャレンジ」する気持ちが強い方にもDTFAは最高の環境だとお約束します。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

プロフェッショナルの集う環境で自信を磨き、クライアントへ貢献する

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】Life Sciences & Health Care / Strategy　シニアコンサルタント
コンサルティングファーム出身
働く環境・魅力／多様な専門家との協働／チャレンジできる環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. ライフサイエンスヘルスケア ストラテジー（以下：LSHC Strategy）の仕事内容について教えてください。

A. 私たちが支援するクライアントは、単に製薬、医療、介護といった狭義のLife Science Health Care(以下、LSHC)に留まらず、他業界からの参入・連携なども含む広義のLSHCのクライアントです。私が所属するStrategyでは、これらのクライアントに対しM&Aの取引を中心する前後のフェーズを含めた長い期間、多岐に渡る支援に携わります。支援内容は、事業／M&A戦略策定やフィージビリティスタディ、各種デューデリジェンス、PMI（Post Merger Integration）支援などです。私自身も入社以降、ありがたいことに戦略策定からPMIまで幅広く携わらせていただいています。その中でクライアントに満足いただく支援を行うために、これらの業務内容を理解し、遂行するのはもちろんのこと、プロフェッショナルとしてLSHCの業界知識も必要とされる点がLSHC Strategyの難しいところであり、面白いところではないかと感じています。また、LSHC Strategyには多くのプロフェッショナルの方々が所属されており、日々多くの学びや刺激を得ることで自身の成長にも繋がっていると感じます。

Q. DTFAを選んだ理由を教えてください。

A.前職は別のプロフェッショナルファームに勤め、狭義のLSHCのクライアントを中心に業務改善支援や事業計画策定支援、各種デューデリジェンスのほか、ファイナンシャルアドバイザリー業務を担当していました。より戦略的な業務に携わってみたいという思いを抱えていたことに加え、当時は中小企業のクライアントの支援が中心であったことから、より大きな案件にチャレンジしたいという思いがありました。そのような中で、偶然にも前職でDTFAのLSHC Strategyの方とお仕事をご一緒する機会があり、プロフェッショナルな方々が集まるDTFAで仕事をしてみたいと感じたことが入社の理由です。入社前に感じた通り、各領域のプロフェッショナルの方が多く集まっており、そこが当社の大きな強みだと考えています。また、風通しが良く組織間の垣根も低いことから、相談もしやすく働きやすい環境であると感じます。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. Strategyの業務自体が多岐に渡ることに加えて、LSHCの業界知識も常にアップデートが求められるため、新規でアサインされたプロジェクトでは常に新しい学び＝成長があると感じています。また、先ほどのテーマでも触れたとおり、プロフェッショナルな方々が多く集まっていらっしゃることも相まって、新規でアサインされたどのようなプロジェクトでも自身の成長を感じます。具体的には、私自身のキャリアとしてこれまでM&A取引に関する業務が多かったため、その前後の戦略策定やPMIなどに関われること、アサインされたプロジェクトでバリューを出すために自己学習を基本に、自分でPDCAサイクルを回していることが成長につながっているのではないかと考えています。成長の場がある職場環境に身を置いていますので、いつまでも満足することなく成長していきたいです。

Q.今後の目標を教えてください。

A.少し漠然とした表現かもしれませんが、上位者の視点を獲得して仕事に臨み、クライアントに貢献できるようになることが目標です。現在はシニアコンサルタントとして、マネジャー以上の上位者の指示を受けながら、チームメンバーと協力しプロジェクトを主体的に進めていく立場にありますが、プロジェクトを俯瞰し進め方をディスカッションしながら、これまでよりもプロジェクトをマネジメントしていくスキルを身につけていきたいと考えています。その他にも、クライアントへの提案などマネジャーの方々が行われている仕事を自分がしっかり行えるようになりたいと考えています。

Q. DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A.当社には様々な分野のプロフェッショナルが集まっており、多種多様なプロジェクトにおいてクライアントへ高いレベルで価値提供を行っています。DTFAに入社する以前の私は自身の専門領域が少しニッチであり漠然とうまくやっていけるのかと不安を感じていましたが、実際に入社してみると自身の専門性を生かしてお仕事をする機会はたくさんあり、多くのプロフェッショナルから学ぶことで成長できる環境があると実感しています。どのような方でもご活躍できる機会があるのではないかと考えていますので、少しでも興味を持たれた方は是非DTFAで様々なチャレンジをしていただきたいと思います。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A.私自身、大学で薬学を専攻しており、同級生などはほとんどが医療関係の業界へ就職するため、コンサルティング業界ではマイノリティな部類に属する人間だと思っています。しかし、コンサルタントは一見関係なさそうな大学での学びも今の仕事に生かせることも多くあり、どんなバックグラウンドをお持ちの方であっても、新しいことに対する興味やそれを学ぶことに意欲を持ち続けられる方であれば魅力的な仕事だと思えるはずです。少しでも面白そうだと感じられた方とDTFAで一緒に働けることを楽しみにしています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

エコノミクス×コンサルティングから生まれる新しい顧客体験

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【イノベーションビジネス】エコノミクスサービス（Econ）プリンシパルエコノミスト
マネージングディレクター
海外大手情報サービス出身
多様な専門家との協働／クロスボーダー／チャレンジできる環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q. エコノミクスサービス（以下：Econ）の仕事内容について教えてください。

A.「見える化」と「先読み」の二軸からなる分析サービスです。エビデンスに基づく顧客の意思決定を支援することで、ビジネス・社会課題の解決を目指しています。例えば、企業のM&Aや事業計画策定の意思決定の前後に求められる、国内外の経済・産業動向の予測・分析やさまざまなリスクに対する定量的なシナリオ分析をサポートしています。また、GX投資や地方振興、スポーツなどの経済波及効果や社会的価値の可視化を通じて公的部門の政策・EBPMの支援を行っています。これらの仕事は、調査・分析をするエコノミストと実際の施策をサポートするコンサルタントが別々の部門で行うことが通例ですが、チームとして一体化することで、専門的なEconをより顧客に寄り添った形で提供することが可能となりました。
私自身は入社以来、マクロ経済に関わる予測レポートや為替に関わる学術的な論文を執筆・公表するだけでなく、姫路城の社会的価値の測定（約1.8兆円）や2025年国際博覧会（大阪・関西万博）の経済波及効果（約2.9兆円）、サッカーを通じた取組が生み出す社会的インパクトの可視化などのプロジェクトの実行・統括や企業の事業計画策定に関わるアイデアを提供することで、DTFA内のさまざまなセクターやサービスと協働しています。

Q. DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. DTFAを選んだ理由は大きく二つです。一つ目は、新しいアイディアや事業を受け入れ、サポートしてくれる懐の深さです。これまでFAS（ファイナンシャル・アドバイザリー・サービス）やコンサルティング会社で働くことは全く想像もしておらず、マクロ経済や社会的金融の知識を企業の意思決定や政府の施策実行に直接的に貢献できる機会があるとは考えていませんでした。しかし、DTFAが持つ国内外のさまざまなネットワークとリレーションで、どこでも、だれとでもつながることで、エコノミック・コンサルティングのビジネスの立ち上げが可能になりました。二つ目は、DTFAで働く人の素晴らしさです。相手をリスペクトし許容してくれるだけでなく、プロアクティブな活動に関して基本的に否定されないのは、素敵な環境だと感じています。

Q. どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 長らくエコノミストとして活動していましたが、まだまだこの年齢になってもさまざまな成長の伸びしろが残っていたことが感じられることに驚いています。特に、さまざまな専門家の集団であるDTFAでの協業を通じて、足し算だけではなく掛け算の成長が可能なことも発見できました。政府のコアとなる政策に関しての支援・助言や企業の皆さまと伴走しながら考え、議論するさまざまな機会の中で、エコノミストとしての経験がコンサルティング業務に活かされているだけでなく、コンサルティング業務がエコノミストとしての考え方に深みを与えてくれていることを強く感じています。また、チームのメンバーの皆さんもさまざまなバックグラウンドの人で溢れており、日々の会話からの気づきもたくさん頂けています。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 将来の目標は、日本をモノを売るだけでなく、技術や知識（Knowledge）をマネタイズできる国にすることです。また、日本を元気にするという熱い思いを持った若い優秀な皆さんが、全力で働ける居場所を作ることです。今、チームは10人強ですが、3年後には30人の規模まで成長させて、DTFAを日本におけるエコノミック・アドバイザリー業務の嚆矢となる会社にしたいと考えています。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. Econというと敷居が高いと感じてしまう方が多いかもしれません。もちろん、日本を元気にしたいという思いと日々の自己研鑽は必要ですが、経済学のバックグラウンドのある方だけでなく、さまざまな分野の方に参画してもらうことで、より深いサービスが提供できると考えています。DTFAのエコノミクスチームでは、銀行員や官僚、調査会社出身者やラグジュアリー製品のバイヤー、修士・博士卒人材、キャリア採用・新卒採用と、多様な人材が在籍しているため、常にお互いに学びあえる環境にあります。SDGsに関わる定量化も中心サービスであるため、サステナビリティ分野での課題解決に興味がある方にも魅力的な場所になりえると考えています。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

データサイエンスとコンサルティングの掛け合わせでクライアントに貢献する

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】ライフサイエンス・ヘルスケア(LSHC) Digital Analytics　シニアコンサルタント
事業会社出身
アナリティクス／データ分析／成長実感／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.アナリティクスの仕事内容について教えてください。

A. アナリティクスチームにはデータサイエンティストが在籍しており、買収、売却、再生、フォレンジック等の様々なフェーズにおいて、クライアントのビジネス課題解決をデータ分析によってサポートをする業務を行っています。
具体的な作業内容としては、1）データの収集 2）データの加工・成形 3）データの分析・可視化、という 3 つのプロセスを行い、得られたアウトプットを基に社内のエキスパートと協働しながら、クライアントが取るべきアクションを提案していくようなものとなっています。
我々のチームは業界横断的に案件を遂行するため、幅広いデータを扱っていることが大きな特徴です。例えば、あるプロジェクトでは電子カルテ等の医療系データを扱うことがある一方で、他のプロジェクトではSNS等のソーシャルデータを分析に使ったりする場面もあります。そういった幅広い業務に対応していくことで、自分自身のスキルアップにも繋がっていると感じています。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 私が今までのキャリアで関与してきた金融系の知識と、データサイエンス系の知識の両方が生かせると思ったのがきっかけです。
私は新卒で金融機関に入社し、社内の金融工学系の研究所でR&D活動を中心に従事してきました。そこから事業会社のデータサイエンティストに転職をし、企業活動全体のデータを幅広に扱う中でコンサルティング業務に興味を持つようになり、DTFAのアナリティクスチームに応募した経緯があります。DTFAに入社した直後は知識が足りていなかった部分がありましたが、高い技術を持ったチームメンバーの助けを得ながら業務を行ってきました。そういったエキスパートの人たちと一緒に働くことが出来る部分も、DTFAの魅力だと思います。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. 自分が扱ったことのないデータに対して、分析の勘所はどこなのか等について考えられるようになってきた部分に、入社前からの成長を感じています。
前述の通り我々のチームは業界横断的に業務を行います。その中でクライアントへの価値提供をするためには、自分が扱ったことのない種類のデータを分析スコープに入れる必要も出てきます。そういった局面でも臆せずに、どのようなアウトプットが出来そうかを試行錯誤しながら考えていき、クライアントとの対話を通じて分析を進めていくことで、データサイエンティストとしての足腰が鍛えられている実感があります。

Q.今後の目標を教えてください。

A. 個人的な目標は、社内外からバイネームで頼られるような人材になることです。「この領域の分析だったら君に頼みたい」「こういった課題を感じているが、ぜひディスカッションに参加して意見を出してほしい」といったような仕事の任され方をして頂けるように、個のデータサイエンティストとしての強さをまずは追及していきたいと思っています。
組織的な部分では、データサイエンスとコンサルティングの相乗効果をより増大できるような組織作りに貢献したいと考えています。現在データ分析は非常に一般的なものとなっており、単純に分析結果を提供するだけでは我々の存在感は示せなくなってきています。そのため、分析結果の深い洞察と、それを基にしたコンサルティング業務のパッケージ化をすることで、我々の差別化に繋がると考えています。

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A.「人のために自分自身の知識・スキルをどのように使えるか？」という献身的な視点を持った方が、この業界に向いていると日々感じています。我々はクライアントワークを行っているので、最終的な目標はクライアントの価値向上になります。その目標を達成するために、自分自身はどこで貢献できるのか、または貢献するためにはどの知識を習得する必要があるかといった視点で業務が出来れば、質の高いアウトプットに繋がると考えています。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A.アナリティクスに限らず、DTFAでの業務は大学の研究活動に非常に似ていると思っています。私は自然現象を数理的に解明することに魅力を感じて大学では物理学専攻に進み、その後の大学院でも素粒子・原子核物理学の理論研究を行ってきました。そこで行った研究活動と、徹底的なリサーチによって仮説を立てて統計的なアプローチで検証をする現在の業務は、自分にとっては非常に親和性が高いものだと感じています。そういったことに熱心に取り組める方にとっては、DTFAは非常に魅力的な環境だと思います。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

DTFA業務にAnalyticsを組み込み、クライアントのビジネス課題解決に貢献したい

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社
【M&Aビジネス】政府・公共サービス(G&PS) Digital Analytics
マネージングディレクター　〈2014年1月入社〉
Deloitte Los Angeles事務所出身
女性活躍／働く環境・魅力／Welcome back（再入社）

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Q.アナリティクスの仕事内容について教えてください。

A. 一般名称としての「アナリティクス」とは、統計、数学、機械学習などの分析手法によって分析したデータから、経営管理上のアクションにつながる洞察や有用なパターン・関係性を導き出すためのビジネス・プロセスです。

DTFAのアナリティクスチームでは、データ分析の専門家であるデータサイエンティスト／エンジニアが在籍し、買収、PMI、再生といったM&Aライフサイクルにおいて、様々なインダストリー・各領域のエキスパートと連携しながら、クライアントのビジネス課題をデータ分析によって解決に導くサービスを提供しています。

特許分析、不正検知、商圏分析、顧客分析、需要予測、デジタルマーケティングなど幅広い領域において、様々なデータに触れながら様々な分析手法を試し、新たな示唆を提供することで、DTFAがクライアントに提供するプロフェッショナルサービスの価値の向上を図ることが我々アナリティクス部門のミッションです。

Q.DTFAを選んだ理由を教えてください。

A. 新卒でデロイトのロスアンゼルス事務所に入社し、日系企業向けの税務・監査業務を経て、日本に帰国後、DTFAの当時のM&Aトランザクションサービス部門へ入社しました。DTFAで数多くのクロスボーダー案件を担当するなかで、M&A先進国アメリカでキャリアを積みたいと感じ、アメリカの大手監査法人のFAS部門に転職をしました。その後日本への帰国を検討していた頃、DTFAの方からお声がけ頂いたことがきっかけで再びDTFAへ戻ることを決めました。

DTFAは業務の幅も広く、各領域のエキスパートが集まっているため、自分の専門以外の領域においても知識を吸収することができる環境です。またパートナーを含めフラットな人間関係や、常に将来を見据え新しいことにチャレンジするカルチャーもDTFAの魅力だと思います。

Q.どんな時に自身の成長を感じられていますか？

A. もともとはトランザクションサービスで財務デューデリジェンス（DD）を中心に業務を行っていましたが、アナリティクスチームの立ち上げに興味を持ち、2018年よりアナリティクス部門に異動しました。チームにおける私の役割はチーム・マネジメントやアナリティクスの手法をDTFAの様々な業務に組込むための活動、またアナリティクスを活用した外部向けのサービス開発やプラットフォーム作りを中心としています。

トランザクションサービス業務とは全く異なる領域で、かつ、今までの"フロント"としての立ち位置からマネジメントロールへのシフトとなり試行錯誤は続いていますが、新たなチャレンジに楽しみながら取り組んでいます。
サービスやプラットフォームをゼロから作ることやアナリティクスの活用促進に向けチームメンバーとともに新たな可能性を探索する中でチームと共に自身の成長も日々感じています。

Q.今後の目標を教えてください。

A. アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアなどのデロイトメンバーファームでは既にアナリティクスの活用が一般化しており、100名レベルの組織体制でインダストリーやサービスラインに特化したチームも存在します。一方、DTFAアナリティクス部門は現在十数名とまだ比較的小規模な組織で、メンバーのスキルセット・専門領域も各自異なります。

まずはDTFAの既存業務にアナリティクスを組み込むことを定着化させ、また、既存のメンバーを育成しつつ、現在チームに不足しているピースを補うべく積極的に採用を進め、足元を固めて行きたいと思います。将来的には海外のメンバーファームのように、様々なタレントを集結させ、インダストリーやサービスラインに特化したチーム編成でアナリティクス発の案件獲得を増やしていきたいです。

Q.DTFAに関心を持っている方へメッセージをお願いします。

A. DTFAではPre-M&A、in-Deal、PMI、再生、フォレンジックなど、経営における重要局面での顧客接点においてアナリティクスを適用するため、経営層への距離も近く、会社の経営判断に直結するデータ分析を経験できます。また、スポーツビジネスやホテル・不動産、金融、小売などDTFA独自の顧客網にて他のコンサルティングファームでは体験できないビジネスのデータ分析を実施できることも魅力のひとつです。

最新の高度な技術を突き詰めるよりも、これまでのデータ分析経験を活かし、様々なビジネスシーンにおいて、クライアントのビジネス課題をアナリティクスの活用により解決していくやりがいを感じる方には、非常に良い経験ができる環境だと思います。

Q.アナリティクス・データ分析の専門家を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

A. DTFA入社後に一から技術的なスキルを習得することは難しいと思いますので、データ分析に関する分野での学位取得、例えば経営工学、管理工学、情報工学、理論・実験物理学、計量経済学など、データ分析を基に問題を解決するようなアプローチをするアカデミックバックグラウンドを備えていると実務において活躍できる幅が広がります。そのうえで実務を通してビジネススキルを習得し、データサイエンティストとして成長していくモデルが自然な流れだと思います。

また、今までに経験のない場面に遭遇し、新しい技術の活用が必要となった場合に、自身で調べながら前に進んでいけるエンジニア魂をお持ちの方にもとても向いていると思います。

一覧へ戻る

採用ページへ戻る

デジタルの力で、税理士の働き方を変え、法人全体のビジネスの在り方も変えていく。

デロイト トーマツ税理士法人
デジタルソリューションズ　マネジャー
女性活躍／異業種からの転職／多様な専門家との協働

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

業界に先駆けて、大きな改革を成し遂げてみせる

私の所属するデジタルソリューションズは、デロイト トーマツ税理士法人内のビジネスや業務のデジタル化を進めています。単なるITによる効率化ではなく、税理士の働き方を変え、税理士法人のビジネス全体を大きく変革することが使命です。業界の中でも先駆けて改革を成し遂げていくような、大規模プロジェクトも複数立ち上がっています。デジタルソリューションズの組織は3つのチームで構成されており、私は「Business Digital-Tech」というチームに所属しています。ビジネスの企画段階から関与し、システムの企画、構想など、主に上流工程を推進するチームです。比較的新しい組織で中途採用のメンバーも多いので、風通しが良く親しみやすい雰囲気です。さまざまなバックグラウンドを持つメンバーが集っており、自分の専門外のことや課題について気軽に助言を求められる環境でもあります。IT・デジタル領域の組織としては女性比率も高いですし、柔軟にリモートワークもできるため、どんな人でもそれぞれのスタイルに合った働き方ができる環境です。

個人のキャリア志向に合わせて、無理なく成長することができる

前職は事業会社のデジタル部門だったのですが、当時は各自の役割や責任が明確に定義されていない状況でした。幅広い領域の業務を経験できる一方で、自分自身のキャリアの軸を定めるのが難しかったように感じます。それに対してデジタルソリューションズは、チーム選択の段階からある程度自身のキャリアの方向性を検討できますし、目標に向かって上司や周囲のメンバーから手厚いサポートを受けることも可能です。PMやPMOなどビジネス側の経験を積むこともできますし、よりシステムに近い領域でアーキテクチャに携わっていくこともできます。定期的なフォローアップもありますので、個人のキャリア志向に合わせて無理なく成長することができます。また、そのような個人のキャリアに寄り添う姿勢は、面接を受けている時から感じていました。惜しみなく情報提供してくれ、私自身の志向と乖離がないか丁寧に確認してくれたことを覚えています。皆さんもぜひ、面接や面談の場では気軽に何でも聞いてみてください。これまでの経歴にもよく耳を傾けてもらえますし、それを踏まえて配属や成長の方向性を相談することができます。無理なくチームにジョインできる環境が整っているので、臆することなくチャレンジしてほしいと思っています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

Love working with so many talented individuals!

デロイト トーマツ税理士法人
移転価格サービス　マネージングディレクター
グローバル連携／グループ内連携／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Tell us about Transfer pricing (TP) business shortly and how are your members like?

TP is the practice of setting the prices at which goods, services, financial instruments, and intellectual property are transferred between a multinational group's entities located in different countries. It involves balancing our clients' competing priorities of local tax regulation and group policy compliance, internal and external resource minimization, system limitations, as well as global business alignment and requirements. As such, to achieve the client's objectives, the effective application of transfer pricing requires careful analysis of multinational enterprise groups, market environments, regulatory requirements and overall tax strategies.
Our Inbound members enjoy the dynamic and intellectually stimulating challenges of transfer pricing work, which often involves collaborating with teams across different regions and industries, and across various stakeholder groups within a client.

As a deputy inbound leader, what would you like to achieve?

Our goal is to provide our foreign multinational clients with wholistic, strategic, and solution-oriented tax services to become their preferred partner in Japan. To do so, we must foster collaboration and knowledge sharing across our inbound tax team, provide ongoing training and development opportunities, and prioritize effective communication to ensure alignment with clients' needs and objectives.

Although we come from various specializations in Japanese corporate, indirect, and individual tax as well as transfer pricing and other services, we are united by our passion to serve our clients.

What kind of people would you like to work with?

I love working with so many talented individuals who come from various countries and such diverse backgrounds as accounting, law, or finance and economics. Our team members possess strong analytical skills, a deep understanding of tax laws and regulations or eagerness to learn them, excellent communication abilities, and a proactive mindset towards problem-solving.

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

多様なバックグラウンドを持つメンバーと協働し、これまでにないアイデアを生み出す。

デロイト トーマツ税理士法人
間接税サービス　アソシエイト
女性活躍／異業種からの転職／働く環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

前職では考えられないほどのスピード感

私は日系メーカー出身で、前職では貿易業務やグローバル規模での物流コスト改善といった業務に従事していました。当時は間接部門であり、社内の営業部門や製造部門との調整・折衝業務が中心でしたが、現職はクライアントと直接お話しする立ち位置なので、より緊張感をもって対応するよう心掛けています。また、小集団でのプロジェクト活動のため、企画から承認、提案までメーカー時代では考えられないほどのスピード感で進んでいくことに驚きました。良い意味でのギャップはもう1つあり、職場の雰囲気が想像以上にアットホームだったことです。入社前は「デロイト トーマツ グループ」と聞くといかにも実力主義のイメージを勝手に抱いており、当時1歳の子供を育てていたのでついていけるのか不安もあったのですが、完全に杞憂でした。リモートワークが中心ではあるものの、時折対面で顔を合わせてチームビルディングをする機会も設けられています。メンバーには中途入社者も多くいるので、壁を感じることもありません。軽井沢にて実施された部門研修でのカーリング大会や、年末に実施したチームでの忘年会は、とても盛り上がりました。業務で困ったことがあれば、すぐにコミュニケーションツールで相談することもできるので、心強く感じています。

フラットな議論と適切なフィードバックが、成長を後押ししてくれる

現在メインで関与しているのは、データプラットフォームやデジタルツールを活用した貿易業務DX推進のコンサルティング業務です。クライアントに現状業務のヒアリングをした後、どうすれば業務改善につながるのかを検討し、改善後のシナリオを創っていきます。どんな意見でもしっかり傾聴するフラットなチーム環境なので、安心して自分の意見を発信できますし、業界経験の長い上司からフィードバックを受けることも可能です。プロジェクトチームは、フォワーダー、税関、メーカーなど多方面で経験を重ねてきたメンバーで構成されており、時に化学反応を起こしながらアイデアをブラッシュアップできることが大きな強みだと感じます。チームで一緒に検討することで、自分だけでは考えつかないアイデアが生み出される瞬間は、本当にエキサイティングです。子育て中のパパ・ママ社職員も多く在籍している部門なので、育児との両立への理解も深く、安心して働くことができています。リモートワークがベースのため、中抜けして保育園行事に参加したり、体調不良による急な呼び出しに対処したり、柔軟に対応をさせてもらっています。これから出産・育児を控えている方には、いざという時に頼れるベビーシッターや病児保育などの環境を整えておくことをお勧めしたいです。ベビーシッターの費用は会社から補助も出るので、金銭的なハードルも低いと思います。前職では通勤時間も長かったことから、子どもの寝顔を見て出発し、帰宅後も就寝済みという状況も少なくありませんでした。しかし今は、しっかりと子どもとのコミュニケーションを取ることができています。オン・オフをどちらも両立したい方には最適な環境だと思います。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

幅広い専門性を持つチームメンバーと力を合わせ、税務DXという高度なミッションを実現する。

デロイト トーマツ税理士法人
タックステクノロジーコンサルティング　シニアマネジャー
チャレンジできる環境／多様な専門家との協業／グループ内連携

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

まだ世の中のどこにも“正解”が存在しない仕事

Tax Technology Consulting（TTC）は、税務領域でのDXを推進するために立ち上げられた新しいチームです。税務DXというテーマは、世の中のどこを見渡しても「絶対の正解」はまだありません。難易度が高いこのミッションを達成するために、チームには幅広いバックグランドを持つメンバーが集まっています。クライアントの課題を特定して解決策を練るコンサルタント、それを具体的なソリューションへと落とし込んでいくテクノロジーの専門家、大きなプロジェクトを円滑に推進することができるPMOのスペシャリスト。当社に多く在籍している税務の専門家に加え、さまざまな領域でのプロフェッショナルが力を合わせなければ、税務DXを実現することはできません。お互いの専門性を生かして試行錯誤しながら進めていく仕事は、大きなやりがいに満ちていますね。とても活気のあるチームです。

お互いのユニークな価値を認め、尊重し合う

前述でお伝えした通り、私たちは一人ひとりが異なる強みを持つプロフェッショナルの集団です。他の人と同じである必要はありません。大きなミッションに対して自分はどういう形で貢献できるのか、自分自身のユニークな価値を理解して、強みを伸ばしながらコラボレーションすることが大切です。それはもちろん、他者のユニークな価値を認め、尊重するということでもあります。自らの専門性を継続的に高めつつ、チームで協働しながら大きな課題に取り組んでいくことにやりがいを感じる方は、デロイト トーマツ税理士法人に向いているのではないでしょうか。お会いできることを楽しみにしています。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

We are all adaptable to working in the best way possible to best serve our clients.

デロイト トーマツ税理士法人
グローバルエンプロイヤーサービス　シニアマネジャー
グローバル連携／グループ内連携／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

Tell us about Global Employer Services (GES)

business shortly and how are your members like?
GES helps inbound and expatriates and their employers in managing the implications of people moving overseas for work. So, there is a variety of work in GES that does, and this provides many opportunities for us all to interact with people from different countries and cultures. Our GES team members have diverse backgrounds and experiences, which enables us all to help our clients.

How do you support your team members?

We support our team members by providing them with many different work opportunities to build their knowledge and career. Additionally, as we have a diverse team and flexible working arrangements, so we are all adaptable to working the best way possible to best serve our clients.

What kind of people would you like to work with near future?

I would like to work with people who want to learn, who are curious and who like solving problems and want to help people. As GES work involves interacting with people from various backgrounds, working with people with diverse life experience is also very helpful.

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

日々の業務と自己研鑽の両輪で、付加価値の高いサービスを提供できる人材に。

デロイト トーマツ税理士法人
インターナショナルタックス／M&Aサービス　シニアアソシエイト
女性活躍／グローバル連携／M&A

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

税理士としての基礎体力を身に付けて、より専門性の高い業務へと異動

現在はインターナショナルタックスアンドエムアンドエー（以下「ITMA）」に所属し、国内外の企業に対し、主にクロスボーダーM&A、組織再編に係る税務ストラクチャリングや税務デューデリジェンス業務、Pillar2（グローバルミニマム課税）対応などの国際税務案件に従事しており、海外のメンバーファームと連携する機会もあります。入社後6年間は、法人税の申告書作成を行うビジネスタックスサービスという部門で、税務申告書の作成業務に携わっていました。税理士業務の基本ともいえる申告書作成業務を通じて、税法の条文を読む力やクライアントへの接し方、繁忙期におけるタイムマネジメント能力など、税理士としての基礎体力を培う貴重な経験ができたと感じています。その後、申告書作成前の段階で会社の意思決定に影響を及ぼすことができる仕事をしたいと思うようになり、ITMAに異動する機会をいただきました。入社当初から興味を持っていた業務であり、より専門性を高めることもできるので、非常にやりがいも大きいです。

自分自身の成長を日々実感することができる

ITMAは、国際税務やM&Aを中心として業務の内容が幅広く、かつ手を挙げればさまざまなことに挑戦できる環境です。私自身はまだ異動したばかりで慣れない部分も多いのですが、一日一日業務に向き合いながら、自分の可能性をどんどん広げていきたいと思っています。M&A特有のスピード感や、申告書作成業務とは異なり決まった繁忙期がない中での案件のコントロール方法、日々成長している実感がもてることも嬉しいです。入社した当初はコロナ前だったので毎日出社していましたが、コロナ禍を経て紙ベースからデータでの資料作成になり、テレワークもOKと、働き方をめぐる環境は大きく変化しました。税務申告も単純な作業はいずれAIによって代替されると言われていますが、今後はさらに柔軟に変化しつつ、高度な専門性を持った税理士になりたいと思っています。
ITMAはInternationalというだけあって、国際色豊かで英語などの語学力が高いメンバーが大半です。私もテレワークが増えたことにより不要になった通勤時間を活用して、英会話などスキルアップにつながる学習に注力して行きたいと思います。日々の業務と自己研鑽の両輪で、付加価値の高いサービスを提供できる人材に成長していくつもりです。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

日々進化する間接税の世界で、クライアントに感謝されるサービスを

デロイト トーマツ税理士法人
間接税サービス　マネジャー
女性活躍／育児との両立

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

世界中のデロイトメンバーとリアルタイムでつながれる

間接税サービスは間接税チームと関税チームに分かれており、私は間接税を担当しています。2020年に入社して以降、主に消費税インボイス制度に関するアドバイザリー業務、海外の間接税および消費税コンプライアンスサービスの提供に従事してきました。最近ではSAP導入プロジェクトにおける税務アドバイザリー業務も増えています。間接税サービスは気さくで素敵な方が多く、心から尊敬できる方ばかりです。また多様なバックグラウンドを持つメンバーがそろっており、お互いの文化や価値観を尊重するカルチャーがあると思います。他に素晴らしいと感じたのは、デロイトのネットワークを介して、遠くの国のデロイトメンバーとリアルタイムにつながれる環境が整っていること。グローバルで同じ内容の研修を受講することも多く、デロイトとしての価値観を共有しやすくなっています。

お互いの事情を考慮しながら支え合う、サポーティブなチーム

学生時代から、いつかグローバルに活躍したいという漠然とした夢を抱いていました。現在はまさに世界中のクライアントや海外デロイト事務所のメンバーとやり取りしながら、刺激的な毎日を送れていると感じます。間接税・消費税は非常に奥が深く、特に多国籍企業が直面する間接税の世界は日々進化しています。トップラインでキャッシュフローにも直結するため、センシティブな側面もあると言えるでしょう。これからも知識と経験を深め、クライアントに感謝していただけるようなサービスを提供できるプロフェッショナルになりたいと思っています。プライベートでは3人の子供がおり、仕事との両立は永遠の課題です（笑）。
ただ、間接税サービスは産休・育休を取得する方やお子さんのいらっしゃる方が多く、子育ての悩みを共有できるので助かっています。育児に限らず、プライベートの都合に関して大変理解のあるチームです。今のところ両立できているのは、そういったチームのサポートや家族の支え、そして何より原動力である子どもたちのおかげだと思っています。

一覧へ戻る
採用ページへ戻る

国と国がより一層つながっていく社会において、“個”の力と“チームプレー”の両輪で貢献する。

デロイト トーマツ税理士法人
グローバルエンプロイヤーサービス　アソシエイト
女性活躍／グローバル連携／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

まずは、“個”の力で活躍できる専門知識を身に付ける

新卒で入社した前職では、人事部に配属となり研修や採用、会社の制度関連など、幅広い業務に携わっていました。経営的な思考や意見に触れる機会も多くあり、その重要性について考えるようになったことが転職を考え始めたきっかけです。「今後さらに国際的な繋がりが深まる社会において、社員個人が成長し続けて組織の活性化を図るにはどうすればいいか」。経営陣とそうした議論をする中で、新卒ながら高い視座や広い視野から物事を捉える機会をいただいて、自分自身をどう成長させていくか改めて見つめ直すことができました。Global Employer Services（以下「GES」：赴任者・出張者領域の国際税務）を選んだのは、自分の強みやバックグラウンドを活かしつつ、“個”の力で活躍できる専門知識を身に付けたいと考えたからです。私は中学と高校時代を米国テキサス州で過ごしました。そこで培った異文化や多様性への理解・尊重といった強みを活かし、国と国がより一層つながっていくこれからの社会で貢献できる人に成長していきたいと考えています。

多様性に溢れるメンバーと力を合わせて質の高いサービスを提供

選考を受けている時から感じていたのですが、GESのメンバーはとても多様性に溢れています。生い立ちや個性、キャリアのバックグラウンドなど本当に様々です。税務関連の経験を持っていない方も多いですし、複数の国で働いた経験を持つ方もいます。そうした中でも互いに尊重し合い、なおかつフランクな繋がりが構築されているのは本当に魅力的だと感じています。GESでの仕事は、個の力や専門知識を身に付けられるのと同時に、チームプレーを大切にする姿勢がとても重要です。クライアントからの依頼に対し、スピーディかつ質の高いサービスで対応していくためには、「自身でタスクを管理して遂行する主体性」と「チームプレーで円滑に業務を進めていくスキル」の両面が欠かせません。GESは海外への赴任者や出張者の国際税務を取り扱うので、日本チームだけでなく世界各国のデロイト担当者とやり取りするケースも多くあります。そういう意味でもチームプレーを楽しめる方に向いていると思います。私自身、これからも主体性とチームプレーの両面で成長していくつもりです。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る

語学力に加え、好奇心や向上心が旺盛な方にお勧めの職種。

デロイト トーマツ税理士法人
移転価格サービス　シニアアソシエイト
女性活躍／海外勤務／グループ内連携

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。

LA事務所時代から、日本の移転価格チームと協働

2019年に海外の大学を卒業し、Deloitte USのロサンゼルス事務所に入所しました。テキサスのDeloitte Universityで開催される研修で、全米の新入社員と交流を持てたことが印象深いです。同期だけでなく先輩たちも非常に優秀な方ばかりだったので、的確な指導を受けたりお互いに刺激を与えあったりしながら成長することができました。もちろんその環境は、日本のデロイト トーマツ税理士法人に転籍した今も変わっていません。私自身の担当業務は当時から移転価格です。日米案件の多いセクションに在籍していたので、日本の移転価格チームと一緒に仕事をする機会も多くありました。帰国してからもスムーズに業務に入っていけたので、幸運だったと思っています。LA事務所も非常に魅力的な場所だったのですが、就労ビザの切り替え時がちょうどコロナパンデミックと重なってしまい、帰国することを決めました。

個人のやりたいことを後押ししてくれる企業カルチャー

ロサンゼルス事務所時代は米国子会社のプロジェクトがメインだったので、子会社側の立場で考えることが大半でした。しかし帰国後は日本本社のクライアントと相対し、企業の根幹に関わるようなプロジェクトに携われているので、やりがいは大きいです。現在多く担当しているのは、デロイトのグローバルネットワークを活かしたクロスボーダー案件です。米国やフランス、タイ、中国、インドなどデロイトの海外事務所と連携して、クライアントをサポートしています。移転価格は様々な業界に深く関わることができますし、語学力のある人にとってはそのスキルを十分に活かせる分野なので、好奇心や向上心のある人にお勧めです。デロイトは、経験年数ではなく実力に応じて業務を任せてもらえることも魅力です。また通常業務外では、私はデロイトトーマツ ウェルビーイング財団（DTWB財団）での社会貢献活動にも参加しています。やりたいことや興味のあることをサポートしてくれるカルチャーなので、常に成長したい気持ちの強い方に来ていただけたらと思っています。

一覧へ戻る　採用ページへ戻る